

姫路市

今宿遺跡 I

緊急街路整備事業山吹線に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1

平成20(2008)年3月

兵庫県教育委員会

姫路市

今宿遺跡 I

緊急街路整備事業山吹線に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1

平成20(2008)年3月

兵庫県教育委員会

例　　言

1. 本書は兵庫県姫路市西今宿5丁目に所在する、今宿遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は緊急街路整備事業山吹線に伴うもので、兵庫県中播磨県民局姫路土木事務所の依頼を受けて、兵庫県教育委員会が平成15年度と平成16年度に本発掘調査を実施した。
3. 出土品整理は兵庫県中播磨県民局長の依頼を受けて、平成18年度は兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が、平成19年度は兵庫県立考古博物館が実施した。
4. 本書に使用した方位は国土地理院（第V系）の座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海面（T.P.）を基準とした。（世界測地系に換算）
5. 瓦の胎土分析は、薄片法でパリノ・サーヴェイ株式会社と蛍光X線分析で大阪大谷大学三辻利一先生に依頼した。
6. 図版1の地図は国土地理院発行20万分の1地形図「姫路」を使用した。
図版3の地図は国土地理院発行2万5千分の1地形図「姫路北部」「姫路南部」を使用した。
図版4の地図は兵庫県土木部発行10万分の1「兵庫県地質図（南部）」を使用した。
図版5の地図は明治39年、陸軍測地部発行2万分の1地形図「姫路」を使用した。
図版6の地図は姫路市基本地形図を使用した。
7. 執筆は、第4章を三辻利一、パリノ・サーヴェイ株式会社が行った以外は篠宮 正が行った。
8. 編集は篠宮が行った。
9. 本書にかかる写真、図面などの記録や出土した遺物などは、兵庫県立考古博物館に保管している。
10. 発掘調査および報告書作成にあたり、
　　姫路市教育委員会・姫路市史編纂室、姫路市埋蔵文化財センターの各機関および
　　秋枝 芳・今里幾次・大谷輝彦・加藤史郎・小柴治子・多田暢久・田中幸雄・中川 猛
　　松本正信・三辻利一・山本和子・山本博利・義則敏彦
　　の各氏にご援助・ご指導・ご教示頂いた。記して深く感謝の意を表する。

今宿遺跡 I

緊急街路整備事業山吹線に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1

本文目次

例 言

目 次

第1章 遺跡をとりまく環境.....	1
第1節 地理的環境.....	1
第2節 歴史的環境.....	1
第2章 調査の契機と経過.....	3
第1節 調査の契機.....	3
第2節 今宿遺跡の発見.....	3
第3節 調査経過および体制.....	4
第3章 調査の成果.....	7
第1節 確認調査の成果.....	7
第2節 本発掘調査の成果.....	7
第4章 自然科学的調査の成果.....	27
第1節 今宿遺跡出土瓦の胎土分析.....	27
第2節 今宿遺跡出土瓦の蛍光X線分析.....	39
第5章 まとめ.....	42
第1節 出土瓦の検討.....	42
第2節 瓦の統計調査.....	45
第3節 出土遺物の検討.....	47
第4節 今宿遺跡の性格.....	48
別表1～8	52～60
図 版.....	1～68
写真図版.....	1～87
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図 丸瓦凸面叩き目分類.....	13
第2図 平瓦凸面叩き目分類(1).....	16
第3図 平瓦凸面叩き目分類(2).....	18
第4図 平瓦凸面叩き目分類(3).....	20
第5図 平瓦凸面叩き目分類(4).....	22
第6図 鳥尾復原および出土部位.....	23
第7図 孔隙・砂粒・基質の割合および比較資料（赤坂1号窯）の分析結果.....	30
第8図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(1)(2).....	35・36
第9図 胎土中の砂の粒径組成(1)(2).....	37・38
第10図 今宿遺跡出土瓦の両分布図.....	40
第11図 姫路窯跡群の両分布図.....	40
第12図 今宿遺跡瓦地区別出土量.....	42
第13図 瓦製作技法・凸面調整の比率.....	43
第14図 今宿遺跡軒丸瓦の復原と辻井廃寺・多哥寺遺跡出土軒丸瓦.....	44
第15図 軒平瓦第2弧線断面形態.....	45

表 目 次

第1表 胎土分析試料一覧.....	27
第2表 薄片観察結果(1)(2)(3)(4)(5).....	30～34
第3表 今宿遺跡出土瓦の分析データ.....	41
第4表 今宿遺跡瓦地区別出土量.....	42
第5表 今宿遺跡出土平瓦分類.....	46
第6表 遺物からみた今宿遺跡の消長.....	48

別 表 目 次

別表1 今宿遺跡軒丸瓦一覧.....	52
別表2 今宿遺跡軒平瓦一覧(1)(2).....	53・54
別表3 今宿遺跡丸瓦一覧(1)(2).....	54・55
別表4 今宿遺跡平瓦一覧(1)(2)(3).....	55～57
別表5 今宿遺跡鶴尾・埠はか一覧.....	57
別表6 今宿遺跡近世瓦一覧.....	57・58
別表7 今宿遺跡土器一覧(1)(2)(3).....	58～60
別表8 今宿遺跡石器一覧.....	60

図 版 目 次

図版1	遺跡	1 兵庫県の位置 2 那路市の位置 3 今宿遺跡の位置(1/200,000)
図版2	遺跡	今宿遺跡周辺の主要遺跡一覧
図版3	遺跡	4 今宿遺跡周辺的主要遺跡 (1/25,000)
図版4	遺跡	5 今宿遺跡周辺の地質 (1/100,000)
図版5	遺跡	6 明治39年の今宿遺跡周辺 (1/20,000)
図版6	遺跡	7 今宿遺跡周辺の小字と遺跡 (1/10,000)
図版7	遺跡	8 山吹線（西今宿工区）調査位置 (1/5,000) 9 今宿遺跡の確認調査と本発掘調査の位置 (1/1,000)
図版8	遺構	10 遺構配置 (1/150)
図版9	遺構	11 土層断面 (1/150) 12 土坑SK01 (1/30)
図版10	遺物	瓦集積 軒丸瓦① (1~16) M1・M2・M3・M4・M5・M6類
図版11	遺物	瓦集積 軒丸瓦② (17~37) M4・M5・M7・M8類
図版12	遺物	瓦集積 軒丸瓦③ (38~49) M9・M10・M11類
図版13	遺物	瓦集積 軒平瓦① (50~57) H1・H2・H3・H5類
図版14	遺物	瓦集積 軒平瓦② (58~66) H1・H3・H4・H5・H6類
図版15	遺物	瓦集積 軒平瓦③ (67~74) H5・H6・H7類
図版16	遺物	瓦集積 軒平瓦④ (75~83) H7・H8・H9類
図版17	遺物	瓦集積 軒平瓦⑤ (84~90) H10・H11・H12類
図版18	遺物	瓦集積 軒平瓦⑥ (91~93) H12類
図版19	遺物	瓦集積 軒平瓦⑦ (94~102) H13・H14・H15・H16・H17類
図版20	遺物	瓦集積 軒平瓦⑧ (103~111) H12・H16・H18・H19・H20・H21・H22・H23類
図版21	遺物	瓦集積 軒平瓦⑨ (112~125) H20・H24・H25・H26・H27・H28・H29・H30・H31・H32類
図版22	遺物	瓦集積 捕磨国府系軒平瓦 (126)
図版23	遺物	瓦集積 丸瓦① (127~129) G1類
図版24	遺物	瓦集積 丸瓦② (130~135) G2・T1類
図版25	遺物	瓦集積 丸瓦③ (136~139) T1・T2類
図版26	遺物	瓦集積 丸瓦④ (140~145) S1・S2・S3類
図版27	遺物	瓦集積 丸瓦⑤ (146~149) S3・S4・S5類
図版28	遺物	瓦集積 丸瓦⑥ (150~152) S6類
図版29	遺物	瓦集積 丸瓦⑦ (153~155) S6類
図版30	遺物	瓦集積 丸瓦⑧ (156~157) S6類
図版31	遺物	瓦集積 丸瓦⑨ (158~159) S6類
図版32	遺物	瓦集積 平瓦① (160~163) J1類
図版33	遺物	瓦集積 平瓦② (164~170) J2・J3・L1・L2類
図版34	遺物	瓦集積 平瓦③ (171~175) K1・K2類
図版35	遺物	瓦集積 平瓦④ (176~179) K2・K3・K4・K5類
図版36	遺物	瓦集積 平瓦⑤ (180~185) K5・K6・K7・K8・K9類
図版37	遺物	瓦集積 平瓦⑥ (186~191) K9・K10・K11・K12類
図版38	遺物	瓦集積 平瓦⑦ (192~196) K13類
図版39	遺物	瓦集積 平瓦⑧ (197~200) K14類
図版40	遺物	瓦集積 平瓦⑨ (201~204) K15類
図版41	遺物	瓦集積 平瓦⑩ (205~208) K16類
図版42	遺物	瓦集積 平瓦⑪ (209~212) K16・K17類
図版43	遺物	瓦集積 平瓦⑫ (213~217) K17・K18類
図版44	遺物	瓦集積 平瓦⑬ (218~221) K18・K19類
図版45	遺物	瓦集積 平瓦⑭ (222~226) K20・K21類
図版46	遺物	瓦集積 平瓦⑮ (227~230) K22・K23・K24類
図版47	遺物	瓦集積 平瓦⑯ (231~234) K24・K25・K26類
図版48	遺物	瓦集積 平瓦⑰ (235~238) N1類
図版49	遺物	瓦集積 平瓦⑱ (239~242) N1・N2類
図版50	遺物	瓦集積 平瓦⑲ (243~245) N2類
図版51	遺物	瓦集積 平瓦⑳ (246~249) N3類
図版52	遺物	瓦集積 平瓦㉑ (250~253) N3・N4類

図版53	遺物	瓦集積	平瓦 ^參 (254~257) N4・N5類
図版54	遺物	瓦集積	平瓦 ^參 (258~263) N5・N6・W3類
図版55	遺物	瓦集積	平瓦 ^參 (264~268) W1・W2・W3類
図版56	遺物	瓦集積	平瓦 ^參 (269~271) W1・W3類
図版57	遺物	瓦集積	平瓦 ^參 (272~274) W1類
図版58	遺物	瓦集積	鶴尾 (275~284) A類・B類
図版59	遺物	瓦集積	面戸瓦・埴はか (285~290) E・G類
図版60	遺物	瓦集積	近世瓦 (291~297)
図版61	遺物	瓦集積	土器類① (298~326)
図版62	遺物	瓦集積	土器類② (327~347)
図版63	遺物	瓦集積	土器類③ (348~360)
図版64	遺物	瓦集積	土器類④ (361~377)
図版65	遺物	瓦集積	土器類⑤ (378~396)
図版66	遺物	瓦集積	土器類⑥ (397~408)
図版67	遺物	瓦集積	土器類⑦ (409~416)・SK01 (417~423)
図版68	遺物	瓦集積	石器 (S1~S4)

写真図版目次

写真図版1	遺跡	1 今宿遺跡 遠景 (南西から)	2 今宿遺跡 近景 (南西から)
写真図版2	遺跡	3 今宿遺跡調査地 全景 (南西から)	4 瓦堆積 断面 (西から)
写真図版3	遺物	軒瓦・軒平瓦付着赤色顔料	
写真図版4	遺物	鶴尾	
写真図版5	分析	土器胎土薄片①	
写真図版6	分析	土器胎土薄片②	
写真図版7	分析	土器胎土薄片③	
写真図版8	分析	土器胎土薄片④	
写真図版9	分析	土器胎土薄片⑤	
写真図版10	遺構	5 調査前 全景 (南から)	6 調査地 全景 (南から)
写真図版11	遺構	7 調査地 全景 (北東から)	
写真図版12	遺構	8 瓦堆積 断面 (西から)	9 瓦堆積状況 (北西から)
写真図版13	遺構	10 瓦堆積状況 (北西から)	11 調査地 全景 (北から)
写真図版14	遺構	12 土坑SK01 (東から)	13 土坑SK01 (北から)
写真図版15	遺構	14~21 作業状況	
写真図版16	遺物	22 トレンチ2完掘状況 (北から)	23 トレンチ5完掘状況 (南から)
写真図版17	遺物	24 トレンチ4完掘状況 (南から)	25 トレンチ7完掘状況 (南東から)
写真図版18	遺物	26 トレンチ6南端完掘状況 (北西から)	27 トレンチ8完掘状況 (東から)
写真図版19	遺物	28 トレンチ10完掘状況 (西から)	29 トレンチ8西側壁の瓦堆積状況 (東から)
写真図版20	遺物	軒丸瓦① M1・M2類	
写真図版21	遺物	軒丸瓦② M5類	
写真図版22	遺物	軒丸瓦③ M1・M2類	
写真図版23	遺物	軒丸瓦④ M2・M3・M4・M5・M6・M8類	
写真図版24	遺物	軒丸瓦⑤ M4・M5・M7類	
写真図版25	遺物	軒丸瓦⑥ M5・M9・M10・M11類	
写真図版26	遺物	軒平瓦① H1・H2・M3類	
写真図版27	遺物	軒平瓦② H1・H3・H4・H5類	
写真図版28	遺物	軒平瓦③ H4・H5・H6・H7・H8・H9類	
写真図版29	遺物	軒平瓦④ H8・H9・H10・H11・H12類	
写真図版30	遺物	軒平瓦⑤ H12・H14類	
写真図版31	遺物	軒平瓦⑥ H12・H13・H14・H15・H16・H17・H18・H19類	
写真図版32	遺物	軒平瓦⑦ H20・H21・H22・H23・H24類	
写真図版33	遺物	軒平瓦⑧ H25・H26・H27・H28・H29・H30・H31・H32類	
写真図版34	遺物	丸瓦① G1・G2類	
写真図版35	遺物	丸瓦② G2類	
写真図版36	遺物	丸瓦③ T1・T2類	

写真図版33	遺物	丸瓦④ T2・S1・S3類
写真図版34	遺物	丸瓦⑤ S2・S3・S5類
写真図版35	遺物	丸瓦⑥ S3・S4・S6類
写真図版36	遺物	丸瓦⑦ S6類
写真図版37	遺物	丸瓦⑧ S6類
写真図版38	遺物	平瓦① J1類
写真図版39	遺物	平瓦② J1・J2・J3類
写真図版40	遺物	平瓦③ L1・L2類
写真図版41	遺物	平瓦④ K1・K2類
写真図版42	遺物	平瓦⑤ K2・K3・K4類
写真図版43	遺物	平瓦⑥ K5類
写真図版44	遺物	平瓦⑦ K6・K7・K8・K9類
写真図版45	遺物	平瓦⑧ K9・K10・K11類
写真図版46	遺物	平瓦⑨ K12・K13類
写真図版47	遺物	平瓦⑩ K13類
写真図版48	遺物	平瓦⑪ K14類
写真図版49	遺物	平瓦⑫ K14・K15類
写真図版50	遺物	平瓦⑬ K15・K16類
写真図版51	遺物	平瓦⑭ K16類
写真図版52	遺物	平瓦⑮ K16・K17類
写真図版53	遺物	平瓦⑯ K17類
写真図版54	遺物	平瓦⑰ K18類
写真図版55	遺物	平瓦⑲ K18・K19類
写真図版56	遺物	平瓦⑳ K19・K20類
写真図版57	遺物	平瓦㉑ K21類
写真図版58	遺物	平瓦㉒ K22・K23・K24類
写真図版59	遺物	平瓦㉓ K24・K25類
写真図版60	遺物	平瓦㉔ N1類
写真図版61	遺物	平瓦㉕ N1類
写真図版62	遺物	平瓦㉖ N1・N2類
写真図版63	遺物	平瓦㉗ N2・N3類
写真図版64	遺物	平瓦㉘ N3類
写真図版65	遺物	平瓦㉙ N3類
写真図版66	遺物	平瓦㉚ N4類
写真図版67	遺物	平瓦㉛ N4・N5類
写真図版68	遺物	平瓦㉜ N5・N6類
写真図版69	遺物	平瓦㉝ N6・N7・W1類
写真図版70	遺物	平瓦㉞ W2・W3類
写真図版71	遺物	平瓦㉟ W1・W3類
写真図版72	遺物	平瓦㉟ W1類
写真図版73	遺物	鷄尾① A類
写真図版74	遺物	鷄尾② B類
写真図版75	遺物	鷄尾③ B類他
写真図版76	遺物	面戸瓦・塼
写真図版77	遺物	近世瓦
写真図版78	遺物	土器①
写真図版79	遺物	土器②
写真図版80	遺物	土器③
写真図版81	遺物	土器④
写真図版82	遺物	土器⑤
写真図版83	遺物	土器⑥
写真図版84	遺物	土器⑦
写真図版85	遺物	土器⑧ SK01出土遺物
写真図版86	遺物	SK01出土遺物
写真図版87	遺物	石器

第1章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境 (図版1・2・3・4)

今宿遺跡は姫路市の中心部の姫路市西今宿5丁目に所在している。姫路市は兵庫県の中西部に位置しており、南は瀬戸内海に面し、南東は高砂市、東は加古川市、北東は加西市、北は神崎郡福崎町・市川町・神河町、北西は宍粟市、西はたつの市と揖保郡太子町と接している。

今宿より北側3kmの地点では標高300mを越える書写山・広峰山塊の峡谷を流れてきた夢前川が平野に向かって開けている。今宿遺跡の調査地は相生層群伊勢累層のガラス質～流紋岩質多結晶溶結凝灰岩を基盤とする独立丘陵で、西側には舟越山、北側には振袖山など独立山が存在している。東側に位置する名古山や手柄山などは丹波層群の頁岩・砂岩を基盤としており、今宿の西側とは様相が異なる。

今宿遺跡は標高305mの南北110m、東西60m（現在西側の削平により40m）の長円形の独立丘の標高19mから標高24mの南斜面に位置する。

今宿遺跡は夢前川水系大井川流域に位置している。今宿遺跡周辺の大井川の流れは揖保山東麓を南に向かって流れ、高岳神社前で南西方向に屈折する。今宿遺跡のある丘陵の西側から南側へ大きく迂回し丘陵の南側から南流している。

鉄道は姫路と岡山県新見を結ぶJR姫新線の播磨高岡駅が今宿遺跡の南側にあり、道路は今宿遺跡の南側に国道2号が東西に走り、中世山陽道・古代山陽道もすぐ西側を東西に走っており、今宿遺跡周辺は古代より交通の要衝であった。

第2節 歴史的環境 (図版2・3・5・6)

今宿遺跡は姫路市南西部の筋磨郡に所在する。今回中心となる遺物は古代の瓦である。したがって、今宿遺跡周辺地域の古代を中心に前後の時代も含めて時代ごとに概観する。

縄文時代は、辻井遺跡・堂田遺跡・船場川東第3地点などで調査が行われている。辻井遺跡では中期から晩期の土器が多量に出土し、中期の屈葬人骨や晩期の土器棺を検出している。

弥生時代の遺跡は、今宿遺跡・今宿丁田遺跡・名古山遺跡・辻井遺跡・岩端町遺跡・千代田遺跡・西延末遺跡・八反長遺跡・仮称大井川区整地内第6地点・英賀保駅周辺遺跡第4地点・書写横江遺跡・六角遺跡などで調査が行われている。弥生時代前期後半から始まる遺跡には千代田遺跡・八反町遺跡がある。英賀保駅周辺遺跡第4地点で竪穴住居を検出している。弥生時代中期は今宿丁田遺跡・辻井遺跡・名古山遺跡などで竪穴住居を検出している。岩端町遺跡では掘立柱建物を検出している。弥生時代後期は今宿遺跡・今宿丁田遺跡・西延末遺跡などで竪穴住居を検出している。書写横江遺跡では円形周溝墓を検出している。

周辺の銅鐸は仮称大井川区整地内第6地点で破片が出土しており、合わせて鋳型や鏡の粗型などが出土している。名古山遺跡と今宿丁田遺跡では袈裟襟文銅鐸の石製鋳型が出土しており、水尾川流域は播磨における青銅器生産の中心地であった。

古墳時代では八反長遺跡で初頭の方形周溝墓を検出している。

前期古墳や中期古墳は周辺では調査が行われていない。後期の古墳は、山崎山群集墳（7基）・手柄山北丘群集墳（12基）など丘陵上や丘陵斜面に存在する横穴石室の群集墳の調査が行われている。周

辺には舟越山古墳群（4基）・蛤山古墳群（4基）などが山上や丘陵上に存在しているが、実態は明らかになっていない。規模の大きい横穴式古墳は付近には存在していない。

古墳時代の集落遺跡は今宿町田遺跡があるが、そのほかの遺跡は様相が明らかになっていない。

播磨国府が本町遺跡に推定されており、播磨国分寺・国分尼寺は市川左岸にある。筋磨郡の古代寺院には市之郷庵寺、辻井庵寺、見野庵寺があり、姫路市域の掛保郡の古代寺院は下太田庵寺がある。

7世紀末には今宿遺跡で溝を検出している。山吹遺跡では正方位方向の溝と柱穴を調査している。辻井遺跡からは掘立柱建物や井戸を検出しており、墨書き器や木簡が出土している。今宿丁田遺跡では掘立柱建物を検出している。山所遺跡からは瓦や塙が採集されている。英賀保駅周辺遺跡第4地点では唐三彩の弁口瓶が円面鏡や石帶などと共に出土している。

古代における須恵器生産をはじめとする窯業は筋磨郡西部から掛保郡東部にかけて群集している。青山窯跡群・桜井窯跡群・打越窯跡群・大池窯跡群・赤坂窯跡群・峰相口窯跡群などが存在しており、打越窯跡と赤坂1号窯跡からは鶴尾が出土している。

今宿遺跡周辺の条里地割は宅地化などの開発で失われた地区も多いが、広い範囲に古代山陽道を基準とした北から 23° 東に振る条里地割が残る。安室地区には北から 16° 東に振る条里地割が残る。

『播磨国風土記』には筋磨郡は16里が記されており、今宿遺跡周辺は草上村が所在する巨智里に比定されている。『播磨国風土記』に匣丘は今宿遺跡の西側に位置する舟越山に比定されている。平安時代の『和名類聚抄』には筋磨郡は14郷が記載され、今宿遺跡周辺は巨智郷、草上郷、辛室郷などに比定されている。

『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条には播磨国に9駅が記載され、周辺に草上駅が置かれ駅馬30疋が定数であったが、正確な位置は確定していない。『延喜式』神名帳に記載のあるいわゆる式内社は筋磨郡に四座あり、今宿遺跡の北側の蛤山に高岳神社が鎮座している。もとは八丈岩山に鎮座していたが、天長3年（826）に現在地に遷した。

中世前半には今宿遺跡・英賀保駅周辺遺跡第4地点・仮称大井川区整地内遺跡（第1地点・第3地点・第4地点・第5地点）・岩端遺跡で掘立柱建物を検出している。中世後半には英賀保駅周辺遺跡第4地点・加茂遺跡で掘立柱建物を検出しており、坂本城跡がある。

『太平記』には後醍醐天皇が「山陽道ヲ不経、播磨ノ今宿ヨリ山陰道ニカヽリ」とあるように今宿は山陽道から山陰道方面への分岐地点でもあった。

調査地点は江戸時代初期には今宿村のうちに含まれており、貞享元年（1684）以前に西今宿村と東今宿村・北今宿村に分村した。姫路藩領に含まれており、幕末に至った。明治4年（1871）の廃藩置県により、姫路県となり、同年府県統合で改置姫路県が置かれた。その後、飾磨県と改称し、兵庫県となつた。明治9年（1876）に西今宿村は東今宿村・別所村と合併して今宿村となつた。明治22年の市制町村制施行により、今宿村は周辺の北今宿村・下手野村・上手野村と合併して飾磨郡高岡村となり、昭和10年には姫路市と合併した。昭和56年から西今宿5丁目と住居表示が変更された。

姫路市は平成8年に中核都市となり、播磨の中心となっている。

第2章 調査の契機と経過

第1節 調査の契機

1. 緊急街路整備事業山吹線の概要

今回の今宿遺跡の発掘調査は、緊急街路整備事業山吹線によるものである。

都市計画道山吹線は、姫路市中心市街地を東西に通過する国道2号から北部市街地を結ぶ南北幹線道路で、姫路市中心部に集中する交通を分散させ、渋滞を解消し道路交通の円滑化をはかるとともに、自転車歩行者道を整備することにより歩行者や自転車の安全確保を目的として事業が計画された。

街路山吹線は姫路市西今宿3丁目を起点として姫路市山吹1丁目を終点とする延長864m、幅員16mの自転車歩行者道付きの2車線である。

事業は平成4年に事業計画がなされ、平成9年度以降、用地買収の進捗に会わせて依頼を受け、埋蔵文化財の対応を実施してきた。平成18年度の供用予定で、継続的に調査を実施してきたが、一部は用地買収の遅れにより、平成19年度に埋蔵文化財の発掘調査を行った。

2. 埋蔵文化財の対応

緊急街路整備事業山吹線の計画に伴い、兵庫県教育委員会と兵庫県姫路市本事務所とが埋蔵文化財調査の取り扱いに関する協議を行った。事業予定用地内には山吹遺跡と今宿遺跡が存在しているため、確認調査を実施し、埋蔵文化財の有無を確認することとした。確認調査により埋蔵文化財の存在が確認できた地点については、あらためて協議を行った。工法上保存不可能なため、記録保存を前提とした本発掘調査を行った。

埋蔵文化財の対応は用地買収の進捗に会わせて、平成9年度以降に実施した。平成9年には北端に位置する山吹遺跡の一部の確認調査を実施し、遺跡の存在が明らかになったため、平成10年度に本発掘調査を実施した。以後、山吹遺跡は平成13年度と平成16年度に本発掘調査を実施した。

今宿遺跡は平成13年度に初めて確認調査を実施し、遺跡の存在が明らかになったため、平成13年度に本発掘調査を実施した。引き続き平成14年度も本発掘調査を実施した（今宿遺跡Ⅱ）。

本報告書に所収の今宿遺跡は第3節で詳細に触れるが、平成14年度に確認調査を実施し、平成14年度と平成15年度に本発掘調査を実施した。

今回報告の今宿遺跡より南側の地区は平成13年度、平成17年度と平成18年度に確認調査を実施したが、遺物・遺構とも検出できなかつたことから、本発掘調査は必要ないとの取り扱いをした。

平成18年度には長らく未買収地であった今宿遺跡と山吹遺跡の間の地点において確認調査を実施し、遺跡の存在が明らかになったため、平成19年度に本発掘調査を実施した。

第2節 今宿遺跡の発見

1. 今宿遺跡

今宿遺跡の発見は、昭和46年3月発行、今里幾次の『姫路市辻井遺跡－その調査記録－』の中で辻井遺跡の関連遺跡として「今宿遺跡」が初めて触れられている。同書の中で「22年3月23日に辻井の西隣の今宿遺跡を踏査」とあり、昭和20年代にはすでに発見されていたのである。しかし、公表されたのは後の事である。

同書では採集した瓦の写真を掲載して「播磨国風土記にいう巨智里と草上村についても考えてみなければならないし、それについて辻井遺跡の西方約1kmの舟越山東端部南麓にある今宿古瓦出土遺跡についても、注意を払う必要があるであろう。今宿遺跡については、これを寺跡あるいは窯跡と言い、時には単なる土捨て場とも言って、まだ遺跡の性質は明らかにされていないが、辻井遺跡と同文の複弁8葉蓮華文軒丸瓦とともに重弧文軒平瓦の出土が見られるほか、瓶も検出されていることを記述しておきたい。」と重要な指摘を行っている。

2. 遺跡地図

これに先立つ、昭和40年3月発行の『兵庫県遺跡地名表』には「今宿遺跡」は記載されていない。遺跡地図類に初めて記載されたのは、昭和43年3月発行の『特別地域埋蔵文化財遺跡分布地図及び地名表』第1分冊である。「今宿遺跡」は「寺院址」として記載され、現状は「山麓の道路脇に古瓦包含ならびに散乱」「古瓦（軒丸瓦2種、軒平瓦1種、瓶）」の遺物があることを詳述している。昭和57年3月発行の『全国遺跡地図 兵庫県』には記載されていなかったが、平成12年3月発行の『兵庫県遺跡地図』には昭和43年3月発行の『特別地域埋蔵文化財遺跡分布地図及び地名表』第1分冊において「今宿遺跡」としていた地点と北側の平地部分も加えて「今宿遺跡」は「散布地」として記載されている。

今宿遺跡は、過去に発掘調査が行われておらず、今回が初めての発掘調査である。なお、瓦の堆積は丘陵東側の未調査地へ続いている。

第3節 調査経過および体制（図版7）

1. 発掘調査の経過

事業予定地は、昭和40年代に今宿遺跡が発見された地点にあたり、瓦が出土することが判明していた。このため、緊急街路整備事業山吹線に伴い、兵庫県姫路市木事務所の依頼によって、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が予定地内の埋蔵文化財の有無について、確認調査を実施し判断することとなった。確認調査により遺跡の存在と範囲が明らかになったため、本発掘調査を実施した。

確認調査

確認調査は、平成14年度に実施し、南側に隣接した地点は平成17年度に実施した。

平成14年度（調査番号2002091）

確認調査は、平成14年5月17日から6月5日にかけて実施した。調査地区は1トレンチから10トレンチの10箇所であり、面積は178m²である。調査はすべて人力で行い、遺構の有無を判断し遺構面までの深さを確認し、遺物を採集した。

平成17年度（調査番号2005110）

平成17年度の調査は、平成14年度と平成15年度に本発掘調査を実施した地点の南側に延長140mの範囲に5箇所の調査区を設定し、確認調査を行った。調査面積は195m²であり、平成17年6月5日に調査を実施した。

本発掘調査

確認調査の成果に基づき、平成14年度に確認調査を実施した地点の一部について、平成14年度と平成15年度の2箇年にわたりて本発掘調査を実施した。

平成14年度（調査番号2002200）

平成14年度の調査は確認調査の成果に基づき、平成15年1月31日から3月11日にかけて実施した。

調査は立木の伐採後、除根と一緒に表土を機械で行い、それ以下を人力で遺構検出・遺構掘削をしていった。実際は瓦の採集が主であった。調査中あるいは調査後写真や図面などによる記録を取り調査を進めた。調査面積は238m²である。

平成15年度（調査番号2003142）

平成15年度の調査は実施設計に基づき、平成14年度に調査を実施した部分の民地との境界部分で若干発掘区域を控えた東側部分に未調査部分が存在することが判明したため調査を実施した。調査面積は22m²であり。平成15年12月17日に調査を実施した。

2. 出土品整理の経過

出土品の整理は、発掘調査時の取り扱いの回答における協議に基づき実施した。兵庫県中播磨県民局長からの依頼により、平成17年度から平成19年度に実施することとなり、平成17年度と平成18年度は兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所、平成19年度は兵庫県立考古博物館で実施した。

平成17年度

平成17年度は、出土遺物の水洗・注記を魚住分館で行った。平成17年度末から仁尾を中心に接合・補強を行なながら、分類を行った。分類は瓦類、土器類、石器類に大きく分類した。さらに瓦類は軒瓦、丸瓦、平瓦に分類し、丸瓦、平瓦は調整により分類を行い、破片点数および隅点数、重量などの統計を取った。

平成18年度

平成18年度は、仁尾の兵庫県立陶芸美術館への転出に伴い、篠宮が担当した。平成17年度に引き続き、接合・補強を行なながら、分類を行った。分類を行った後、実測や拓本・写真撮影するものを選択した。その後、実測・探査を行った。土器の復原を行い、石器と合わせて遺物の写真撮影・写真整理を行った。併せて、瓦の胎土分析を入札によりパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。

平成19年度

平成19年度は、瓦の胎土分析を大阪大谷大学三辻利一先生に依頼した。遺物実測図は遺構図と共にトレースを実施し、レイアウトを行った。原稿執筆・編集を行った後、報告書を刊行した。

3. 調査の体制

発掘調査

平成14年度

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

所長 藤本修三

主幹 苦瓜一成、総務課 課長 森 俊雄

主幹 辅老拓治、企画調整班 主任調査専門員 井守得男、主任 甲斐昭光

確認調査（調査番号 2002091）

調査第2班 調査専門員 西口和彦

調査担当：主任 山田清朝、技術職員 小川弦太

調査補助員：森崎由起子

本発掘調査（調査番号 2002200）

調査第3班 調査専門員 小川良太

調査担当：主任 篠宮 正、主任 仁尾一人

調査補助員：森崎由起子

平成15年度

本発掘調査（調査番号 2003142）

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

所長 平岡憲昭

主幹 苦瓜一成、総務課 課長 織田正博

主幹 辅老拓治、企画調整班 主査 甲斐昭光

調査第2班 調査専門員 山本三郎

調査担当：主査 篠宮 正

出土品整理

平成17年度

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

所長 平岡憲昭

主幹兼総務課長 大西義明

主幹 辅老拓治、整理保存班 主任調査専門員 池田正男、主査 仁尾一人、主査 菱田淳子

担当：調査第2班 主査 篠宮 正、整理保存班 主査 仁尾一人

日々雇用職員：的場美幸、丸岡瑞恵、小谷桂加

平成18年度

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

所長 平岡憲昭

主幹兼総務課長 若生晃彦

主幹 池田正男

整理保存班 主任調査専門員 岡崎正雄、担当課長補佐 岡田章一、主査 菱田淳子

整理担当：調査第2班 主査 篠宮 正

非常勤嘱託員：柏原美音、佐伯純子、柏木明子、眞子ふさ恵、西口由起、島村順子、木村淑子、

小野潤子、奥野政子、又江立子、三好綾子、荒木由美子

日々雇用職員：的場美幸、小谷桂加、藤池かづさ、嶺岡美見

平成19年度

兵庫県立考古博物館

館長 石野博信

副館長（総務部長兼務） 松下信一、総務課 課長 若狭健利、主査 橋本弘昭

埋蔵文化財調査部長 若生晃彦、主幹 岡崎正雄

整理保存班 調査専門員 西口和彦、担当課長補佐 岡田章一、主査 菱田淳子

整理担当：調査第2班 主査 篠宮 正

非常勤嘱託員：佐伯純子、島田留里、吉田優子、三好綾子、嶺岡美見

日々雇用職員：的場美幸、小谷桂加、清水幸子

第3章 調査の成果

第1節 確認調査の成果（図版7）

確認調査は平成14年度に実施した。丘陵全体に幅1mのトレンチを10本入れ、遺構・遺物の有無を確認した。遺構・遺物が存在する場合は遺構の種類や時代、遺構面までの深さや土層の堆積状況などを確認した。

丘陵の頂部や北側に設定したトレンチ1～トレンチ5は少量の遺物が出土したのみで、遺構は検出出来なかった。丘陵の南側に設定したトレンチ8とトレンチ10とトレンチ6の南端は瓦が厚く堆積していた。なお、本発掘調査後の平成16年度には本発掘調査地の南側の確認調査を実施したが、遺構・遺物ともに確認出来なかった。このため、今回調査の対象とした遺跡は独立丘陵の南側斜面の一角であることが判明した。なお、今回本発掘調査地点の東側の調査範囲外にも遺跡は広がっている。

以上、確認調査により丘陵の南側斜面の一部に瓦が厚く堆積していることが判明した。これらの結果から、トレンチ8とトレンチ10の全域とトレンチ6の南端部分の本発掘調査が必要であると判断した。

第2節 本発掘調査の成果

1. 概要

調査は確認調査の成果に基づき、立木の伐木・伐開を行った後、竹や木の根を中心に機械により掘削を行い、それ以下の掘削は人力で行った。本発掘調査は平成14年度と平成15年度の2回に分けて行い、調査区面積は260m²である。調査地の基本層序は表土を除去すると瓦の堆積層か瓦混じりの土層であり、最終面は岩盤である。調査前の標高は19m～25mであり、調査の結果、瓦の集積と江戸時代の土坑を検出した。記録は、遺構検出時および完掘時において、随時、写真撮影や遺物出土状況図・遺構図および断面図を作成した。

2. 遺構（図版8・9 写真図版10～13）

瓦集積と土坑SK01を検出した。

(1) 瓦集積

調査区の南端に位置し、標高18.5mから標高21mの南面する斜面に位置する。南端を頂点とする約50m²に瓦の集積を認めた。深さ最深80cmであり、上部と西側に行くに従って徐々に浅くなっている。岩盤直上から瓦の堆積を認めた。瓦が主体であり、堆積上部に行くに従って土の比率が高い。表層は竹藪のため根が入り込んでいた。堆積している瓦は小片が大半であり、他に石や土器・石器が僅かに出土した。これらの状況から、耕作不可能な岩山に周囲の田畠の耕作時に拾い集めた瓦を中心とした不要物を集積した場所であると言える。

(2) SK01

調査区北部の4区の標高23.2mに位置する。基盤層が岩盤であるため、遺構の形状を説明しにくいが、一辺約12mの隅丸方形で、南側は斜面下部のため壁は検出出来なかった。北側の深さは岩盤の節理で割れがあるため、不明確ではあるが、約0.5mである。中央部に壺の底部を据えており、周囲から瓦などが出土地。

3. 遺物 (図版 10 ~ 68 写真図版 16 ~ 87)

(1) 瓦集積

瓦集積からは瓦塼類と土器類が出土した。瓦塼類は古代のものと近世のものがあるが、ほとんどが古代瓦であるため、近世瓦は別に報告する。瓦類の総数は 92,368 点、9,677 kg 出土している。

1. 瓦塼類

A 軒丸瓦 (1 ~ 49)

軒丸瓦は 49 点出土している。しかし、全体の様相が分るもののはほとんど無い。軒丸瓦はすべて複弁八弁蓮華文である。

M1類 (2・8)

複弁八弁蓮華文軒丸瓦である。蓮弁は弁端が尖り、強い反転を示し、外縁中央部までの高さがある。子葉は弁端近くまで達しており、盛り上がりも高い。間弁は楔状を呈し、中房まで達する。弁端は外縁中央部までの高さがある。中房は直立し、1 + 4 + 8 の周環を有する蓮子を配する。内側の蓮子は間弁の中心に、外側の蓮子は子葉間に位置する。外縁は斜線で素文である。接合する丸瓦は不明である。丸瓦の剥離部分には、丸瓦の未加工凹部に存在した布目の転写痕が残る。8 は型範の木目痕が残る。2 は外縁を型范からはずした後、ナデ調整を行っている。焼成は硬質であり、色調は灰色である。

M2類 (1・3~7・13)

複弁八弁蓮華文軒丸瓦である。蓮弁は弁端が尖り、強い反転を示し、外縁中央部までの高さがある。子葉は M1 類に比べて短い。子葉の盛り上がりは高い。間弁は楔状を呈し、中房まで達する。弁端は外縁中央部までの高さがある。中房は直立し、1 + 4 + 8 の周環を有する蓮子を配する。内側の蓮子は間弁の中心に、外側の蓮子は子葉間に位置する。外縁は斜線で素文であり、型範からはずした後、ナデ調整を行っている。接合する丸瓦は不明である。6・7 は外縁がはずれ、3・6・7 は丸瓦の剥離部分に、丸瓦の未加工凹部に存在した布目の転写痕が残る。13 は型範を二度押ししている。焼成は硬質であり、色調は灰色である。

M3類 (9~12)

複弁八弁蓮華文軒丸瓦である。中房を欠く。蓮弁は弁端が尖り、反転を示す。間弁は楔状を呈する。外縁は斜線で素文であり、型範からはずした後、ナデ調整を行っている。接合する丸瓦は不明である。9・12 は型範を二度押ししている。焼成は比較的硬質で、灰白色を呈する。

M4類 (14・17・20~22・24)

複弁八弁蓮華文軒丸瓦である。中房を欠く。蓮弁は弁端が尖り、反転を示す。間弁は楔状を呈し、中房まで達する。外縁は丸みを帯びた平線で素文である。接合する丸瓦は不明である。15・17 は型範を二度押ししている。焼成は 14・17 が比較的硬質で、14 は灰白色、17 は灰色を呈する。15 は焼成不良で、内面は橙色を呈する。

M5類 (15・23・25~37)

複弁八弁蓮華文軒丸瓦である。蓮弁は弁端が尖り、反転を示し、外縁中央部までの高さがある。子葉は M1 類に比べて短い。子葉の盛り上がりは低い。間弁は楔状を呈し、中房まで達する。弁端は外縁の高さに達しない。中房は直立し、1 + 4 + 8 の周環を有する蓮子を配する。内側の蓮子は間弁の中心に、外側の蓮子は子葉間に位置する。外縁は 23 しか残っていないが、平線で素文である。接合する丸瓦は不明である。28・30・34 は外縁がはずれており、丸瓦の剥離部分に丸瓦の加工凹部の転写痕が残る。

25・28は型範を二度押している。15・23・34・25・28・30には型範の木目痕が残り、23・24は同一部分であり、木目痕の数から23から24へ新しくなっている。焼成は瓦質であり、色調は表面が灰色、内面は灰白色である。

M6類（16）

複弁八弁蓮華文軒丸瓦である。中房を欠く。蓮弁は弁端が尖り、反転を示す。子葉の盛り上がりは外縁より高い。間弁は楔状を呈する。外縁は幅広の平縁で素文である。接合する丸瓦は不明である。焼成は比較的硬質で、灰白色を呈する。

M7類（19）

複弁八弁蓮華文軒丸瓦である。中房を欠く。蓮弁は弁端が尖り、反転を示す。間弁は楔状を呈する。蓮弁・子葉・間弁の盛り上がりは低い。外縁は幅広の斜縁で素文である。接合する丸瓦は不明である。焼成は比較的硬質で、灰白色を呈する。

M8類（18）

複弁八弁蓮華文軒丸瓦である。中房を欠く。蓮弁は弁端が尖り、反転を示す。間弁は楔状を呈する。蓮弁・子葉・間弁の盛り上がりは低い。外縁は幅広の斜縁で素文である。接合する丸瓦は不明である。焼成は比較的硬質で、灰白色を呈する。

M9類（38～47）

外縁のみの破片を一括した。38～41は斜縁の素文であり、焼成は硬質で、色調は灰色であることからM1類もしくはM2類の可能性が高い。42・43は幅広の平縁で素文である。焼成は比較的軟質で、色調は灰白色であり16の外縁に似ていることからM6類の可能性が高い。44は丸みを帯びた平縁で素文である。軟質で、色調は灰白色であり、M4類の可能性が高い。45は平縁で素文である。焼成は瓦質であり、色調は表面が灰色、内面は灰白色であることからM5類の可能性が高い。46は丸瓦との接合部が残っているが、丸瓦の類型は明らかでない。47は焼成不良で、橙色を呈する。

M10類（48）

中房のみの破片である。周環を有する蓮子が5箇残る。内面は焼成不良で、橙色を呈する。

M11類（49）

瓦当面がはずれた丸瓦の広端面に薺状圧痕が残る。凹面には布端部の痕跡が残る。

B 軒平瓦（50～126）

軒平瓦は全容が分るものは存在していない。軒平瓦は77点出土している。ただし、1点の唐草文軒平瓦を除いてすべて重弧文軒平瓦である。弧線の数は三重弧がもっとも多く、四重弧と二重弧が僅かに存在する。

H1類（50～52・61・62）

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦で頸を有する。瓦当面の厚さは50が4.1cm、51が3.4cm、52・62が3.5cm、61が3.7cmである。凹線は極めて浅く丸く、弧線の上面に挽き型が当たっていないため、弧線の縁に盛り上がりがある。凹面は枠板痕と布袋の痕跡を残す。50は瓦当面から6.5cmのところで、荒い主体布に細かい補足布を縫い足している。凸面は叩き目をナデ消している。

頸は粘土板を貼り付けた段頸である。頸の長さは50が6.0cm、51が5.0cm、52が5.4cm、61が4.8cm、62が4.6cmで、頸の厚さは50が1.1cm、51が1.0cm、52が1.2cm、61が1.4cm、62が1.3cmである。焼成は硬質で、灰色を呈する。50の凸面の頸部には赤色顔料が付着している。

H2類 (54)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦である。瓦当面の厚さは3.4cmである。凹線は極めて浅く丸く、弧線の上面に挽き型が当たっていないため、弧線の縁に盛り上がりがある。

凹面は枠板痕と布袋の痕跡を残す。瓦当面から5.5cmのところで、荒い主体布に細かい補足布を縫い足している。凸面は叩き目をナデ消している。額は一度、段額を作り出した後、粘土を重ねて直線額にしている。焼成は硬質で、灰色を呈する。

H3類 (53・55・56・58・59)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦で、額は直線額である。瓦当面の厚さは2.9cm～3.7cmである。凹線は極めて浅く丸く、弧線の上面に挽き型が当たっていないため、弧線の縁に盛り上がりがある。

凹面は枠板痕と布袋の痕跡を残す。瓦当面から3.5cm～6.5cmのところで、荒い主体布に細かい補足布を縫い足している。凸面は叩き目をナデ消している。焼成は硬質で、灰色を呈する。

H4類 (64)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦で、直線額である。瓦当面の厚さは3.2cmである。凹線は浅く尖り気味で、弧線の上面に挽き型が当たっていないため、弧線の縁に盛り上がりがある。

凹面は枠板痕と布袋の痕跡を残す。瓦当面から6.4cmのところで、荒い主体布に細かい補足布を縫い足している。凸面は叩き目をナデ消している。焼成はやや硬質で、灰白色を呈する。凸面瓦当面付近には赤色顔料が付着している。

H5類 (57・60・63・68)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦で、直線額である。瓦当面の厚さは3.0cm～4.3cmである。凹線は浅く尖り気味で、弧線の上面に僅かに挽き型が当たっており、中央弧線は丸く作っている。

凹面は枠板痕と布袋の痕跡を残す。瓦当面から4.6cm～6.5cmのところで、荒い主体布に細かい補足布を縫い足している。凸面は叩き目をナデ消している。焼成は硬質で、灰色を呈する。

H6類 (65～67)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦で、額は直線額である。瓦当面の厚さは3.4cm前後である。凹線は浅く、中央弧線の上面に僅かに挽き型が当たっている。

凹面は枠板痕と布袋の痕跡を残す。瓦当面から66は5.0cmのところで荒い主体布に細かい補足布を縫い足している。凸面は叩き目をナデ消している。焼成は硬質で、灰色を呈する。

H7類 (69～75)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦で、額は直線額である。瓦当面の厚さは3.5cmである。弧線・凹線ともに平坦であり、第1凹線の幅が細く、第2凹線の幅が広い。

凹面は枠板痕と布袋の痕跡を残す。凸面は叩き目をナデ消している。焼成は硬質で、灰色を呈する。

H8類 (76～78)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦で、額は直線額である。瓦当面の厚さは3.0cmである。中央弧線は台形を呈し、凹線は底が平坦である。第1凹線の幅が細く、第2凹線の幅が広い。焼成は瓦質で、外面は灰色、内面は灰白色を呈する。

H9類 (79～83)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦である。瓦当面の厚さは3.5cmである。中央弧線は台形を呈し、凹線は底が平坦である。いずれも凹面端部に1.7cm～2.0cm幅の挽き型痕が残る。焼成は瓦質で、外面

は灰色、内面は灰白色を呈する。

H10類 (84・85)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦である。瓦当面の厚さは3.6cmである。中央弧線は丸く作っており、第1凹線の中央弧線側の変化点は不明瞭である。凹線は平坦であり、第1凹線の幅が細く、第2凹線の幅が広い。

H11類 (86~88)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦である。瓦当面の厚さは3.5cmである。中央弧線は丸く作っており、上下の弧線および凹線は平坦であり、第1凹線の幅が細く、第2凹線の幅が広い。86は凹面端部に1.2cm幅の挽き型痕が残る。

H12類 (89~93・106)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦で、顎は直線顎である。瓦当面の厚さは3.2cmである。凹線は深く丸く、弧線・凹線とともに丸みがある。3本の弧線の形と幅は描っており、2本の凹線の形と幅も描っている。90・92は凹面端部を弧線に沿ってケズリを行った後、ナデを行っている。106は凸面に大きいくぼみ出しがあるが、ケズリといっていない。

H13類 (94)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦で、顎は直線顎である。瓦当面の厚さは3.0cmである。弧線は台形で、凹線は丸みがある。2本の凹線の形と幅は描っている。凹面と凸面端部は弧線に沿ってケズリを行っている。

H14類 (95~97)

型挽きの三重弧文軒平瓦で、顎は直線顎である。瓦当面の厚さは3.2cmである。弧線は丸く、凹線は平坦である。凹面と凸面ともにケズリを行っている。

H15類 (98)

型挽きの三重弧文軒平瓦で、顎は直線顎である。瓦当面の厚さは3.3cmである。弧線は中央が丸く、下端は平坦である。中央弧線が下端弧線より突出している。凹線は平坦であり、上側が細く、下側が太い。凹面と凸面ともにケズリを行っている。

H16類 (99~101・104)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦で、顎は直線顎である。瓦当面の厚さは3.0cmである。弧線・凹線ともに丸みがある。2本の凹線の形と幅は描っている。凹面と凸面端部は弧線に沿ってケズリを行っている。

H17類 (102)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦で、顎は直線顎である。瓦当面の厚さは3.3cmである。弧線は中央が平坦で、下端は丸みを帯びている。凹線は丸い。

H18類 (103)

型挽きの粘土板桶巻作り三重弧文軒平瓦で、顎は直線顎である。瓦当面の厚さは3.3cmである。弧線・凹線ともに丸みを帯びている。凹面は弧線に沿ってケズリを行っている。凹面は棒板痕と布袋の痕跡を残し、凸面はナデにより、叩き目をナデ消している。

H19類 (105)

型挽きの三重弧文軒平瓦で、顎は直線顎である。瓦当面の厚さは4.0cmである。中央弧線は断面が三

角形であり、上下端の弧線は平坦である。凹線は丸みを帯びている。

凹面は布袋の痕跡を残す。荒い主体布に細かい補足布を瓦当面から 6.4 cm のところで縫い足している。

凸面はナデにより、叩き目をナデ消している。焼成は硬質で、灰色を呈する。

H20類 (107・108・113)

型挽きの粘土板桶巻作り四重弧文軒平瓦である。瓦当面の厚さは 107 が 4.3 cm、108 が 4.8 cm と厚い。弧線・凹線ともに三角形で、深く太い。凹面は枠板痕と布袋の痕跡を残す。凸面は唯一格子叩目を残し K9 類の可能性が高い。

H21類 (109)

型挽きの三重弧文軒平瓦である。中央弧線は三角形で、下端弧線は丸みを帯びている。凹線は深く V 字形である。

H22類 (110)

型挽きの三重弧文もしくは四重弧文軒平瓦である。中央弧線と下端弧線は台形である。凹線は V 字形である。凸面端部は弧線に沿ってケズリを行っている。

H23類 (111)

型挽きの三重弧文軒平瓦である。中央弧線と下端弧線は丸みを帯びている。凹線は太く丸い。凹面と凸面端部は弧線に沿ってケズリを行っている。凹面は布袋の痕跡を残す。

H24類 (112)

型挽きの三重弧文軒平瓦である。上下の弧線は欠いている。中央弧線は幅広の不定形であり、凹線は深い。凹面は布袋の痕跡を残す。

H25類 (114)

型挽きの粘土板桶巻作り二重弧文軒平瓦で、頸は直線頸である。瓦当面の厚さは 1.8 cm である。凹線は深く丸く、弧線・凹線ともに丸みがある。2 本の弧線の形と幅は揃っている。弧線・凹線の形と胎土から H12 類と同じ類型の可能性がある。

H26類 (115)

型挽きの粘土板桶巻作り二重弧文軒平瓦であり、頸を有する。瓦当面の厚さは 2.0 cm である。凹線は極めて浅く丸く、弧線の上面に挽き型が当たっていないため、弧線の縁に盛り上がりがある。

凹面は枠板痕と布袋の痕跡を残す。瓦当面から 5.3 cm のところで、荒い主体布に細かい補足布を縫い足している。凸面は叩き目をナデ消している。

頸は段頸で、頸の長さは 6.0 cm、厚さは 0.6 cm である。焼成は硬質で、灰色を呈する。

H27類 (116)

型挽きの二重弧文軒平瓦である。凹線は丸みがあり、途中で、凸面に抜けている。凹面は布袋の痕跡を残し、凸面はナデを行っている。

H28類 (117)

型挽きの二重弧文軒平瓦である。凹線は浅く、弧線と凹線は平坦であり、他と異なって荒い作りである。凹面は縦方向の荒い調整を行い、凸面はナデを行っている。色調は橙色である。

H29類 (118)

型挽きの三重弧文軒平瓦である。上端弧線は欠けている。中央弧線は三角形で、下端弧線は丸みを帯びている。凹線は深く、丸みがある。凹面は細かい布袋の痕跡を残し、凸面はナデを行っている。

H30類 (119)

型挽きの三重弧文軒平瓦である。上端と下端の弧線は欠けている。中央弧線は台形で、凹線は深く、丸みがある。凹面には布袋の痕跡を一部残している。

H31類 (120~124)

瓦当面の一部が剥離しているため、弧線の数は不明であるが、三重弧文軒平瓦であると考えられる。

H32類 (125)

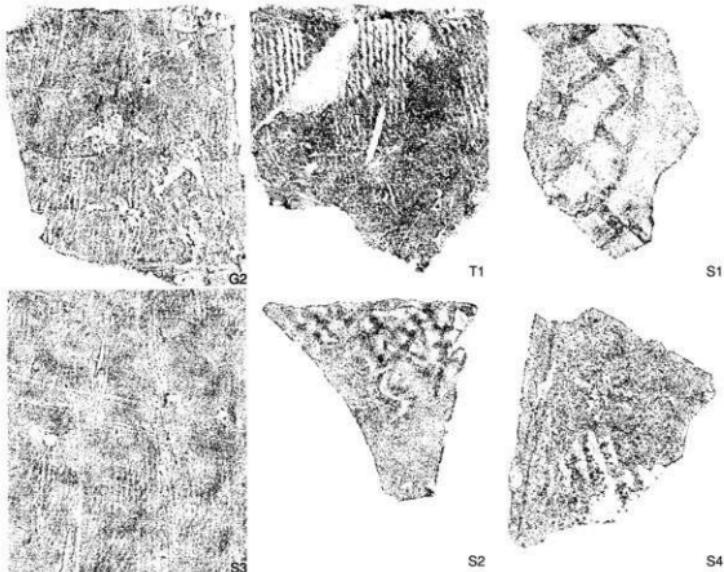
型挽きの四重弧文軒平瓦である。凹線は極めて細く、浅い。凹面は布袋の痕跡を残す。凸面は縱方向の縄目叩き目を残す。磨滅が著しいため詳細な類型は不明である。

播磨国府系瓦 (126) (図版 22)

1点のみ出土している。均整唐草文軒平瓦である。外区に珠文帯、内区に唐草文を配する。顎は曲線顎である。播磨国府系瓦のいわゆる古大内式軒平瓦である。

C 丸瓦 (127 ~ 159)

丸瓦の総数は 27,142 点、2,407 kg 出土している。しかし、瓦全体の様相が分るものはほとんど無く、小破片が多いため、狭端部の形態を基準に分類した。狭端部の形態は行基式と玉縁式の 2 形態があるが、ほとんど個体は区別が困難である。成形技法は行基式と玉縁式とともにすべて粘土板巻きつけ技法を用いており、粘土紐巻きつけ技法によるものは無い。凸面の叩き目はナデ等により残存が確認出来るものは少ないが、平行叩き目、格子叩き目、縄叩き目が存在している。ここでは、凸面の成形手法が判別するものを中心と報告することにした。なお、側面整形手法・端面整形手法の分類は市之郷遺跡の山田の分



第1図 丸瓦凸面叩き目分類

類（兵庫県教育委員会 2005）にしたがった。

行基式（127～133）

G1類（127～129）

行基式の丸瓦の中で、ナデにより叩き痕跡が不明なものである。127・129の狭端部は未調整である。128の狭端部凸面はケズリを行っている。

G2類（130～133）

行基式の丸瓦の中で、凸面に繩叩き目の痕跡を残すものである。細かい繩目叩きの後、回転を利用して強いナデを行っているため、繩叩き目の痕跡は弱い。

玉縁式（134～139）

T1類（134～136）

玉縁式の丸瓦の中で、凸面に縦位の繩叩き目の痕跡を残すものである。繩叩き目は縦もしくは斜め方向であり、G2類に比べて荒い。凹面は布目痕が残る。玉縁の長さは134が4.4cm、135が[±]6.2cmである。焼成は軟質で灰黄色もしくは灰色を呈する。

T2類（137～139）

玉縁式の丸瓦の中で、ナデにより叩き痕跡が不明なものである。玉縁の長さは137・139が6.2cm、138が5.8cmである。焼成は軟質で灰黄色を呈する。

その他（140～159）

狭端部の形態が不明なものをその他として一括して扱う。

S1類（140～143）

狭端部の形態が不明なもので、凸面に正格子叩き目を施すものである。格子一辺1.2cmの正格子で浅く、瓦の軸に対して斜交している。

S2類（144）

狭端部の形態が不明なもので、凸面に詳細な叩き目は不明であるが、細かい格子叩き目を施した後、強くナデを行っている。

S3類（145～147）

狭端部の形態が不明なもので、凸面に縦位の繩叩き目を施し、回転を利用して強いナデを行っているものである。技法と胎土などからG2類と同一であると考えられ、行基式の可能性が高い。145の凹面は粘土板の張り合わせ痕と布袋の縫じ合わせ痕が重なっている。

S4類（148）

狭端部の形態が不明なもので、凸面に斜位の平行叩き目を施し、強いナデを行っているものである。細かい布目痕跡も残っている。

S5類（149）

狭端部の形態が不明なもので、凸面に回転ナデ調整を行っており、一部に布目が残る。凹面は荒い布目痕跡が残っている。

S6類（150～159）

狭端部の形態が不明なもので、凸面はいずれもナデ調整を行っている。150～154・156～159は広端部が残っている。凹面は布目痕跡が残り、151・153・157は粘土板製作時の切り離し痕跡が明瞭に残っている。159は凹面の布縫じが明瞭に残る。154は布袋端部の痕跡が残る。

D 平瓦 (160 ~ 274)

平瓦の総数は64,943点、7,245.47kg出土している。しかし、瓦全体の様相が分るものはほとんど無く、小破片が多いため、凸面の叩き目などの最終成形手法を基準に分類した。最終成形手法は平行条線・平行叩き目・格子叩き目・縦目叩き目・無文叩き・ナデに大別して、それぞれ細分した。なお、側面整形手法・端面整形手法の分類は市之郷遺跡の山田の分類（兵庫県教育委員会2005）に従った。

平行条線

J1類 (160~163)

粘土板桶巻作りである。凸面は幅約7cmに10本の条線がある工具で施文している。横方向を中心に、160・161は斜めにも施文している。凹面は布袋の痕跡が残り、一部ナデ消している。163は枠板痕が残る。161・162は粘土板製作時の切り離し痕跡が残っている。

J2類 (164・165)

粘土板桶巻作りである。凸面は幅約2.5cmに8本の条線がある工具で横方向に施文している。凹面は布袋の痕跡が残り、一部ナデ消している。164は枠板痕が残る。

J3類 (166)

粘土板作りである。凸面は幅約6cm以上に6本以上の条線がある太い工具で斜め方向に施文している。凹面は布袋の痕跡が残っている。

平行叩き目

L1類 (167・168)

粘土板一枚作りである。凸面は右上がりの平行叩き目を残す。叩き目は、幅3.6cmあたり7本の密度の工具で叩いている。凹面は布の痕跡が残っている。167は側面まで布目が残り、広端部には布端部の痕跡が残る。一隅を僅かに切り落としている。

L2類 (169・170)

粘土板一枚作りである。凸面に乱れた布目痕の上に右上がり、あるいは縦位の平行叩き目を施す。叩き目は、幅3.6cmあたり7本の密度の工具で叩いている。凹面は荒い乱れた布目が残り、170の広端部の一部にも布目痕が残る。

格子叩き目

K1類 (171)

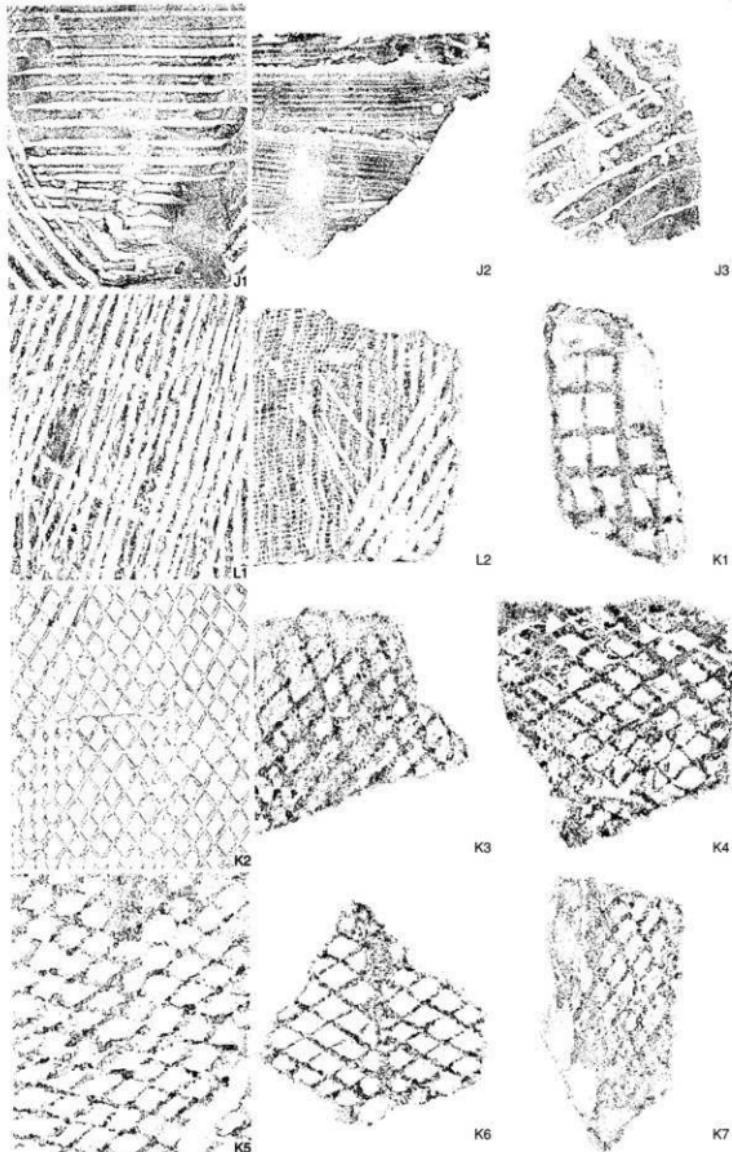
凸面は唯一の正格子叩き目である。一辺1.3cm×1.0cmの長方形で、長辺が縦位に平行している。深さは3mm程度と深い。凹面の布目は磨滅のため残っていない。

K2類 (172~176)

粘土板桶巻作りである。凸面は斜格子叩き目で叩き板の幅は6cm程度である。斜格子は菱形で対角は長軸1.0cm程度×短軸0.7cm程度で、長軸が縦位に平行している。凹面は布目が残り、176は明瞭な枠板痕が、172・173は布縦じ痕と粘土板製作時の切り離し痕が残っている。

K3類 (178)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、叩き目は不明瞭である。斜格子は平行四辺形で対角は長軸1.1cm程度×短軸0.7cm程度で、長軸が縦位に平行している。格子底部は凹凸がある。凹面および側面には布目が残っている。



第2図 平瓦凸面叩き目分類(1)

K4類 (177)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、叩き目は不明瞭である。斜格子は大小の菱形や平行四辺形が混じっており対角は長軸1.6cm～1.2cm程度×短軸1.2cm～0.8cm程度で、長軸が横位に平行している。凹面の布目は乱れている。

K5類 (179～181)

粘土桶巻作りである。凸面は斜格子叩き目で、叩き目は不明瞭である。斜格子は大小の平行四辺形が混じっており対角は長軸1.8cm～1.4cm程度×短軸0.9cm～0.8cm程度で、長軸が横位に平行している。凹面は布目が乱れている。179は粘土板貼り付けの剥離痕が存在している。

K6類 (182)

粘土板桶巻作りである。凸面は斜格子叩き目で、叩き目は深い。斜格子は菱形で対角は長軸1.4cm程度×短軸0.8cm程度で、長軸が横位に平行している。凹面は布目を一部残し、ナデ消している。

K7類 (183)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、叩き目は重複が著しい。斜格子は菱形で対角は長軸1.2cm程度×短軸0.8cm程度で、長軸が縦位に平行している。凹面は布目が残る。

K8類 (184)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は不定形で描っていない。対角は長軸1.3cm～0.9cm程度×短軸1.1cm～0.7cm程度で、長軸が横位に平行している。凹面は隅に布端部が残り、布目が存在していない部分が残る。

K9類 (185～188)

粘土桶巻作りで比較的の厚い。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は大小の菱形・平行四辺形や不定形など混じっており描っていない。対角は長軸0.9cm～0.5cm程度×短軸0.7cm～0.4cm程度で、長軸が横位に平行している。凹面は布目と棒板痕が存在している。

K10類 (189)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は右上がりの平行四辺形である。対角は長軸1.8cm程度×短軸1.2cm程度で、長軸が縦位に平行している。凹面は布目が存在している。

K11類 (190)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は正方形・長方形や不定形など混じっており描っていない。対角は長軸1.7cm～1.4cm程度×短軸1.2cm程度で、長軸は左上がりである。凹面は布目が磨滅している。

K12類 (191)

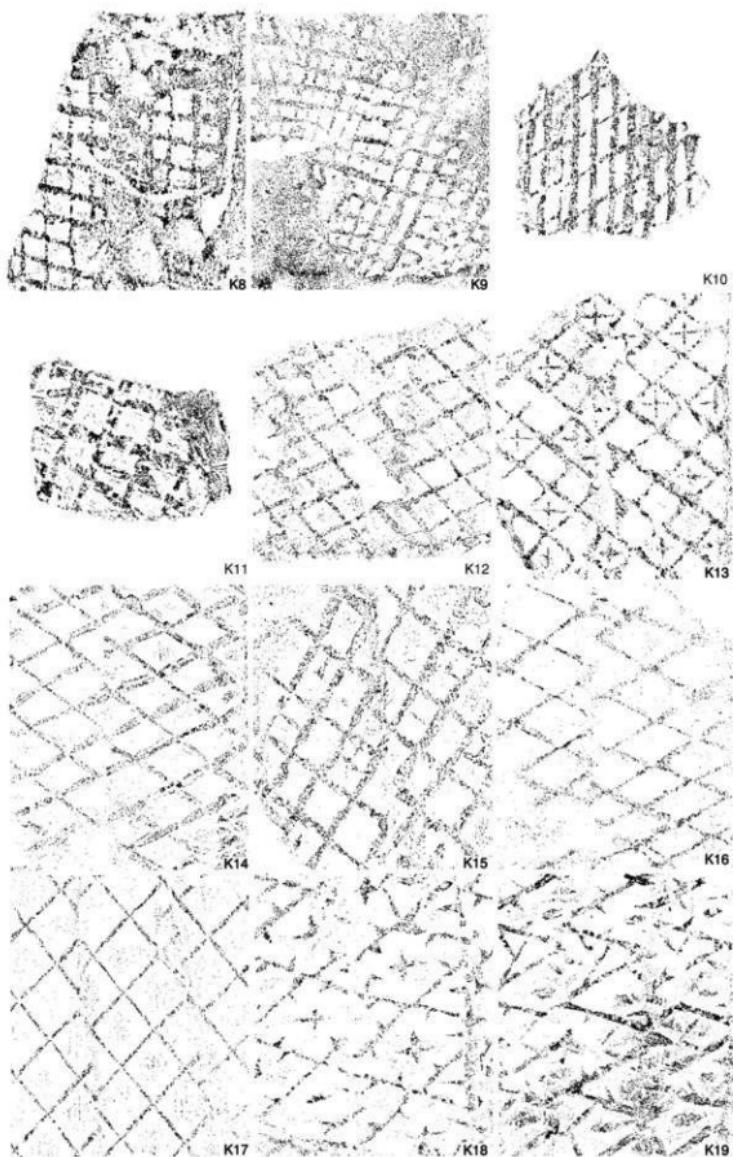
粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は菱形である。一辺1.1cm程度、対角は長軸1.8cm程度×短軸1.3cm程度で、長軸が横位に平行している。凹面は布目が存在している。

K13類 (192～196)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は平行四辺形である。一部の格子内には対角をつなぐ「+」文がある。一辺1.1cm程度、対角は長軸1.9cm程度×短軸1.6cm程度で、長軸が横位に平行している。凹面は布目が存在している。

K14類 (197～200)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は大小の平行四辺形で描っていない。対角は



第3図 平瓦凸面叩き目分類(2)

長軸 2.5 cm ~ 2.1 cm 程度 × 短軸 1.6 cm 程度で、長軸が横位に平行している。197・199 の格子内的一部分には木目が存在している。凹面は布目が存在しており、197 ~ 199 は広端面あるいは狭端面にも布目が存在している。

K15類 (201~204)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は大小の右上がりの平行四辺形で描っていない。一部の格子内には短辺をつなぐ「L」文と「T」文がある。対角は長軸 2.9 cm ~ 1.9 cm 程度 × 短軸 2.4 cm ~ 1.8 cm 程度で、長軸が縦位に平行している。201・202 は端部側に叩き残し部分が存在する。凹面は布目が存在しており、201 は狭端面に布目が存在しており、側面部には布目が存在しない部分がある。

K16類 (205~210)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は大小の平行四辺形で描っていない。対角は長軸 3.6 cm ~ 2.8 cm 程度 × 短軸 2.0 cm ~ 1.5 cm 程度で、長軸が横位に平行している。205・206・208・209・210 は端部側に叩き残し部分が存在する。凹面は布目が存在しており、205 は広端面に布目が存在している。

K17類 (211~214)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は菱形である。一辺 2 cm 前後で、対角は長軸 3.1 cm 程度 × 短軸 2.7 cm 程度で、長軸が縦位に平行している。いずれも縦位の木目が存在している。213 の凸面には粘土板製作時の切り離し痕が残っている。凹面は布目が存在しているが、214 の端部側には布目が存在しない部分がある。211 の側面部および端面には布目が存在している。

K18類 (215~219)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は大小の平行四辺形で描っていない。叩き板の端部は三角形になっている。格子内には棘が存在し、中央部に「+」文がある。対角は長軸 4.7 cm 程度 × 短軸 3.9 cm ~ 3.5 cm 程度で、長軸が横位に平行している。216・217 は端部側に、218 は側面部側に叩き残し部分が存在する。凹面は布目が存在している。

K19類 (220・221)

粘土板一枚作りである。凸面は不定形九角形や三種類以上の三角形の叩き目である。九角形の対辺は 2.7 cm 程度である。九角形の内部には「+」文が存在している。三角形の一辺は 3.3 cm から 0.8 cm まで大小あり、大きいものには棘が存在する。凹面は布目が存在しており、220 は端部に、221 は側面部にも布目が存在している。

K20類 (222・223)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は平行四辺形で、叩き板の端部は三角形になっている。格子内の中央部に「+」文がある。対角は長軸 4.8 cm 程度 × 短軸 3.1 cm 程度で、長軸が横位に平行している。側面部側に叩き残し部分が存在し、盛り上がっている。凹面は布目が存在している。

K21類 (224~226)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は平行四辺形である。このうち縦一列には格子内の長軸を結ぶ「L」文がある。対角は長軸 4.3 cm 程度 × 短軸 3.1 cm 程度で、長軸が横位に平行している。225 は端部側に叩き残し部分が存在する。凹面は布目が存在しており、224 は狭端面に布目が存在している。



第4図 平瓦凸面叩き目分類(3)

K22類 (227)

粘土板一枚作りである。凸面は斜格子叩き目で、斜格子は平行四辺形で、叩き板の端部は三角形になっている。対角は長軸 6.8 cm 程度 × 短軸 4.5 cm 程度で、長軸が横位に平行している。凹面はナデている。

K23類 (228)

粘土板一枚作りである。凸面は布目痕の上に斜格子等の叩き目を施す。斜格子等は平行四辺形であり、1 本と 3 本の組合せで描いており、幅の狭い文様帶と三角形を作っている。対角は長軸 6.8 cm 程度 × 短軸 4.5 cm 程度で、長軸が横位に平行している。凹面は布目である。

K24類 (229~231)

粘土板一枚作りである。凸面は格子叩き目で、格子は長方形である。長辺 1.6 cm 程度 × 短辺 0.6 cm 程度で、長軸が縦位に平行している。格子内面は凹凸が著しい。凹面は布目である。

K25類 (232・233)

粘土板一枚作りである。凸面は格子叩き目で、格子は台形である。幅 0.9 cm ~ 0.5 cm の平行線に斜行する直線で台形を作っている。長辺の最大は 3.5 cm 程度である。凹面は布目である。

K26類 (234)

粘土板一枚作りである。凸面は格子叩き目で、格子は平行四辺形である。叩き板の端部は三角形になっている。対角は長軸 2.2 cm 程度 × 短軸 1.2 cm 程度で、長軸が横位に平行している。格子内は木目が残る。凹面は布目である。

縄叩き目

N1類 (235~241)

粘土縄桶巻作りである。凸面は縄叩き目で縦方向である。縄叩き目は細かい。凹面にはいずれも幅 4 cm 前後の粘土紐接合痕が残り、236・237・239 ~ 241 は棒板痕が残る。235・238 は縦方向の布の縫い跡が残り、236 は縦方向の布の縫じ跡が残る。236・237・239 ~ 241 は隅を切っている。

N2類 (242~245)

粘土板桶巻作りである。凸面は縄叩き目で縦方向である。縄叩き目は細かい。凹面は布目が存在し、棒板痕はケズリあるいはナデにより消している。いずれも隅を切っている。

N3類 (246~252)

粘土板一枚作りである。凸面は縄叩き目で縦方向である。縄叩き目はやや荒い。凹面は布目が存在し、248 は側面部にも布目が存在している。252 は凹面に赤色顔料が付着している。251 は隅を切っている。

N4類 (253~256)

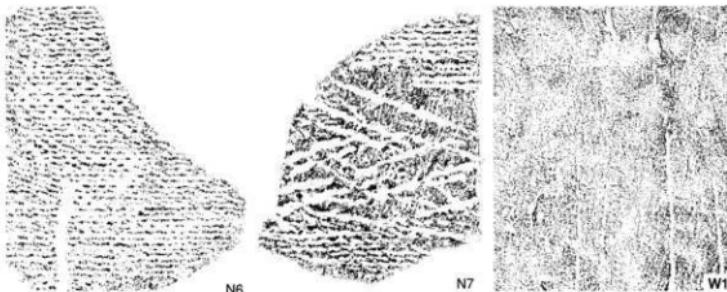
粘土板一枚作りである。凸面は縄叩き目で縦方向である。縄叩き目は荒く、深い縄目の単位が明瞭である。単位の幅は 4.2 cm 程度である。凹面は布目が存在している。255 は隅を切っている。

N5類 (257~260)

粘土板一枚作りである。凸面は縄叩き目で右上がりの斜め方向である。縄叩き目は荒く、深い縄目の単位が明瞭である。単位の幅は 3.8 cm 程度である。凹面は布目が存在している。257・258 は隅を切っている。

N6類 (261・262)

粘土板一枚作りである。凸面は縄叩き目で横方向である。縄叩き目は荒い。端部側に叩き残し部分が存在する。凹面は布目が存在している。



第5図 平瓦凸面叩き目分類(4)

N7類 (263)

粘土板一枚作りである。凸面は縄叩き目で横方向と格子である。縄叩き目は荒い。格子は方向を変え、装飾的に叩いている可能性がある。凹面は布目が存在し、側縁部にも布目が残っている。

無文叩き

W1類 (264・271~274)

粘土板一枚作りである。271は唯一、平瓦の全容が判る個体である。全長33.0cm、幅27.2cmである。凸面は縦方向の無文叩き目で、一部に布目が存在する。叩き板の幅は6.6cm程度である。端部側には叩き残し部分が存在する。凹面は布目が存在している。

W2類 (265・266)

粘土板一枚作りである。凸面・凹面ともに荒い布目が存在する。明瞭な叩き痕は存在しない。布目や胎土の状況からH2類に似ている。

W3類 (267~270)

粘土板桶巻作りである。凸面はナデを行っている。凹面は布目が存在し、267は棒板痕が残っている。焼成は精緻である。270は粘土板製作時の痕跡がある。

E 面戸瓦 (285) (国版59・写真国版76)

両端部は欠損している。側面は焼成前に成形しており、ヘラで切り取った痕跡がある。厚さは2.4cm～2.8cmである。

F 鶴尾 (275～284) (第6図・国版58・写真国版73～75)

鶴尾は破片で10点出土した。文様・整形・胎土・色調から、A類とB類の2種類に分類出来る。

A類 (275～278)

いわゆる蓮華文帯鶴尾で、同様の胎土・調整のものが4点出土している。275は蓮華文帯の頂部に近い部分で稜の無い断面の縦帯の突帯と蓮華文を2箇所、貼り付けた痕跡の一部が残る。粘土組が水平に剥離していることから、頂部であると考えた。体部の厚さは2.0cm～2.5cmである。276は左側面の縦帯の突帯と鰐部の破片である。鰐部は幅2.4cm、高さ0.5cmの正段を削り出している。277は左側面の蓮華文帯と鰐部の破片である。縦帯は稜が無く、蓮華文は周縁の一部のみである。かろうじて面逆鉛歯文であることが分る。外縁の外側には范傷が存在する。鰐部は正段を削り出しており、削り出す前の割

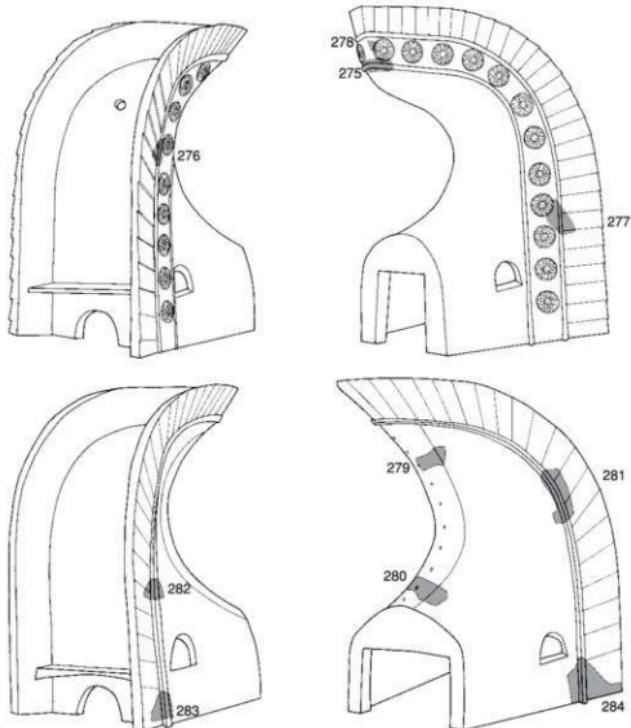
付線の一部が残っている。裏面には腹部の一部が残る。278は蓮華文の破片で周縁が面道鋸歯文であることが明瞭に分る。蓮華文の推定直径9cmである。外縁の外側には277と同一の範傷が存在する。

以上、蓮華文帶鶴尾のI型である。

B類 (279~284)

同様の胎土・調整のものが5点出土している。胴部の脊稜部の破片(279・280)、縦帯を挟んだ胴部と鰐部の破片(281・282)、基底部の破片(283・284)に分類出来る。胴部の脊稜部の破片は脊稜に直径5mmの孔を穿っている。脊稜脇6.7cmには平行する幅5mmの沈線を描いている。脊稜の角度から279は頂部に近い部分の破片で、280は頭部に近い破片であると考えた。

縦帯を挟んだ胴部と鰐部の破片は281が右側面の破片、282が左側面の破片である。281は幅1.2cm、高さ1.4cmの長方形の縦帯を貼り付け、強いナデを行っている。鰐部には斜め上方へ向かう幅5mmの沈線で鰐の表現し、沈線間隔は9cmである。鰐部の裏側には腹部が接合する。282は斜め上方へ向かう鰐部の沈線が1本残る。基底部の破片は鰐端部が存在する284があり、鰐部の幅は7cmである。縦帯は断面形が長方形で、幅1.2cm、高さ1.4cmである。底面は調整していない。



第6図 鶴尾復原および出土部位

G 塙ほか (286～290) (図版 59・写真図版 75・76)

塙は3点(286～288)出土しているが、全容が分るものは無い。上面と側面はナデを行い仕上げており、下面是布目痕が残る。厚さは286が4.5cm、287が3.8cm、288が4.2cmを測る。

289・290は用途不明の瓦製品である。289は丁寧なナデと荒いナデの違いにより、明瞭に表裏が判別出来る不定型な破片である。側面はヘラによる切り取りの痕跡が残る。表面には簾による蓮華文の一部を描いている。290は凸面に平行沈線を描く平瓦の破片である。凹面は磨滅のため不明な点が多い。平瓦J3類の可能性もある。

H 近世瓦 (291～297) (図版 60・写真図版 77)

近世瓦は軒丸瓦、丸瓦、平瓦が僅かに存在する。このうち軒丸瓦すべてと丸瓦1点を報告する。

291～296は軒丸瓦で、291～294は巴瓦である。291は左巻三巴文で珠文は5個残る。これのみ、灰黄色を呈し、292～297は灰色から黒色を呈する樋瓦である。

292は周縁と珠文2箇しか残っていない。293は周縁と珠文1箇しか残っていない。凹面は荒い布目痕が残り、凸面は良く磨いている。294は左巻三巴文で珠文は7個残り、推定で15に復原出来る。

295は一部分しか残っていないが、姫路藩主酒井家の家紋である剣酢賜文である。

296は周縁のみしか残っていない。丸瓦297は玉縁である。凸面は良く磨いている。

2. 土器類 (298～416)**弥生土器 (298・299)**

弥生土器には壺がある。298は口縁端面を下方に拡張し直径9mmの竹管文を刺突する。299は底部を厚く作り、体部は薄く横に張り出す。

土師器 (300～302)

土師器には壺・把手・高壺がある。壺300は楕円形の底部で、ケズリ後ミガキを行っている。把手301は偏平な舌状で、上方を向いている。高壺302は脚部の破片で縦方向のケズリで面と稜を作っている。

須恵器 (303～326)

須恵器には壺・高壺・楕・壺B蓋・壺B・楕・甕・二面鏡がある。壺H蓋303・304は小振りで口縁部から天井部にかけて稜を作らずに丸く仕上げる。壺H305・306は小振りである。306は口縁部を欠くが、305は短く立ち上がるかえりを持つ。壺I307～310は底部の破片で、いずれも右回転ロクロでヘラ切り後ナデを行っている。高壺311～314は壺部と脚部の接合部分の破片である。311～313は低脚で、314は長脚である。いずれも透かしは持たない。高壺315・316は脚部の破片である。壺B蓋317は偏平で小振りのつまみを付ける。壺B318は底部の破片で低く内傾する高台を付ける。楕B319は底部の破片で低く外傾する高台を付ける。高壺320は壺部の破片で、屈折する稜を持つ口縁である。甕321は短く外反する口縁部を持つ。甕322は外反する口頭部の破片で、口縁端部は拡張する。甕323～325は直線的に外傾する口頭部外面に櫛描波状文を施す。口縁端部は上方に面を作る。

二面鏡326は中央突帯部分の破片で、鏡面の端部は残存していない。表面を丁寧に磨いているが、底面は荒いナデで仕上げている。墨擦の磨滅は著しいが墨痕は残っていない。

土師器 (327～329)

土師器には楕と壺がある。楕327は底部の破片であり、平高台で糸切りある。壺328・329は底部の破片で、背が高い平高台である。底部は糸切り痕が残る。

須恵器（330～346）

須恵器には東播系須恵器（330～339・342・343）とそれ以外のもの（340・341・344～346）がある。

東播系須恵器には梶・鉢・壺・壺があり、東播系須恵器以外のものには壊・壺がある。

東播系須恵器梶 330～333 は、口縁部（332）と底部（330・331・333）とがある。332 は口縁部が直線的に外傾し、口縁端部は丸く作る。330・331 は底部が平高台で糸切り痕を残す。見込みは僅かに段が残る。333 は底部に糸切り痕を残すが、丸底気味である。

東播系須恵器鉢 334～337 は小形の 334・335 と中形の 336 と大形の 337 がある。334・336・337 は口縁端部を上方に拡張する。335 は口縁端部を上下に拡張する。東播系須恵器壺 338・339 は小形品の口頭部の破片で、短く外反している。口縁部は上端が尖っており面を作る。外面は平行叩きを行った後、ヨコナデを行っている。東播系須恵器壺 342・343 は底部の破片で突出した平底で糸切り痕を残す。

壊 344 は器高が低く体部を丸く作り、ロクロ痕が明瞭に残る。底部の調整はナデのため不明である。堺 340 は大形品の口頭部から肩部の破片である。頭部は大きく外反し、口縁端部は上下に拡張し面を作る。外面は縱方向のハケ調整を行った後、口頭部はヨコナデを行っている。口縁部内面は横方向のハケ調整を行っているが、剥離が著しい。壺 341 は底部から体部下半の破片で底部はナデ調整を行っている。体部下半は回転ケズリを行っている。壺 345・346 は胎土と調整痕から同一個体の可能性がある。底部 345 は平底で内外ともナデ調整を行っている。体部は 346 と同様に外面は格子叩き、内面は同心円当て具の痕跡が残る。亀山焼の可能性がある。

無釉陶器（347～369・397～408）

無釉陶器には常滑焼（347）、備前焼（348～362・364～366・397～400）、丹波焼（401・402）、明石・堺産（403・404）、その他（405～408）がある。

常滑焼 347 は口頭部の破片で、口縁断面を N 字形に折り曲げており口縁端部を欠くが縁部は幅広い。

備前焼（348～362・364～366・397～400）には擂鉢・壺・堺がある。擂鉢（348～360・397～400）はいずれも口縁部の破片である。口縁端部が丸みを持つ（348）と、口縁端部を強いナデを行って面を作る（349）と、口縁部を上下に拡張し、内傾する幅広の端面を作る（353～359）と、直立し幅広の口縁端面を作る（360・397）と、直立し幅広の浅い凹線を持つ口縁部の（398・399）と、底部（400）とがある。350・354・399 には片口が残る。356・358・360 には重ね焼きの融着痕跡がある。壺 361・362 は小形壺の口縁部で、361 は丸みを帯びた玉縁で、362 は扁平な玉縁である。堺は口縁部（364～366）と底部（368・369）がある。364・365 は丸みを帯びた玉縁で、366 は扁平な玉縁である。368 は小形壺の底部で、底部は調整をしていない。369 は大形壺の底部の破片で、体部は縱方向のナデ調整を行っている。367 は瓶類の底部で底部周縁に細く低い高台を作り出している。内面は降灰が無く、ロクロ痕跡が明瞭である。

丹波焼堺 401・402 は口縁の破片で、401 は口縁断面が T 字形を呈し、濃緑色の釉がかかっている。402 は口縁断面が I 字形で、上面に凹線を 4 条巡らしている。

明石・堺産の擂鉢 403・404 は直立する口縁部外面に 2 条の凹線を巡らせ、内傾する口縁端部に 1 条の凹線を巡らしている。口縁部は擂目の施文後、ヨコナデを行っている。

小壺 405 は球形の体部から底部にかけての破片で、底部は糸切り痕跡が残る。壺 406 は肩部に 3 本の突帯を巡らしている。壺 407 は大壺の体部で外面はハケ調整を行っている。壺 408 は小形の壺の底部で、内面に降灰の痕跡があり、底部は離砂の痕跡が残る。

青磁（370～374）

青磁碗 370～374 は龍泉窯系青磁の底部である。370 は高台内部にも釉がかかる。蓮弁のヘラ描きは高台まで伸びる。371 は底部のみの破片である。372 は蓮弁のヘラ描きが僅かに残る。373 は灰オーラブ色の釉がかかり、浅い蓮弁の溝が残る。374 は見込みに草花文を印刻する。高台内部は荒く仕上げている。

土師器（375～377・394）

土師器は鍋がある。375 は変形の鍋で、体部外面は横位の平行叩きである。376 は羽釜形の鍋で内傾する口縁下を強くナデ、鈎を付ける。377 は口縁部が内傾する鍋で体部に格子叩きを行う。

瓦質土器（378～396）

瓦質土器は鍋・火鉢・火舎がある。378 は瓦質の鍋で、受け口状の口縁タイプである。379～393 は瓦質の三足鍋である。379～385 は小片のため脚接合部分を欠く。379 は口縁部が外傾し、幅の狭い鈎を貼り付ける。380～382 は小形で、口縁部が直線的に内傾する。383～385 は大形で、口縁部が内弯する。383・385 は鈎の幅が狭く、384 は鈎の幅が広い。386・387 は三足を付ける。386 は口縁部を欠き、387 は口縁部が直立する。388～393 は瓦質の三足鍋類の体部から脚の破片である。ヘラ状工具で面取している。395 は瓦質の火鉢で、体部は球形であり、ミガキ調整している。396 は瓦質の火舎で、口縁直下に 2 条の突帯を貼り付け、間に珠文を貼り付けている。内面に約 8 cm × 約 1 cm の張出を付け、体部外面に抜ける 2 個の穿孔が存在する。394 は火鉢で口縁直下に沈線を巡らす。

陶磁器（409～416）

磁器（409～412）と陶器（413～416）とがある。409 は肥前の染付磁器の碗で、疊付けに砂が付着している。外面は呉須で草花文を描いている。410 は染付磁器鉢で青磁を施釉後、印刻を行い赤絵と金泥で草花文を描く。411 は染付磁器碗で見込を荒い蛇目釉ハギしており、砂が付着している。412 は東山焼の染付磁器小碗である。外面は呉須で唐草文を描き、高台は誤須で塗りつぶしている。高台内に「東山」の銘がある。

椀 413 は底部の破片で、高台は削り出している。内面に鉄軸がかかる。灯明皿 414 の底面は透明釉がかかり、外面の無釉部分の一部に煤が付着している。備前焼の灯明皿 415 はかえりがあり、底面は回転ケズリを行っている。鉢 416 は口縁部が内弯しており、透明釉がかかり、貫入が入っている。

3. 石製品（S1～S4）

石製品は砥石が 4 点出土している。S1 は砂岩製で両端が欠損している。偏平な長方形の断面に 4 面の砥面を作る。S2 は泥岩製で折れと剥離で、表面と 2 側面の 3 面に砥面を残している。裏面は剥離、小口は盤の加工痕跡が残る。S3 は片端を欠損しており、長方形の断面に 4 面の砥面を作る。砥ぎ減りが著しい。S4 は片端を欠損しており、平行四辺形の断面に 4 面の砥面を作る。砥ぎ減りが著しく、1 面には溝状の砥ぎ痕が残る。

(2) SK01 (417～423)

陶器壺・鉢、瓦がある。丹波焼壺底部 417 は体部外面に釉の垂れ痕が残る。底部には焼成後の穿孔が存在している。匣鉢 418 は円筒形をなし、口縁端部の対する面上に 2 箇所の抉りがある。砂粒の目立つ胎土で作っている。軒平瓦（419）の文様は大小の三重円の青海波文を交互に繰り返している。軒平瓦（420）の文様は唐草文であり、外縁左幅は 4.8 cm と幅広になっている。軒平瓦（421）は瓦周縁のみで文様部分を欠いている。丸瓦（422・423）は玉縁部分の破片である。

第4章 自然科学的調査の成果

第1節 今宿遺跡出土瓦の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

矢作健二・石岡智武

はじめに

姫路市に所在する今宿遺跡は、播磨平野北部縁辺に分布する独立した小丘陵南側の山裾に位置する。発掘調査によって、白鳳時代とされる瓦片が大量に出土している。調査区内では厚さ0.6mの瓦の層が確認され、その状況などから、周辺の山裾一帯には多量の瓦が廃棄されていることが推定されている。調査地周辺では瓦窯跡は確認されておらず、出土遺物からも窯跡を想定させるような遺物が認められなかったことから、出土した瓦は、調査地に近接して存在した白鳳時代創建の寺院の廃絶による廃棄物と考えられている。

本報告では、今宿遺跡より出土した瓦について、その材質（胎土）の特性を明らかにすることにより、ほとんど資料のない廃絶されたとされる寺院に関する基礎資料を提供する。

1. 試料

試料は、出土した瓦片20点である。そのうち、平瓦が17点、丸瓦は3点である。試料には、資料No.1～20が付されている。試料の一覧を第1表に示す。

2. 分析方法

当社では、これまでに兵庫県内各地の遺跡より出土した土器の胎土分析には、松田ほか(1999)の方法を用いてきた。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細繊までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いも見出すことができるため、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、單に岩片や鉱物片の種類のみを捉えただけでは試料間の胎土の区別ができないことが予想される、同一の地質分布範囲内で作られた土器の胎土分析には、松田ほか(1999)の方法は適当である。このことは、今回の試料である瓦についても適用できると考える。以下に試料の処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

第1表 胎土分析試料一覧

順番	種別	器種	分類	凸面	時期
1	瓦	半瓦	J1類	平行条線	古代
2	瓦	平瓦	K9類	格子叩き目	古代
3	瓦	平瓦	K16類	格子叩き目	古代
4	瓦	半瓦	K15類	格子叩き目	古代
5	瓦	平瓦	K19類	格子叩き口	古代
6	瓦	平瓦	N5類	繩叩き目	古代
7	瓦	半瓦	N2類	繩叩き目	古代
8	瓦	平瓦	K18類	格子叩き目	古代
9	瓦	平瓦	K21類	格子叩き目	古代
10	瓦	半瓦	L2類	平行叩き目	古代
11	瓦	平瓦	K2類	格子叩き目	古代
12	瓦	平瓦	K16類	格子叩き目	古代
13	瓦	半瓦	K13類	格子叩き目	古代
14	瓦	平瓦	N4類	繩叩き目	古代
15	瓦	半瓦	W3類	無文叩き	古代
16	瓦	半瓦	W3類	無文叩き	古代
17	瓦	平瓦	W3類	無文叩き	古代
18	瓦	丸瓦	S3類	繩叩き目	古代
19	瓦	丸瓦	S6類	ナデ	古代
20	瓦	丸瓦	S1類		古代

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5 mm間隔で移動させ、細繩～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレバラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

3. 結 果

観察結果を第2表、第7～9図に示す。検出された鉱物片および岩石片の種類をみると、全点ともにはほぼ同様の状況を呈する。すなわち、鉱物片では、石英、斜長石、カリ長石および角閃石が認められ、岩石片では凝灰岩、流紋岩・デイサイト、珪化岩および火山ガラスが含まれる。また、チャートや頁岩、砂岩などの堆積岩類も半数を超える13点の試料に認められる。他に微化石である植物珪酸体もほとんどの試料に認められる。これら各鉱物片・岩石片の量比までみると、いずれの試料も石英と斜長石の鉱物片および火山ガラスの多い傾向は共通するが、ばらつきがあり、まとまった組成は見出せない。

基質に対する砂粒の量比は、10～30%の範囲にあり、これについても、特に集中する量比は認められない。砂粒の粒径組成については、粗粒シルトにモードのある試料が7点、極細粒砂にモードのある試料が5点、細粒砂にモードのある試料が5点、中粒砂にモードのある試料が3点となっている。ヒストグラムの形は、それぞれモードの粒径をピークとする単独峰形であるが、ピークの明瞭な試料とピークが不明瞭でありながらかな圓状の形を呈する試料とが、ほぼ半数ずつ認められる。

4. 考 察

(1) 胎土の地質学的背景

胎土中に含まれる鉱物片と岩石片の組成は、土器の材料となった粘土や砂が採取された場所の地質学的背景を示唆している。今回の試料20点は、ほぼ同様の鉱物片・岩石片の種類が検出されたことから、少なくとも同一の地質学的背景を有する地域内で生産された瓦である可能性が高い。その鉱物片・岩石片の種類構成から想定される地質学的背景は、凝灰岩と流紋岩・デイサイトの岩石片を主体とすることから、流紋岩あるいはデイサイト質の火碎岩や凝灰岩が広く分布し、チャートや砂岩などからなる堆積岩類の分布が、広くはないが、接しており、さらに、花崗岩類の局地的な分布も推定される。また、鉱物片では、角閃石が主要な鉱物の1つとなっていることから、上述の流紋岩・デイサイト質の火碎岩および凝灰岩は、角閃石を主要な斑晶として含む岩質であることも考えられる。なお、岩石片の中では、珪化岩も全試料に認められるが、これは顕微鏡下で認められた岩石組織上の特徴から、流紋岩またはデイサイトが珪化作用を受けて変質したものと考えられ、上述の流紋岩・デイサイトの地質に由来すると考えられる。今回の試料において、流紋岩・デイサイトと並んで主要な岩石片である火山ガラスは、顕微鏡下の観察により、平板状のいわゆるバブルウォール型と呼ばれる形態のものが多く、スポンジ状に発泡した軽石型の形態も混在する。これらは、おそらく、第四紀の段丘構成層などに狭在する未固結のテフラ層に由来するものであろう。今回の瓦試料から、以上のような複数の地質が推定される。このことから、瓦の材料となった土（おそらく粘土・シルト・砂の混合物）は、複数の地質分布域を流れてきた河川流域の堆積物に由来する可能性があると考えられる。

ここで、今宿遺跡の位置する播磨平野北部の地質学的背景を概観してみたい。周辺の地質については、山元ほか（2000）に詳細な記載があることから、以下の記述は、これに従うものである。播磨平野には、西から掛保川、林田川、音生川、夢前川、市川などの河川が南へ流下しており、これらの河川によりもたらされた碎屑物が播磨平野を構成していると考えられる。これらの河川が流れている平野北側の山地

は、後期白亜紀の火山岩から構成されている。火山岩は、当時の複数のカルデラ火山群から噴出した火砕流堆積物であるとされており、その岩質は、黒雲母流紋岩を主体とするが、上位の火砕流堆積物では角閃石デイサイトとされている。また、これらに付随して多くの貫入岩が分布しており、その岩質は花崗閃緑岩や花崗斑岩、安山岩など多様である。さらに、後期白亜紀火山岩の周囲には、超丹波帯と呼ばれるベルム紀の堆積岩からなる地質や丹波帯と呼ばれる三疊紀～ジュラ紀の堆積岩からなる地質が分布している。ここまで記載により、前述した瓦の胎土から推定される地質のはば全てが描かれていることがわかる。

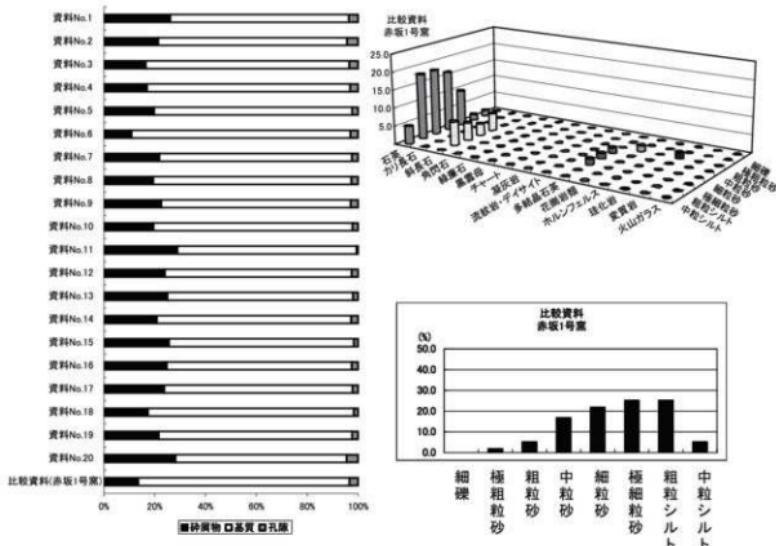
ただし、前述した胎土中の主要な岩石片のうち、火山ガラスについては、山元ほか(2000)による記載に見出することはできない。同文献では、高位、中位、低位に分けられた段丘堆積物の記載もあるが、いずれも躍層であり、シルト層などの狭在はない。また、段丘上に土壤が発達しているのは中位段丘以上とされているが、中位段丘や高位段丘は、至近では今宿遺跡から北東方の香寺町香呂付近やその上流の市川町付近に非常に限定的に分布するにすぎない。現時点では、文献記載のみによる調査であるため、播磨平野北部にテフラ層の狭在するような段丘堆積物や土壤が存在しないとは言い切れないが、火山ガラスの多量の含有ということのみにおいて、今宿遺跡出土瓦の胎土は、播磨平野北部の地質学的背景とやや異質であるといえる。今後、瓦の材料の採取地を追求する場合には、火山ガラスの由来が課題になると考えられる。

なお、当社による土器の胎土分析例では、播磨平野東部の加古川下流域左岸に位置する溝之口遺跡から出土した土器において、今回の瓦胎土と類似した鉱物片・岩石片種類構成が得られている(矢作・石岡,2006)。この地域では、その地質学的背景の中に、更新世の海成層である大阪層群を基盤とする台地や丘陵が広がっている(太田ほか編,2004)。もちろん、ここで、今宿遺跡出土の瓦の産地を加古川流域に求めるものではないが、播磨平野北部から至近にある、瓦胎土から推定される地質学的背景と一致する地域として、留意する必要はあると考える。

(2) 胎土の多様性について

今回の瓦試料では、胎土中に含まれる鉱物片・岩石片の種類はほぼ一様であったが、個々の碎屑物の量比までみると一様ではなく、また、いくつかのグループに分けられるという傾向も見出せない。砂全体の粒径組成をみても、結果で述べたように、モードとなる粒径やダイアグラムの形にはらつきが認められ、グループ分けするほどの試料間の類似性は認められない。このことは、多数の窯から集められた状況を示唆している可能性もある。しかし、一般的に、瓦を構成している「土」は、土器に比べればその原料となる粘土や砂の条件の幅が広いことを考慮すれば、あるいは、1つの窯においてもこの程度のばらつきがあるのかもしれない。また、両者の複合によって、ばらつきが一層顕著になっていることも考えられる。いずれにしても、現時点では、膨大な出土量における20点のみの分析であり、前述した材料の採取地域の問題も含めて、周辺地域における類例の分析事例を蓄積することが必要と考えられる。

なお、今回の比較資料として、今宿遺跡の北西方約6kmに位置する赤坂窯跡より出土した須恵器について同様の分析を行った(第2表・第7図)。須恵器という土器の特性から、含有される砂粒自体が少なく、また、高温焼成のためにカリ長石などはガラス化してしまうこともあります。認められた鉱物片は石英と斜長石のみであり、岩石片は花崗岩と珪化岩およびこれらに由来すると考えられる多結晶石英が微量認められるのみであった。この試料からは今宿遺跡出土瓦との関連性は見出せないが、今後、瓦の試料における分析例が得られれば、今宿遺跡出土瓦の産地について検討を進められることが期待される。



第7図 孔隙・砂粒・基質の割合および比較資料（赤坂1号窯）の分析結果

第2表 薄片観察結果(1)

資料 No	砂粒区分	砂粒の種類構成																		合 計					
		氯物片									岩石片														
		その他	石英	カリ長石	斜長石	角閃石	酸化鉄内石	アクリノ	透鏡石	白雲母	黑雲母	不透明試物	チャート	頁岩	砂岩	凝灰岩	安山岩	花崗岩	片状花崗岩	石英斑岩	千枚岩	ホルンフェルス	粘板岩	珪化岩	変質岩
比 較 資 料	細 粒																					0			
	極粗粒砂	1																				1			
	粗粒砂	1																				3			
	中粒砂	6	3																			10			
	細粒砂	10	2																			13			
	極細粒砂	11	3																			15			
	粗粒シルト	11	4																			15			
	中粒シルト	3																				3			
	基質																					368			

引用文献

- 松田順一郎・三輪若葉・別所秀高,1999,瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的による－,日本文化財科学会第16回大会発表要旨集,120-121.
 太田陽子・成瀬敏郎・田中真吾・岡田篤正編,2004,日本の地形 近畿・中国・四国、東京大学出版会,383p.
 矢作健二・石岡智武,2006,溝之口遺跡出土土器の胎土分析,兵庫県文化財調査報告第309番 溝之口遺跡 東播
 都市計画都市高速鉄道JR山陽本線等連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II,兵庫県教育委員会,43-53.
 山元孝広・栗本史雄・吉岡敏和,2000,龍野地域の地質・地域地質研究報告(5万分の1図幅),地質調査所,66p.

第2表 薄片観察結果(2)

資料 No.	砂 粒 分 類	砂 粒 の 種 類 構 成												合 計						
		試 物 片						岩 石 片						其 他						
		石英	カリ長石	斜方輝石	角閃石	酸化鉄鉱石	綠泥石	白雲母	黒雲母	不透明鉱物	チャート	霞晶	碧玉	流紋岩	多結晶基岩	花崗岩類	破砕状花崗岩	火山ガラス	珪藻	植物片
1	砂	細 繼												1						1
		極粗粒砂	1										1	1	2			3		8
		粗粒砂	1	1							1	2	1	3	12		8			29
		中粒砂	9	1							2			2	11		3	1		29
		細粒砂	15	4	6						2				10				1	38
		極細粒砂	24	5	16						1				7					53
		粗粒シルト	19	1	9															29
		中粒シルト	9		4															13
		基 質																		538
		孔 隆																		28
2	砂	細 繼												3						0
		極粗粒砂																		3
		粗粒砂	1	2	1									1	3	2	2	3		8
		中粒砂	6		9	2					1			3	2		2	3		28
		細粒砂	5	3	9	2					1			2	2	1			11	36
		極細粒砂	10	6	13	4					2			1	1	2			8	47
		粗粒シルト	13	4	19	1	1											2	8	48
		中粒シルト	11	2	12	1												4	30	694
		基 質																		41
		孔 隆																		41
3	砂	細 繼												1						1
		極粗粒砂	1		1									1						4
		粗粒砂	1	2							3	3	2	2		1		1		15
		中粒砂	3	2							1	1	1	7	3			4		22
		細粒砂	7	3	5	3					2	1	2	4	2		1	14		44
		極細粒砂	6	3	19	4					1	2		1	4				13	53
		粗粒シルト	6	4	20	2					3							2	8	45
		中粒シルト	3	3	8													2	16	
		基 質																		973
		孔 隆																		42
4	砂	細 繼																		0
		極粗粒砂	2																	3
		粗粒砂	3											1	5		1	1		11
		中粒砂	4	4	10	2					1	6	7	3	1	1	1	1		40
		細粒砂	7	3	14	8					3	2	2		1	5			45	
		極細粒砂	12	3	5	4								1			2		27	
		粗粒シルト	10	6	20	2					3							2	8	44
		中粒シルト	7	5	16													2	30	
		基 質																		940
		孔 隆																		37
5	砂	細 繼												2						2
		極粗粒砂	1											2						3
		粗粒砂	1											5	1		1			8
		中粒砂	3	5	1						6	4	1	1		1	1			21
		細粒砂	5	4	7	2					1	3					2		24	
		極細粒砂	10	7	15	1	1					4				4		42		
		粗粒シルト	24	9	23												4	60		
		中粒シルト	22	4	12												2	40		
		基 質																	788	
		孔 隆																	24	

第2表 薄片観察結果(3)

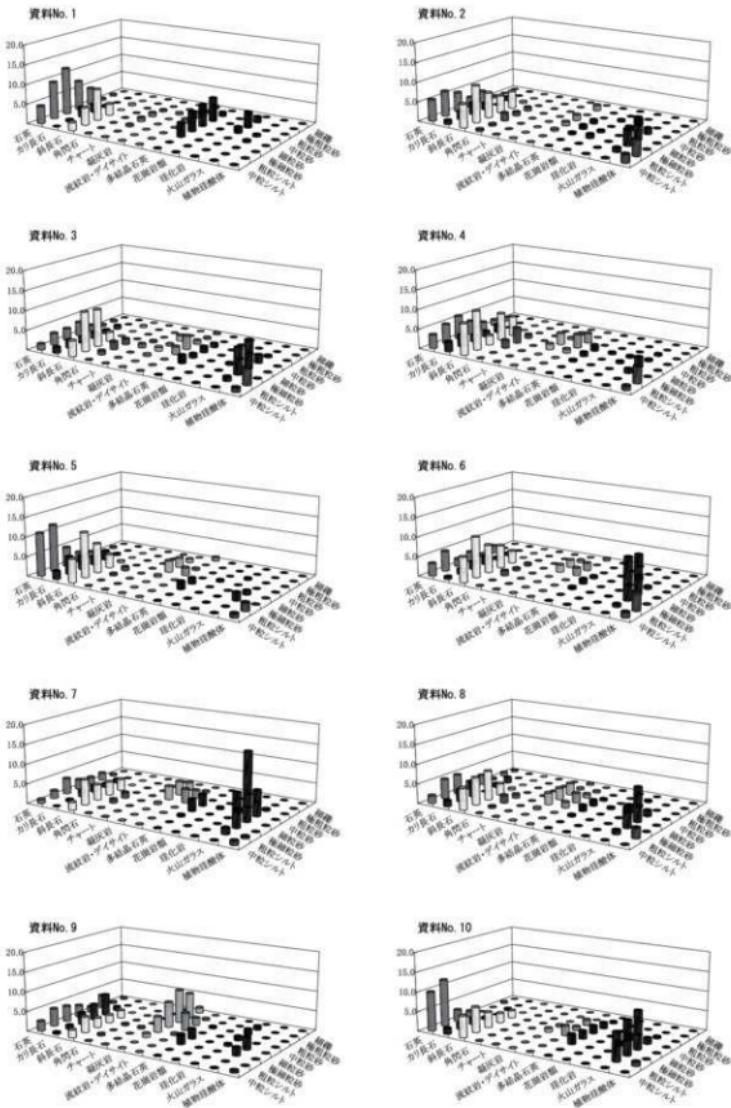
資料 No	砂 類 区 分	砂 粒 の 種 類 構 成												合 計							
		試 物 片						岩 石 片													
		石英	カリ長石	斜方輝石	角閃石	酸化鉄鉱石	綠泥石	白雲母	黒雲母	不透明鉱物	チャート	霞晶	矽岩	凝灰岩	流紋岩	多結晶基岩	花崗岩類	珪化岩	火山ガラス	珪藻	植物珪酸体
6	細 繼														1						1
	極粗粒砂														1						1
	粗粒砂	3	1											3	3		2				12
	中粒砂	1	1	5		1							3	3	1			1			16
	細粒砂	4	3	9	1	1		1							2						36
	極細粒砂	3	3	11	2										1						36
	粗粒シルト	8	2	16														1	7	34	
	中粒シルト	5	1	10														2	18		
	基 質																			1212	
	孔 隆																			43	
7	細 繼																				0
	極粗粒砂	1													4	1					6
	粗粒砂	4	2											7	4						18
	中粒砂	4	2	6									7	7	6	1	2	13		48	
	細粒砂	5	3	7	3								1	6						34	
	極細粒砂	8	3	8	2										1					39	
	粗粒シルト	4	1	13													3	1	22		
	中粒シルト	2		4													2	8			
	基 質																			694	
	孔 隆																			22	
8	細 繼	1												1							2
	極粗粒砂	2												1	1						3
	粗粒砂	1	3										6	2	1			1			14
	中粒砂	5	2	1									6	5	3	1	4	3		30	
	細粒砂	4		6	2								1	6	3	3				42	
	極細粒砂	10	8	15	4								1	1	1					50	
	粗粒シルト	10	6	14	1								1				2	5	39		
	中粒シルト	4	3	11																18	
	基 質																			801	
	孔 隆																			27	
9	細 繼	1												3							4
	極粗粒砂	1												13	1						17
	粗粒砂	7	2											17	4	1					34
	中粒砂	5	11	4										13	9						42
	細粒砂	6	8	4	1								1	8	1	5		1	6		41
	極細粒砂	8	6	5									1	2	5					31	
	粗粒シルト	9	2	8	1															20	
	中粒シルト	5	1	4														1	11		
	基 質																			638	
	孔 隆																			26	
10	細 繼																				9
	極粗粒砂	1													1						2
	粗粒砂	1												3	3						8
	中粒砂	4												1	2	4		3	3		17
	細粒砂	3	1	5										2	5	4		2	19		41
	極細粒砂	6	3	8											5						39
	粗粒シルト	24	3	13									3					14	2		59
	中粒シルト	20	3	11																	34
	基 質																				804
	孔 隆																				22

第2表 薄片観察結果(4)

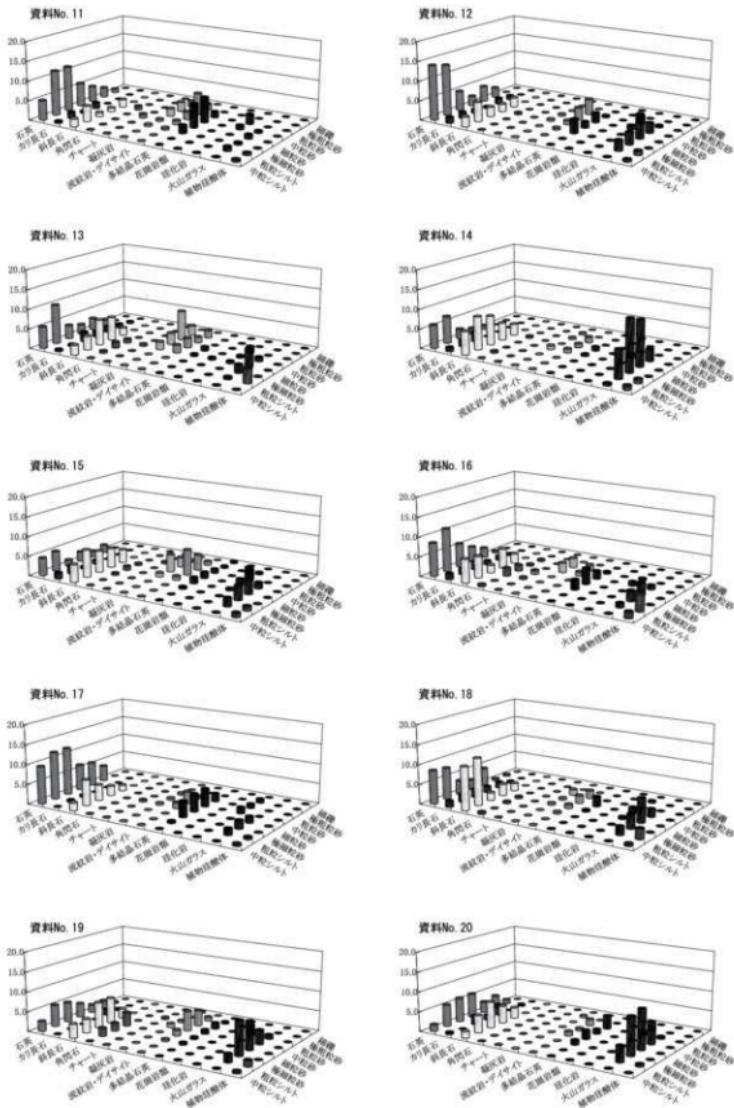
資料 No	砂 粒 分 類	砂 粒 の 種 類 構 成												合 計									
		試 物 片						岩 石 片							其 他								
		石英	カリ長石	斜方輝石	角閃石	酸化鉄閃石	綠泥石	白雲母	黒雲母	不透明鉱物	チャート	霞晶	碧玉	凝灰岩	流紋岩	多結晶基底英	花崗岩類	破砕状花崗岩	珪化岩	植物片	火山ガラス	珪藻	植物珪酸体
11	細 粒														1							1	
	極粗粒砂	2													3	3						8	
	粗粒砂	5													1	5	11	3				30	
	中粒砂	8		4		2									4	4	13		2	1		38	
	細粒砂	12	3	2											2							26	
	極細粒砂	23	1	2											1	2	12					33	
	粗粒シルト	23	3	8											1	1	4				2	1	
	中粒シルト	10	1	4																		16	
	基 質																					487	
	孔 隆																					4	
12	細 粒																					0	
	極粗粒砂																					0	
	粗粒砂	5	2													8	1		4	1		21	
	中粒砂	8	3	5											1	6	5		2	5		35	
	細粒砂	5	1	4	1										1	2	3					29	
	極細粒砂	10	2	3												1	7					31	
	粗粒シルト	26	3	10											1					5	2	47	
	中粒シルト	28	3	3																	1	37	
	基 質																					614	
	孔 隆																					21	
13	細 粒																					0	
	極粗粒砂	1														5	4					10	
	粗粒砂	3	2												1	15	3		3			27	
	中粒砂	6	3	4											6	5	2		1	2		29	
	細粒砂	5	3	12	2							1	1		4	4	1	1	1	9		44	
	極細粒砂	7	5	13	3							1										33	
	粗粒シルト	20	1	7	1	1					2								1	7	40		
	中粒シルト	11	1	5																		17	
	基 質																					583	
	孔 隆																					16	
14	細 粒																					0	
	極粗粒砂																					1	
	粗粒砂															1	3					4	
	中粒砂	2	6	1	1										2	2		2	6			22	
	細粒砂	3	9												2	2	1					40	
	極細粒砂	5	5	15																		26	
	粗粒シルト	14	3	17	1						1								14	2	52		
	中粒シルト	12	2	12							1								1	2	30		
	基 質																					736	
	孔 隆																					26	
15	細 粒																	1				1	
	極粗粒砂															1	2	1				3	
	粗粒砂	4													1	1	1	5	8	2		27	
	中粒砂	3	7	1											1	9	13	3		3	3	43	
	細粒砂	5	2	10	2										2	2	3		1	13		40	
	極細粒砂	3	1	11	1	1					1					1						26	
	粗粒シルト	10	4	14							1								4	2		35	
	中粒シルト	9	3	9							1											2	23
	基 質																					567	
	孔 隆																					13	

第2表 薄片観察結果(5)

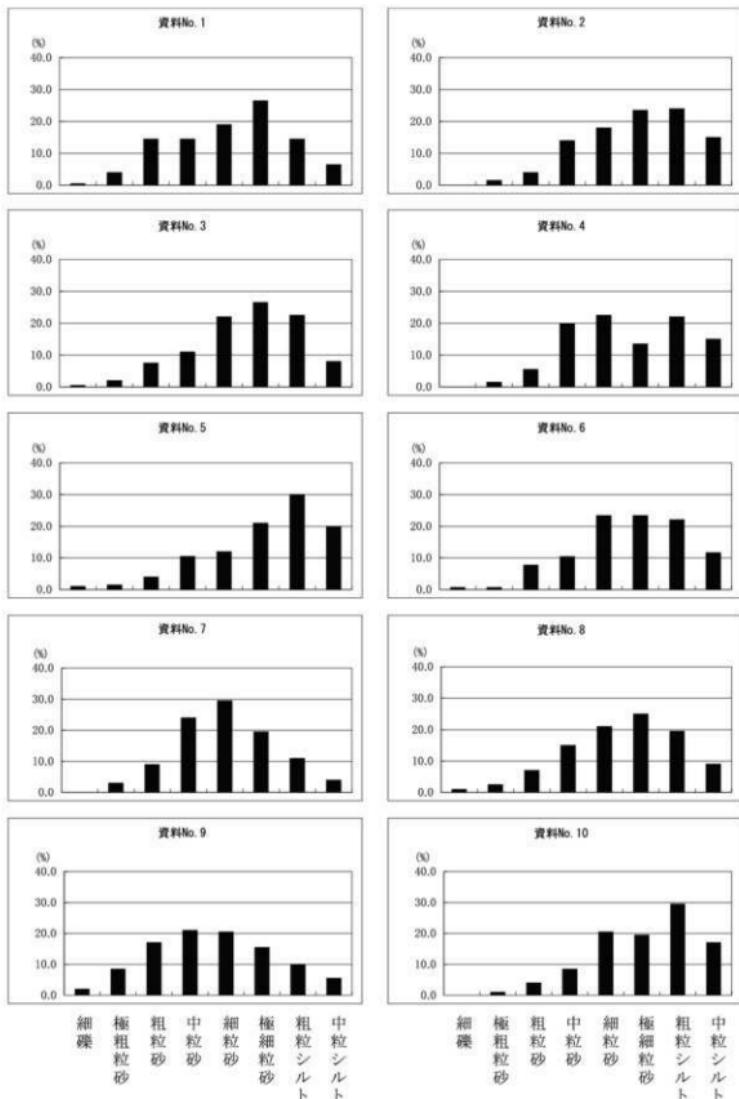
資料 No	分類区分	砂粒の種類構成													合 計					
		試 物 片						岩 石 片					その他の							
		石英	カリ長石	斜方輝石	角閃石	酸化鉄閃石	綠泥石	白雲母	黒雲母	不明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	凝灰岩	流紋岩	多結晶基岩英	花崗岩類	破砕状花崗岩	珪化岩	火山ガラス
16	細 粒																			0
	極粗粒砂																			0
	粗粒砂	1	1			1						5	3	1			1			13
	中粒砂	5	2	5		1						1	5	2	4		2	2		29
	細粒砂	8	2	10		3					2				8				6	39
	極細粒砂	12	4	4		4					1				5				5	35
	粗粒シルト	22	3	11							1							2	9	48
	中粒シルト	17	3	12		1													3	36
	基 質																			588
	孔 隆																			20
17	細 粒																			0
	極粗粒砂																			2
	粗粒砂	8										1	1	4			2			16
	中粒砂	12		3								1	6	9			3			34
	細粒砂	13		5							1	1	3	9			3			35
	極細粒砂	24	1	8										8			4			45
	粗粒シルト	24	1	13							1			1			3	1		44
	中粒シルト	19		4													1			24
	基 質																			625
	孔 隆																			18
18	細 粒																			0
	極粗粒砂	1																		2
	粗粒砂	1										1	3	4			1			10
	中粒砂	9	3	4								1	4	5			3	4		33
	細粒砂	5	3	6		1						1	2	1			1	12		32
	極細粒砂	7	4	4		1					1			1			7			25
	粗粒シルト	16	4	24							1						4	5		54
	中粒シルト	17	3	22		1											1			44
	基 質																			935
	孔 隆																			19
19	細 粒																			1
	極粗粒砂	1																		4
	粗粒砂	4	1								1	1	8	3		5	2			25
	中粒砂	4	3	5								1	2	10	2		7			34
	細粒砂	7	13	7									3	1			14			45
	極細粒砂	10	13	4							1		1	1			17			47
	粗粒シルト	11	7	4							1					4	3		30	
	中粒シルト	5		7												1	1		14	
	基 質																			705
	孔 隆																			22
20	細 粒																			0
	極粗粒砂	2	1								1			1			1			6
	粗粒砂	6											3	6		2	1			18
	中粒砂	5	5	5							1		1	2			10			29
	細粒砂	11	2	8	2								2	4			18			47
	極細粒砂	11	4	12									2				17			46
	粗粒シルト	10		8							1					7	1		27	
	中粒シルト	3	1	3																7
	基 質																			430
	孔 隆																			29



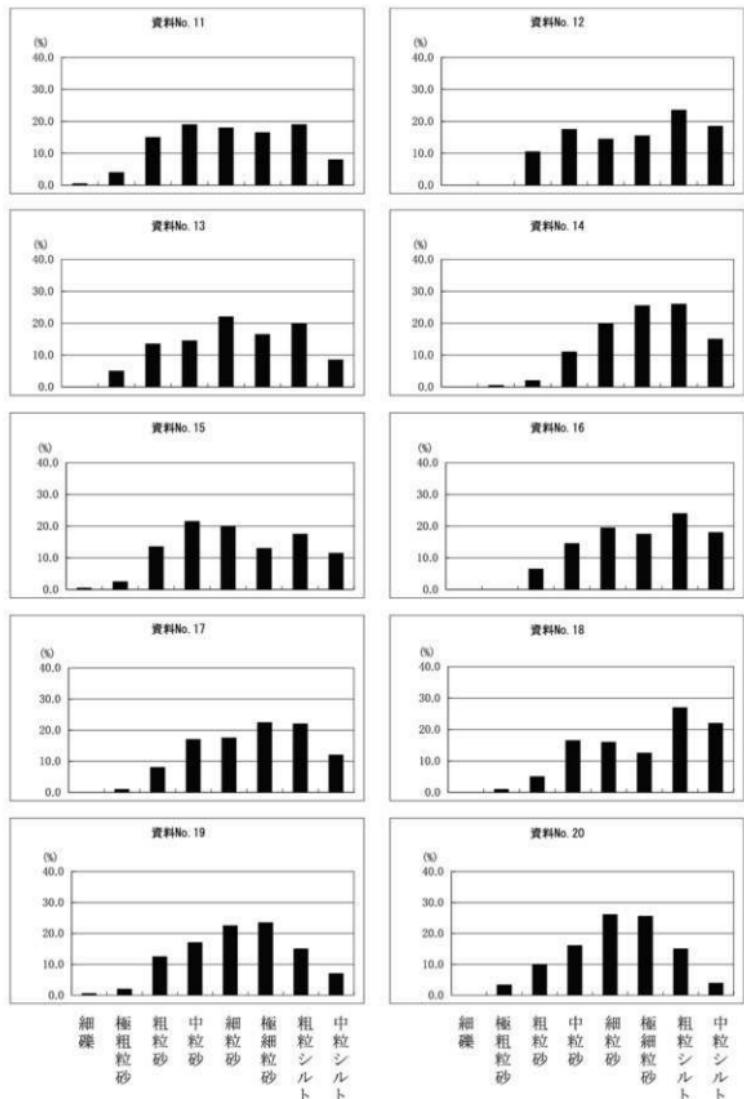
第8図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(1)



第8図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(2)



第9図 胎土中の砂の粒径組成(1)



第9図 胎土中の砂の粒径組成(2)

第2節 今宿遺跡出土瓦の蛍光X線分析

大阪大谷大学

三辻 利一

粘土鉱物は岩石が風化して溶解した溶液中から再結晶して生成したものであるが、粘土中には母岩中に含まれていた造岩鉱物の微粒子も含まれている。雲母、角閃石などの粗い粒子が多数含まれていると、混和剤といわれる場合もある。粘土は岩石に比べて均質化しているが、それでも不均質系であることは代わりはない。したがって、粘土を素材としている土器類も不均質系である。不均質系試料の分析データにはバラツキがあり、そのため、多数の試料の分析データから試料集団の化学特性を把握することになる。溶液のように均質系ではない点に土器類試料の特徴がある。この認識は土器類を分析する分析学者には必要である。

今宿遺跡からは大量の瓦片が出土している。今回はこれらの瓦片中から任意に選択した17点の平瓦と3点の丸瓦の蛍光X線分析の結果について報告する。

瓦片試料は表面を研磨してのち、タンクステンカーバイド製乳鉢の中で100メッシュ以下に粉砕された。粉末試料は塩化ビニル製リングを枠にして、10トンの高圧をかけてプレスし、内径20mm、厚さ5mmの鋸削試料を作成し、蛍光X線分析を行った。

理学電機製 RIX2100（波長分散型）の完全自動式の分析装置を使用した。完全自動式の装置を使用する理由は土器類の产地問題の研究には従来の常識を破る大量の土器試料の分析が必要だからである。本装置には、TAP、Ge、LiFの3枚の分光結晶と、ガスフロー比例計数管、シンチレーションカウンターの2種類の検出器が装填されている。高度の機能をもつ分析装置である。X線管球はRh管球であり、50kV、50mAの条件で使用した。

分析値は同時に測定された岩石標準試料JG-1の各元素の蛍光X線強度を使って標準化した値で表示した。硬質の土器類の素材粘土は花崗岩類に由来する場合が多く、JG-1（群馬県産の花崗岩類）が最適の標準試料となる。JB、JAなどの玄武岩、安山岩系の岩石標準試料は標準試料としては不適当である。

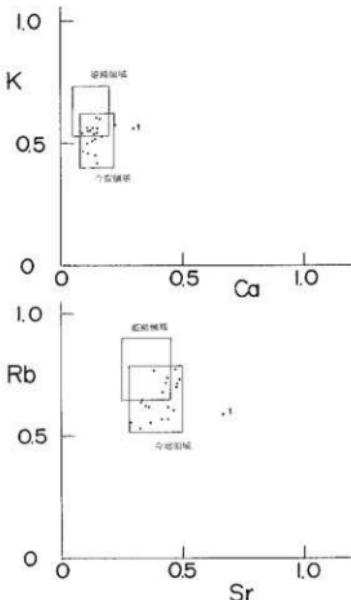
分析値は第3表にまとめている。この結果を理解するには、K-Ca、Rb-Srの両分布図を作成することである。全国各地の窯跡出土須恵器の分析データから、両分布図が有効に地域差を表すことが実証されている。両分布図の縦軸は粘土の母岩中に含まれていたカリ長石、横軸は斜長石に関連があることがわかっている。長石類は造岩鉱物の6割を占める最も重要な鉱物である。これに対して、雲母、角閃石などの有色鉱物は元素分析のFe因子に対応する。土師器などの軟質土器では粘土中に含まれる鉱物形が残されている場合が多いが、1000°Cを越える高温で焼成する硬質土器では鉱物形が破壊されて残っていない場合が多く、顕微鏡による胎土観察は有効ではない。胎土の元素分析に頼らざるをえない。

今回分析した試料の両分布図を第10図に示す。No.1の試料を除いて他の試料はまとめて分布したので、これらを包含するようにして、仮の今宿領域を描いてある。両分布図でまとめて分布するということは、これらの瓦片は同じ窯で焼成された可能性があることを示唆する。No.18・No.19・No.20の3点は丸瓦であり、分析データから平瓦との区別ができないところから、同じ素材粘土で作られた瓦であると推察される。このことはさらに多くの瓦片（平瓦、丸瓦）試料を分析することによって確かめられよう。なお、No.1の平瓦は他の試料集団から離れて分布するところから、別場所で別の素材粘土で

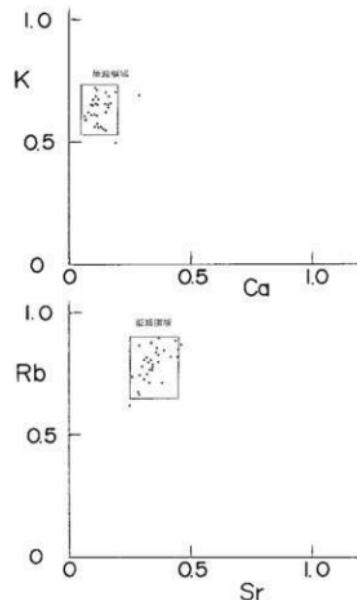
作られた可能性がある。今後、今宿遺跡から出土する瓦片をさらに多く分析すると、No.1と同じ胎土をもつ瓦片が検出される可能性がある。

軒瓦も今宿遺跡から大量に出土しているという。今回の分析試料中には、軒瓦は含まれていないが、今後、軒瓦片も大量に分析することによって、平瓦、丸瓦と同じ素材粘土で作られた瓦であるかどうかがわかるであろう。また、数点ではあるが、軒丸瓦も出土しているという。その胎土も平瓦、丸瓦と同じであるかどうかが注目される。

念のために、第11図には姫路市周辺の窯跡出土須恵器の両分布図を示してある。青山4号窯、青山福荷神社裏窯、桜井1号窯の須恵器片試料を分析した。これらを包含するようにして姫路領域を描いてある。この結果に基づいて、第10図には姫路領域と今宿領域を比較してある。類似はあるが、一致しないことがわかる。ただし、余程の理由がない限り、今宿遺跡の瓦も姫路市周辺で作られたものと推察される。このことを実証しようとすると、今後、姫路市周辺の白鳳時代の瓦片を大量に分析する必要がある。今後の課題である。このように、胎土分析のデータを考古学に有効に役立てようすると、従来の常識を破る大量の土器類試料の分析が必要であり、そのために、有効に活躍する分析装置が完全自動分析装置なのである。



第10図 今宿遺跡出土瓦の両分布図



第11図 姫路窯跡群の両分布図

第3表 今宿遺跡 出土瓦の分析データ

資料No	分析No	種別	器種	分類	凸面	時期	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
No. 1	19-2759	瓦	平瓦	J1類	平行条線	古代	0.552	0.296	1.27	0.594	0.673	0.181
No. 2	19-2760	瓦	平瓦	K9類	格子叩き目	古代	0.540	0.149	1.24	0.605	0.461	0.183
No. 3	19-2761	瓦	平瓦	K16類	格子叩き目	古代	0.554	0.110	1.13	0.652	0.335	0.181
No. 4	19-2762	瓦	平瓦	K15類	格子叩き目	古代	0.450	0.139	1.53	0.573	0.441	0.142
No. 5	19-2763	瓦	平瓦	K19類	格子叩き目	古代	0.465	0.093	1.31	0.640	0.330	0.107
No. 6	19-2764	瓦	平瓦	N5類	純叩き目	古代	0.500	0.108	1.15	0.624	0.358	0.141
No. 7	19-2765	瓦	平瓦	N2類	純叩き目	古代	0.531	0.171	1.29	0.621	0.439	0.251
No. 8	19-2766	瓦	平瓦	K18類	格子叩き目	古代	0.562	0.127	1.19	0.630	0.350	0.219
No. 9	19-2767	瓦	平瓦	K21類	格子叩き目	古代	0.530	0.089	1.24	0.560	0.289	0.184
No. 10	19-2768	瓦	平瓦	L2類	平行叩き目	古代	0.549	0.122	1.11	0.737	0.418	0.223
No. 11	19-2769	瓦	平瓦	K2類	格子叩き目	古代	0.455	0.114	1.54	0.531	0.325	0.080
No. 12	19-2770	瓦	平瓦	K16類	格子叩き目	古代	0.562	0.113	1.20	0.772	0.381	0.158
No. 13	19-2771	瓦	平瓦	K13類	格子叩き目	古代	0.514	0.129	1.30	0.569	0.416	0.171
No. 14	19-2772	瓦	平瓦	N4類	純叩き目	古代	0.599	0.171	1.03	0.736	0.493	0.267
No. 15	19-2773	瓦	平瓦	W3類	無文叩き	古代	0.558	0.149	1.25	0.716	0.479	0.167
No. 16	19-2774	瓦	平瓦	W3類	無文叩き	古代	0.537	0.140	1.30	0.677	0.422	0.156
No. 17	19-2775	瓦	平瓦	W3類	無文叩き	古代	0.414	0.149	1.42	0.564	0.368	0.155
No. 18	19-2776	瓦	丸瓦	S3類	純叩き目	古代	0.523	0.137	1.34	0.733	0.431	0.141
No. 19	19-2777	瓦	丸瓦	S6類	ナデ	古代	0.605	0.149	1.23	0.776	0.466	0.180
No. 20	19-2778	瓦	丸瓦	S1類		古代	0.573	0.226	1.43	0.173	0.484	0.267

第5章 まとめ

第1節 瓦の統計調査 (第12図・第4表)

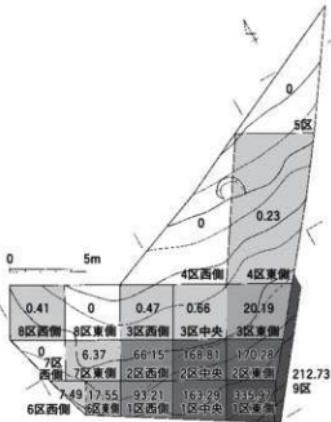
総出土数はコンテナ約1,000箱であり、非常に多量であった。しかも、瓦集積という遺構の性格上、小破片のものが大多数であった。このため遺物整理では瓦の分類基準を設け、重量および点数、調査区を実施した。なお、当初の分類基準から変更が生じたが、随時あって再分類を行った。ただし、一部は時間の制約で再分類ができなかった。

1. 瓦の出土地区

発掘調査の実施にあたり、調査区を設定して遺物を取り上げた。ただし、調査区輪郭の変化点や道路センターを基準としたため、規則正しい調査区ではない。平成14年度は、道路センターの調査区の輪郭の変化点を基準に南北を5分割した。道路センターより東側は1～5区の5地区に、道路センターより西側は6～8区の3地区の合計8地区とし、平成15年度の調査区を9区とした。さらに、1～3区は東側・中央・西側の3地区に細分した。4・6～8区は東側・西側の2地区に細分して遺物を取り上げた。

これを元に瓦を取り上げた結果は、第12図と第4表のとおりである。先に述べたように面積が一定ではないため、1m²あたりの重量密度を計算した。これによると1区東側が335.97kg/m²と最も密度が高く、次に2区東側・2区中央・1区中央が続き、1区西側・9区・2区西側が続き、さらに3区東側・6区東側と続いている。以上、調査区の南東端部分を中心に密度が濃く出土しており、西北に行くにつれて密度が薄くなっていることが数字の上からも確認できた。

調査区の東側については未調査ではあるが、断面に瓦が堆積していることから更に濃密な状態で瓦が堆積していることが推測できる。このことから瓦は南東部分からもたらされた可能性が指摘できる。



第12図 今宿遺跡瓦地区別出土量

No.	地 区	重量(kg)	面積(m ²)	密度(kg/m ²)
1	1区 東側	2993.48	8.91	335.97
2	1区 中央	1436.97	8.89	163.29
3	1区 西側	787.63	8.45	93.21
4	2区 東側	1571.68	9.23	170.28
5	2区 中央	1514.21	8.97	168.81
6	2区 西側	593.38	8.97	66.15
7	3区 東側	294.33	14.58	20.19
8	3区 中央	8.14	12.42	0.66
9	3区 西側	5.81	12.42	0.47
10	4区 東側	10.46	46.08	0.23
11	4区 西側	0	33.43	0
12	5区 東側	0	21.84	0
13	6区 東側	92.86	5.29	17.55
14	6区 西側	19.78	2.64	7.49
15	7区 東側	59.65	9.36	6.37
16	7区 西側	0	6.11	0
17	8区 東側	0	12.96	0
18	8区 西側	5.25	12.96	0.41
19	9区	468.36	2.20	212.73
他				
合計		9862	245.62	38.73

第4表 今宿遺跡瓦地区別出土量・密度

2. 出土遺物の比率（第13図）

丸瓦と平瓦

今宿跡から出土した瓦の総重量は9,677.0 kg、破片の総点数は92,368点である。このうち近世瓦が19.3 kg、266点存在するため、古代瓦の重量は9,657.7 kg、点数は92,102点である。古代瓦のうち、丸瓦と平瓦のどちらか不明なものを除いて、丸瓦は2,407.0 kg、27,142点、平瓦は7,250.7 kg、64,960点であり、丸瓦と平瓦の比率はおよそ重量で1:3、点数で1:2.4になる。丸瓦と平瓦の重量比率を2:3と仮定して比率を求めるとき、比率はおよそ1:2になる。隅数計算法では丸瓦622点、平瓦1,109点に復原でき、比率はおよそ1:1.8になる。これらの場合では面戸瓦や壁斗瓦などの道具瓦などが混入している可能性があり、若干構成比が変わることが残るが、重量と隅数計算法の二方法で丸瓦と平瓦の比率はおよそ1:1.8から1:2.4となり、平瓦が丸瓦のおよそ2倍であることが分かった。

丸瓦

丸瓦は行基式と玉縁式が存在している。行基式と玉縁式の比率は破片が小さいことから正確な比率は出せなかつたが、残存している個体数から判断すると圧倒的に行基式丸瓦のほうが多い。

平瓦

平瓦は第3章で行った分類別に重量・点数・隅数を第5表にまとめた。詳細の数値と比率を一覧にしたが、統計方法が異なってもそれほど大きな違いは現れなかつた。すなわち平行条線・平行叩き目は重量比25%、点数比20%、隅点数比24%であり、格子叩き目は重量比37.7%、点数比33.4%、隅点数比38.7%であり、繩叩き目は重量比23.3%、点数比22.9%、隅点数比19.6%であり、無文叩き目・撫で消しは重量比31.3%、点数比33.7%、隅点数比34.3%である。このため重量を代表して凸面調整と製作技法を元に比率を求め、円グラフを作った。これらから格子叩き目が一番多く、無文叩き目・撫で消し、繩叩き目と続き、平行条線・平行叩き目は非常に少ないことが分かる。

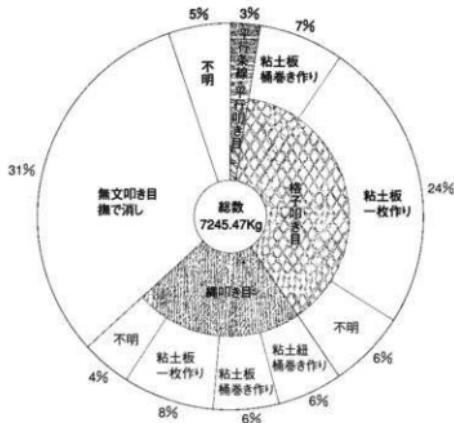
軒瓦の比率

軒瓦と軒瓦以外の比率はどうであらうか。

軒丸瓦破片数：丸瓦破片数は49点:27,142点であり、比率は1:554であり、小犬丸中谷庵寺で統計を取っている1:21.4と大きく比率が異なっており、軒瓦が極端に少ないと分かる。

軒平瓦破片数：平瓦破片数は76点:64,960点であり、比率は1:855であり、小犬丸中谷庵寺で統計を取っている1:37.5と大きく比率が異なっており、軒瓦が極端に少ないと分かる。

このように軒丸瓦・軒平瓦、いずれもが軒以外の瓦に比べて極端



第13図 平瓦製作技法・凸面調整の比率

に少ないことが分かった。これは、今宿遺跡の軒丸瓦・軒平瓦のバリエーションが少なく、短期間に位置付けられるのとは反対に平瓦は製作技法の観察から比較的長期にわたって作られ続けられたためであると考えられる。

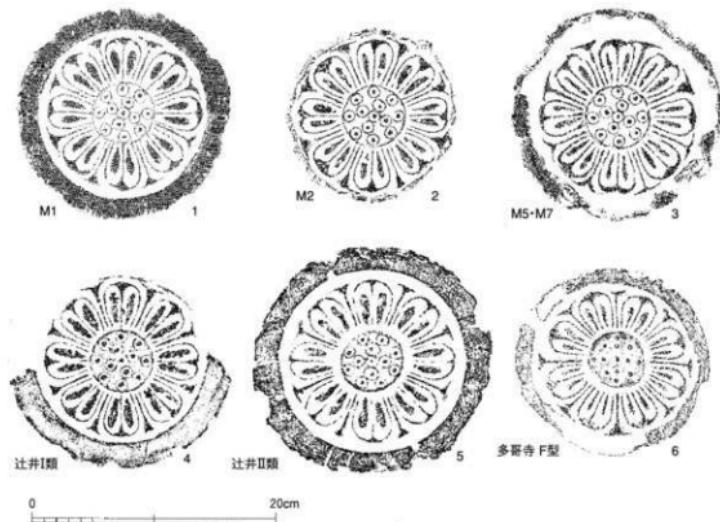
第2節 遺物の検討

1. 軒丸瓦（第14図）

今宿遺跡出土軒丸瓦はすべて、川原寺系の複弁八弁蓮華軒丸瓦である。この瓦は今里幾次により素文様のものをB種として分類し、中房の蓮子周環の有無と蓮子の数によりB①・B②・B③に細分している。今宿遺跡の軒丸瓦は蓮子が1+4+8で、周環が存在することからB①に位置付けられる。さらに、蓮子と花弁との位置関係から、辻井魔寺の軒丸瓦を子葉間に外周蓮子が位置する辻井I類と問弁間に位置する辻井II類に分類しており、辻井I類から辻井II類への時間的変遷を考えている。

この今里の分類に従うと今宿遺跡の軒丸瓦は、すべてB①であるとともに、すべて辻井I類に位置付けられる（註1）。

そこで、今宿遺跡の軒丸瓦の詳細を検討する。第3章で述べたとおり、外縁の形態や子葉の形態から細分が可能である。外縁は斜線と平線があり、子葉は立体的なものと平面的なものとが存在する。これらは相間関係があり、外縁が斜線で子葉は立体的なM1類・M2類と外縁が平線で子葉が平面的なM5類とに大別できる。焼成は前者が硬質で灰色の色調を呈し、後者は焼成がやや軟質で灰白色の色調あるいは焼成が不良で橙色の色調を呈する。



第14図 今宿遺跡軒丸瓦復原と辻井魔寺・多哥寺遺跡出土軒丸瓦

すなわち、今里分類の辻井I類とした川原寺系の複弁八弁蓮華文軒丸瓦は今宿遺跡の検討で、外縁や子葉の形態などからM1類・M2類からM5類へ時間的推移が想定できる。

2. 軒平瓦（第15図）

今宿遺跡出土軒平瓦は三重弧文を中心とし、四重弧文と二重弧文がわずかに存在している。三重弧文のものには段顎が存在するものとしないものがある。ただし、平瓦部分との組み合せが明らかなるものは少ない。この中で先後関係を見ると、弧線の上面に挽き型が当たっていないH1類・H2類・H3類・H4類が灰色の色調で焼成が硬質であり、古相を呈する。これらの中では段顎を持つH1類が古く、段顎を一度作って粘土を貼り付けているH2類がこれに続き、直線顎のH3類・H4類が新しい。

弧線や凹線の断面が方形のH5類・H6類・H7類・H8類・H9類は直線顎であるとともに、灰白色の色調で焼成がやや軟質であり、新相を呈する。

今宿遺跡では軒平瓦の変遷は三重弧文から四重弧文あるいは二重弧文への変遷が考えられる。

3. 平瓦（第5表）

第3章で詳細を述べたように今宿遺跡の平瓦は、製作技法と凸面調整により分類を行った。製作技法は粘土板桶巻き作り技法と粘土紐桶巻き作り技法と粘土板一枚作り技法とがあり、凸面調整は並行条線・平行叩き目、格子叩き目、繩叩き目、無文叩き目、ナデ消しなどに分けられる。

格子叩き目は粘土板桶巻き作り技法と粘土板一枚作り技法があり、粘土板一枚作り技法が約3.5倍と多い。粘土板桶巻き作り技法はK2類・K5類・K6類・K9類と、すべて格子の小さな叩き目である。このことから格子の小さな叩き目は古い様相を表していることが分かる。粘土板一枚作り技法はK3類・K4類・K7類・K8類など格子の小さな叩き目は僅かであり、K10類・K24類・K25類など長形のものやK11類・K12類・K13類・K14類・K15類・K16類・K17類など中程度の叩き目やK21類・K22類・K23類など大きな叩き目やK18類・K20類など大きな叩き目に星があるものなどがある。

繩叩き目は桶巻き作り技法と一枚作り技法とがあり、桶巻き作り技法が多い。桶巻き作り技法にはN1類の粘土紐桶巻き作り技法とN2類の粘土板桶巻き作り技法とがあり、ほぼ同数である。またいずれも縱方向の繩叩き目の痕跡を残し繩叩きの目の中では古相を表す。粘土板一枚作り技法にはN3類の縱方向の繩叩き目が多く、N5類の斜め方向の繩叩き目やN6類の横方向の繩叩き目は非常に少ない。

4. 鶴尾

今宿遺跡から出土した鶴尾はA類とB類の2種類が存在している。A類はいわゆる蓮華文帶鶴尾である。蓮華文帶鶴尾は今里によりI型からIV型の4型に分類するとともに時間的変遷を考えている。今宿遺跡の蓮華文帶鶴尾の蓮華文飾板は周縁のみで、蓮華文様を欠損しているため周縁のみでしか判断できない。周縁の文様は面逆鋸歯文縁であり、復原直径は9.0cmであり、今里分類の最古層であるI型に位置付けることができる。このI型の面逆鋸歯文縁複弁六葉蓮華文の範型には花弁および周縁外に範傷が存在しており、周縁外の範傷の同一性からもI型に位置付けることができる。

5. 軒丸瓦・軒平瓦の組み合せ

今宿遺跡出土の軒丸瓦と軒平瓦の組み合せを考えてみる。出土状況が瓦集積であり、遺構からのまとまった資料ではないため難しい。このため、それぞれの中での先後関係と焼成や色調などを考慮して考



第15図
軒平瓦第2弧線
断面形態

第5表 今宿遺跡出土平瓦分類

分類	凸面調整	製作技法	重量(kg)	%	数(点)	%	表(点)	%	報告
J1・L1・L2	平行条幅・平行叩き目	粘土板巻き作り・泥作り	175.14	2.4	1214	1.9	99	2.2	160~163・167~170
J2	平行叩き目	粘土板巻き作り	9.17	0.1	67	0.1	6	0.1	164~165
	平行条幅・平行叩き目	桶・一枚	小計 184.31	2.5	1281	2.0	105	2.4	
K1	格子叩き目 中	不明	5.27	0.1	38	0.1	2	0.0	171
K2	格子叩き目 小	粘土板巻き作り	246.76	3.1	1632	2.5	95	2.1	172~176
K5	格子叩き目 小	粘土板巻き作り	138.36	1.9	815	1.3	88	2.0	179~181
K6	格子叩き目 小	粘土板巻き作り	2.65	0.0	11	0.0	2	0.0	182
K9	格子叩き目 小変形	粘土板巻き作り	126.60	1.7	916	1.4	56	1.3	185~188
	格子叩き目 桶	(小計)	513.97	7.1	3394	5.2	241	5.4	
K3・K4・K8	格子叩き目 小	粘土板 枝作り	6.40	0.1	31	0.0	11	0.2	177~178~184
K7	格子叩き目 小	粘土板一枚作り	21.89	0.3	135	0.2	18	0.4	183
K10	格子叩き目 長	粘土板一枚作り	5.00	0.1	33	0.1	6	0.1	189
K11	格子叩き目 中	粘土板一枚作り	6.65	0.1	6	0.0	1	0.0	190
K12	格子叩き目 小	粘土板一枚作り	29.76	0.4	229	0.4	22	0.5	191
K13	格子叩き目 中	粘土板 枝作り	275.82	3.8	2013	3.1	135	3.0	192~196
K14	格子叩き目 小	粘土板一枚作り	616.60	8.5	5179	8.0	426	9.6	197~200
K15	格子叩き目 中	粘土板一枚作り	178.78	2.5	1161	1.8	106	2.4	201~204
K16	格子叩き目 中	粘土板一枚作り	202.63	2.8	1464	2.3	93	2.1	205~210
K17	格子叩き目 中	粘土板 枝作り	54.59	0.8	426	0.7	34	0.8	211~214
K18	格子叩き目 天草	粘土板一枚作り	109.27	1.5	731	1.1	51	1.2	215~221
K20	格子叩き目 大里	粘土板一枚作り	45.84	0.6	236	0.4	26	0.6	222~223
K21	格子叩き目 天	粘土板一枚作り	147.13	2.0	1041	1.6	77	1.7	224~226~252
K22	格子叩き目 大	粘土板一枚作り	1.60	0.0	10	0.0	0	0.0	227
K23	格子叩き目	粘土板一枚作り	18.68	0.3	119	0.2	23	0.5	228
K24	格子叩き目	粘土板一枚作り	90.96	0.6	286	0.4	35	0.8	229~231
K25	格子叩き目	粘土板 枝作り	6.44	0.1	43	0.1	3	0.1	232~233
K26	格子叩き目	粘土板一枚作り	0.41	0.0	3	0.0	1	0.0	234
	格子叩き目	粘土板一枚作り	(小計) 1761.88	24.3	13146	20.2	1068	24.1	
不明	格子叩き目	粘土板一枚作り	452.08	6.2	3172	8.0	408	9.2	
	格子叩き目	小計	2727.93	37.7	21712	33.4	1717	38.7	
N1	繩叩き目 楪	粘土板巻き作り	413.74	5.7	3982	6.1	147	3.3	235~239
N2	繩叩き目 楪	粘土板巻き作り	104.61	5.6	2802	4.3	182	1.1	240~245
繩叩き目 楪	(小計)	818.35	11.3	6734	10.4	329	7.4		
N3	繩叩き目 楪	粘土板一枚作り	170.17	6.5	1086	6.5	319	7.2	246~250
N4・N5	繩叩き目 楪・鉢	粘土板 枝作り	83.68	1.2	485	0.7	33	0.7	253~260
N6	繩叩き目 楪	粘土板一枚作り							261~262
N7	繩叩き目	粘土板 枝作り	4.34	0.1	29	0.0	0	0.0	263
	繩叩き目	(小計) 558.19	7.7	4800	7.1	352	7.9		
不明	繩叩き目	不明	308.89	4.3	3526	5.4	189	4.3	
	繩叩き目	小計 1685.43	23.3	14980	22.9	870	19.6		
W1・W2・W3	無文叩き目	桶・一枚	2260.82		21888		1519		
	無文叩き目	小計 2269.82	31.3	21888	33.7	1519	34.3		
不明			377.98	5.2	5202	8.0	222	5.0	
		総計	7245.47	100.0	64943	100.0	4433	100.0	

えてみる。灰色で硬質の焼成を呈する軒丸瓦 M1 類・M2 類と軒平瓦 H1 類・H2 類・H3 類とは焼成や色調がにかよっているため、組み合せとして製作・焼成が行われた可能性が高い。また、灰白色でやや軟質の焼成を呈する軒丸瓦 M5 類と軒平瓦 H8 類・H9 類は焼成や色調がにかよっているため、組み合せとして製作・焼成が行われた可能性が高い。

前者が古相の組み合せであり、後者が新相の組合せである。

6. 自然科学的分析から

出土した瓦の一部を蛍光X線分析法と岩石学的・堆積学的薄片法との二種類の方法により分析を行った。蛍光X線分析法では今宿遺跡の1点の瓦を除いた19点がまとまりをもち、姫路市の青山4号窯・青山山麓荷神社裏窯・桜峠1号窯の須恵器片で設定した姫路領域とは類似しているが一致していないことが判明した。このことからこれらとは別の地点の窯の可能性が高く、複数の窯からの供給を示唆するものである。岩石学的・堆積学的薄片法ではほぼ同様の鉱物片、岩石片の種類を検出したことから同一の地質的背景を有する場所で生産されたことが判明した。なお具体的な場所は不明であるが、段丘性堆積物のようである。いずれにしても、出土総数に対する分析資料が少なすぎることや比較資料が十分でないことから、今後の比較資料の増加を待って生産地を検討したい。

7. 土 器

今宿遺跡から出土した瓦以外の遺物には、少ないながらも土器類と砥石が存在する。このうち所属時期が判明するものに土器がある。第3章で述べたとおり、弥生時代後期・7世紀中頃・7世紀後半・10世紀・11世紀・12世紀・13世紀・14世紀・15世紀・16世紀・江戸時代の土器が出土している。

第3節 今宿遺跡と周辺遺跡（第6表）

1. 今宿遺跡と今宿遺跡II

第2節で出土遺物の大半を占める瓦の検討を行った。少数ではあるが、今宿遺跡の性格を理解する上で重要であるため、ここでは瓦以外の遺物の検討を行う。

今宿遺跡から出土した瓦以外の出土遺物は第3章で述べたとおり、弥生時代後期・7世紀中頃・7世紀後半・10世紀・11世紀・12世紀・13世紀・14世紀・15世紀・16世紀・江戸時代の土器が出土している。

本報告の調査地点の北側で調査を実施した今宿遺跡IIの平成13度の調査では7世紀後半の溝（SD01～SD03）、12世紀～13世紀の土坑（SK11・SK12・SK14）、13世紀～14世紀の掘立柱建物（SB01～SD05）、14世紀～15世紀の土坑（SK01・SK03・SK05・SK10）、14世紀後半～15世紀前半の井戸（SE01）を検出している。SD03は7世紀後半に開削が行われているが、埋没過程で上層が弥生時代後期と12世紀後半～15世紀、中層が8世紀～10世紀、下層が弥生時代後期と7世紀後半～10世紀の遺物が出土している。

平成14度の調査では弥生時代後期の堅穴住居、12世紀～13世紀の掘立柱建物（SB07）、13世紀～14世紀の掘立柱建物（SB09）、13世紀～14世紀の土坑（SK17・SK20・SK22・SK23・SK28・SK29・SK30・SK31）、13世紀～14世紀の土坑墓（SX01・SX02）、15世紀の土坑（SK21・SK27・SK05・SK10）、15世紀の溝（SD01～SD03）、16世紀の土坑（SK18・SK03・SK05・SK10）を検出している。

以上のように今宿遺跡IIでは弥生時代後期の堅穴住居、7世紀後半の溝、12世紀～14世紀の掘立柱建物、土坑、13世紀～14世紀の土坑墓、14世紀～15世紀の土坑・井戸、15世紀の溝、16世紀の土坑を検出しており、溝の埋土から8～10世紀の遺物が出土している。すなわち、弥生時代後期・7世紀後半～10世紀、12世紀～16世紀の遺構・遺物を検出していることになる。

今宿遺跡IIでは瓦が使用されていた建物等の遺構は検出していないが、今回の報告する調査で出土した瓦と同様の瓦が出土している。丘陵の北端から約40m離れた溝SD03と井戸SE01から瓦が出土している。溝SD03の開削時期は7世紀後半と推定されており、第2層と第3層から出土している。第2層からは弥生時代後期から鎌倉時代の遺物が出土しており、第2層から出土している瓦はN3類の平瓦で

第6表 遺物・遺構から見た今宿遺跡Ⅰと今宿遺跡Ⅱの消長

	弥生後	古墳前	古墳中	古墳後	7C	8C	9C	10C	11C	12C	13C	14C	15C	16C
今宿Ⅰ														
今宿Ⅱ 住居				溝						建物上坑	建物上坑	建物上坑	溝上坑	土坑

ある。第3層からは奈良時代から平安時代の遺物が出土しており、第3層から出土している瓦はK2類とK8類とK17類の平瓦と丸瓦である。第4層以下は7世紀後半を中心として弥生時代後期から奈良時代の遺物が出土している。井戸SD01はSD03を切っており、鎌倉時代を中心とした遺物が出土しており、瓦は丸瓦が出土している。

このように本書で報告する今宿遺跡Ⅰから出土している遺物の時期は、本報告の調査地点の北側で調査を実施した今宿遺跡Ⅱで出土した遺物・時代と重なっている。ただし、今宿遺跡Ⅱでは瓦の出土量はわずかである。このことから、土器類などの出土遺物は、広義の今宿遺跡から集積されたものである一つの証拠と考えることができる。また今宿遺跡Ⅰの北側に位置している今宿遺跡Ⅱでは瓦の出土量が少なかったことから、瓦が本来あった場所は今宿遺跡Ⅰの北側ではなく、今宿遺跡Ⅰの東側あるいは南側である可能性が高い。これは瓦の集積場所の方向と一致する。

2. 辻井廃寺ほか周辺寺院との比較（第14図）

軒丸瓦の比較

今宿遺跡から出土した軒丸瓦は、前節で検討したようにすべて川原寺系の素文縁複弁八弁蓮華文軒丸瓦で、すべて今里分類の辻井Ⅰ類の範疇である。細部の検討により古相と新相に細分した。ただし、今宿遺跡で細分した辻井Ⅰ類新相と辻井Ⅱ類の先後関係は現状では不明である。

辻井遺跡の軒丸瓦は今里幾次により中房の外周蓮子と花弁との位置関係から子葉間に外周蓮子が位置する辻井Ⅰ類と間弁間に位置する辻井Ⅱ類に分類しており、Ⅰ類からⅡ類への時間的変遷を考えている。今宿遺跡の軒丸瓦は辻井廃寺で出土している古相の一部が出土していると言える。

鶴尾の比較

今宿遺跡から出土した鶴尾はA類とB類の2種類が存在している。A類はいわゆる蓮華文帶鶴尾であり、前節で検討したように今里分類のⅠ型に位置付けることができた。

蓮華文帶鶴尾は西播磨地域を中心に分布しており、周辺では市之郷廃寺・下太田廃寺・辻井廃寺で出土している。市之郷廃寺の鶴尾は今里分類のⅠ型であり、下太田廃寺の鶴尾は今里分類のⅠ型・Ⅲ型・Ⅳ型であり、辻井廃寺の鶴尾は今里分類のⅢ型である。このことから今宿遺跡出土の鶴尾は隣接する辻井廃寺より古相を示していることが分かる。

今宿遺跡と辻井廃寺の比較

以上、今宿遺跡と辻井廃寺から出土している軒丸瓦・軒平瓦・鶴尾を比較してみる。

軒丸瓦は両者とも川原寺系の素文縁複弁八弁蓮華文軒丸瓦が出土しているが、今宿遺跡はその中でも古相に、辻井遺跡は古相と新相に位置付けられる。軒平瓦は今宿遺跡では三重弧文が中心で、段頸を持つものが存在しているが、辻井遺跡は四重弧文が中心で、段頸が存在するものはない。蓮華文帶鶴尾は今宿遺跡がⅠ型と古相を示し、辻井廃寺がⅢ型と新相を示す。

以上、今宿遺跡から出土している軒丸瓦・軒平瓦・鶴尾のいずれもが、辻井廃寺より古相を示していることが明らかになった。

第4節 今宿遺跡の性格

1. 今宿遺跡の性格

今宿遺跡は発見当初から、今里幾次は『姫路市辻井遺跡－その調査記録－』の中で「今宿遺跡については、これを寺跡あるいは窯跡と言い、時には単なる土捨て場とも言って、まだ遺跡の性質は明らかにされていないが、辻井遺跡と同文の複弁8葉蓮華文軒丸瓦とともに重弧文軒平瓦の出土が見られるほか、瓶も検出されていることを記述しておきたい。」と記述しており、遺跡の性格を①寺跡、②窯跡、③単なる土捨て場の可能性を指摘するとともに、④辻井遺跡との関係も述べている。

今回、今宿遺跡の一部の発掘調査を実施したことにより、遺跡発見時には明らかにされていなかった今宿遺跡の性格について検討する。

①寺跡説については、今宿遺跡の今回調査を行った地点に限って言えば、地形が岩山の傾斜地であり、直接、寺院に関係する遺構は検出できなかった。しかし、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・鶴尾・瓶など瓦葺き建物の存在が想定できる遺物が出土している。特に赤色顔料が付着した軒平瓦の存在は寺院の存在を窺わせる。のことから付近に寺院があったことが想定できる。

②窯跡説については、窯自体が発見されなかつたうえに、通常窯跡から出土する焼成敗戻品や窯体付着品、窯体そのものや灰、炭などが出土していないことから、窯跡説には肯定的な資料はない。さらに軒平瓦には赤色顔料が付着したもののが存在しており、実際に建物に使用された瓦であると考えられる。

③単なる土捨て場説については、土より瓦の比率が高く、土捨て場と言うよりは瓦捨て場であると言える。ただし、瓦がほとんどであるが、瓦ばかりではなく、土器や石器とともに石も出土している。このことから畠の耕作に伴って不要になった邪魔な石や瓦などを耕作に不適な岩山に集積したものと考えられる。

④辻井遺跡との関係は前節でも述べたとおり、多種類の瓦が存在している辻井遺跡（辻井廃寺）にもかかわらず、今宿遺跡は古相の限定的な瓦しか出土していない。また土器類も辻井遺跡では縄文土器や弥生中期の土器、奈良時代の土器が多く出土しているにもかかわらず、今宿遺跡では出土していない。また、今宿遺跡の瓦集積地は岩山の南東に面した場所であり、辻井遺跡の東北東の方角とは異なる。このことから、今宿遺跡は辻井廃寺の瓦あるいは辻井遺跡の土器などを運んで集積したものでない。

2. 今宿遺跡の範囲

今宿遺跡の当初発見の場所は今回の調査地点の一角であると考えられる。その後、今宿遺跡は今回の調査地点の北側の今宿遺跡も含めて今宿遺跡として登録されている。

決して近代や近世など新しい時代に遠くから運ばれてきて集積した瓦ではないことが判明した。

以上、今宿遺跡は今回調査地の周辺に位置する広義の今宿遺跡の瓦をはじめとする遺物を集積した遺跡であると結論付けた。また瓦の検討により、今宿遺跡の瓦の集積は、赤色顔料が付着した軒平瓦が存在している事などから窯跡に由来するものではないことが判明した。また、辻井遺跡出土瓦を構成する一部のみしか存在しない事、今宿遺跡Ⅱの古代の遺構から同類の瓦が出土していることから、近世や近代に遠くから運ばれてきたものではないことが明らかになった。

3. 「今宿廃寺」

したがって、今宿遺跡の瓦は比較的近くに存在する古代寺跡の瓦が耕作などにより邪魔になり、近くの岩山である調査地点周辺に集積したものと考えた。古代寺院の推定存在場所は瓦の集積が岩山の南東

部分に位置することから考えて、調査地点の南東側の比較的近くに存在すると想定できる。ただし、この推定場所は住宅が建て込んでおり、現在その痕跡を残していない。今後、推定地の発掘調査によってその存在が明らかになるであろう。この古代寺院の推定存在場所は推定古代山陽道の北側約300mの場所に位置することになり、古代山陽道沿いに位置する寺院であったと言えよう。また諸説あるが、古代山陽道草上駅および古代美作道の分岐が今宿丁田遺跡に比定する説もあり、古代山陽道草上駅や古代美作道に近いことも指摘できる。

ここで、未発見の古代寺院跡を「今宿庵寺」(註2)と命名したい。従来、鶴磨郡に存在する白鳳創建寺院は市之郷庵寺・見野庵寺・辻井庵寺の三箇寺が知られており、今回、今宿庵寺を加えることにより、四箇寺になった。辻井庵寺と今宿庵寺とは約800mしか離れておらず、近接する寺院として位置付けられる。なお寺院造営氏族については、今宿遺跡や今宿庵寺の所在する『里』の比定とともに重要なが、今後の課題としたい。

註

- 註1 なお、今里は今宿遺跡採集の瓦を辻井Ⅱ類と同範であるとしているが、写真から判断する限り中房が存在していないため判断できないが、子葉の状況から辻井Ⅰ類に位置付けられる。
- 註2 栗山一夫「播磨における初期仏教文化」(『歴史』4 1937年)および「播磨国分寺」(『国分寺の研究』下巻 1938年)の中に記載のある「今宿庵寺」は今里幾次氏が「姫路市辻井遺跡－その調査記録－」(1971年)で述べているように辻井庵寺のことであり、ここで言う今宿庵寺とは異なる。

参考文献

- 足利健亮「山陽道の歴史地理的考察」「山陽道(西国街道)」歴史の道調査報告書 第2集 兵庫県教育委員会 1992年
 今里幾次「姫路市辻井遺跡－その調査記録－」1971年
 今里幾次「龍野市奥村庵寺の古瓦」「奥村庵寺」龍野市文化財調査報告18 龍野市教育委員会 1997年
 今里幾次「播磨古瓦の研究」1995年
 今里幾次「播磨風土記と古代寺院」「風土記研究」第24号 1999年
 今里幾次「播磨の古代寺院と壇壝」「古代寺院からみた播磨」2003年
 大谷輝彦「鶴磨・神崎・揖保郡東部の古代寺院」「古代寺院からみた播磨」2003年
 大脇潔「古代寺院の造営と工人の移動－進華文帶鶴尾を中心として」「文化財論叢」1983年
 大脇潔「鶴尾の変遷」「瓦塔・鶴尾」東京国立博物館所蔵重要考古資料学術調査報告書 2002年
 堀内章「播磨国鶴磨郡安相里考」「風土記研究」第24号 1999年
 鎌谷木三次「播磨上代寺院跡の研究」成武堂 1942年
 高橋美久二「古代の山陽道の駅家」「山陽道(西国街道)」歴史の道調査報告書 第2集 兵庫県教育委員会 1992年
 高橋美久二「古代の美作道」「美作道」歴史の道調査報告書 第4集 兵庫県教育委員会 1994年
 萩田哲郎「鶴尾の生産地と地域性－東播系と西播系－」「古代文化」第40卷5号 1988年
 姫路市「姫路市史」第十二巻 1989年
 姫路市史編集室「姫路市小字図」1999年
 姫路市教育委員会「辻井遺跡発掘調査報告書」1971年
 姫路市教育委員会「本町道路」1984年
 姫路市教育委員会「辻井道路(第22次)」「TSUBOHORI 平成6年度姫路市文化財調査略報」1999年
 姫路市教育委員会「辻井道路(辻井庵寺)(第23次調査)」「TSUBOHORI 平成7年度姫路市文化財調査略報」1997年
 姫路市教育委員会「辻井道路(辻井庵寺)(第24次調査)」「TSUBOHORI 平成9年度姫路市文化財調査略報」1999年
 姫路市教育委員会「辻井道路(第25次・第26次)」「TSUBOHORI 平成12年度姫路市文化財調査略報」2002年
 姫路市教育委員会「今宿丁田遺跡(第8次)」「TSUBOHORI 平成12年度姫路市文化財調査略報」2002年
 姫路市教育委員会「山吹遺跡(第1次)」「TSUBOHORI 平成13年度姫路市文化財調査略報」2003年
 兵庫県教育委員会「兵庫県遺跡図鑑」1965年

- 兵庫県教育委員会「兵庫県埋蔵文化財特別地域遺跡分布地図及び地名表」1 1968年
兵庫県教育委員会「堂田・八反長発掘調査報告」兵庫県文化財調査報告第108冊 1992年
兵庫県教育委員会「兵庫県遺跡地図」2000年
兵庫県教育委員会「市之郷遺跡」兵庫県文化財調査報告第286冊 2005年
兵庫県教育委員会「小穴丸中谷庵寺・中谷遺跡・中谷古墳」兵庫県文化財調査報告第306冊 2006年
兵庫県教育委員会「岩端町遺跡」兵庫県文化財調査報告第307冊 2006年
兵庫県土地質図編纂委員会「兵庫の地質」兵庫県土本部 1996年
文化庁文化財保護部「全国遺跡地図 兵庫県」1982年
水口富夫「古代美作道の遺跡」「美作道」歴史の道調査報告書 第4集 兵庫県教育委員会 1994年
水口富夫「播磨国風土記」成立時代の寺院と集落」「風土記の考古学」2 同成社 1994年
山下史朗「古代山陽道とその駅家」「風土記の考古学」2 同成社 1994年
山本博利・秋枝 芳「辻井遺跡（主要伽藍確認調査）」「兵庫県埋蔵文化財年報 昭和58年度」兵庫県教育委員会 1986年
山本博利・秋枝 芳「兵庫・辻井遺跡」「木簡研究」第8号 木簡学会 1986年
山本博利・秋枝 芳「辻井遺跡（市道幹線第47号線）」「兵庫県埋蔵文化財年報 昭和59年度」兵庫県教育委員会 1987年
山本博利・秋枝 芳「辻井遺跡」「兵庫県埋蔵文化財年報 昭和60年度」兵庫県教育委員会 1988年
秋枝 芳「今宿丁田遺跡」「兵庫県史 考古資料編」兵庫県 1992年
秋枝 芳「名古山遺跡」「兵庫県史 考古資料編」兵庫県 1992年
山本博利「辻井庵寺跡」「兵庫県史 考古資料編」兵庫県 1992年
山本博利「赤坂一号窯跡」「兵庫県史 考古資料編」兵庫県 1992年

別表1 今宿遺跡軒丸瓦一覧

(括弧が1／8以下は()付)

規格No.	裏面No.	瓦当型式	分類	焼成	瓦当幅 (mm)	縫隙 (mm)	縫隙 (mm)	中間幅 (mm)	縫隙 (mm)	縫隙 (mm)	子葉上 施部	施部	枚 数	中房 蓮子数	漢 千			子 番	圖版	寫真 図版	備考
															縫隙 (mm)	縫隙 (mm)	縫隙 (mm)				
1	KC17	既存8件標準文	M2	良好	172.0	21.0	6.0	101.0	残	浙	人	残	2	(1)-(1)-(2)	欠	27.5	8.0	25.5	10	17-19	
2	KO15	既存8件標準文	M1	良好	160.0	24.0	6.5	欠	残	浙	人	残	1	-	-	欠	欠	欠	10	19	
3	KC19	既存8件標準文	M2	良好	192.0	21.0	7.0	欠	残	浙	大	欠	4	-	20.5	37.0	8.5	24.5	10	17-19	
4	KC18	既存8件標準文	M2	良好	172.0	20.0	8.0	50.0	残	浙	大	欠	4	1+(3)+(4)	31.5	37.0	8.5	26.0	10	19	
5	KC30	既存8件標準文	M2	良好	162.0	19.0	8.0	欠	残	浙	大	欠	2	-	欠	37.0	8.5	26.5	10	19	
6	KC29	既存8件標準文	M2	良好	欠	欠	欠	150.0	欠	欠	大	欠	2	(1)-(1)-(2)	31.5	37.0	8.0	25.5	10	20	
7	KC25	既存8件標準文	M2	良好	欠	欠	欠	30.0	欠	欠	大	欠	4	(1)-(2)-(4)	21.5	36.5	8.0	36.0	10	19	
8	KO12	既存8件標準文	M1	良好	欠	欠	欠	49.0	欠	欠	人	欠	2	(1)-(2)-(4)	30.0	35.0	8.5	28.0	10	17-19	
9	KO19	既存8件標準文	M3	軟	172.0	18.5	6.0	欠	残	浙	中	欠	1	-	22.5	欠	7.0	25.5	10	20	
10	KO56	既存8件標準文	M3	不良	160.0	15.5	6.0	欠	残	浙	中	欠	2	-	32.0	欠	8.5	欠	10	20	
11	KO10	既存8件標準文	M3	軟	170.0	14.0	7.5	欠	残	浙	中	欠	1	-	欠	31.5	欠	欠	10	20	
12	K129	既存8件標準文	M3	不良	166.0	20.5	6.5	欠	残	浙	中	欠	2	-	欠	欠	8.0	欠	10	20	
13	K130	既存8件標準文	M2	良好	172.0	21.0	6.0	欠	残	浙	中	欠	2	-	欠	欠	欠	欠	10	20	
14	KO14	既存8件標準文	M4	軟	172.0	18.5	9.5	欠	残	平	中	欠	2	-	22.5	38.5	7.5	27.5	10	20	
15	K131	既存8件標準文	M5	軟	180.0	16.0	8.5	20.0	残	平	中	残	3	界減0+0+0	31.5	38.5	6.5	24.5	10	18	
16	K121	既存8件標準文	M5	軟	186.0	23.0	7.0	欠	残	平	中	欠	2	-	32.0	欠	8.0	欠	10	20	
17	KO18	既存8件標準文	M4	良好	167.0	18.5	6.0	欠	残	浙	中	欠	2	-	31.0	欠	8.0	36.0	11	20	
18	KO14	既存8件標準文	M3	軟	160.0	21.0	6.5	欠	残	浙	水	欠	2	-	欠	欠	欠	欠	11	20	
19	KO15	既存8件標準文	M4	軟	165.0	16.0	7.5	欠	残	浙	水	欠	2	-	欠	欠	8.0	欠	11	21	
20	KO16	既存8件標準文	M4	軟	160.0	14.0	8.5	欠	残	平	平	欠	2	-	欠	欠	8.0	欠	11	21	
21	KO40	既存8件標準文	M4	軟	190.0	17.0	8.0	欠	残	平	平	欠	3	-	32.0	38.5	7.0	26.0	11	20	
22	K152	既存8件標準文	M1	良	186.0	15.5	7.5	欠	残	平	平	欠	2	-	32.0	38.0	7.0	26.0	11	21	
23	K132	既存8件標準文	M5	軟	186.0	17.0	8.0	欠	残	平	小	欠	2	-	欠	欠	7.5	欠	11	21	
24	K132	既存8件標準文	M4	良	160.0	17.0	7.5	欠	残	平	小	欠	1	-	31.0	38.0	7.5	26.5	11	21	
25	KO19	既存8件標準文	M5	不良	欠	欠	欠	欠	欠	欠	中	欠	2	-	欠	欠	9.0	36.0	11	22	
26	K135	既存8件標準文	M5	不良	欠	欠	欠	欠	欠	欠	中	欠	1	-	欠	欠	7.5	37.0	11	22	
27	KO53	既存8件標準文	M5	不良	欠	欠	欠	欠	欠	欠	小	欠	2	-	欠	39.0	7.0	25.5	11	22	
28	K124	既存8件標準文	M5	不良	欠	欠	欠	32.0	欠	欠	小	欠	3	0+(1)+(2)	32.0	41.5	7.5	26.0	11	21	
29	KC10	既存8件標準文	M5	不良	166.0	21.0	9.5	欠	残	浙	小	欠	1	-	欠	欠	8.0	欠	11	22	
30	KC13	既存8件標準文	M5	軟	欠	欠	欠	32.0	欠	欠	小	欠	2	(1)-(1)-(1)	32.5	欠	7.0	27.0	11	22	
31	KO15	既存8件標準文	M5	軟	欠	欠	欠	32.0	欠	欠	小	欠	1	1+(3)+(4)	欠	38.0	7.5	36.0	11	22	
32	KO14	既存8件標準文	M5	不良	欠	欠	欠	32.0	欠	欠	小	欠	2	聚減0+0+0	欠	欠	欠	欠	11	22	
33	KC20	既存8件標準文	M5	軟	192.0	25.5	欠	32.0	欠	欠	小	欠	3	1+(2)+(3)+(4)	32.0	38.0	7.5	25.5	11	21	
34	KC22	既存8件標準文	M5	軟	欠	欠	欠	32.0	欠	欠	小	欠	4	1-(4)+(3)	32.5	欠	7.0	26.0	11	21	
35	K117	既存8件標準文	M5	不良	180.0	17.0	7.5	欠	残	平	小	欠	5	-	32.5	38.0	7.0	36.0	11	21	
36	K123	既存8件標準文	M5	不良	欠	欠	欠	29.0	欠	欠	小	欠	4	1+(2)+(3)	33.5	39.0	7.0	26.0	11	21	
37	K127	既存8件標準文	M5	不良	172.0	25.5	28.0	32.0	欠	欠	小	欠	3	1-4+(6)	32.5	38.5	7.0	36.0	11	21	
38	K138	不明(袖のみ)	M9	良好	180.0	20.0	7.5	欠	残	平	大	残	5	-	欠	欠	欠	欠	12	22	
39	K105	不明(袖のみ)	M9	良好	172.0	21.0	6.5	欠	残	平	大	残	5	-	欠	欠	欠	欠	12	22	
40	K109	不明(袖のみ)	M9	良	186.0	22.0	7.5	欠	残	平	次	良	6	-	-	-	-	-	12	22	
41	KO99	不明(袖のみ)	M9	良	186.0	23.5	7.5	欠	残	平	次	良	7	-	-	-	-	-	12	22	
42	K122	不明(袖のみ)	M9	不良	186.0	23.5	7.8	欠	残	平	次	良	8	-	-	-	-	-	12	22	
43	K127	不明(袖のみ)	M9	不良	186.0	23.5	7.0	欠	残	平	次	良	9	-	-	-	-	-	12	22	
44	K123	不明(袖のみ)	M9	良好	178.0	18.5	6.5	欠	残	平	次	良	10	-	-	-	-	-	12	22	
45	K112	不明(袖のみ)	M9	軟	186.0	17.0	7.5	欠	残	平	次	良	11	-	-	-	-	-	12	22	
46	K112	不明(袖のみ)	M9	軟	186.0	17.0	7.5	欠	残	平	次	良	12	-	-	-	-	-	12	22	
47	K120	不明(袖のみ)	M9	不良	192.0	23.0	6.0	欠	残	斜	欠	良	13	-	-	-	-	-	12	22	
48	K133	蓋合(袖のみ)	M10	不良	欠	欠	欠	32.0	欠	欠	次	欠	14	0+(1)-(3)	欠	欠	欠	欠	12	22	
49	KO33	半瓦(瓦頭消音)	M11	軟	186.0	21.0	6.5	欠	欠	欠	次	欠	15	-	-	-	-	-	12	22	

別表2 今宿遺跡軒平瓦一覧(1)

別表2 金窓遺跡軒平瓦一覧(2)

项目	类别	数量	分组	属地	项目方面		占比	看管	日耗	地租	项 X		2023 年总 金额	2023 年总 金额	2023 年总 金额	2023 年总 金额	上缴	下场	内 容		盈余 金额	盈余 率	盈余 金额	盈余 率	
					新设	改造					新设	改造							新设	改造	内 容				
001	项目 A	3	E 区	新设	无	无	10%	看	>	低	1.2M	2.5	B	3.0M	3.5M	3.5M	3.5M	否	是	减	减	0.1M	3.3%	1.0M	29
002	项目 B	2	F 区	新设	无	无	10%	看	<	高	0.8M	1.5	C	1.8M	2.0M	2.0M	2.0M	是	是	增	增	0.6M	4.6%	1.7M	29
003	项目 C	4	G 区	新设	无	无	10%	看	=	中	0.5M	1.0	D	1.5M	1.5	1.5	1.5	否	是	减	减	0.1M	2.6%	0.9M	29
004	项目 D	12	H 区	新设	无	无	10%	看	>	高	0.2M	0.5	E	0.8M	1.0	1.0	1.0	否	是	增	增	0.2M	2.5%	0.9M	29
005	项目 E	8	I 区	新设	无	无	10%	看	<	低	0.1M	0.2	F	0.5M	0.5	0.5	0.5	是	是	减	减	0.1M	2.0%	0.6M	29
006	项目 F	6	J 区	新设	无	无	10%	看	=	中	0.05M	0.1	G	0.3M	0.3	0.3	0.3	否	是	增	增	0.05M	1.7%	0.4M	29
007	项目 G	10	K 区	新设	无	无	10%	看	>	高	0.02M	0.05	H	0.1M	0.1	0.1	0.1	是	是	减	减	0.02M	2.0%	0.2M	29
008	项目 H	5	L 区	新设	无	无	10%	看	<	低	0.01M	0.02	I	0.05M	0.05	0.05	0.05	否	是	增	增	0.01M	1.0%	0.1M	29
009	项目 I	3	M 区	新设	无	无	10%	看	=	中	0.005M	0.01	N	0.02M	0.02	0.02	0.02	是	是	减	减	0.005M	1.0%	0.05M	29
010	项目 J	2	O 区	新设	无	无	10%	看	>	高	0.002M	0.005	P	0.01M	0.01	0.01	0.01	否	是	增	增	0.002M	1.0%	0.02M	29
011	项目 K	4	Q 区	新设	无	无	10%	看	<	低	0.001M	0.002	R	0.005M	0.005	0.005	0.005	否	是	增	增	0.001M	1.0%	0.01M	29
012	项目 L	3	S 区	新设	无	无	10%	看	=	中	0.0005M	0.001	T	0.002M	0.002	0.002	0.002	是	是	减	减	0.0005M	1.0%	0.005M	29
013	项目 M	2	U 区	新设	无	无	10%	看	>	高	0.0002M	0.0005	V	0.001M	0.001	0.001	0.001	否	是	增	增	0.0002M	1.0%	0.002M	29
014	项目 N	1	W 区	新设	无	无	10%	看	=	中	0.0001M	0.0002	X	0.0005M	0.0005	0.0005	0.0005	是	是	减	减	0.0001M	1.0%	0.001M	29
015	项目 O	2	Y 区	新设	无	无	10%	看	<	低	0.00005M	0.0001	Z	0.0002M	0.0002	0.0002	0.0002	否	是	增	增	0.00005M	1.0%	0.0005M	29
016	项目 P	1	A 区	新设	无	无	10%	看	=	中	0.00002M	0.00005	B	0.0001M	0.0001	0.0001	0.0001	是	是	减	减	0.00002M	1.0%	0.0002M	29
017	项目 Q	1	C 区	新设	无	无	10%	看	>	高	0.00001M	0.00002	D	0.00005M	0.00005	0.00005	0.00005	否	是	增	增	0.00001M	1.0%	0.0001M	29
018	项目 R	1	E 区	新设	无	无	10%	看	<	低	0.000005M	0.00001	F	0.00002M	0.00002	0.00002	0.00002	否	是	增	增	0.000005M	1.0%	0.00005M	29
019	项目 S	2	G 区	新设	无	无	10%	看	=	中	0.000002M	0.000005	H	0.00001M	0.00001	0.00001	0.00001	是	是	减	减	0.000002M	1.0%	0.00002M	29
020	项目 T	1	I 区	新设	无	无	10%	看	>	高	0.000001M	0.000002	J	0.000005M	0.000005	0.000005	0.000005	否	是	增	增	0.000001M	1.0%	0.00001M	29
021	项目 U	1	K 区	新设	无	无	10%	看	<	低	0.0000005M	0.000001	L	0.000002M	0.000002	0.000002	0.000002	否	是	增	增	0.0000005M	1.0%	0.000005M	29
022	项目 V	1	M 区	新设	无	无	10%	看	=	中	0.0000002M	0.0000005	N	0.000001M	0.000001	0.000001	0.000001	是	是	减	减	0.0000002M	1.0%	0.000002M	29
023	项目 W	1	O 区	新设	无	无	10%	看	>	高	0.0000001M	0.0000002	P	0.0000005M	0.0000005	0.0000005	0.0000005	否	是	增	增	0.0000001M	1.0%	0.000001M	29
024	项目 X	1	Q 区	新设	无	无	10%	看	<	低	0.00000005M	0.0000001	R	0.0000002M	0.0000002	0.0000002	0.0000002	否	是	增	增	0.00000005M	1.0%	0.0000005M	29
025	项目 Y	1	S 区	新设	无	无	10%	看	=	中	0.00000002M	0.00000005	T	0.0000001M	0.0000001	0.0000001	0.0000001	是	是	减	减	0.00000002M	1.0%	0.0000002M	29
026	项目 Z	1	U 区	新设	无	无	10%	看	>	高	0.00000001M	0.00000002	V	0.00000005M	0.00000005	0.00000005	0.00000005	否	是	增	增	0.00000001M	1.0%	0.0000001M	29
027	项目 A	1	W 区	新设	无	无	10%	看	<	低	0.000000005M	0.00000001	X	0.00000002M	0.00000002	0.00000002	0.00000002	否	是	增	增	0.000000005M	1.0%	0.00000005M	29
028	项目 B	1	Y 区	新设	无	无	10%	看	=	中	0.000000002M	0.000000005	Z	0.00000001M	0.00000001	0.00000001	0.00000001	是	是	减	减	0.000000002M	1.0%	0.00000002M	29
029	项目 C	1	A 区	新设	无	无	10%	看	>	高	0.000000001M	0.000000002	B	0.000000005M	0.000000005	0.000000005	0.000000005	否	是	增	增	0.000000001M	1.0%	0.00000001M	29
030	项目 D	1	C 区	新设	无	无	10%	看	<	低	0.0000000005M	0.000000001	E	0.000000002M	0.000000002	0.000000002	0.000000002	否	是	增	增	0.0000000005M	1.0%	0.000000005M	29
031	项目 E	1	E 区	新设	无	无	10%	看	=	中	0.0000000002M	0.0000000005	F	0.000000001M	0.000000001	0.000000001	0.000000001	是	是	减	减	0.0000000002M	1.0%	0.000000002M	29
032	项目 F	1	G 区	新设	无	无	10%	看	>	高	0.0000000001M	0.0000000002	H	0.0000000005M	0.0000000005	0.0000000005	0.0000000005	否	是	增	增	0.0000000001M	1.0%	0.000000001M	29
033	项目 G	1	I 区	新设	无	无	10%	看	<	低	-	-	J	-	-	-	是	是	增	增	-	-	-	29	
034	项目 H	1	K 区	新设	无	无	10%	看	=	中	-	-	L	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
035	项目 I	1	M 区	新设	无	无	10%	看	>	高	-	-	N	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
036	项目 J	1	O 区	新设	无	无	10%	看	<	低	-	-	P	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
037	项目 K	1	Q 区	新设	无	无	10%	看	=	中	-	-	R	-	-	-	是	是	减	减	-	-	-	29	
038	项目 L	1	S 区	新设	无	无	10%	看	>	高	-	-	T	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
039	项目 M	1	U 区	新设	无	无	10%	看	<	低	-	-	V	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
040	项目 N	1	W 区	新设	无	无	10%	看	=	中	-	-	X	-	-	-	是	是	减	减	-	-	-	29	
041	项目 O	1	Y 区	新设	无	无	10%	看	>	高	-	-	Z	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
042	项目 P	1	A 区	新设	无	无	10%	看	<	低	-	-	B	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
043	项目 Q	1	C 区	新设	无	无	10%	看	=	中	-	-	D	-	-	-	是	是	减	减	-	-	-	29	
044	项目 R	1	E 区	新设	无	无	10%	看	>	高	-	-	F	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
045	项目 S	1	G 区	新设	无	无	10%	看	<	低	-	-	H	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
046	项目 T	1	I 区	新设	无	无	10%	看	=	中	-	-	J	-	-	-	是	是	减	减	-	-	-	29	
047	项目 U	1	K 区	新设	无	无	10%	看	>	高	-	-	L	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
048	项目 V	1	M 区	新设	无	无	10%	看	<	低	-	-	N	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
049	项目 W	1	O 区	新设	无	无	10%	看	=	中	-	-	P	-	-	-	是	是	减	减	-	-	-	29	
050	项目 X	1	Q 区	新设	无	无	10%	看	>	高	-	-	R	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
051	项目 Y	1	S 区	新设	无	无	10%	看	<	低	-	-	T	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
052	项目 Z	1	U 区	新设	无	无	10%	看	=	中	-	-	V	-	-	-	是	是	减	减	-	-	-	29	
053	项目 A	1	W 区	新设	无	无	10%	看	>	高	-	-	X	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
054	项目 B	1	Y 区	新设	无	无	10%	看	<	低	-	-	Z	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
055	项目 C	1	A 区	新设	无	无	10%	看	=	中	-	-	B	-	-	-	是	是	减	减	-	-	-	29	
056	项目 D	1	C 区	新设	无	无	10%	看	>	高	-	-	E	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
057	项目 E	1	E 区	新设	无	无	10%	看	<	低	-	-	F	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
058	项目 F	1	G 区	新设	无	无	10%	看	=	中	-	-	H	-	-	-	是	是	减	减	-	-	-	29	
059	项目 G	1	I 区	新设	无	无	10%	看	>	高	-	-	J	-	-	-	否	是	增	增	-	-	-	29	
060	项目 H	1	K 区	新设	无	无	10%	看	<	低															

別表3 今宿遺跡丸瓦一覧(1)

報告 No.	測定 No.	器 種	分類	全長 (cm)		幅 (mm) 対角線(cm)	厚さ (mm)	内径 (mm)	残 存	気密の整形			備考	
				高さ (mm)	長さ (mm)					保証 基準	広葉	細葉		
127	K1021	丸皿(打模)	G1	18.0+	11.3+	13.4	2.3	9.0	直端面2/3・斜端面2/3・左側縫合1/4・角欠	D	B	22		
128	K1035	丸皿(仁型)	G1	17.7+	9.7+	13.4	2.2	10.0	直端面1/2・右側縫合1/2・角欠	F	丸皿	C	22	21
129	K1036	丸皿(仁型)	G1	18.3+	8.6+	12.5	2.3	8.2	直端面1/2・右側縫合1/2・角欠	E	E-	22	21	
130	K1015	丸皿(打模)	G2	16.7+	11.9+	11.8	2.6	9.6	直端面1/2・左側縫合1/4・角欠	D	A	C	23	22
131	K1016	丸皿(打模)	G2	13.1	12.6	11.6	2.2	9.5	直端面1/2・右側縫合1/4・角欠	B+	C	23	21	
132	K1032	丸皿(仁型)	G2	12.4+	8.1+	10.2	1.7	10.7	直端面・側縫合のみのL字	B+	C	23	22	
133	K1035	丸皿(打模)	G2	17.9+	7.5+	11.8	1.5	9.2	直端面2/3・側縫合2/5・今体のL字	E	未	23	22	
134	K1018	丸皿(玉形)	T1	10.2+	4.4	2.7+	1.7	0.0	玉端面両面2/3・玉底穴完全・左側縫合1/4・角欠	A	C	23	22	
135	K1019	丸皿(玉形)	T1	9.4+	4.3	6.5+	2.5	9.4	玉端面・左側縫合1/4・右側縫合1/2・角欠	A	C	23	22	
136	K1017	丸皿(玉形)	T1	12.8+	11.5+	1.9	1.9	0.0	玉端面・斜端面1/2			24	23	
137	K1006	丸皿(十字縫)	T1	27.3+	6.3	14.8+	12.9	2.4	11.4	直端面2/3・横端面1/2・側縫合2/3・斜1/3	A	D	24	24
138	K1012	丸皿(十字縫)	T2	6.6	6.0	16.0	2.8	0.0	直端面6.6・大底凹凸・右側縫合	A	A	24	23	
139	K1024	丸皿(玉形)	T2	12.0+	6.1	8.9+	14.2	2.7	玉端面両面7.0・右側縫合1/3・角欠	C?	C	24		
140	K1006	丸皿	S1	9.7+	3.8+	18.5	2.0	14.0	直端面1/4・左側縫合1/4・角欠	J	C	25	24	
141	K1031	丸皿	S1	10.4+	4.3+	19.6	2.2	13.0	横端面1/3・左側縫合1/4	D	E	25	24	
142	K1030	丸皿	S1	3.7+	5.3+	15.0	1.6	11.0	直端面・右側縫合・側縫合	B	B	25	24	
143	K1007	丸皿	S1	6.1+	4.2+	12.0	1.9	9.2	右側縫合	E	E	25	24	
144	K1005	丸皿	S2	9.5+	8.6+	7.0	0.0	0.0	右側縫合1/4・角欠	D		25	27	
145	K1013	丸皿	S3	33.8+	15.2	1.8	11.8	0.0	直端面1/2・斜端面欠・右側縫合1/4・左側縫合1/2・角欠	J	C	25	24	
146	K1014	丸皿	S3	7.6-4+	11.0+	15.0	1.5	12.0	直端面2/3・右側縫合・左側縫合1/2	C	C	26	27	
147	K1006	丸皿	S4	13.3+	7.0+	15.2	1.5	12.2	側縫合・左側縫合・右側縫合	C	C	26	26	
148	K1032	丸皿	S4	10.8+	5.2+	15.4	1.9	11.0	側縫合・左側縫合	E	E	26	26	
149	K1009	丸皿	S5	21.9+	14.0	2.0	9.6	0.0	直端面・筋部右側縫合1/4・左側縫合1/8	C	C	26	27	
150	K1025	丸皿	S6	22.3+	14.3+	2.9	0.0	0.0	筋部・左側縫合	E	C?	27	25	
151	K1023	丸皿	S6	16.5+	11.6+	19.0	3.1	12.2	直端面1/4・斜端面欠・左側縫合1/3・角欠	C	C	27	25	
152	K1004	丸皿	S6	22.5+	15.3	2.3	12.6	0.0	直端面1/4・右側縫合・左側縫合1/3・角欠	A	C	27	25	

別表3 今宿遺跡丸瓦一覧(2)

報告 No.	実測 No.	器種	分類	全長 (cm)	玉縁長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	内側 (cm)	残 存			裏面の整形 工具	裏面 広場	裏面 側面	備考	
									左側面	右側面	側面					
153	K1011	丸瓦	SE	22.6+	15.8+	18.2	2.2	12.4	玉縁欠・広場欠L-2・角1・胸縫左側縫L-2			A	C	変形	28	25
154	K1020	丸瓦	SE	11.4+	17.4+	18.0	3.1	12.7	広場欠L-2・外側縫L-2・角1			R	R-	28		
155	K1010	丸瓦	SE	16.7+	9.3+	16.6	2.2	14.0	玉縁欠・外欠・内側縫左側縫右干			E	E	28	36	
156	K1002	丸瓦	SE	17.4+	11.3+	16.8	1.9	13.0	広場欠L-1・外側縫L-2・角1			A	E	29	36	
157	K1022	丸瓦	SE	22.5+	13.1+	15.6	1.9	11.8	広場欠L-1・外側縫L-2・外欠			A	C	29		
158	K1034	丸瓦	SE	15.3+	11.4+	20.1	1.6	16.5	広場欠L-2・外側縫若干			C	C	30	38	
159	K1029	丸瓦	SE	20.6+	11.2+		1.6	16.0	張・広場欠・外側縫若干			C	C	30	36	

別表4 今宿遺跡平瓦一覧(1)

報告 No.	実測 No.	器種	分類	製作技法	全 長 (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	内側 (cm)	残 存			裏面の整形			備考	
									狭縫	広縫	側面	凸面叩き 脇修	凹板	写真回数		
160	K190	平瓦	J1	槌作り	24.8	15.5+左二	2.8	12.5	広場部L-3・左側縫L-2・角1	-	D	C	ハケ	31	39	
161	K196	平瓦	J1	槌作り	14.3	12.5+	2.7	9.5	右側縫L-1	-	-	d	ハケ	31	39	
162	K191	平瓦	J1	槌作り	17.1	14.2+	2.8	12.8	広場部L-3・左側縫L-4・角欠	-	K	j?	ハケ	31	39	
163	K193	平瓦	J1	槌作り	11.0+	11.4+	2.7	9.5	右側縫L-8	-	-	e	ハケ	31	40	
164	K192	平瓦	J2	槌作り	9.5+	12.6+	2.5	9.5	広場部L-4・右側縫L-8・角1	A	-	o	ハケ	32	40	
165	K194	平瓦	J2	槌作り	8.9+	15.5+	2.1	9.5	右側縫L-8	-	-	u	ハケ	32	40	
166	K193	平瓦	J3		9.8+	9.6+	2.9	9.5	扇面L-2	-	-	-	ハケ	32	40	
167	K147	平瓦	L1	当き押作り	15.1	15.4+	1.9	12.5	広場部L-2・右側縫L-2・角1	-	D	お口1	平行	32	41	
168	K226	平瓦	L1	收れ作り	15.7	10.2+	1.9	12.5	広場部L-3・右側縫L-2・角1	-	D	お口1	平行	32	41	
169	K227	平瓦	L2	收れ作り	11.1	9.2+	2.1	9.5	右側縫L-1	-	-	r	平行	32	41	
170	K228	平瓦	L2	一收作り	9.8+	8.3+	2.1	9.5	広場部L-4・右側縫L-4・角1	-	J	n	平行	32	41	
171	K254	平瓦	K1		10.6+	5.2+	2.2	9.5	左側縫L-2・右側縫L-2	-	-	-	空手	33	43	
172	K161	平瓦	K2		25.6+	16.3+	2.1	12.5	広場部L-3・右側縫L-3	A	-	b	空手	33	42	
173	K212	平瓦	K2		15.7+	15.1+	2.7	12.5	広場部L-3・右側縫L-2・角1	A	-	b	空手	33	42	
174	K211	平瓦	K2		12.3	9.8+	2.1	9.5	右側縫L-4・右側縫L-4・角1	G	-	c	空手	33	42	
175	K213	平瓦	K2		12.0	12.4+	1.9	12.5	広場部L-3・左側縫L-4・角1	-	A	b	空手	33	43	
176	K162	平瓦	K2	槌作り	13.7	19.8+	1.8	9.5	右側縫L-3・角欠	-	-	g	空手	34	43	
177	K271	平瓦	K4	一收作り	10.2+	10.4+	2.0	9.5	左側縫L-4・右側縫L-4・角1	J	-	n	34	43		
178	K270	平瓦	K4	一收作り	10.1+	10.6+	2.2	9.5	右側縫L-4・右側縫L-4・角1	摩拭	J	q	34	43		
179	K166	平瓦	K5	槌作り	36.0	27.2+	2.4	21.0	全体のL-2・左側縫L-2・左側縫石子・左側縫L-3	A	1	空手	34	44		
180	K216	平瓦	K5	槌作り	16.4+	14.4+	2.0	9.5	左側縫L-3	-	-	1	空手	33	44	
181	K149	平瓦	K5	槌作り	14.2	13.6+	1.5	9.5	右側縫若干・角欠	G	-	-	空手	35	44	
182	K258	平瓦	K6	槌作り	8.8	9.5+	1.9	9.5	体側のみ・右側縫L-2	-	-	-	空手	35	45	
183	K251	平瓦	K7	一收作り	11.2	5.5+	2.0	9.5	体側のみ・右側縫L-2	-	-	-	空手	35	45	
184	K272	平瓦	K8	一收作り	16.9	11.7+	2.0	9.5	左側縫L-2・右側縫L-2・角1	C	-	c	35	45		
185	K154	平瓦	K9	槌作り	12.5	18.2+	2.0	9.5	左側縫L-2・右側縫L-4・角1	-	k	1	空手	35	45	
186	K153	平瓦	K9	槌作り	15.5	17.2+	2.6	9.5	左側縫L-2・右側縫L-2・角1	-	E	m-	空手	36	46	
187	K282	平瓦	K9	槌作り	12.9	15.0+	1.9	9.5	左側縫L-5	-	-	in	空手	36	46	
188	K263	平瓦	K10	槌作り	12.1+	13.0	2.7	9.5	左側縫L-2・右側縫L-5・角1	A	j	空手	36	46		
189	K255	平瓦	K10	收れ作り	8.7	7.7+	2.1	9.5	体側のみ・右側縫L-2	-	-	6	36	46		
190	K256	平瓦	K11	收?	6.2	7.2+	2.1	9.5	右側縫若干干	-	-	q	36	46		
191	K249	平瓦	K12	一收作り	9.9+	14.6+	2.2	9.5	右側縫若干	o?	空手	36	47			
192	K233	平瓦	K12	一收作り	19.2+	11.7+	2.4	9.5	左側縫L-2・右側縫L-2・角1	J	d	空手	37	47		
193	K258	平瓦	K13	一收作り	17.8	12.6+	2.4	9.5	左側縫若干・左側縫L-2・角1	A	m	空手	37	47		
194	K261	平瓦	K13	一收作り	21.3	16.4+	2.6	9.5	左側縫若干干・左側縫L-1	A	m	空手	37	48		
195	K260	平瓦	K15	收作り	13.0	12.7	2.5	9.5	左側縫L-2・右側縫L-1	G	c	空手	37	48		
196	K259	平瓦	K15		11.1	10.2+	2.2	9.5	左側縫L-1・右側縫L-1・角1	A	f	空手	37	48		
197	K251	平瓦	K14	收作り	17.1	11.6+	2.3	9.5	左側縫L-3・右側縫L-3・角1	布目	n	空手	38	49		
198	K235	平瓦	K14	一收作り	18.3	17.6+	1.9	9.5	左側縫L-2・右側縫L-6・角1	布目	d	空手	38	49		
199	K157	平瓦	K14	一收作り	14.8	15.2+	2.3	9.5	左側縫L-2・右側縫L-2・角1	布目	q	空手	38	49		
200	K236	平瓦	K14	一收作り	17.3	12.5+	2.3	9.5	左側縫L-2・右側縫L-2・角1	J	s	空手	38	49		
201	K240	平瓦	K15	一收作り	18.4	14.5+	2.3	9.5	左側縫L-4・左側縫L-2・角1	布目	u	空手	39	50		

別表4 今宿遺跡平瓦一覧(2)

番号 No.	実測 No.	器種	分類	製作技法	全 長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残 存	端面の整形			凸凹面 調整	国版	写真図版	備 考
									狭端	広端	側面				
207	K247	平瓦	K15	一枚作り	12.4+	12.6+	2.2	後端部1/3	H			手すり	29	50	
208	K248	平瓦	K15	一枚作り	12.3+	12.6+	2.6	前端部1/2・左側縫1/6・角1	J	s		手すり	39	51	
209	K241	平瓦	K15	一枚作り	14.0+	12.4+	2.4	後端部1/3・右側縫1/3・角1	G	s	手すり	39	51		
205	K243	平瓦	K16	一枚作り	12.4+	13.4+	2.1	前端部1/3・左側縫1/4・角1	右目	j	手すり	40	51		
206	K244	平瓦	K16	一枚作り	15.6+	10.0+	2.1	後端部1/3・左側縫1/3・角1	J	n	手すり	40	52		
207	K248	平瓦	K16	一枚作り	19.1+	14.4+	2.1	側面のみ・高張足			手すり	40	52		
208	K249	平瓦	K16	一枚作り	20.3+	16.2+	2.6	前端部1/2・右側縫1/4・角1	A	n	手すり	40	52		
209	K164	平瓦	K16	一枚作り	17.5+	15.7+	2.8	前端部1/2・右側縫1/2・角1	J	u	手すり	41	53		
210	K208	平瓦	K16	一枚作り	18.1+	18.3+	2.2	後端部1/3・右側縫1/3・角1	J	n	手すり	41	53		
211	K223	平瓦	K17	一枚作り	17.2+	10.8+	2.3	後端部1/2・左側縫1/2・角1	右目	右目+	手すり	41	53		
212	K263	平瓦	K17	一枚作り	14.4+	15.7+	2.3	後端部1/2・左側縫1/3・角1	J	右目	手すり	41	54		
213	K144	平瓦	K17	一枚作り	13.6+	13.6+	2.1	後端部1/3・側面・舟欠	A		手すり	42	51		
214	K271	平瓦	K17		13.2+	14.2+	2.1	後端部1/3	A		手すり	42	51		
215	K206	平瓦	K18		11.6+	12.3+	2.4	後端部1/3・左側縫1/4・角1	J	t	手すり	42	55		
216	K165	平瓦	K18		14.3+	10.0+	2.0	後端部1/3・左側縫1/3・角1	J	u	手すり	42	55		
217	K206	平瓦	K18		17.0+	13.8+	2.3	後端部1/3・右側縫1/8・角1	A	t	手すり	42	55		
218	K210	平瓦	K18		12.9+	17.0+	2.8	右側縫1/4			手すり	43	56		
219	K207	平瓦	K18		15.9+	14.4+	2.7	右側縫1/4			手すり	43	56	少し傾いたも	
220	K166	平瓦	K19	一枚作り	24.1+	19.0+	1.9	後端部1/3・右側縫1/6・角1	右目+	u	手すり	43	57		
221	K159	平瓦	K19	一枚作り	15.0+	14.4+	2.5	後端部1/4・右側縫1/3・角1	J	g	手すり	43	56		
222	K208	平瓦	K19	一枚作り	11.2+	9.7+	2.1	後端部1/4・右側縫1/3・角1	J	u	手すり	44	57		
223	K246	平瓦	K20	一枚作り	18.1+	10.0+	2.4	後端部1/2・右側縫1/2・角1	下右目	v	手すり	44	57		
224	K214	平瓦	K21		14.2+	12.2+	2.0	後端部1/4・左側縫1/2・舟欠	J	n	手すり	44	58		
225	K160	平瓦	K21	一枚作り	12.7+	14.7+	2.4	後端部1/3・左側縫1/4・角1	J	n	手すり	44	58		
226	K215	平瓦	K21		17.4+	15.7+	2.0	後端部1/3	底模		手すり	44	58		
227	K250	平瓦	K22	一枚作り	13.3+	10.6+	2.4	右側縫1/4			手すり	45	59		
228	K145	平瓦	K23	一枚作り	14.5+	12.2+	2.3	右側縫1/4・舟欠	u		手すり	45	59		
229	K158	平瓦	K24	一枚作り	9.6+	11.5+	2.4	後端部1/3・左側縫1/8・角1	G	b	手すり	45	60		
230	K255	平瓦	K24	一枚作り	16.6+	18.8+	2.5	後端部1/2・右側縫1/2・角1	A	m	手すり	45	59		
231	K148	平瓦	K24	一枚作り	15.5+	15.6+	2.4	右側縫1/2・広・後端部1/2・舟欠	b	手すり	46	60			
232	K269	平瓦	K25		10.2+	13.2+	2.5	後端部1/4	J		手すり	46	60		
233	K258	平瓦	K25		10.3+	9.7+	2.4	後端部1/2・左側縫1/4・角1	C	n	手すり	46	60		
234	K251	平瓦	K26	一枚作り	8.0+	12.1+	2.0	後端部1/2・右側縫1/4	J		手すり	46	61		
235	K171	平瓦	S1	楕円作	16.6+	18.2+	2.4	後端部1/3・左側縫1/2・角1	G	b	手すり	47	61		
236	K170	平瓦	S1	楕円作	18.7+	15.1+	2.0	後端部1/2・左側縫1/2・角1	A	c	手すり	47	61		
237	K218	平瓦	S1	楕円作	15.0+	14.3+	2.4	後端部1/2・左側縫1/2・角1	J-	n	手すり	47	61		
238	K232	平瓦	S1	楕円作	10.3+	15.2+	2.5	後端部1/2・左側縫1/6	C+	v-	手すり	47	62		
239	K196	平瓦	S1	楕円作	14.8+	17.6+	2.0	後端部1/3・角1	J	u	手すり	48	62		
240	K267	平瓦	S1	楕円作	20.6+	15.2+	2.3	後端部1/2・左側縫1/2・角1	J	n	手すり	48	62		
241	K203	平瓦	S1	楕円作	15.2+	16.2+	2.1	後端部1/2・左側縫1/2・角1	J	d	手すり	48	63		
242	K203	平瓦	S1	楕円作	12.1+	9.1+	2.0	後端部1/3・左側縫1/3・角1	J-	u	手すり	48	63		
243	K173	平瓦	S2	楕円作	14.0+	17.2+	2.6	後端部1/2・左側縫1/2・角1	J	n	手すり	49	63		
244	K155	平瓦	S2	楕円作	18.2+	14.7+	1.9	後端部1/4・左側縫1/2・舟欠	A	n	手すり	49	64		
245	K163	平瓦	S2	楕円作	20.0+	17.2+	2.4	後端部1/2・左側縫1/2・舟欠	J	n	手すり	49	64		
246	K266	平瓦	S2	一枚作り	14.0+	25.6	2.1	後端部1/2・左側縫1/4・左側縫1/4・舟欠	A	d	手すり	50	64		
247	K199	平瓦	S3	一枚作り	15.3+	12.6+	2.0	後端部1/4・左側縫1/3・舟欠	E	J-	手すり	50	65		
248	K217	平瓦	S3	一枚作り	18.1+	12.2+	2.1	後端部1/2・左側縫1/2・舟欠	A	その他の 楕円	手すり	50	65		
249	K201	平瓦	S3	一枚作り	21.0+	15.6+	2.1	後端部1/2・右側縫1/2・舟欠	C	o	手すり	50	65		
250	K156	平瓦	S3	一枚作り	20.9+	22.5+	2.0	後端部1/3・右側縫1/2・舟欠	J	b	手すり	51	66		
251	K264	平瓦	S3	一枚作り	14.6+	13.2+	2.0	後端部1/2・右側縫1/2・舟欠	J	d	手すり	51	66		
252	K265	平瓦	S3	一枚作り	10.2+	10.2+	2.5	側面のみ・高張足			手すり	51	66	赤色貼付石	
253	K172	平瓦	S4	一枚作り	19.8+	17.8+	2.4	後端部1/2・左側縫1/2・舟欠	J	c	手すり	51	67		
254	K197	平瓦	S4	一枚作り	19.3+	11.6+	2.4	後端部1/3・左側縫1/2・舟欠	J	b	手すり	52	67		
255	K219	平瓦	S4	複合一枚作	17.2+	17.7+	2.7	後端部1/4・右側縫1/2・舟欠	J	d	手すり	52	67		

別表4 今宿遺跡平瓦一覧(3)

報告 No.	実測 No.	器種	分類	製作技法	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存	端面の整形			凸面叩き 調整	図版	写真図版	備考
									狭端	広端	側面				
256	K220	平瓦	Y4	一枚作り	27.0+	18.5+	2.2	広端部1/4・右側縫1/5	G	n	両片	22	68		
257	K221	平瓦	S5	陶一削り	16.9+	17.2+	2.4	広端部1/2・左側縫1/3・角1	J	c	両片	22	68		
258	K226	平瓦	S2	轍切	13.4+	21.6+	2.0	広端部2/3・左側縫1/3・角1	A	d	両片	23	68		
259	K222	平瓦	S5	一枚作り	17.7+	11.5+	2.1	狭端部1/3・右側縫1/2・角1	G	d	両片	23	69		
260	K200	平瓦	S2		13.2+	14.1	2.2	狭端部1/2・右側縫1/3・角1	J	d	両片	23	69		
261	K201	平瓦	S6		13.9+	10.2+	2.1	右側縫1/3		i		23	69		
262	K187	平瓦	S6		18.3+	10.2+	2.0	先端部若干・右側縫1/2・角1	H	卷口		23	70	一枚に二つの毛刺	
263	K257	平瓦	S7	一枚作り	11.3+	9.3+	2.0	左側縫1/3		卷口+		23	70		
264	K231	平瓦	W1		15.4+	11.1+	1.9	広端部1/3・右側縫1/4・角1	A	b		24	70		
265	K230	平瓦	W2		12.9+	7.2+	1.8	左側縫1/4		j		24	71		
266	K229	平瓦	W2		7.2+	7.6+	1.4	右側縫1/3		d		24	71		
267	K152	平瓦	W3	種作合	25.0+	17.6+	1.6	狭端部1/2・左側縫2/3・角1	A	b		25	71		
268	K151	平瓦	W3		13.0+	14.5+	2.0	狭端部1/3・左側縫1/3・角1	A	i		25	71		
269	K188	平瓦	W3		17.6+	12.3+	2.6	右側縫1/3・右側縫1/2・角1	H	e		25	72		
270	K189	平瓦	W3		15.0+	16.5+	1.6	先端部1/2・左側縫1/3・角1	A	e		25	72		
271	K246	平瓦	W1		23.0	27.7	2.6	先端部1/2・左側縫1/3・右側縫1/2・左側縫1/3・角1	A	A	e	25	73	毛-426	
272	K167	平瓦	W1	一枚作り	28.4+	25.2+	2.6	先端部1/3・右側縫2/3・左側縫1/3・角1	A	b		26	73		
273	K150	平瓦	W1		26.7+	23.5+	2.4	左側縫2/3・右側縫2/3・角1	J	c		26	72		
274	K237	平瓦	W1		14.11	18.21	2.3	広端部1/2・左側縫若干・角1	A	b		26	73		

別表5 今宿遺跡鷲尾・焼ほか一覧

報告 No.	実測 No.	器種	分類	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存	図版	写真図版	備考
275	K174	蓮花文雀頭尾A	A類	14.7+	6.1+	2.2~2.3	-部	57	74	A-1
276	K177	蓮花文雀頭尾A	A類	9.4+	7.3+	2.4~3.0	-部	57	75	A-4
277	K175	蓮花文雀頭尾A	A類	14.6+	10.5+	2.5	-部	57	76	A-2
278	K176	蓮花文雀頭尾A	A類	6.0+	5.1+	欠損(2.1)	-部	57	77	A-3
279	K183	鷲尾B	B類	6.2+	9.0+	2.3~3.8	-部	57	75	
280	K184	鷲尾B	B類	15.0+	7.7+	3.4~5.5	-部	57	76	
281	K189	鷲尾B	B類	20.9+	12.1+	2.4	-部	57	77	B-3
282	K181	鷲尾B	B類	9.6+	8.5+	2.7~2.9	-部	57	78	B-4
283	K179	鷲尾B	B類	12.2+	12.1+	2.5~2.7	-部	57		B-2
284	K178	鷲尾B	B類	15.8+	13.4+	2.7~3.3	-部	57	76	B-1
285	K130	彫口瓦					1/3	58		
286	K143	博		5.5+	10.3+		岩下	58		
287	K114	博		-	-		瓦当部1/4・角	58		
288	K112	博		4.8+	5.6+		角若干	58		
289	K185	半丸?		12.2+	11.0+	2.4	-部	58	76	
290	K182	半丸?		-	5.1+	2.6	-部	58		

別表6 今宿遺跡近世瓦一覧(1)

報告 No.	実測 No.	器種	瓦当型式	遺構	焼成	瓦当径 (mm)	縁幅 (mm)	縁厚 (mm)	図版	写真図版	備考
291	K031	軒丸瓦	三巴	瓦集積	軟	136.0	18.0	6.5	59	78	
292	K008	軒丸瓦		瓦集積	漿	(136.0)	20.0	3.5	59	78	
293	K115	軒丸瓦		瓦集積	漿	(166.0)	25.0	6.5	59	78	
294	K032	軒丸瓦	三巴	瓦集積	漿	136.0	21.0	5.5	59	78	
295	K004	軒丸瓦	劍鉤張	瓦集積	漿	140.0	22.0	6.0	59	78	
296	K126	軒丸瓦		瓦集積	漿	136.0	23.0	5.0	59	78	

別表6 今宿遺跡近世瓦一覧(2)

報告No.	実測No.	器種	瓦当型式	造構	焼成	全長(cm)	幅(cm)	瓦当厚(cm)	図版	写真図版	備考
419	K034	軒平瓦	青海波	1口SK01	焼	1.2+	10.8+	1.1	66	87	
420	K035	軒平瓦	唐草	4口SK01	焼	8.5+	10.2+	4.1	66	87	
421	K036	軒平瓦	不明	4口SK01	焼	2.2+	6.6+	2.7+		87	

報告No.	実測No.	器種	瓦当型式	造構	焼成	全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	図版	写真図版	備考
297	K1025	丸瓦	玉縁	丸尖船	焼	21.6	12.9	1.6	59	78	
422	K1027	丸瓦	玉縁	4口SK01	焼	13.8+	9.6+	1.3	66	87	
423	K1026	丸瓦	玉縁	4口SK01	焼	13.4+	12.6	1.5	66	87	

別表7 今宿遺跡土器一覧(1)

報告No.	実測No.	造構	種別	器種	産地等	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	腰径(cm)	残存			図版	写真図版	備考
											口縁高	底部	その他			
298	1	瓦足付	洗牛	赤	口縁	(25.8)	2.1+				1/12			60	79	
299	2	瓦足付	洗牛	赤	底部		3.2+	6.0			1/4			60	79	
300	3	瓦足付	十輪舟	赤		9.0	2.8+				1/6			60	79	
301	5	瓦足付	土師器	把手				5.5+						60	79	
302	4	瓦足付	土師器	把手				3.7+						60	79	
303	38	瓦足付	把手器	環蓋		(12.8)	2.9+				1/8			60	80	
304	57	瓦足付	把手器	環蓋		(11.1)	2.7+				1/8			60	80	
305	61	瓦足付	把手器	環蓋		(11.5)	3.0+				1/10			60	80	
306	59	瓦足付	把手器	赤	底部		1.7+	7.5			1/2			60	80	
307	66	瓦足付	把手器	赤	底部		1.9+	6.1			1/4			60	80	
308	63	瓦足付	把手器	赤			1.9+	6.2			1/4			60	80	
309	65	瓦足付	把手器	赤	底部		2.0+	6.4			1/4			60	80	
310	62	瓦足付	把手器	赤			2.0+	7.0			1/4			60	80	
311	64	瓦足付	把手器	赤			2.3+						60	80		
312	68	瓦足付	把手器	赤			2.7+						60	80		
313	60	瓦足付	把手器	赤			2.6+						60	80		
314	52	瓦足付	把手器	赤			7.3						60	80		
315	50	瓦足付	把手器	赤			6.9+	9.4			1/6			60	80	
316	67	瓦足付	把手器	赤			2.7+	(15.6)			1/12			60	80	
317	46	瓦足付	把手器	环B蓋			2.2+						60	80		
318	47	瓦足付	把手器	环B	底部		1.3+	9.4			1/6			60	80	
319	51	瓦足付	把手器	赤	底部		1.9+	6.8			1/2			60	80	
320	68	瓦足付	把手器	赤		(18.0)	2.1+				1/16			60	80	
321	49	瓦足付	把手器	把手赤	口縁	(15.2)	2.5+							60	80	
322	53	瓦足付	把手器	赤	口縁	(25.8)	6.9+				1/12			60	80	
323	55	瓦足付	把手器	赤	口縁		5.5+						60	80		
324	54	瓦足付	把手器	赤	口縁		8.2+						60	80		
325	56	瓦足付	把手器	赤	口縁								60	80		
326	101	瓦足付	把手器	赤		長4.8-	2.3+	盤6.9+						60	80	
327	6	瓦足付	十輪舟	赤	底部		2.2+	7.4			1/2			61	79	
328	7	瓦足付	十輪舟	赤	底部		1.9+	5.8						61	79	
329	8	瓦足付	土師器	赤	底部		2.6+	5.0			1/2			61	79	
330	19	瓦足付	把手器	赤	底部		1.7+	4.4			1/3			61	86	
331	20	瓦足付	把手器	赤	底部		1.6+	5.5			1/2			61	86	
332	18	瓦足付	把手器	赤	口縁	(18.0)	3.4+				1/12			61	86	
333	24	瓦足付	把手器	赤	底部		1.8+	5.0						61	86	
334	17	瓦足付	把手器	赤	口縁	(20.4)	4.3+				1/12			61	86	
335	16	瓦足付	把手器	赤	口縁	(23.9)	3.0+				1/12			61	86	
336	15	瓦足付	把手器	赤	口縁	(22.7)	3.3+				1/18			61	86	
337	14	瓦足付	把手器	赤	口縁	(43.0)	3.0+							61	86	

別表7 今宿遺跡土器一覧(2)

報告 No.	測定 No.	測構	種別	器種	产地等	部位	口徑 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	腰径 (cm)	残 存		団版	写真 団版	備考	
											口縁 底部	口縁 底部				
338	13	瓦渠横	集芯器	甕		口縁	(18.6)	3.3-			1/12		61	86		
339	12	瓦渠横	集芯器	甕		口縁	(24.0)	4.2-			1/8		61	86		
340	26	瓦氣機	奶油器	甕		口縁	(39.0)	8.0-			1/12		61	81		
341	21	瓦氣機	奶油器	甕		底部		6.1-	13.0			1/6		61	86	
342	23	瓦乳核	須芯器	甕		底部		2.9-	10.6			1/6		61	86	
343	22	瓦乳核	須芯器	甕		底部		6.1-	(13.2)			1/12		61	86	
344	25	瓦乳核	須芯器	甕		(9.4)	3.0	5.1			若干	1/3	61	81		
345	28	瓦渠横	集芯器	甕		底部		4.7-	19.0			1/4		61	81	
346	27	瓦渠横	集芯器	甕		底部		8.3-					61	81		
347	111	瓦渠横	陶器	甕		口縁		5.9-				若干		61	83	
348	30	瓦氣機	陶器	甕		口縁	(31.7)	3.9-			1/28		62	82		
349	29	瓦乳核	陶器	甕		口縁	(28.7)	4.2-			1/12		62	82		
350	33	瓦乳核	陶器	甕		口縁	(29.0)	4.7-			若干		62	82		
351	31	瓦乳核	陶器	甕		口縁	(34.0)	5.15-			1/16		62	82		
352	35	瓦渠横	陶器	甕		口縁					若干		62	82		
353	34	瓦渠横	陶器	甕		口縁					若干		62	82		
354	39	瓦氣機	陶器	甕		口縁					若干		62	82		
355	35	瓦渠横	陶器	甕		口縁	(36.6)	4.8-			1/16		62	82		
356	40	瓦乳核	陶器	甕		口縁	(28.8)	4.8-			1/12		62	82		
357	36	瓦乳核	陶器	甕		口縁	(27.0)	4.6-			若干		62	82		
358	41	瓦乳核	陶器	甕		口縁	(25.4)	3.5-			1/12		62	82		
359	38	瓦渠横	陶器	甕		口縁	(26.7)	4.2-			若干		62	82		
360	37	瓦渠横	陶器	甕		口縁	(31.6)	4.3-			1/16		62	82		
361	102	瓦氣機	陶器	甕		口縁	(26.6)	5.9-			若干		63	83		
362	104	瓦渠横	陶器	甕		口縁	(19.6)	3.3-			1/19		63	83		
363	103	瓦渠横	陶器	甕		口縁	(19.8)	4.4-			1/10		63	83		
364	107	瓦乳核	陶器	甕		口縁	(35.8)	4.4-			1/12		63	85		
365	105	瓦乳核	陶器	甕		口縁	(39.4)	3.9-			1/16		63	85		
366	106	瓦渠横	陶器	甕		口縁	(44.0)	6.4-			1/20		63	85		
367	109	瓦渠横	陶器	甕		底部		3.6-	(15.7)			1/8		63	83	
368	108	瓦渠横	陶器	甕		底部		3.5-	(19.8)			1/10		63	83	
369	110	瓦渠横	陶器	甕		底部		5.4-	(33.8)			若干		63	83	
370	69	瓦氣機	青磁	碗	集良窯系	底部		1.8-	5.4			1/4弱		63	85	
371	70	瓦乳核	青磁	碗	集良窯系	底部		1.9-	5.4			2/3弱		63	85	
372	71	瓦乳核	青磁	碗	集良窯系	底部		2.4-	5.9			1/2弱		63	85	
373	72	瓦渠横	青磁	碗	集良窯系	底部		4.0-	6.0			1/3		63	85	
374	73	瓦渠横	青磁	碗	集良窯系	底部		2.4-	6.0			1/2		63	85	
375	9	瓦氣機	上器物	甕			(21.6)	4.8-			1/12		63	79		
376	10	瓦氣機	上器物	甕			22.8	3.1-			1/2		63	79		
377	11	瓦氣機	上器物	甕			(26.0)	3.5-			若干		63	79		
378	91	瓦乳核	瓦盤	甕	L1縁	(35.0)	3.0-				若干		64	84		
379	93	瓦乳核	瓦盤	甕	L1縁	(27.8)	4.0-				1/12		64	84		
380	89	瓦渠横	瓦器	羽釜		(18.0)	3.4-				1/8		64	84		
381	90	瓦渠横	瓦器	羽釜		(18.5)	2.8-				若干		64	84		
382	88	瓦氣機	瓦器	羽釜		(22.3)	4.5-				1/8		64	84		
383	85	瓦氣機	瓦器	羽釜		(33.1)	3.9-				1/18		64	84		
384	86	瓦氣機	瓦器	羽釜				4.6-				脚1/10		64	84	
385	87	瓦乳核	瓦器	羽釜		(34.8)	3.1-					若干		64	84	
386	92	瓦乳核	瓦器	羽釜	L1縁-二足器		2.5-					脚1/18		64	84	
387	91	瓦渠横	瓦器	羽釜		(24.7)	4.8-				1/16		64	84		
388	95	瓦渠横	瓦質上器	甕		脚のみ	8.0-					脚部上半分		64	84	
389	97	瓦氣機	瓦質上器	甕		脚のみ	8.9-					脚部上半分		64	84	
390	96	瓦氣機	瓦質上器	甕		脚のみ	7.7-					脚部上半分		64	84	
391	100	瓦氣機	瓦質上器	甕		脚のみ	10.2-					脚部上半分		64	84	

別表7 今宿遺跡土器一覧(3)

報告 No.	実測 No.	遺構	種別	器種	产地等	部位	口徑 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	腰径 (cm)	残 存		図版	写真 図版	備考		
											口縁 径 底 部	口縁径 底 部					
392	99	丸渠掛	丸貫上器	渠	御のみ		10.3-						御船上2コ	64	84		
393	98	丸渠掛	丸貫上器	渠	御のみ		12.4-						御船上2コ	64	84		
394	83	丸渠掛	上器器	渠	三木町	(24.0)	4.1-				1/8			64	84		
395	84	丸渠掛	丸貫上器	火鉢				8.1-					全体1/8	64	84		
396	82	瓦孔柄	瓦貫十脚	火鉢			(44.2)	5.4-				1/18		64	84		
397	42	瓦孔柄	兩器	粗鉢	偏背	L4縁	(29.3)	5.4-				1/14		65	81		
398	44	瓦孔柄	兩器	粗鉢	偏背	L4縁	(23.8)	7.1-				1/20		65	81		
399	43	瓦孔柄	兩器	粗鉢	偏背	L4縁						若干		65	81		
400	45	瓦孔柄	兩器	粗鉢	偏背	底部	6.1-	13.0				1/5		65	81		
401	116	丸渠掛	兩器	渠	川波	L4縁	(33.8)	3.0-				1/20		65	83		
402	113	丸渠掛	兩器	渠	川波	L4縁	(39.0)	4.9-				1/16		65	83		
403	110	瓦孔柄	兩器	粗鉢	渠・明石	L4縁	(30.4)	5.7-				1/8		65	83		
404	117	瓦孔柄	兩器	粗鉢	渠・明石		3.5-					1/20		65	83		
405	115	瓦孔柄	兩器	渠	底部		2.8	5.1				1/4		65	83		
406	118	瓦孔柄	兩器	渠	底部		4.1-						全体若干	65	83		
407	114	瓦孔柄	兩器	渠	底部		10.2-						全体破片	65	83		
408	112	瓦氣機	兩器	渠	底部		3.4-	(13.9)				1/8		65	83		
409	77	丸渠掛	施釉船器	渠			(10.3)	5.0-	3.8		1/9	若干		65	85		
410	80	瓦孔柄	麥付船器	渠			8.9	4.5-				1/6		65	85		
411	79	瓦孔柄	麥付船器	渠				1.9-	4.2				1/20		65	85	
412	81	瓦孔柄	麥付船器	小碗	東山地	(6.5)	4.5	3.7				若干	1/2	65	85		
413	74	丸渠掛	施釉内器	渠	底部		1.9-	4.4				1/2		65	85		
414	76	丸渠掛	施釉内器	灯明皿			10.6	2.4-	3.2		1/5	若干		65	85		
415	78	瓦氣機	施釉内器	灯明皿			(7.8)	0.9-				1/9		65	85		
416	75	瓦氣機	施釉内器	器			(10.2)	3.6-				1/9		65	85		
417	120	SK01	施釉内器	器				9.4-	18.9				諸欠		65	85	
418	121	SK01	十脚器	粗鉢			24.5	13.4	26.4			一部欠	諸欠		65	85	

別表8 今宿遺跡石器一覧

報告No.	実測No.	種別	器種	全長	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	図版	写真図版	備考
S1	S4	石器	砥石	40.5	33.5	15.5	34.9	67	88	
S2	S1	石器	砥石	58.5	57.5	30.5	177.0	67	88	
S3	S2	石器	砥石	71.0	38.0	36.5	132.7	67	88	
S4	S3	石器	砥石	103.5	54.5	43.0	270.1	67	88	

図

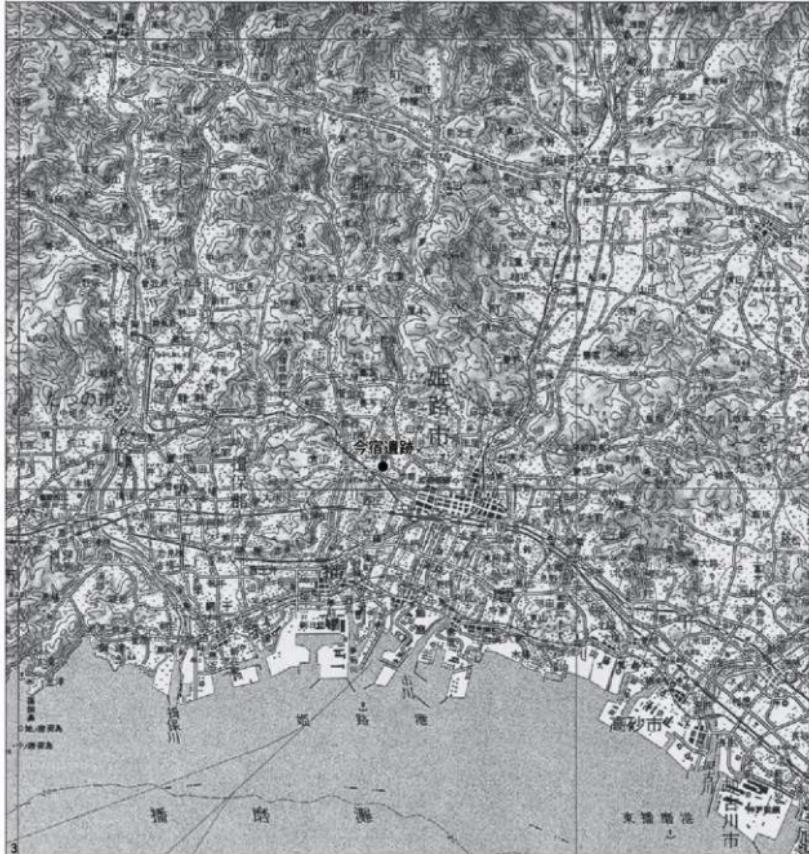
版



1



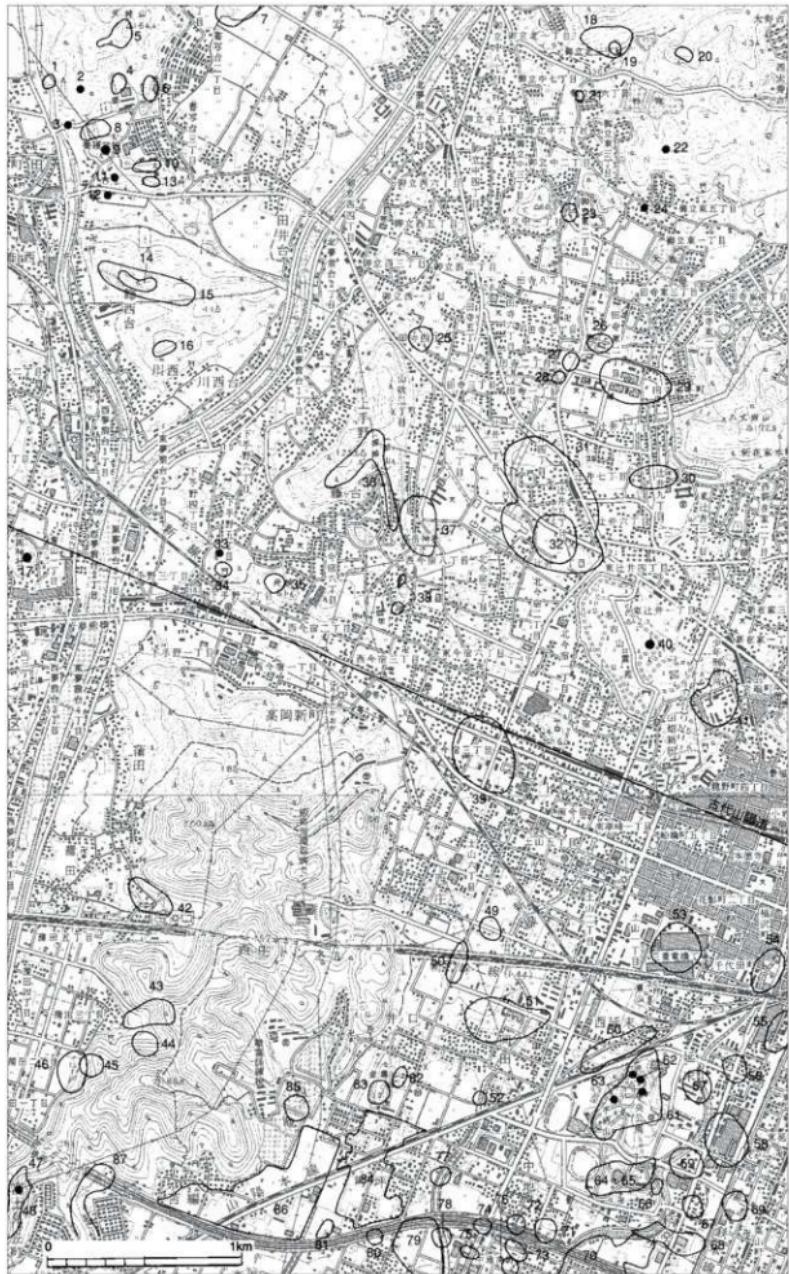
2



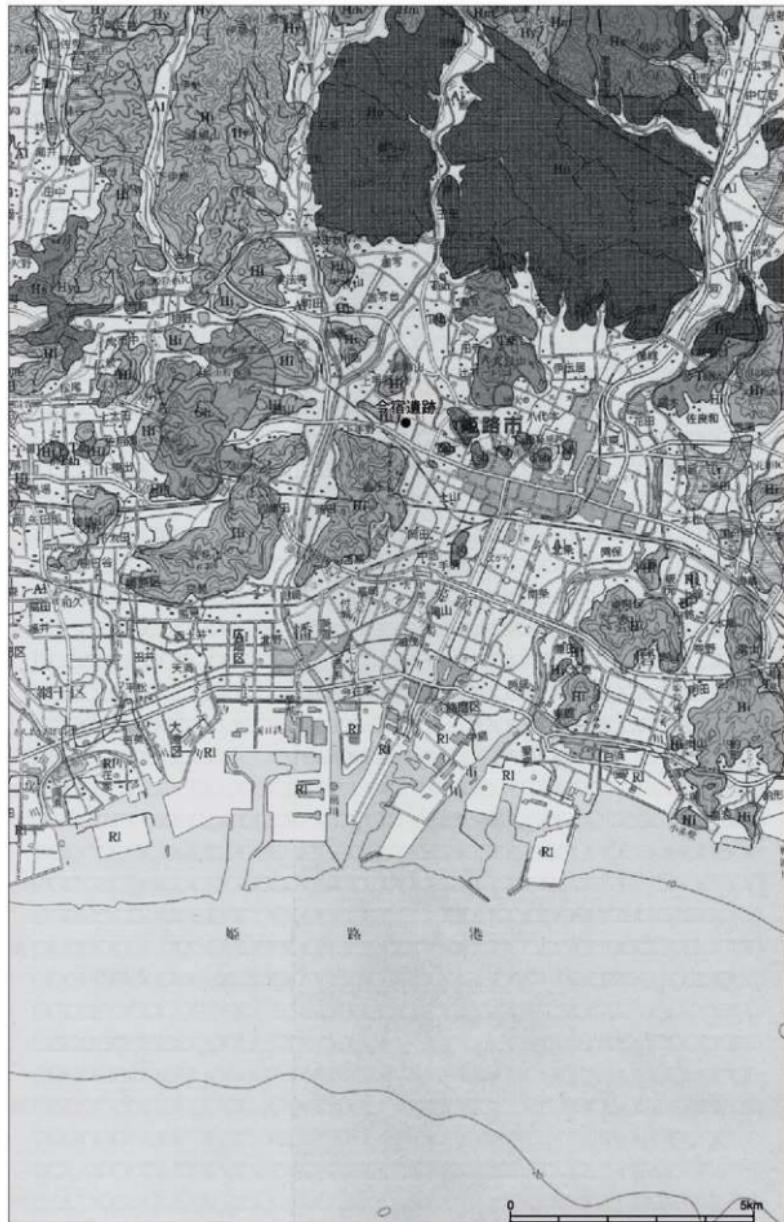
1 兵庫県の位置 2 姫路市の位置 3 今宿遺跡の位置 (1/200,000)

順位	遺跡番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	時代	種類
1	020129	引地廃寺	姫路市安法寺	中世	寺院
2	020130	天神山16号墳	姫路市本庄町	古墳	古墳
3	020133	天神山11号墳	姫路市安法寺	古墳	古墳
4	020131	天神山空跡	姫路市安法寺	古墳	生産
5	020133	天神山城跡	姫路市山口	中世	城館
6	020084~020303	天神山古墳群	姫路市山口南2丁目	古墳	古墳
7	020134~020141	坂本城跡・吉野櫻江酒跡	姫路市吉野町	中世・近世	城館・聚落・陪葬
8	020132	坂尾池遺跡	姫路市町田	古墳	聚落
9	020141	致尾山古墳群	姫路市町田	古墳	古墳
10	020137~020140	致尾山古墳群	姫路市豊岡3丁目	古墳	古墳
11	020143	致尾山古墳群	姫路市田中	平安~中世	古墳
12	020144	致尾山遺跡	姫路市山田		散在地
13	020142	貴船山8号墳墓羣	姫路市山古町	古墳	古墳
14	020148	御西東山遺跡	姫路市南西一古字	近世	聚落
15	020145~020147	東山古墳群	姫路市南西一古字	古墳	古墳
16	020149	川西山生塩墓群	姫路市南西一丁子野	近世	埋蔵
17	020115	鶴見山古墳	姫路市音首	古墳	古墳
18	020201~020211	馬鹿原古墳群	姫路市神立2丁目	古墳	古墳
19	020203	馬鹿原遺跡	姫路市神立3丁目	近世	散在地
20	020212~020213	大谷山古墳群	姫路市神北2丁目	古墳	古墳
21	020202	粉屋遺跡	姫路市舞立8丁目	近世	散在地
22	020195	山古山古墳	姫路市舞立4丁目	古墳	古墳
23	020847	前山遺跡	姫路市舞立2丁目	近世	散在地
24	020201	人浦古墳	姫路市舞立2丁目	古墳	古墳
25	020200	河野遺跡	姫路市山手1丁目	近世	散在地
26	020199	押留遺跡	姫路市山手2丁目	近世	散在地
27	020198	下横造跡	姫路市川之2丁目~川之東2丁目	近世	散在地
28	020197	岸の上古墳	姫路市川之2丁目~川之東2丁目	近世	散在地
29	020196	人谷口古墳	姫路市川之2丁目~川之山手町	近世~近生	散在地
30	020859~020865	山崎山古墳群	姫路市北2丁目	古墳	古墳
31	020162	辻井遺跡	姫路市北2丁目~7丁目	近世~近生~近生	散在地
32	020163	辻井寺跡	姫路市北2丁目~5丁目	奈良~平安	寺院
33	020130	狹父山古墳	姫路市北2丁目~5丁目	古墳	古墳
34	020151	狹父山古墳	姫路市下平2丁目	近世	散在地
35	020132~020153	船崎山古墳群	姫路市下平2丁目	古墳	古墳
36	020136~020159	於山古墳群	姫路市下平2丁目	古墳	古墳
37	020160	山吹遺跡	姫路市下平2丁目	古墳~奈良	古墳
38	020161	今福遺跡	姫路市西今福2丁目	奈良	散在地
39	020165	今福丁田遺跡	姫路市東今福2丁目~4丁目	近世~奈良	散在地
40	020164	名山古山遺跡	姫路市名古山町	近世	集落
41	020572	岩町石古墳	姫路市若瀬町	近世	古墳
42	020377	赤山遺跡	姫路市仁保西~荒田	奈良	散在地
43	020378~020383	山所町集落	姫路市山所町	古墳	古墳
44	020386	山所遺跡	姫路市山所町	近世	散在地
45	020387	山所守寺	姫路市山所町	近世	寺院
46	020388	山所山遺跡	姫路市山所町~鷹狩山	近世	散在地
47	020389	山崎城跡	姫路市山所町~鷹狩山	中世	城館
48	020390~020391	羅城丸溝古墳群	姫路市南陽区山崎	古墳	古墳
49	020432	上山遺跡	姫路市西江	近世	散在地
50	020451	町田遺跡	姫路市同田	古墳	古墳
51	020446	八反長道跡	姫路市同田	近世	集落
52	020445	牧田遺跡	姫路市同田	近世	散在地
53	020433	了代田遺跡	姫路市了代町	近世~近生	散在地
54	020436	向風町古墳	姫路市南風町	近世	集落
55	020435	君川遺跡	姫路市近風	近世	散在地
56	020434	日濱遺跡	姫路市延風2丁目	近世	散在地
57	020441	施羅遺跡	姫路市延風	近世~古墳	集落
58	020440	黒衣遺跡	姫路市東延風	近世~古墳	散在地
59	020439	小山遺跡	姫路山本	近世~占領	集落
60	020444	西延木遺跡	姫路山本	近世	集落
61	020442~020873~020883	手柄山丘陵聚落	姫路山丘陵上	古墳~古墳	散在地
62	020443	手柄山丘陵聚落	姫路山丘陵上	古墳	古墳
63	020872	手柄山丘陵聚落	姫路山丘陵上	古墳	古墳
64	020884	手柄山丘陵遺跡	姫路山丘陵上	古墳	古墳
65	020885~020888	手柄山南丘陵聚落	姫路山丘陵上	古墳	古墳
66	020438	生天神社義理遺跡	姫路山千柄	近世	散在地
67	020436	浜山遺跡	姫路山千柄	近世	散在地
68	020435	竹の前古墳	姫路山千柄	近世~古墳	古墳
69	020437	古屋文化跡	姫路市千柄1丁目	近世~古墳	古墳
70	020432	攸系・船場川東ノ聚落跡	姫路市攸系	近世~古墳	集落
71	020414	長通遺跡	姫路市攸系	近世~古墳	集落
72	020415	朝東遺跡	姫路市川上	近世	集落
73	020413	東久保古墳	姫路山中地	近世	散在地
74	020416	西久保古墳	姫路山中地	近世	散在地
75	020417	中造大神遺跡	姫路山中地	近世	集落
76	020412	人町遺跡	姫路市楠原山南3丁目	近世	散在地
77	020447	丁田遺跡	姫路市中町	近世~古墳	集落
78	020419	中ノ町古跡	姫路市上手	近世	散在地
79	020420	大谷用田(某些地内)遺跡	姫路市中手	近世~中世	集落
80	020421	坂井・大谷用田(某些地内)遺跡	姫路市中手	中世	集落
81	020675	美吉作駅跡(羽黒跡跡跡)	姫路市玉手	中世	聚落
82	020449	日置遺跡	姫路市玉手1丁目	近世	散在地
83	020448	法輪寺山遺跡	姫路市玉手1丁目	近世	散在地
84	020576	免賀駅跡(羽黒跡跡跡)	姫路市町野	平安~中世	集落
85	020450	免賀駅跡(羽黒跡跡跡)	姫路市若葉町	古墳	古墳
86	020578	免賀駅跡(羽黒跡跡跡)	姫路市若葉町・町野・姫路区高町	平安~中世	集落
87	020392~020395~020763~020768	付城山御手湯	姫路市古跡	古墳	古墳

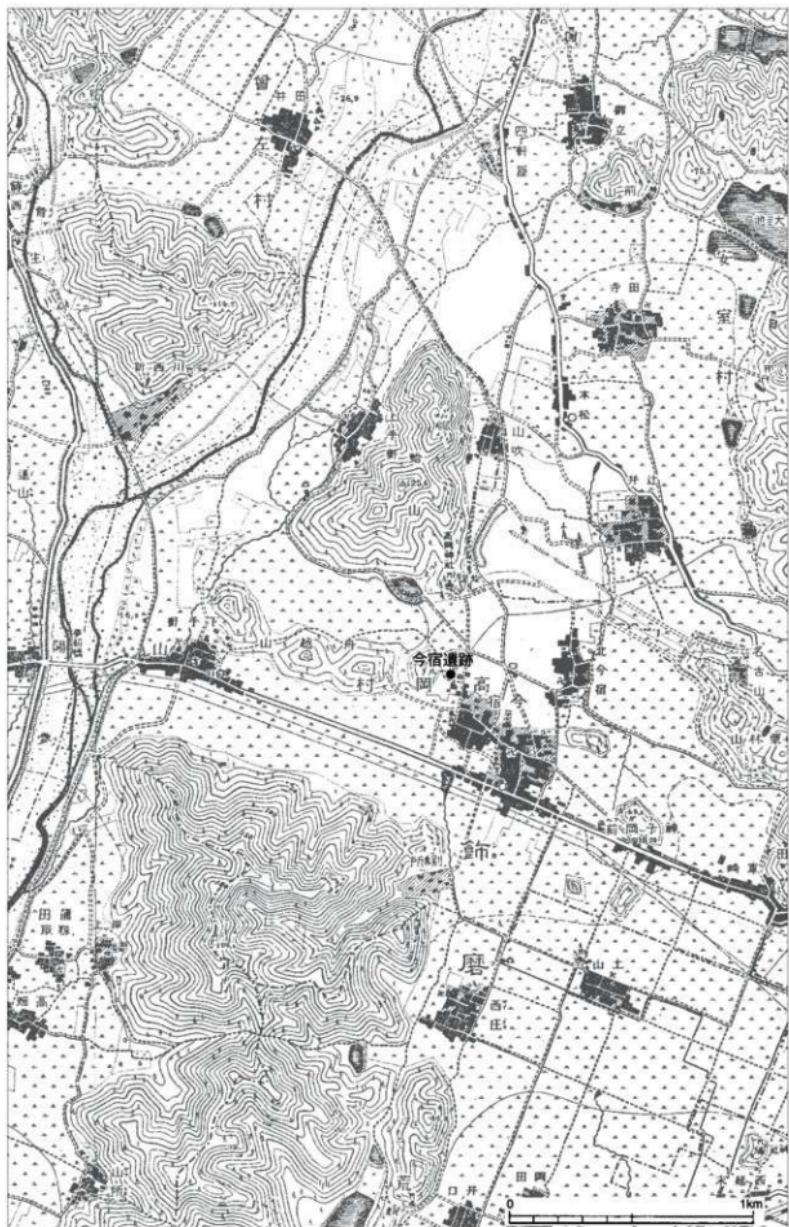
今宿遺跡周辺の主要遺跡一覧



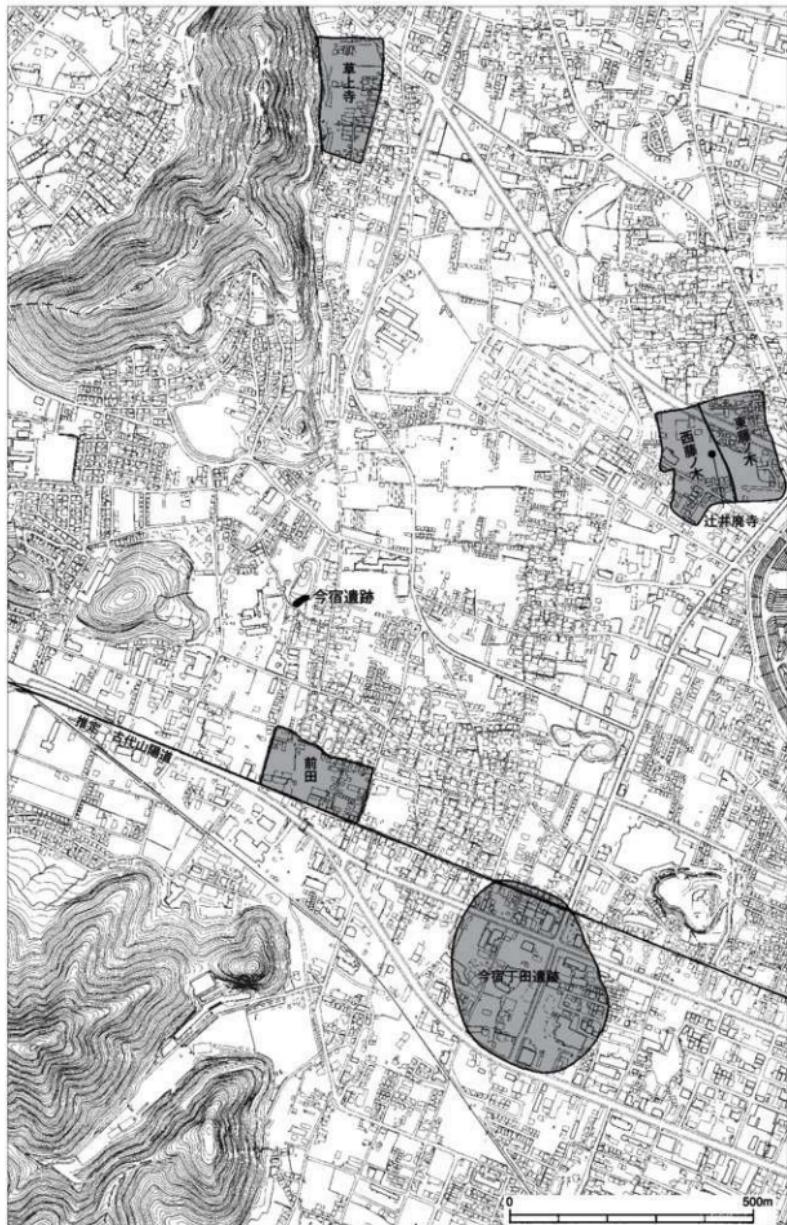
4 今宿遺跡周辺の主要遺跡 (1/25,000)



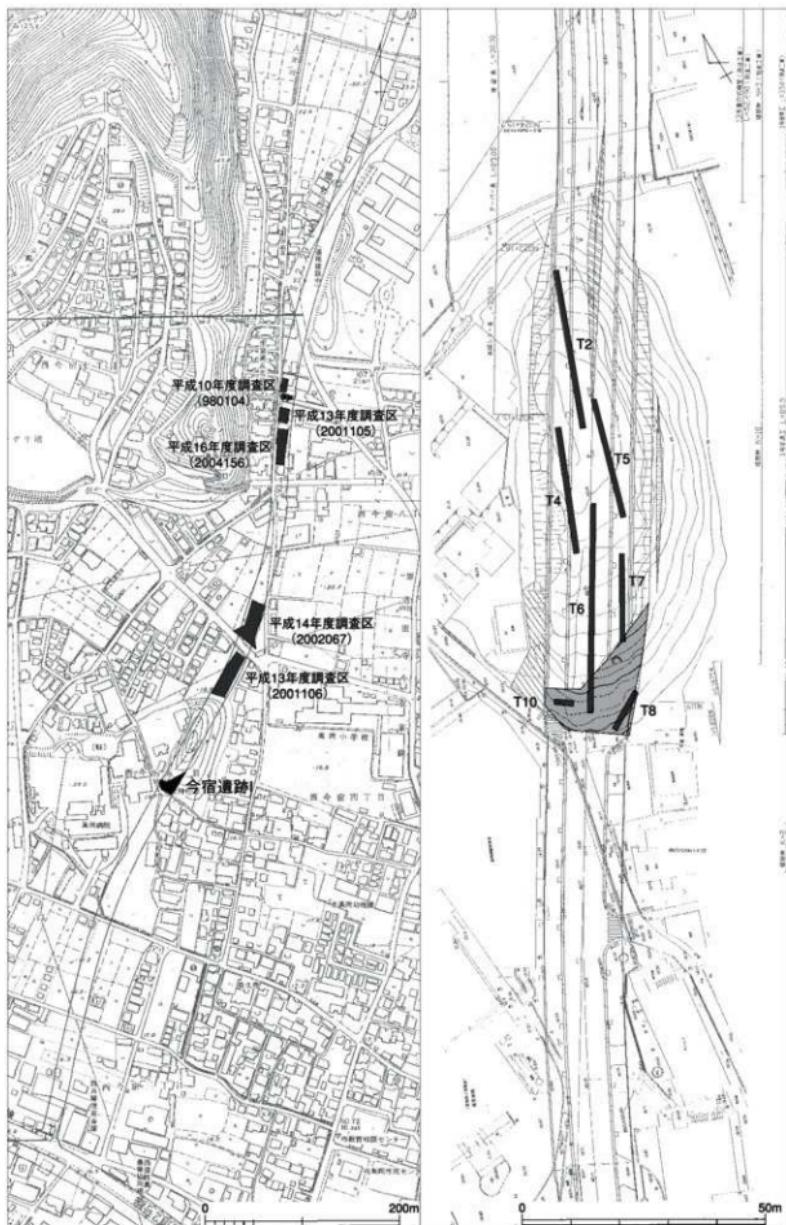
5 今宿遺跡周辺の地質 (1/100,000)



6 明治39年の今宿遺跡周辺 (1/20,000)

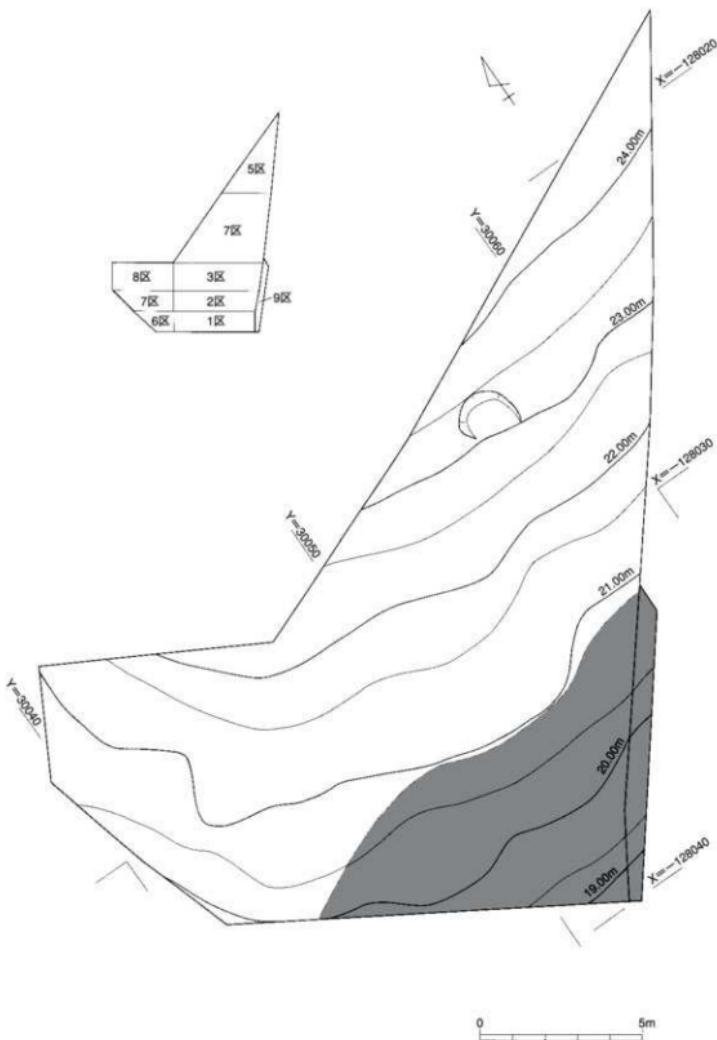


7 今宿遺跡周辺の小字と遺跡 (1/10,000)

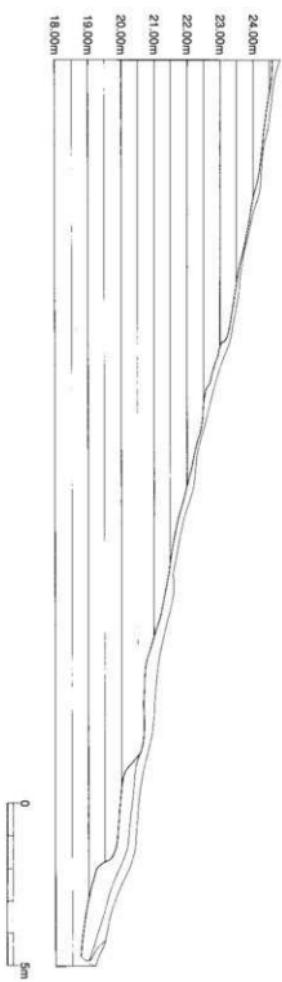


8 山吹線（西今宿工区）調査位置 (1/5,000)

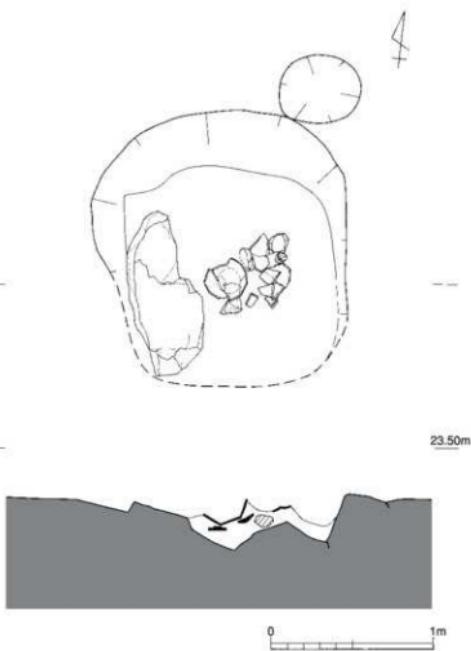
9 今宿遺跡の確認調査と本発掘調査の位置 (1/1,000)



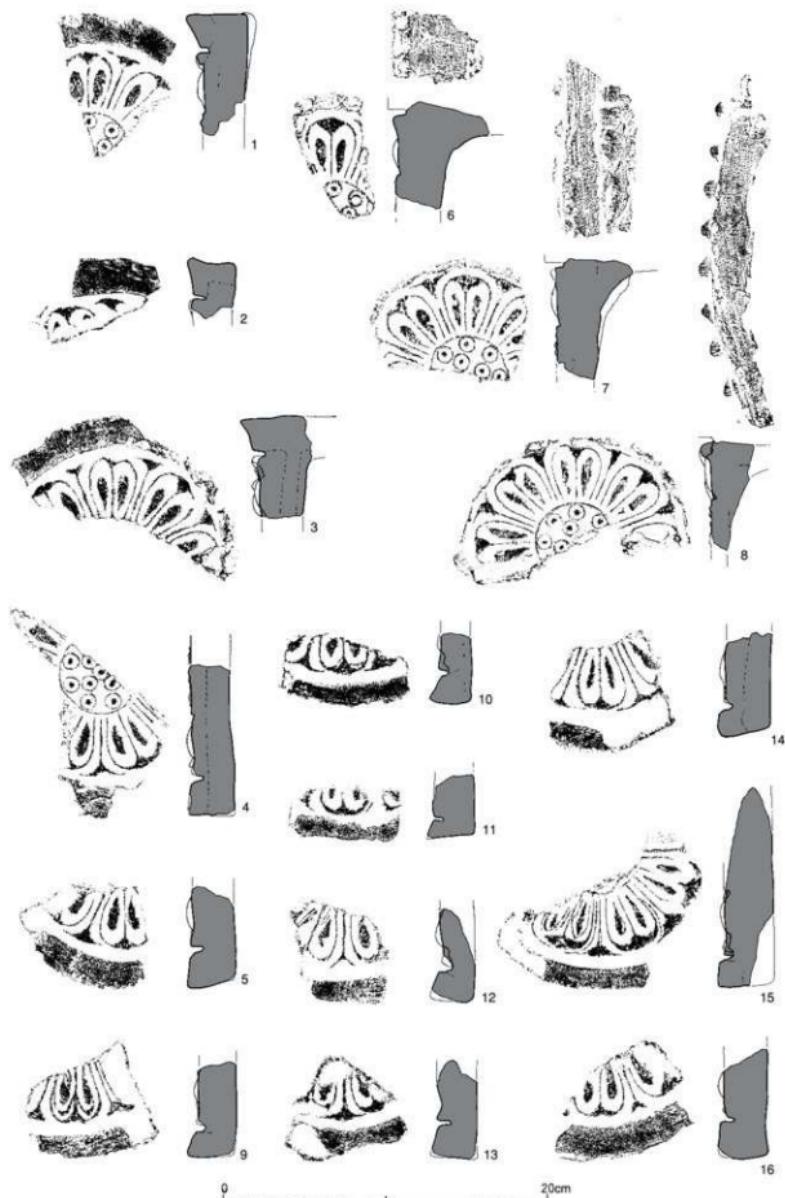
10 遺構配置 (1/150)



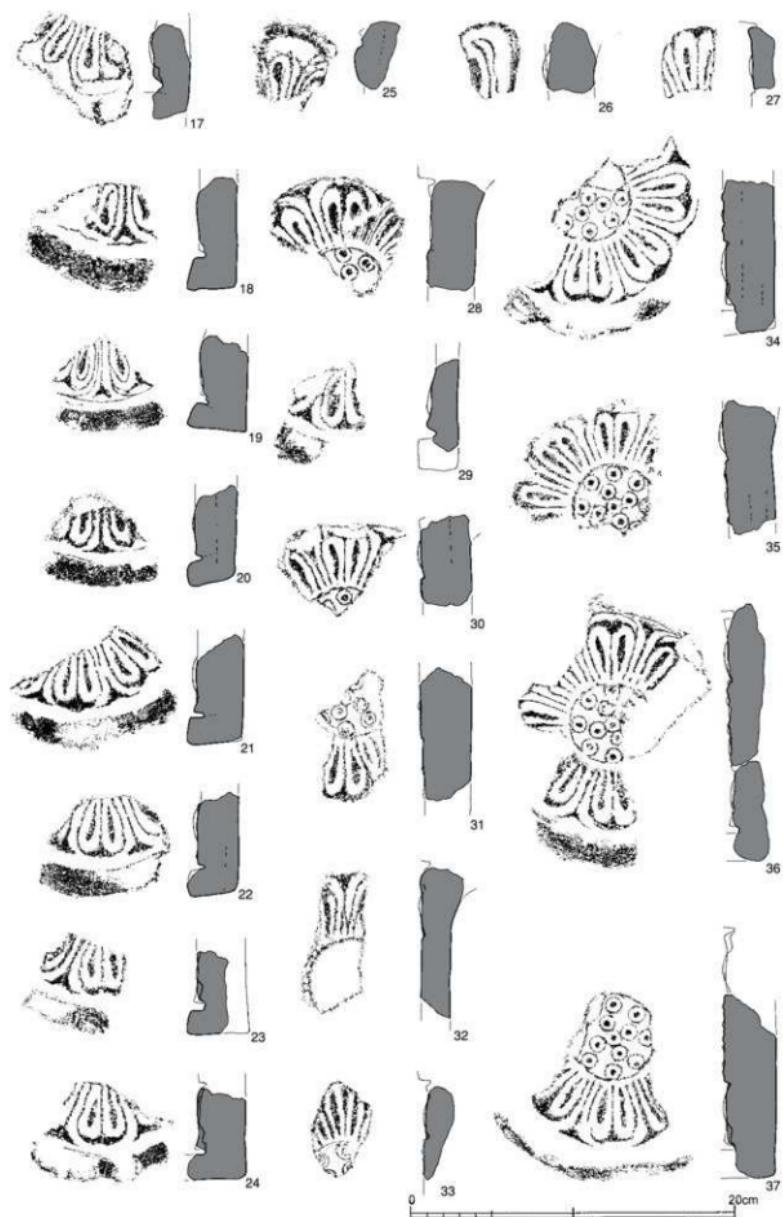
11 土層断面 (1/150)



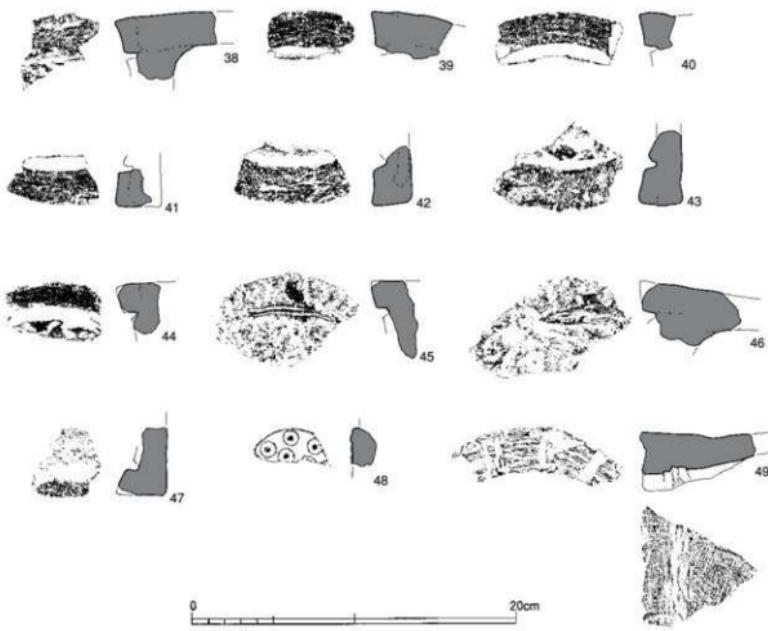
12 土坑SK01 (1/30)



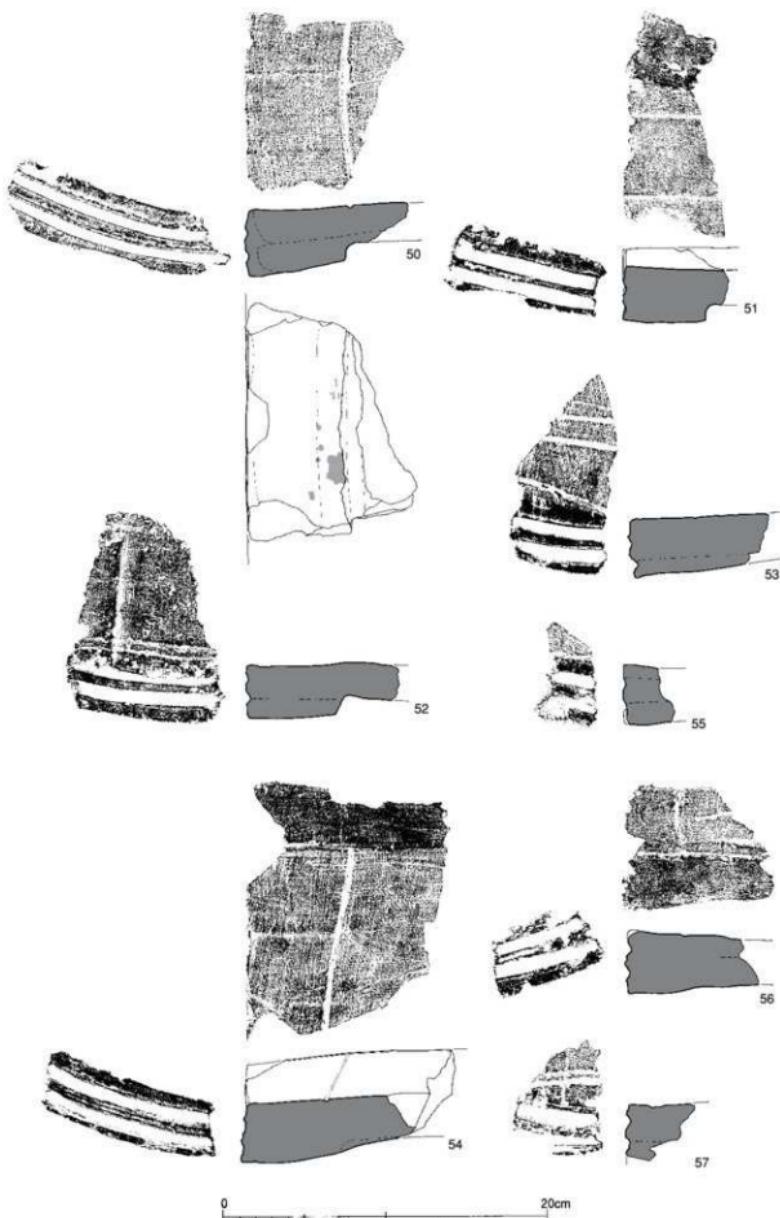
瓦集積 軒丸瓦① (1~16) M1・M2・M3・M4・M5・M6類



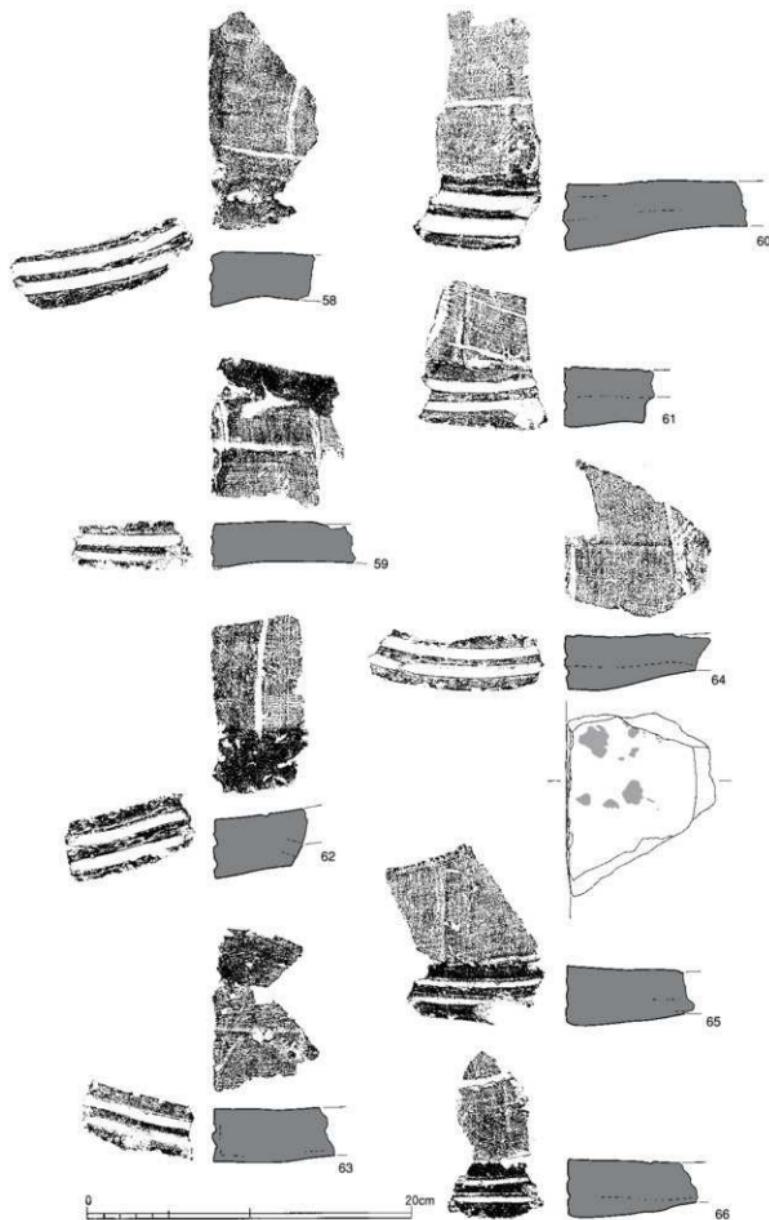
瓦集積 軒丸瓦② (17~37) M4・M5・M7・M8類



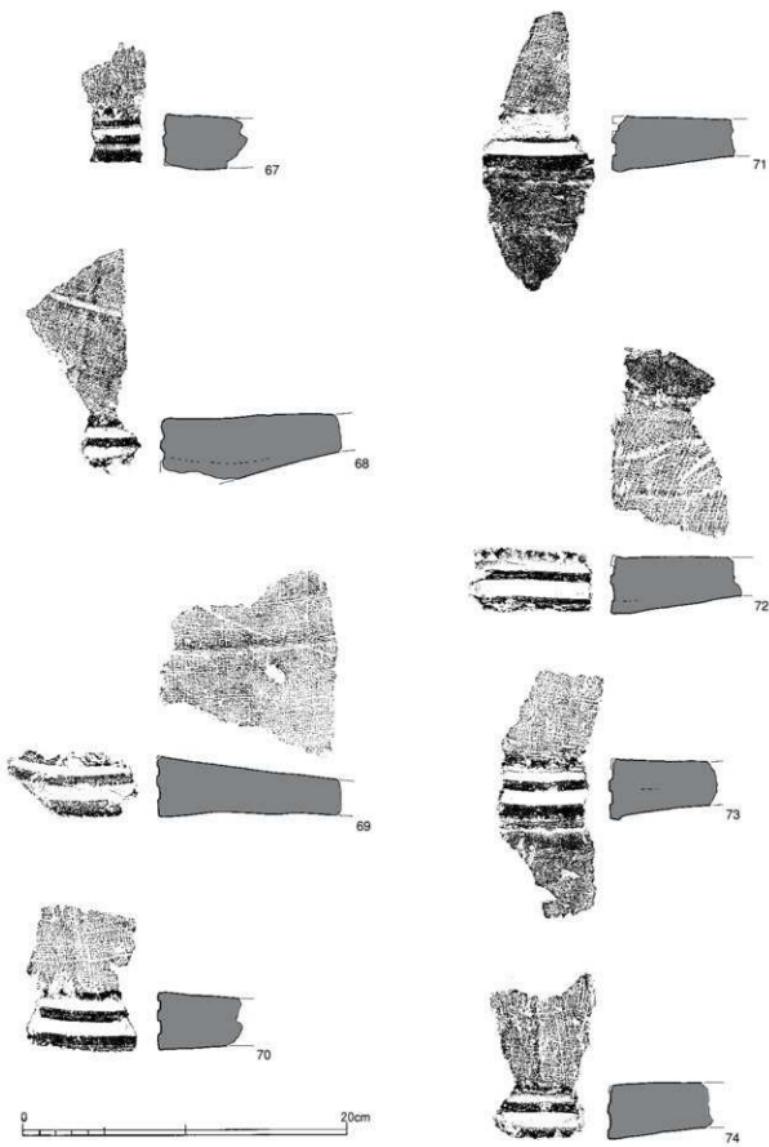
瓦集積 軒丸瓦③ (38~49) M9・M10・M11類



瓦集積 軒平瓦① (50~57) H1・H2・H3・H5類



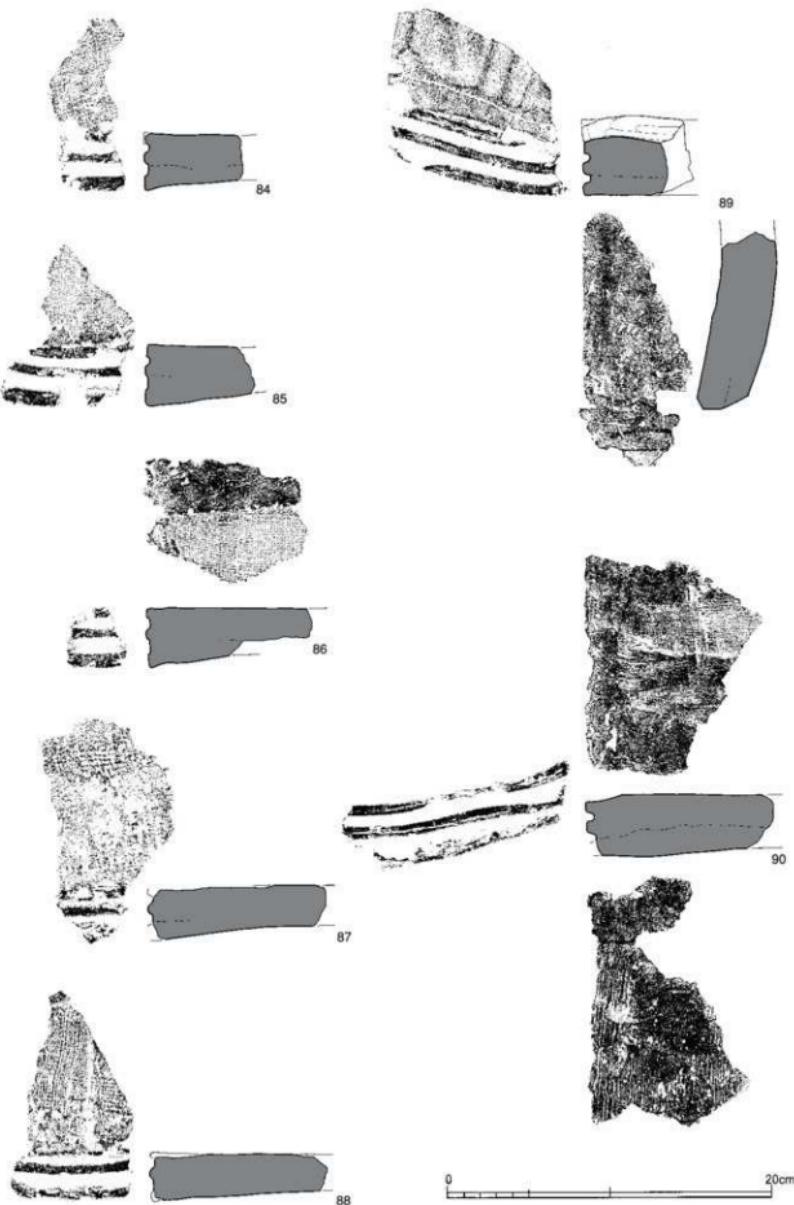
瓦集積 軒平瓦② (58~66) H1・H3・H4・H5・H6類



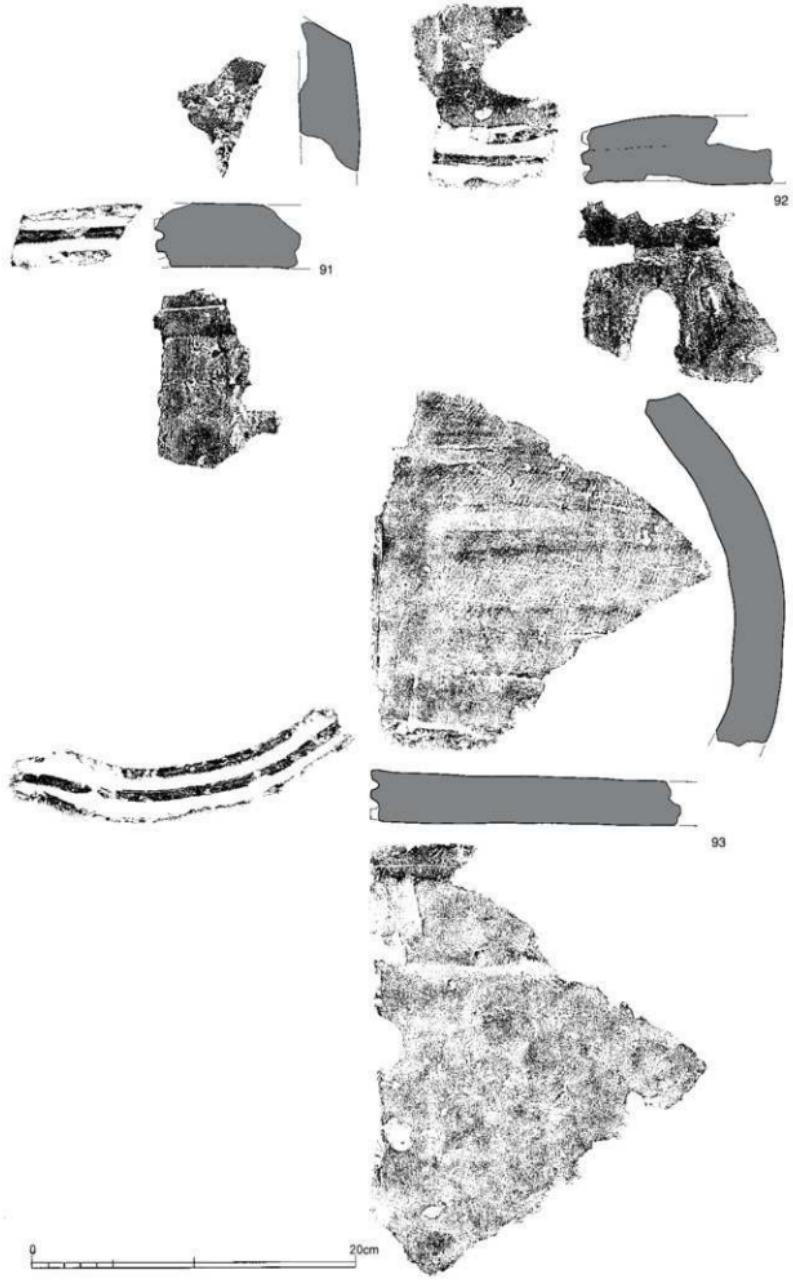
瓦集積 軒平瓦③ (67~74) H5・H6・H7類



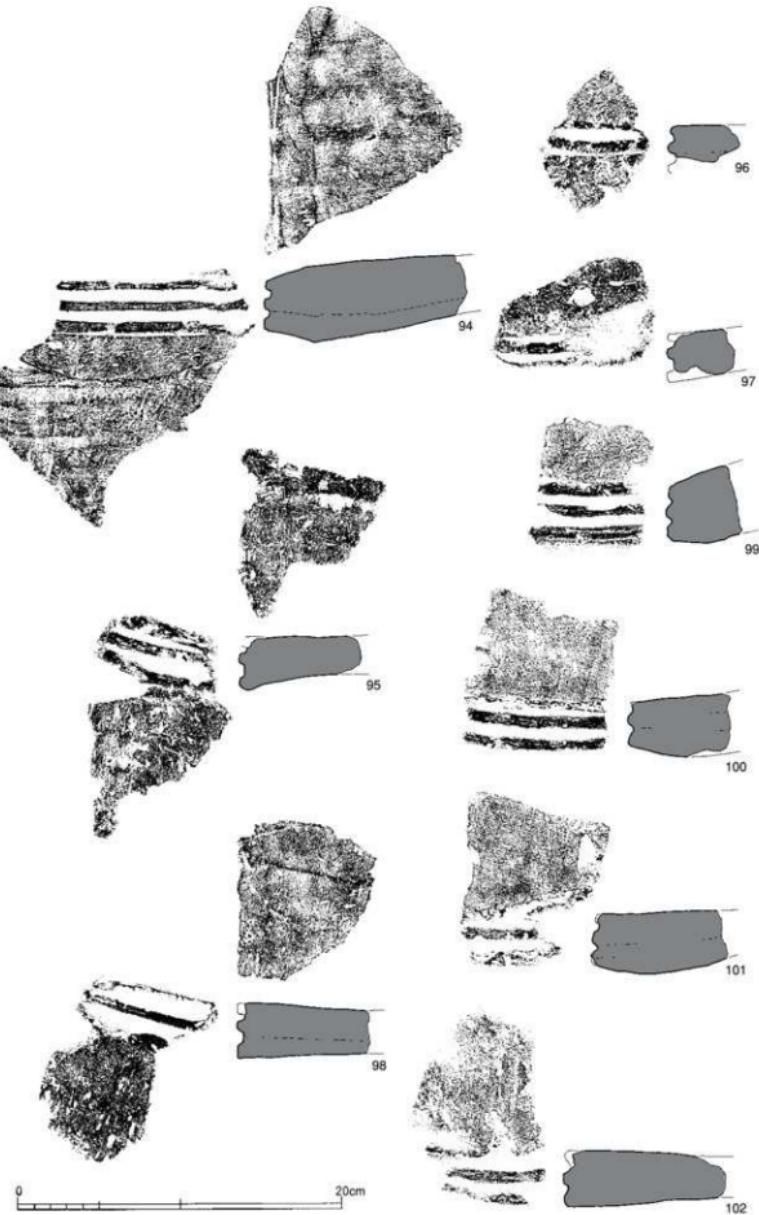
瓦集積 軒平瓦④ (75~83) H7・H8・H9類



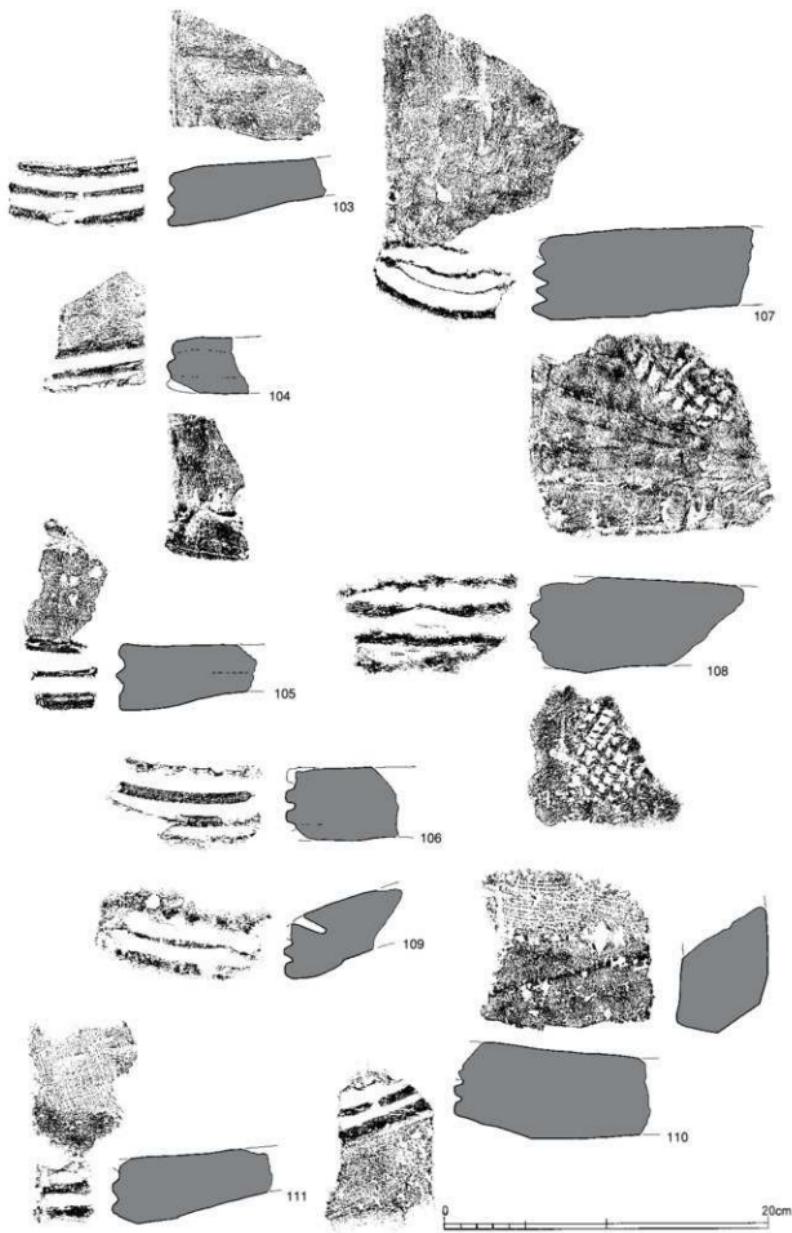
瓦集積 軒平瓦⑤ (84~90) H10・H11・H12類



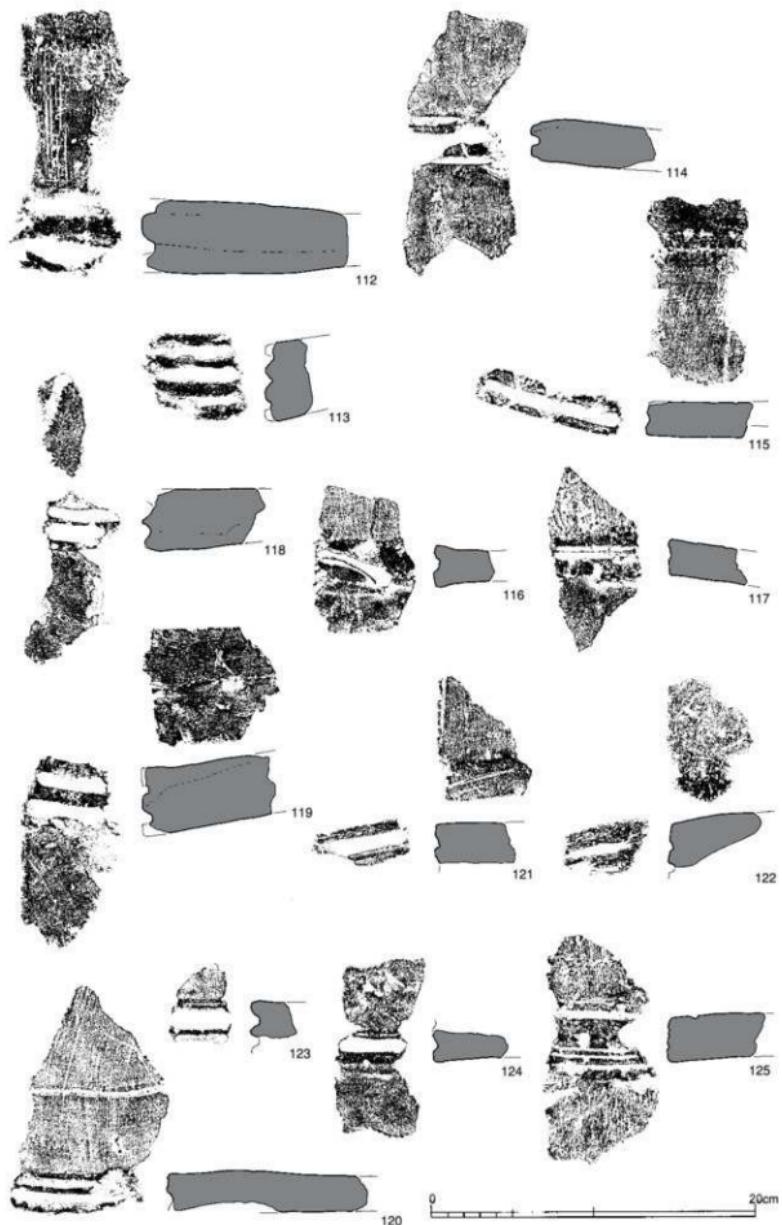
瓦集積 軒平瓦⑥ (91~93) H12類



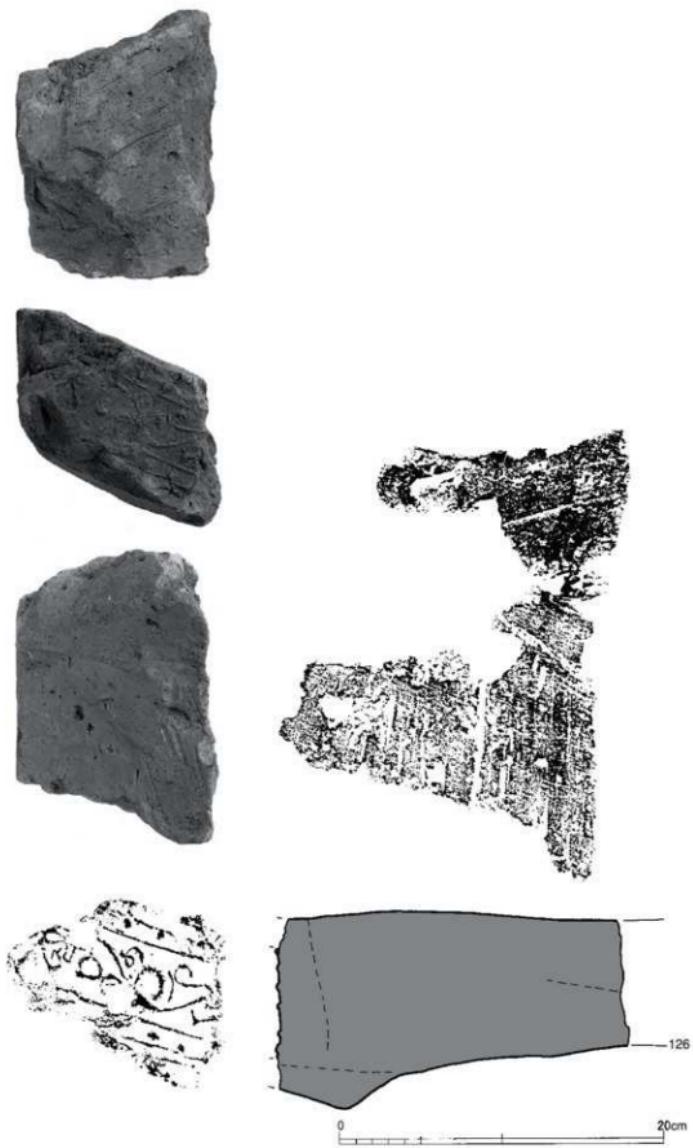
瓦集積 軒平瓦⑦ (94~102) H13・H14・H15・H16・H17類



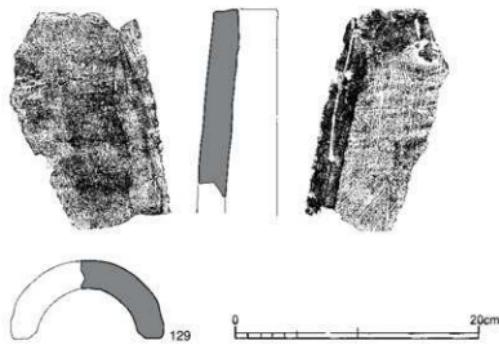
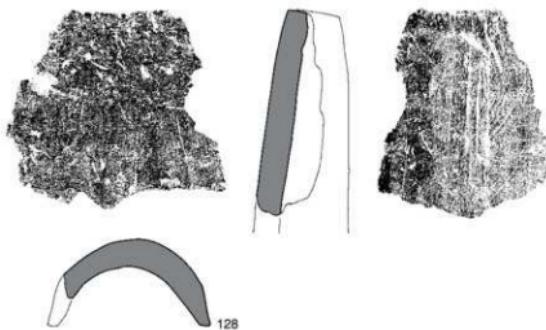
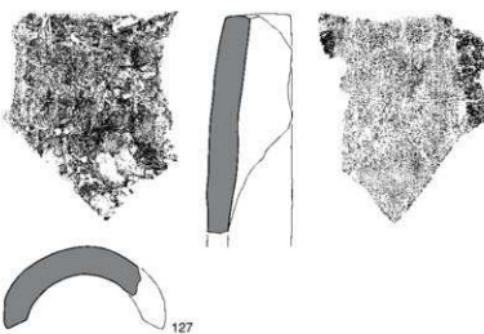
瓦集積 軒平瓦⑧ (103~111) H12・H16・H18・H19・H20・H21・H22・H23類



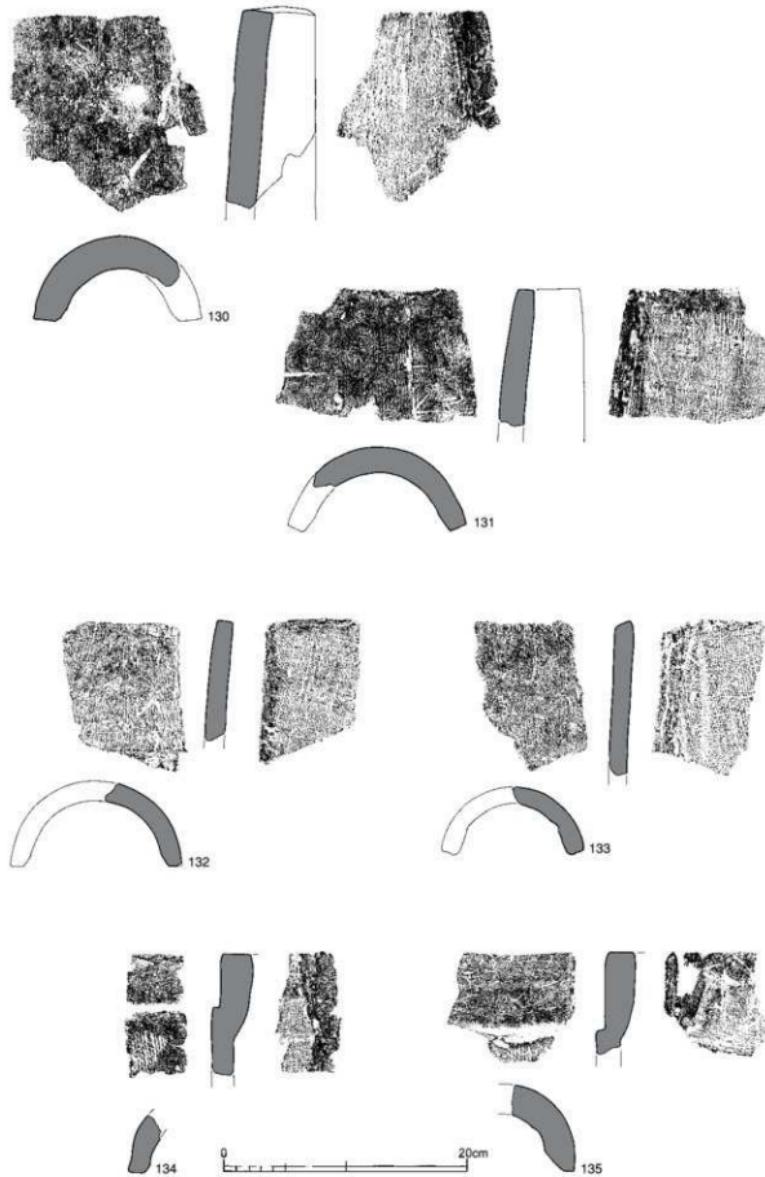
瓦集積 軒平瓦⑨ (112~125) H20・H24・H25・H26・H27・H28・H29・H30・H31・H32類



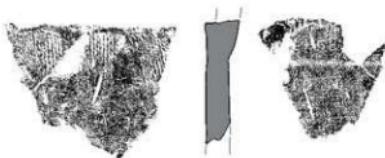
瓦集積 播磨國府系軒平瓦 (126)



瓦集積 丸瓦① (127~129) G1類



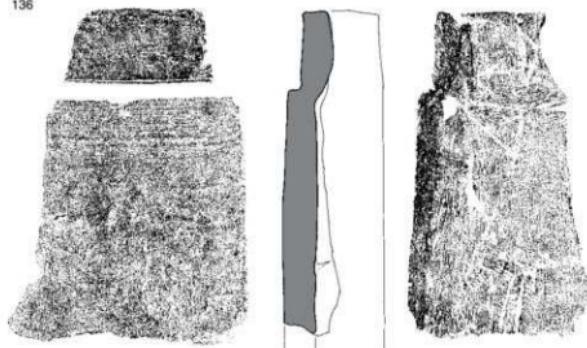
瓦集積 丸瓦② (130~135) G2・T1類



136



136



137



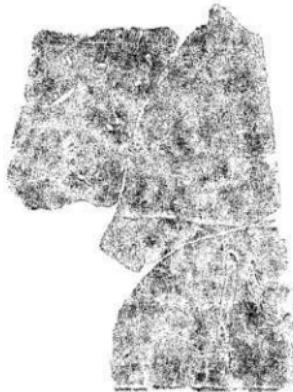
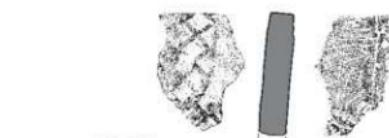
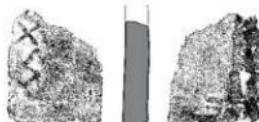
138



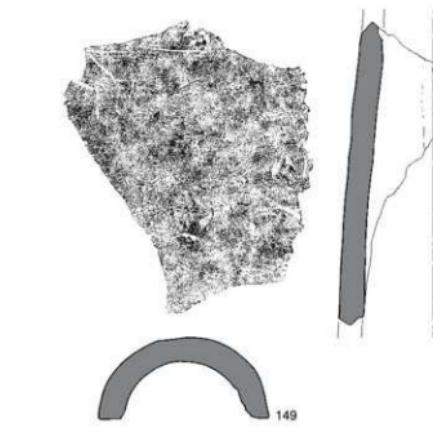
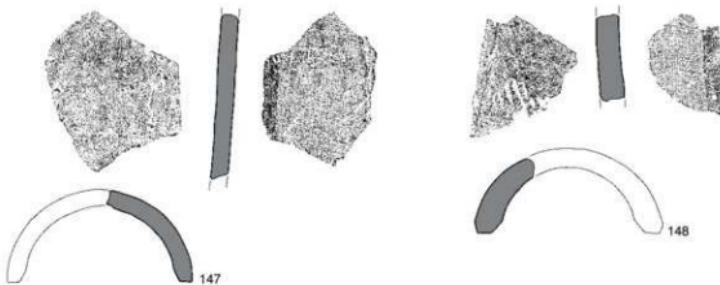
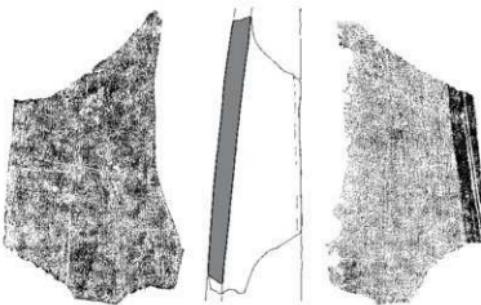
139



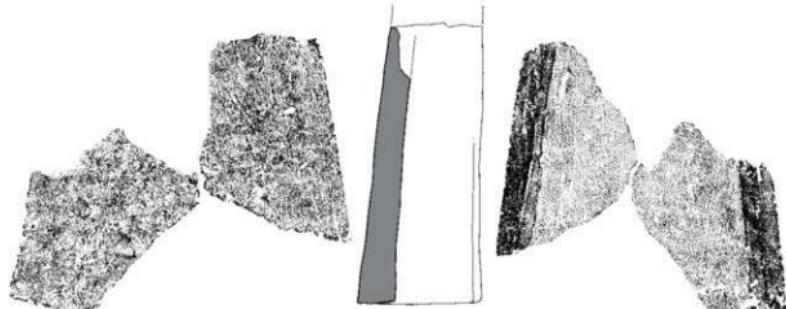
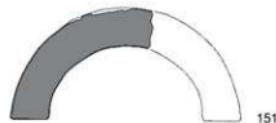
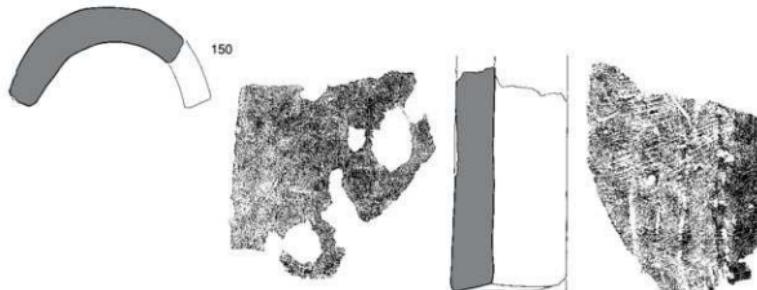
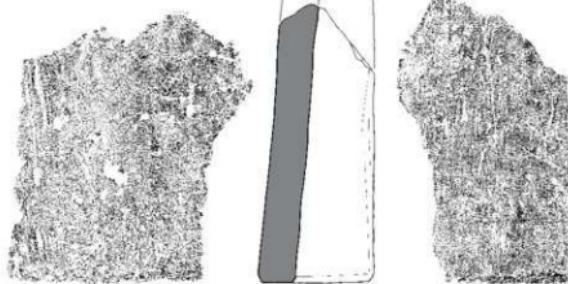
瓦集積 丸瓦③ (136~139) T1・T2類



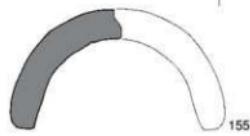
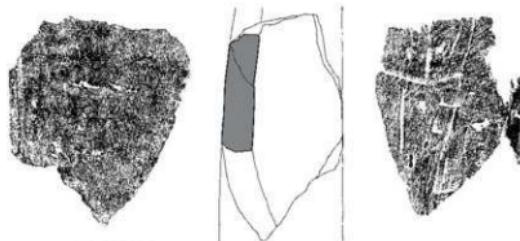
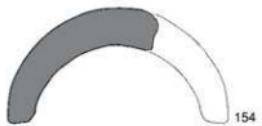
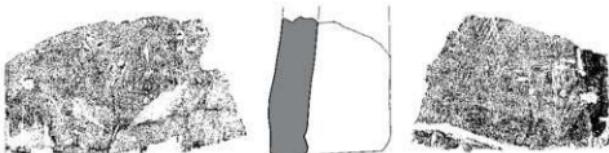
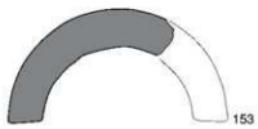
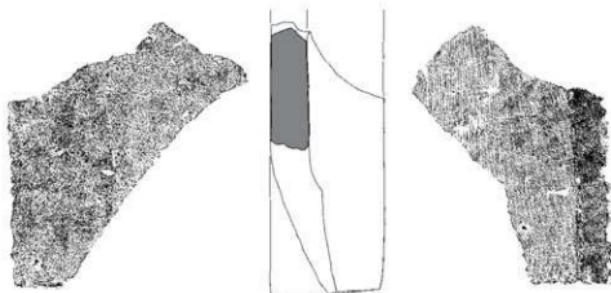
瓦集積 丸瓦④ (140~145) S1・S2・S3類



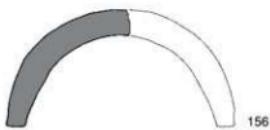
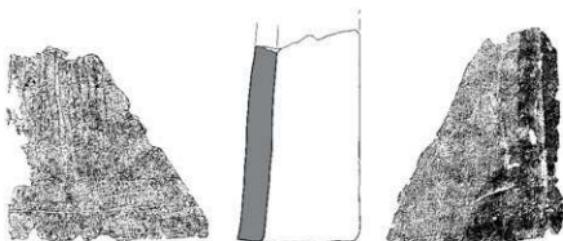
瓦集積 丸瓦⑤ (146~149) S3・S4・S5類



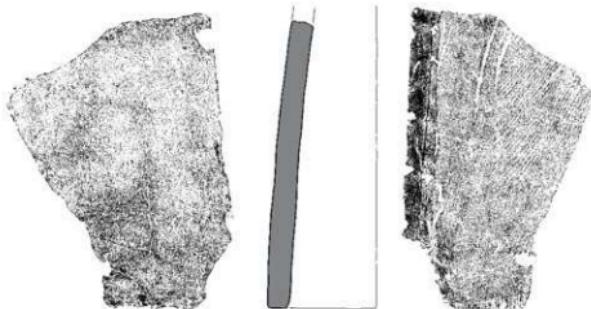
瓦集積 丸瓦⑥ (150~152) S6類



瓦集積 丸瓦⑦ (153~155) S6類



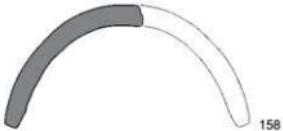
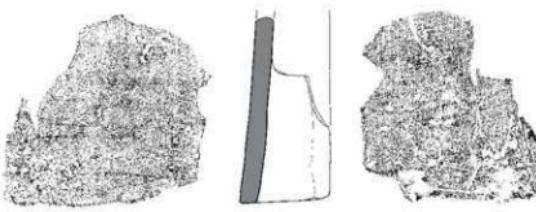
156



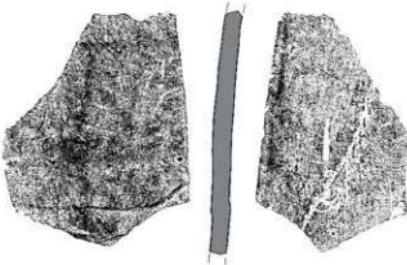
157



瓦集積 丸瓦⑧ (156・157) S6類



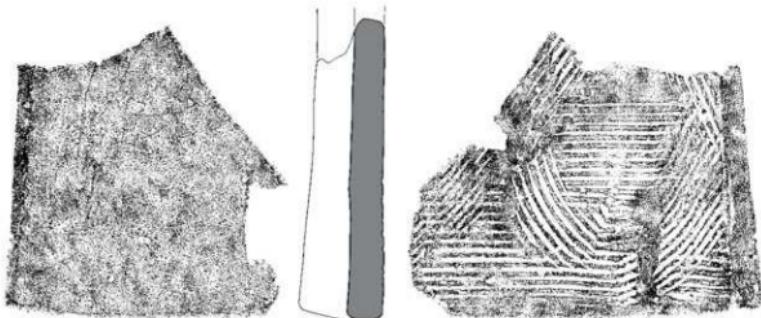
158



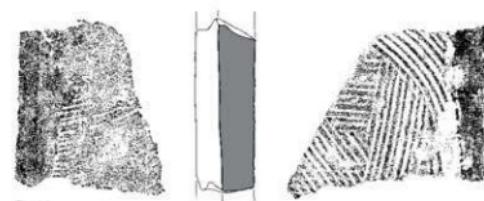
159



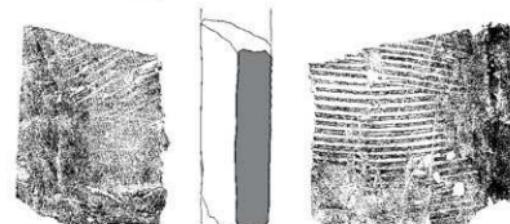
瓦集積 丸瓦⑨ (158・159) S6類



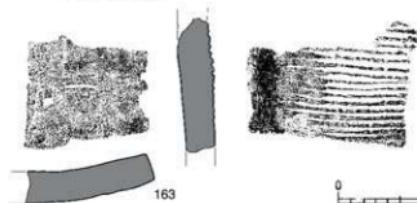
160



161



162



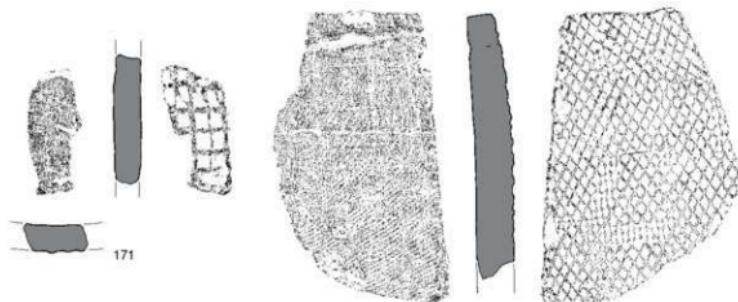
163

0 20cm

瓦集積 平瓦① (160~163) J1類



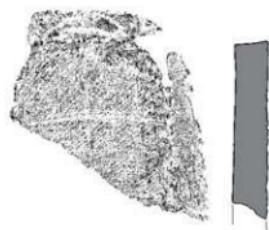
瓦集積 平瓦② (164~170) J2・J3・L1・L2類



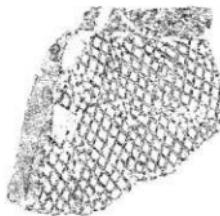
171



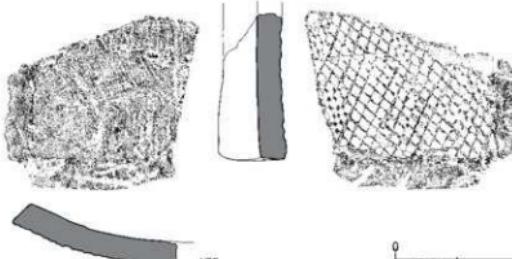
172



173



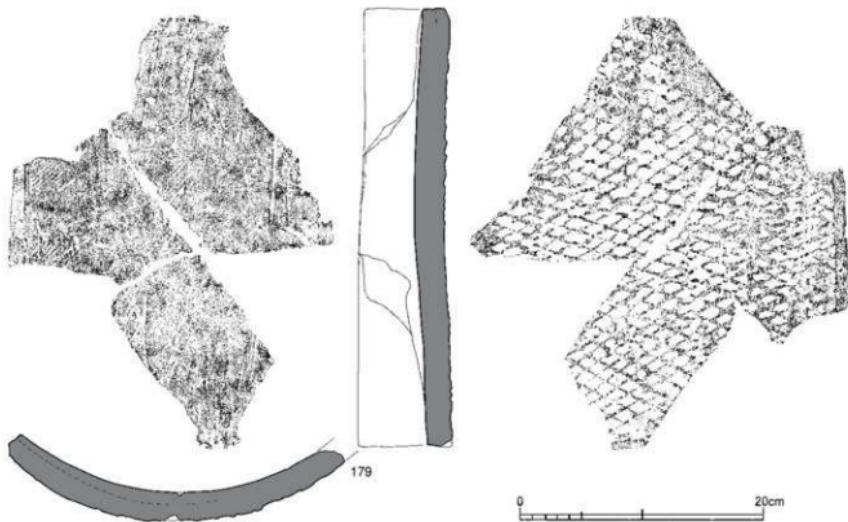
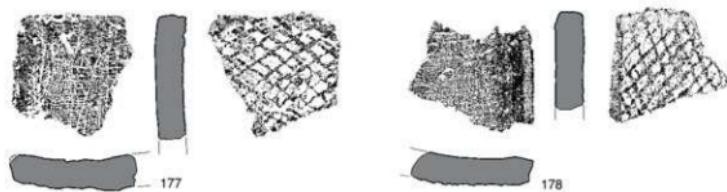
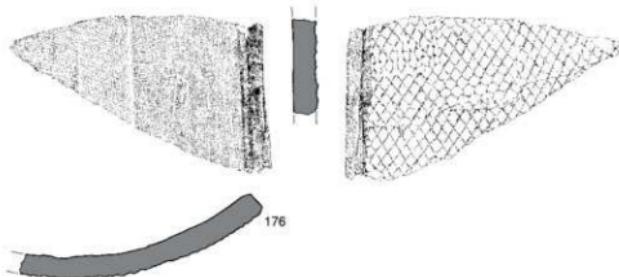
174



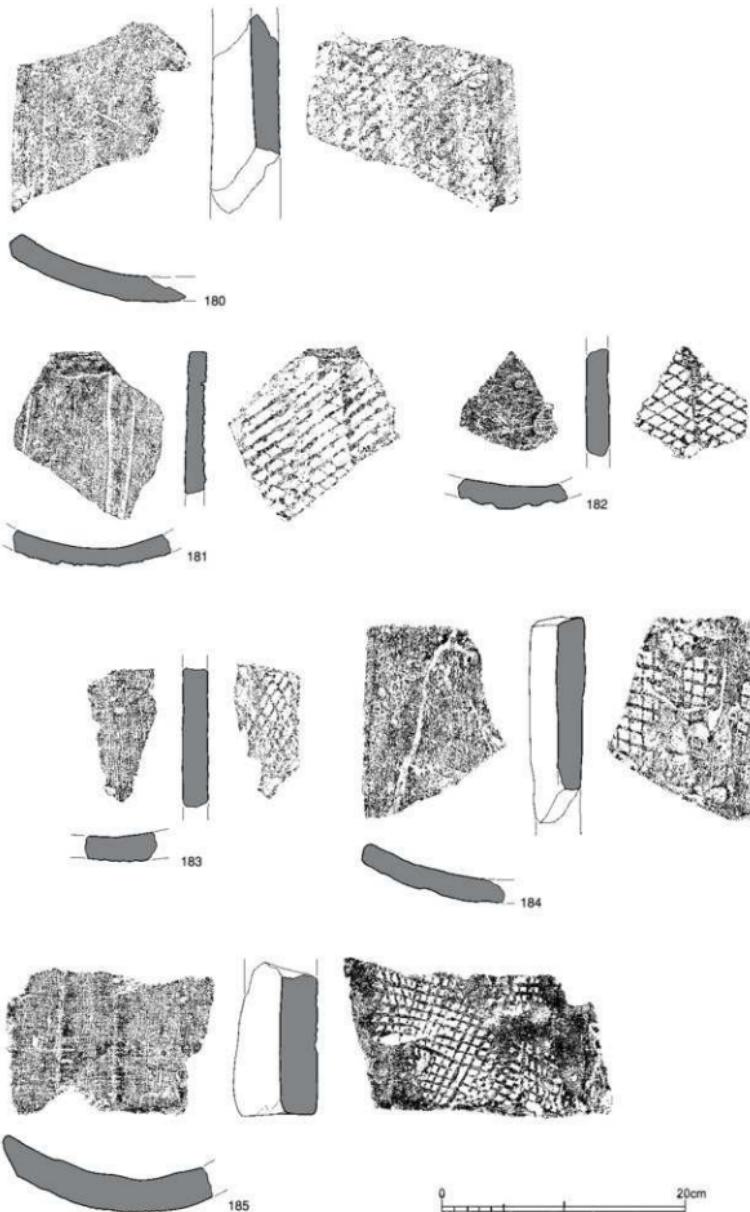
175



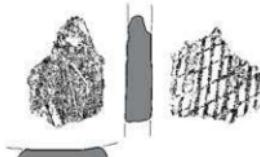
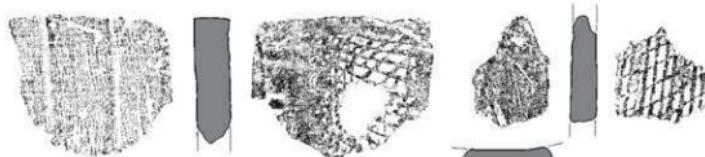
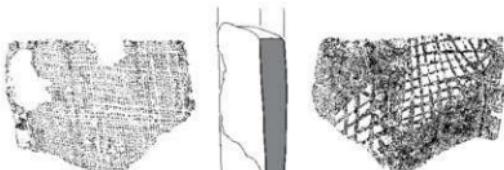
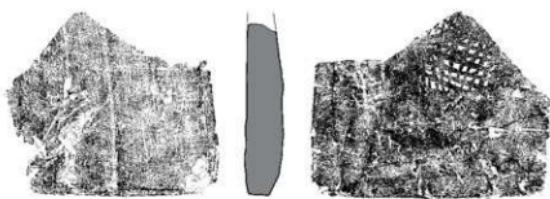
瓦集積 平瓦③ (171~175) K1・K2類



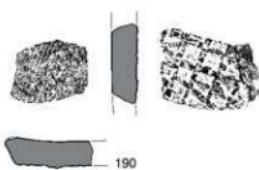
瓦集積 平瓦④ (176~179) K2・K3・K4・K5類



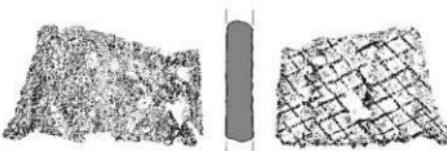
瓦集積 平瓦⑤ (180~185) K5・K6・K7・K8・K9類



189



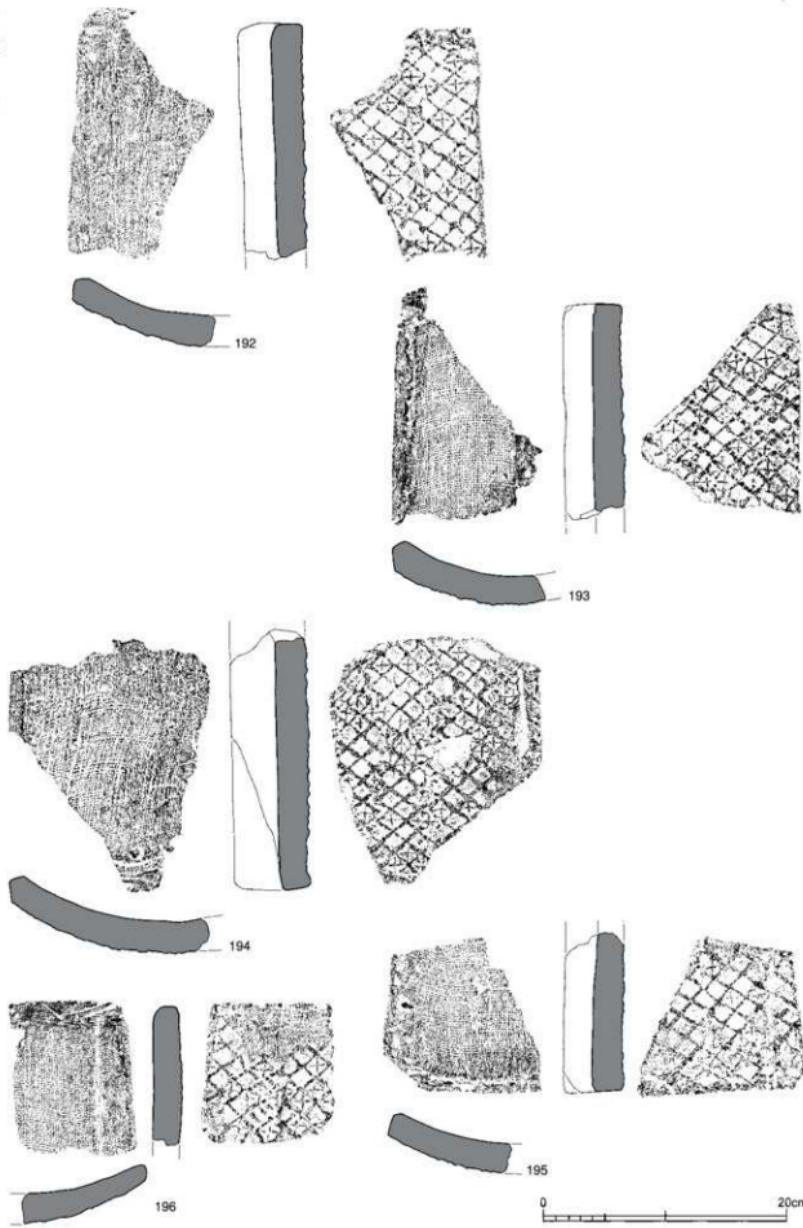
190



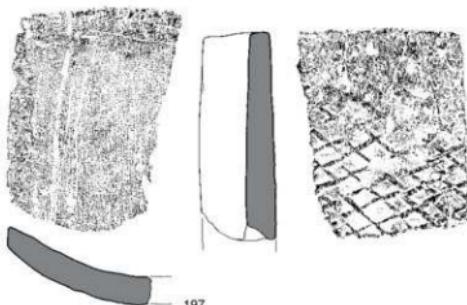
191



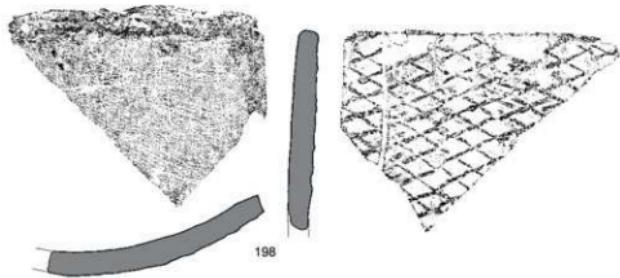
瓦集積 平瓦⑥ (186~191) K9・K10・K11・K12類



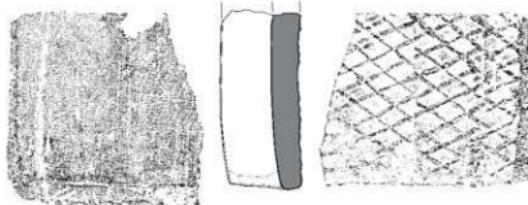
瓦集積 平瓦⑦ (192~196) K13類



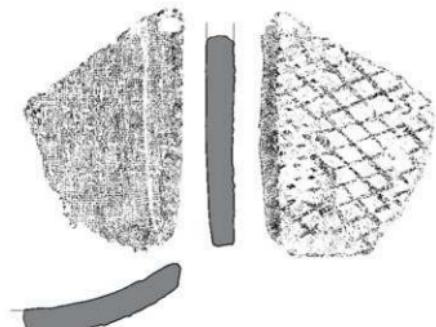
197



198



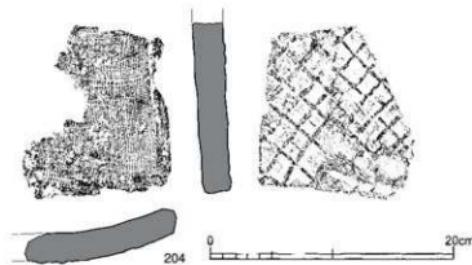
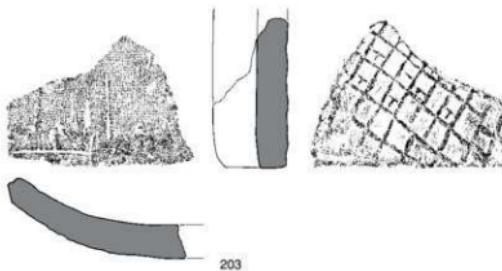
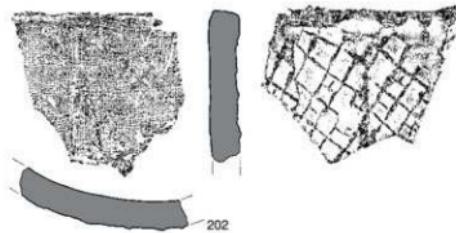
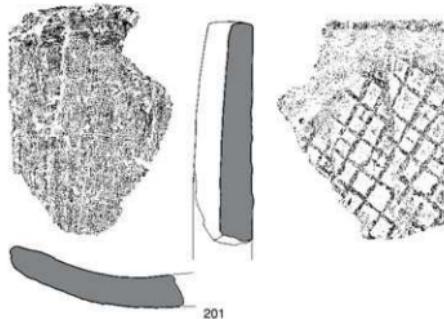
199



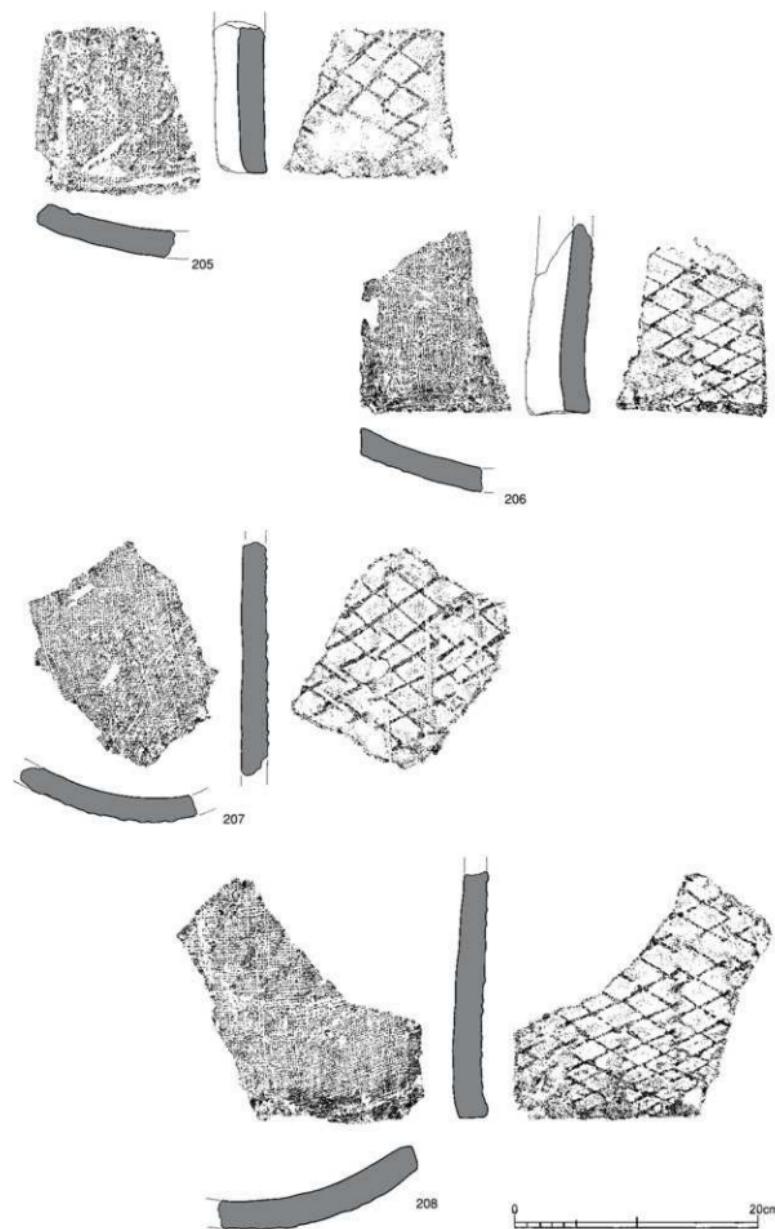
200



瓦集積 平瓦⑧ (197~200) K14類

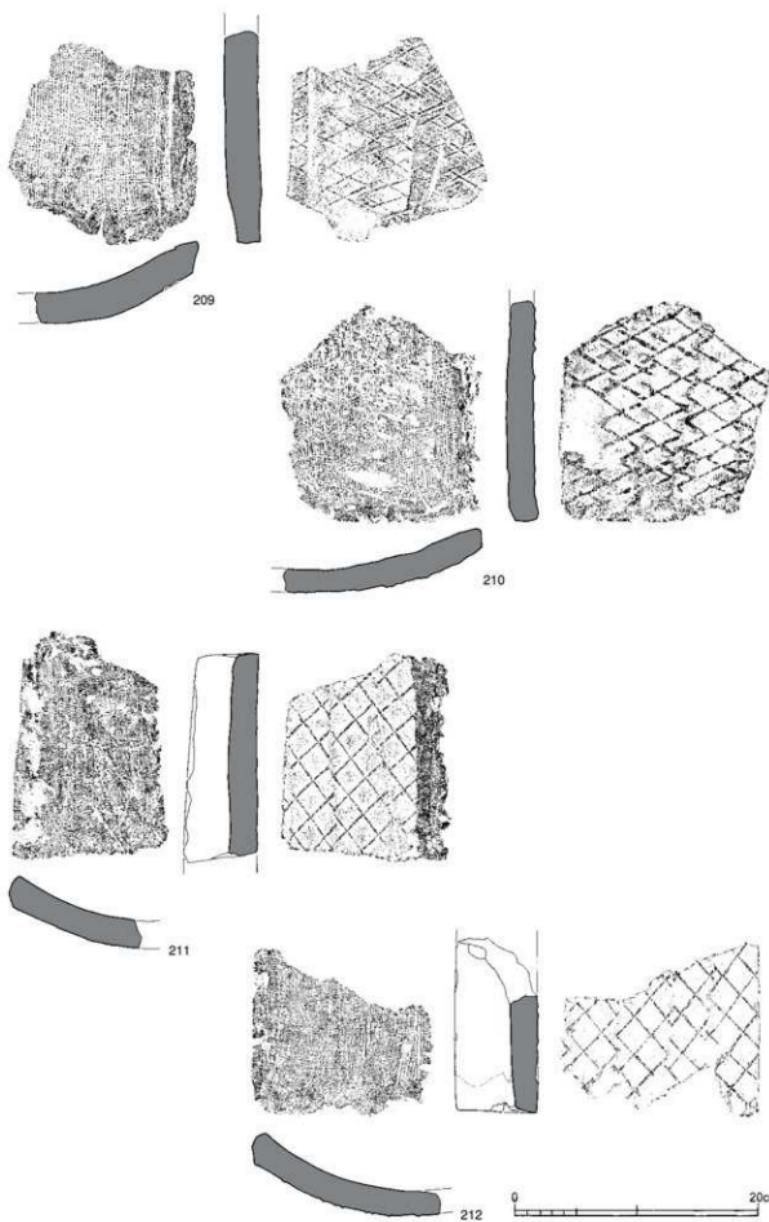


瓦集積 平瓦⑨ (201~204) K15類

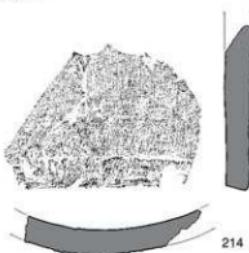
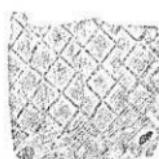
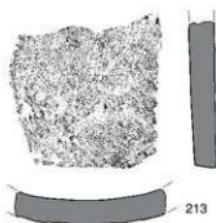


瓦集積 平瓦⑩（205～208）K16類

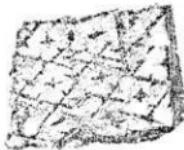
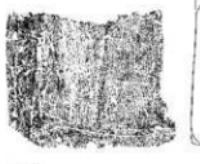
図版 42
遺物



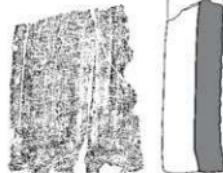
瓦集積 平瓦① (209~212) K16・K17類



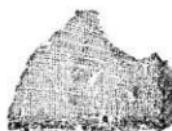
214



215



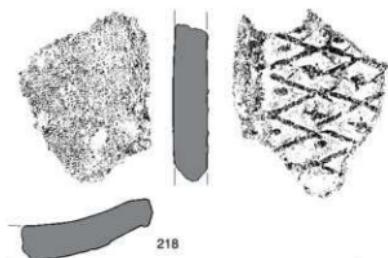
216



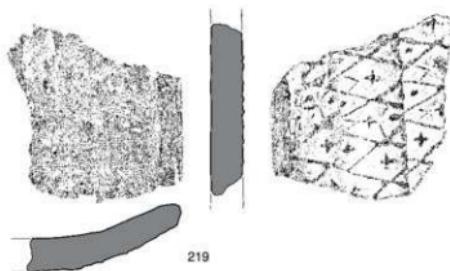
217



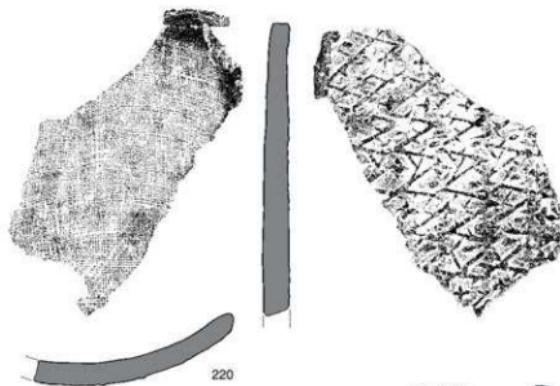
瓦集積 平瓦⑫ (213~217) K17・K18類



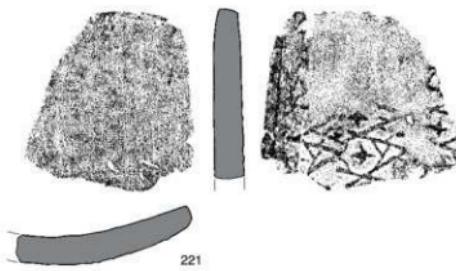
218



219



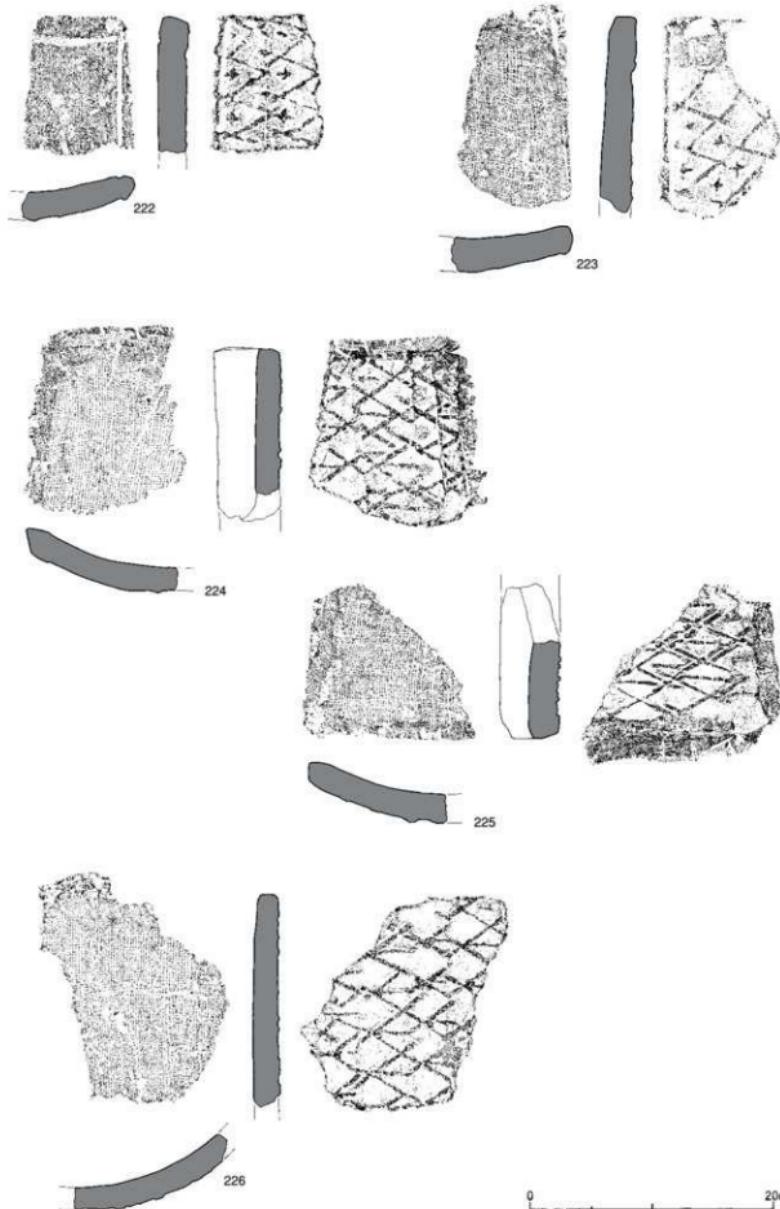
220



221

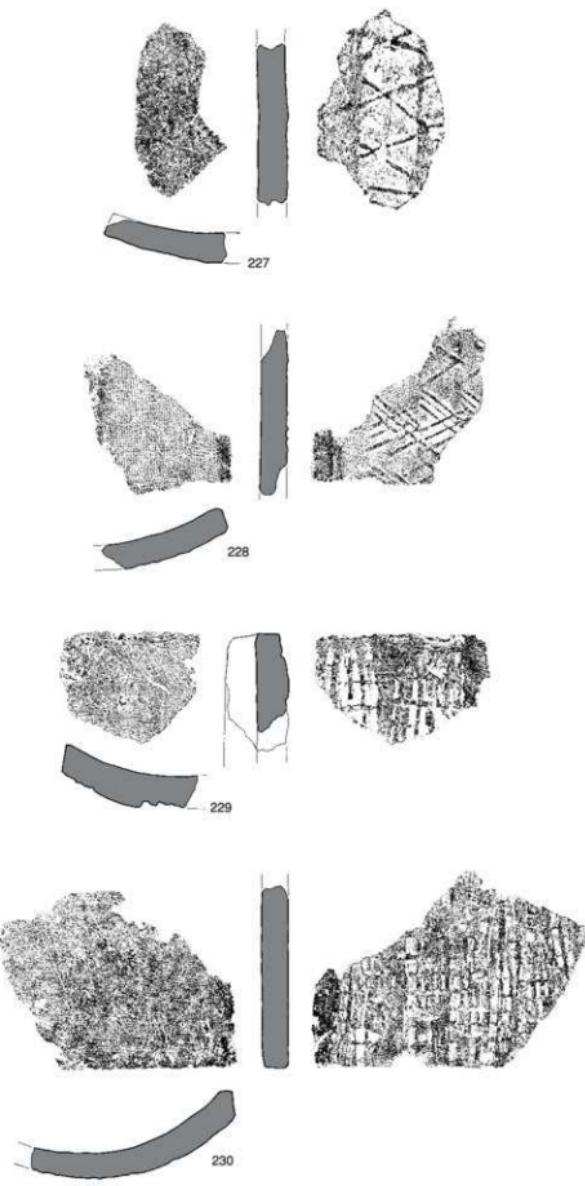


瓦集積 平瓦⑬ (218~221) K18・K19類

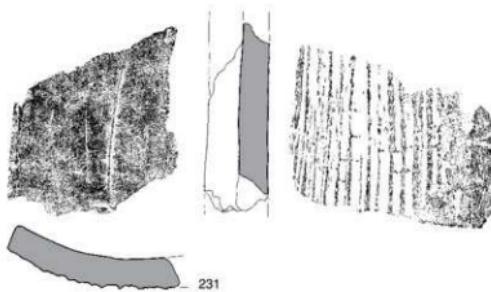


0 20cm

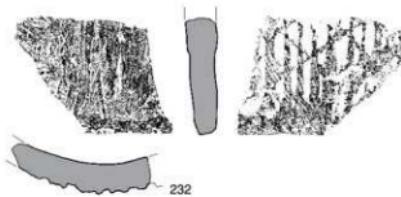
瓦集積 平瓦④ (222~226) K20・K21類



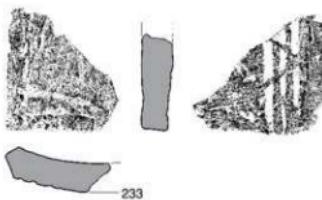
瓦集積 平瓦⑮ (227~230) K22・K23・K24類



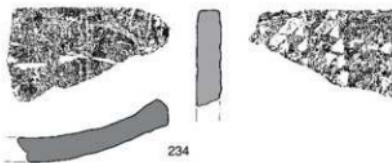
231



232



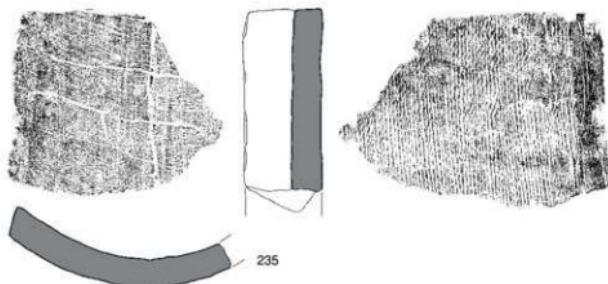
233



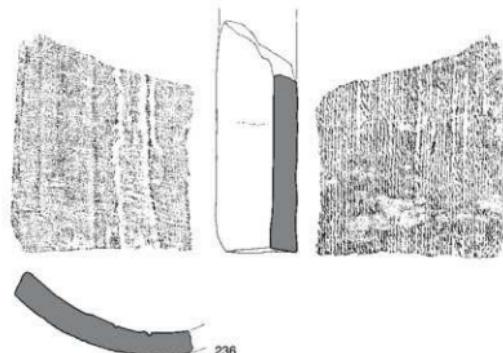
234



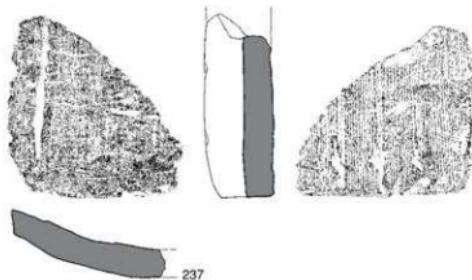
瓦集積 平瓦⑯ (231~234) K24・K25・K26類



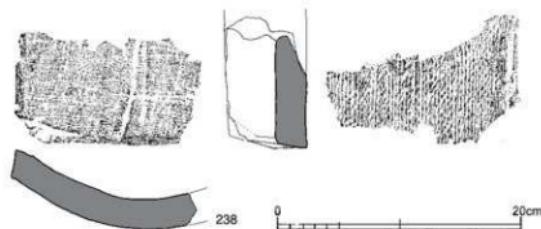
235



236



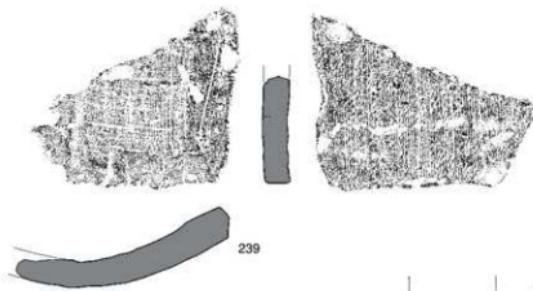
237



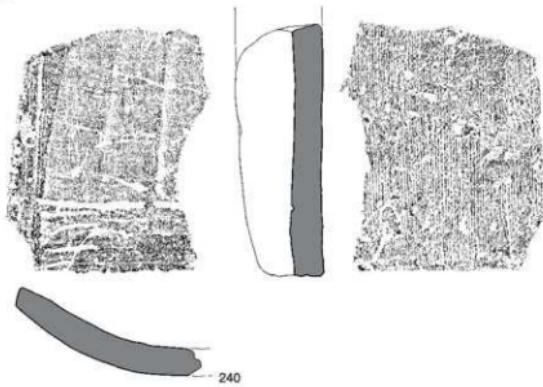
238

0 20cm

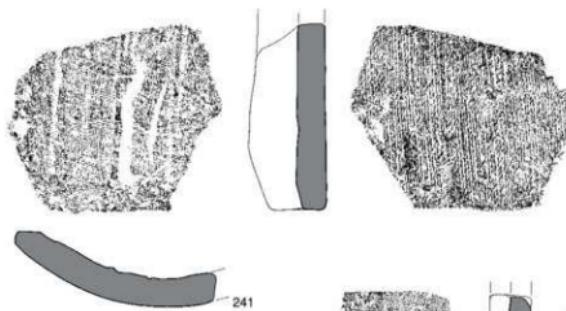
瓦集積 平瓦⑯ (235~238) N1類



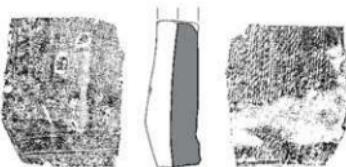
239



240



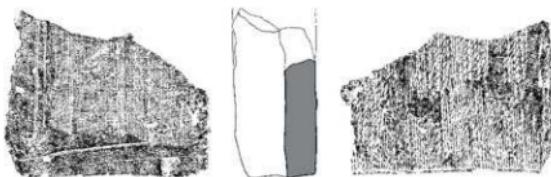
241



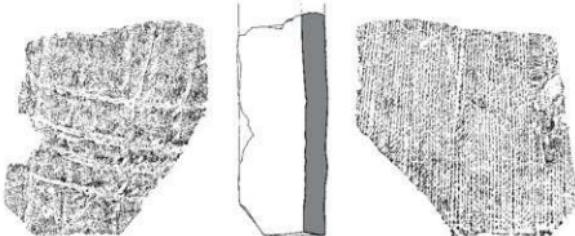
242



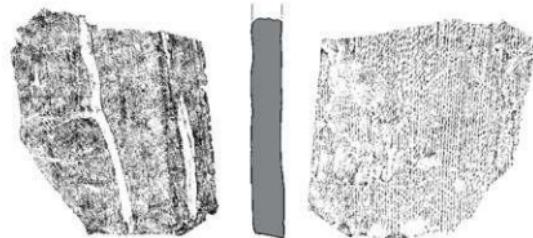
瓦集積 平瓦⑮ (239~242) N1・N2類



243



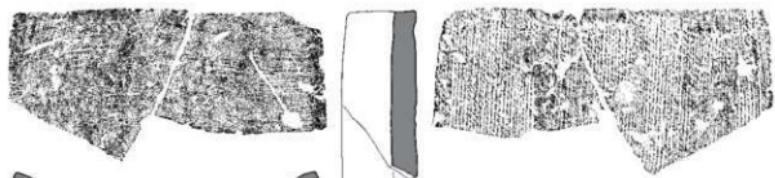
244



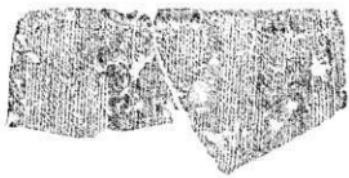
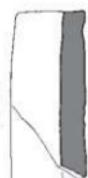
245



瓦集積 平瓦⑯ (243~245) N2類



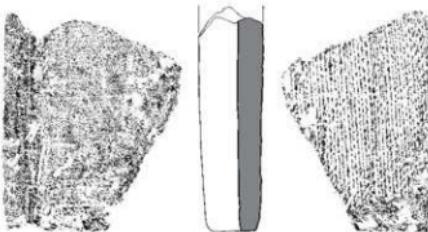
246



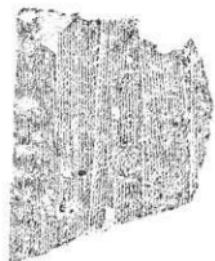
247



247



248

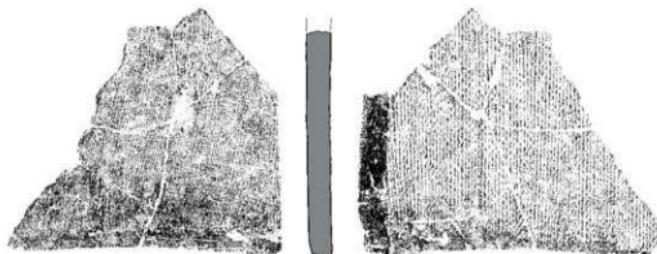


249

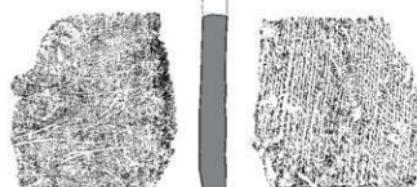
0

20cm

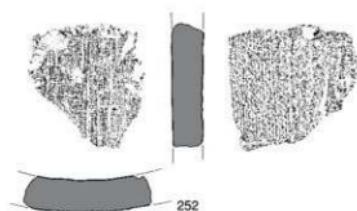
瓦集積 平瓦② (246~249) N3類



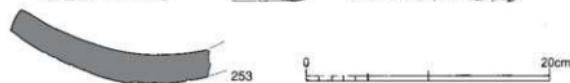
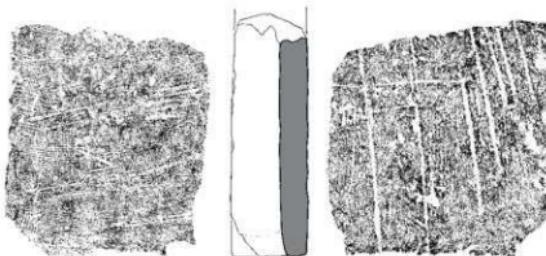
250



251



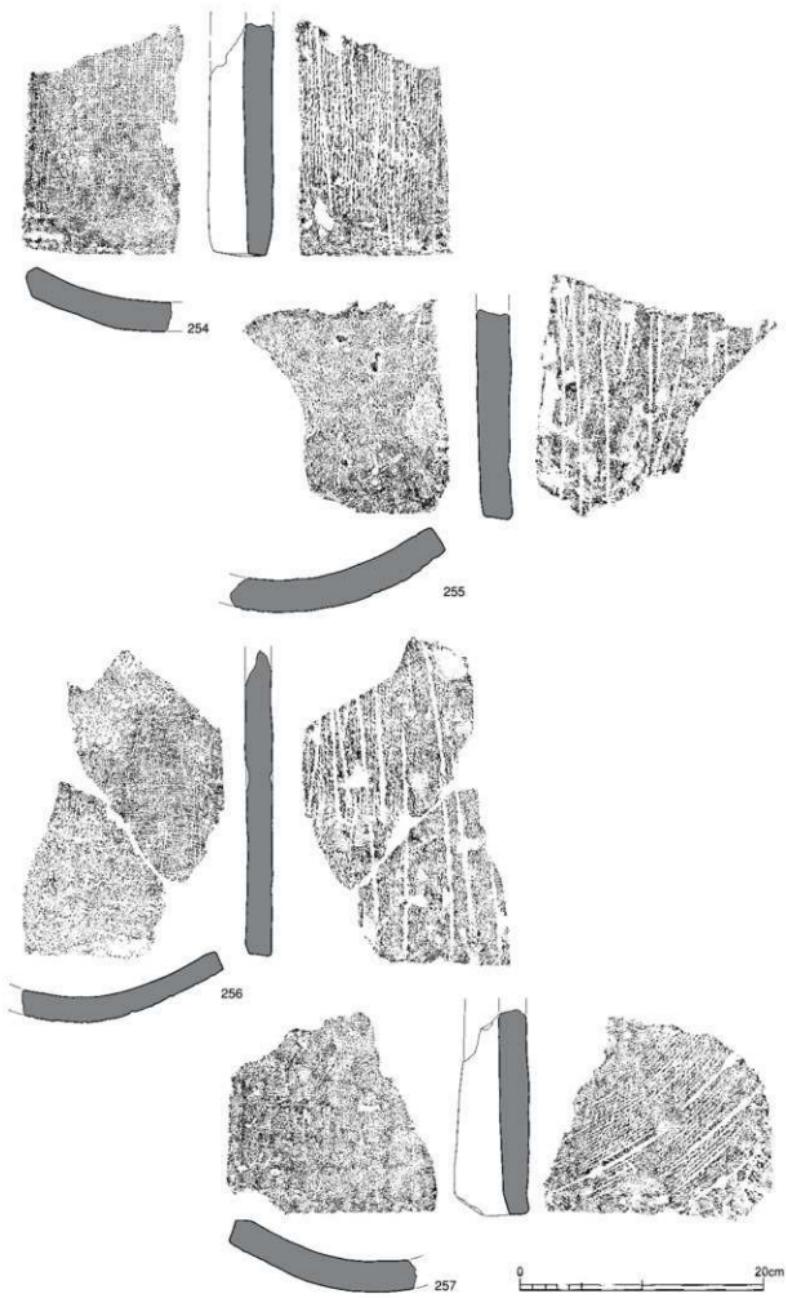
252



253

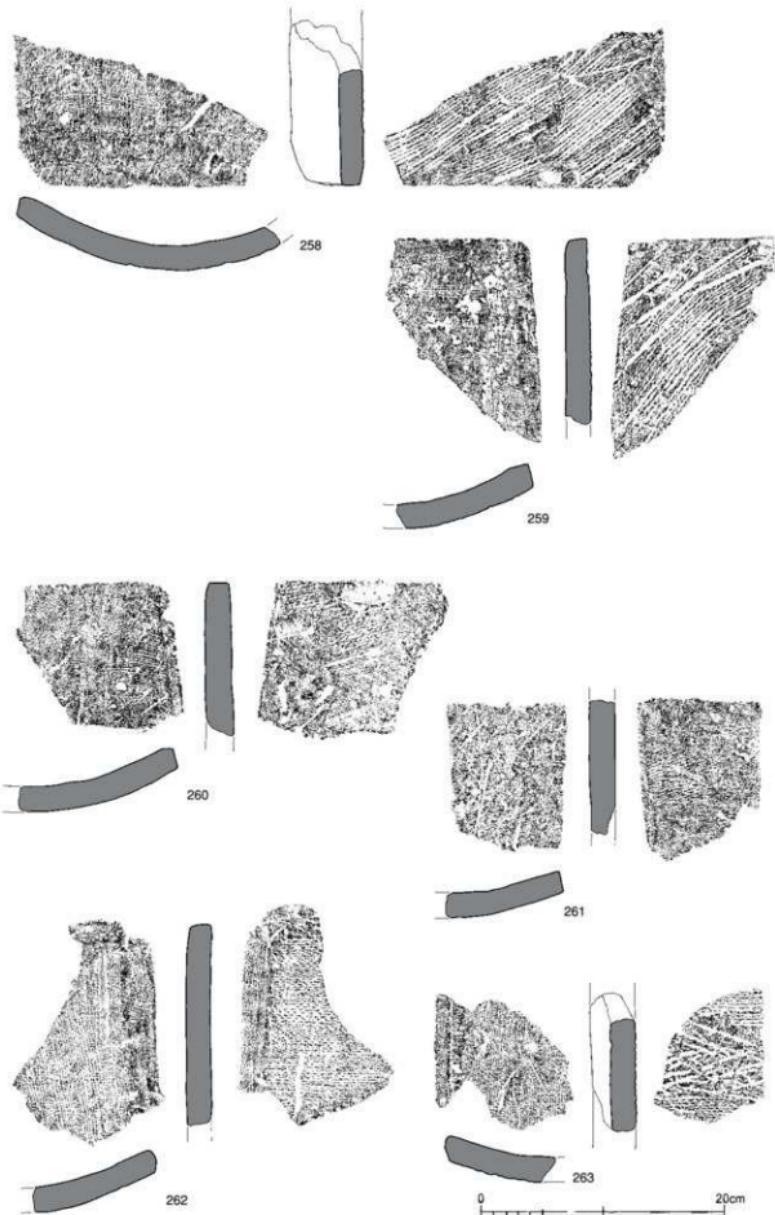


瓦集積 平瓦② (250~253) N3・N4類

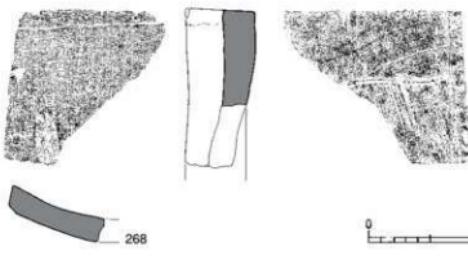
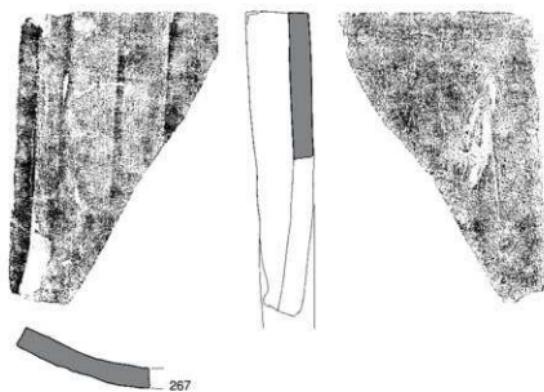
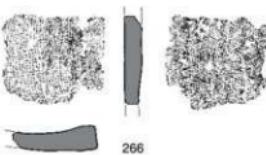
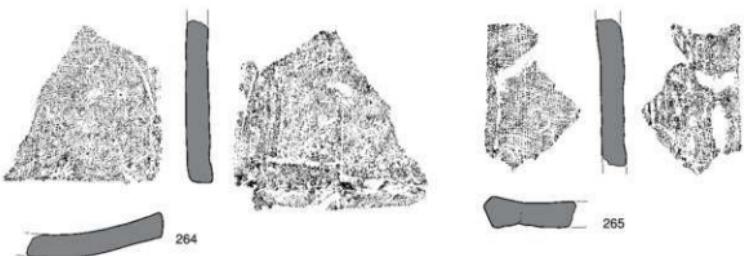


瓦集積 平瓦② (254~257) N4・N5類

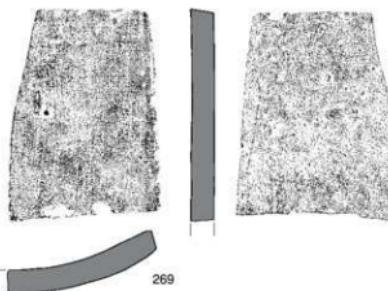
図版
54
遺物



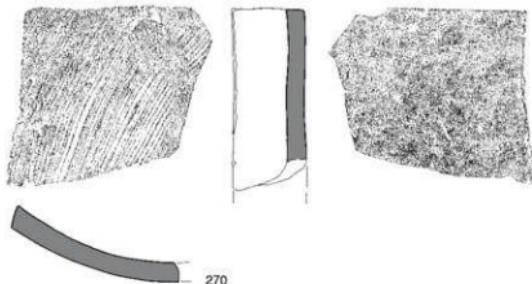
瓦集積 平瓦② (258~263) N5・N6・N7類



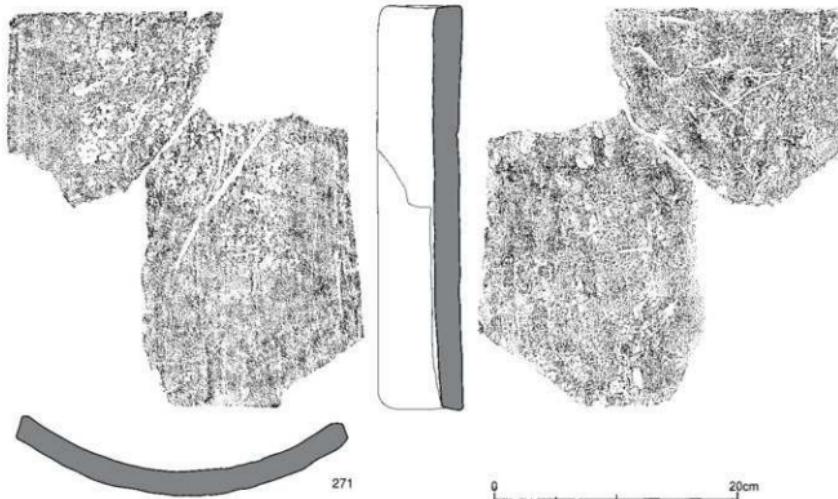
瓦集積 平瓦④ (264~268) W1・W2・W3類



269



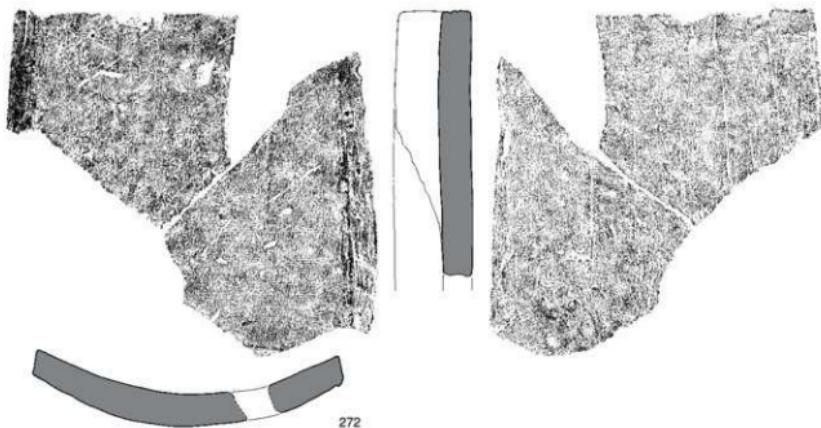
270



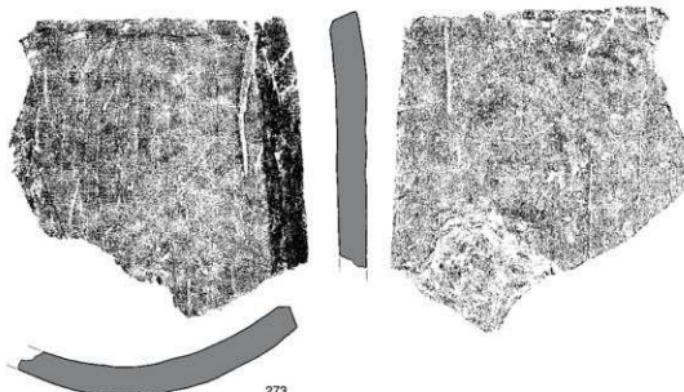
271

0 20cm

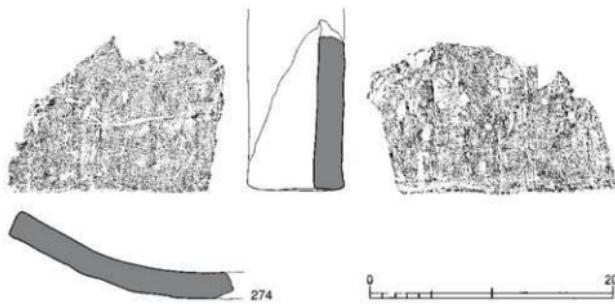
瓦集積 平瓦◎ (269~271) W1・W3類



272



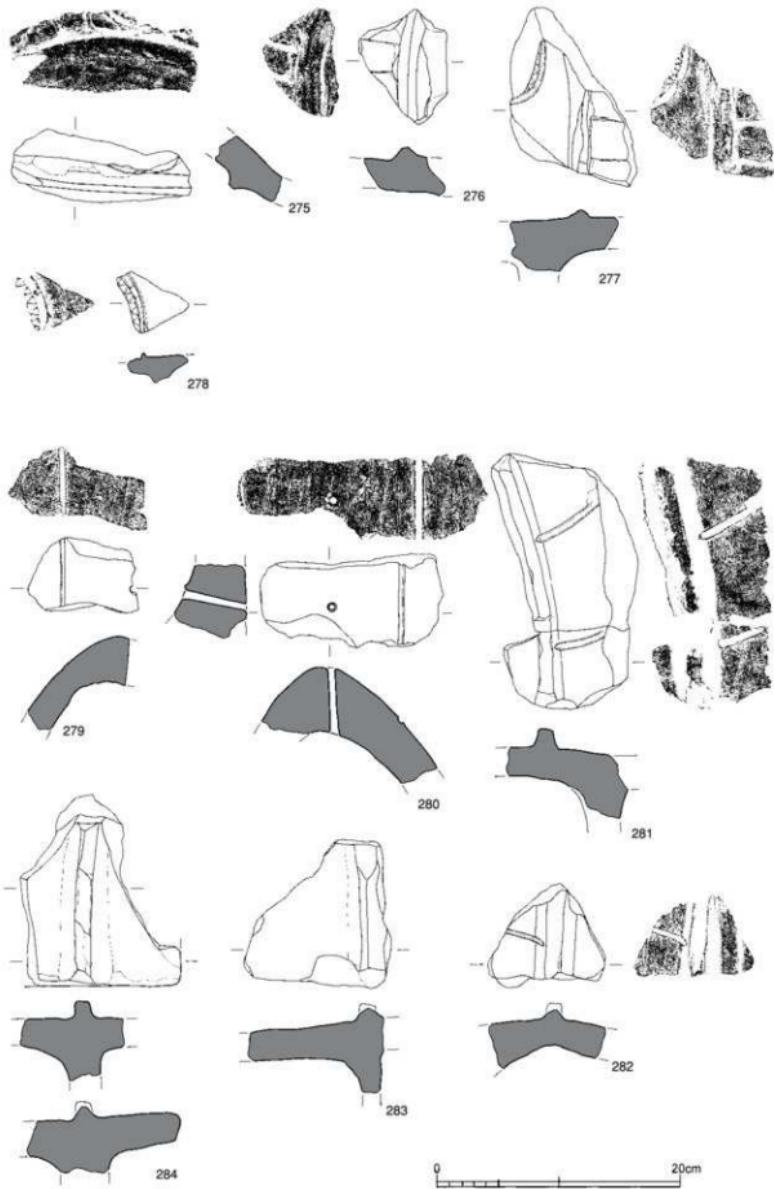
273



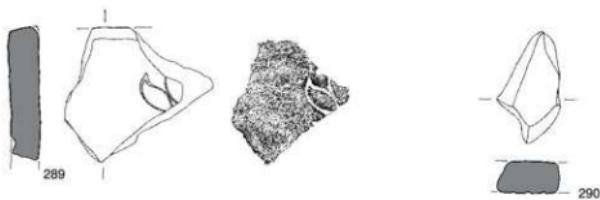
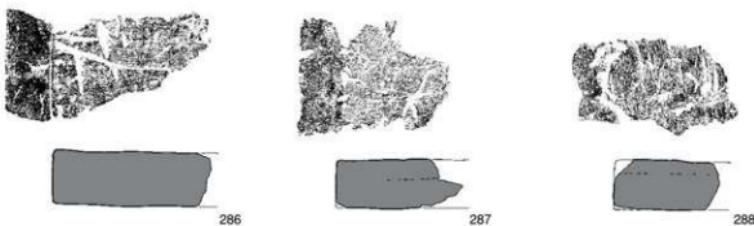
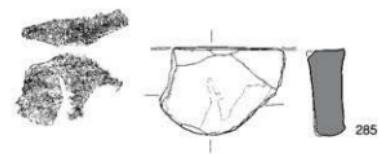
274



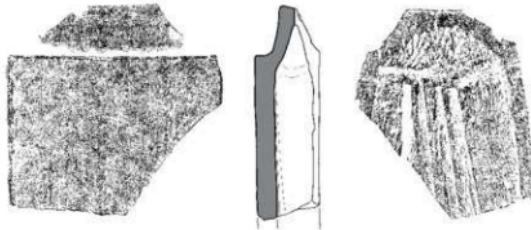
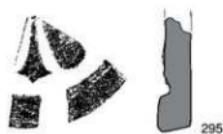
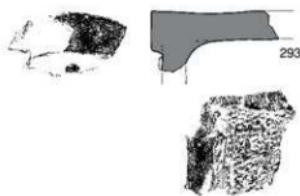
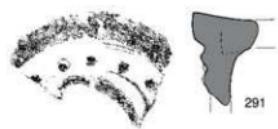
瓦集積 平瓦② (272~274) W1類



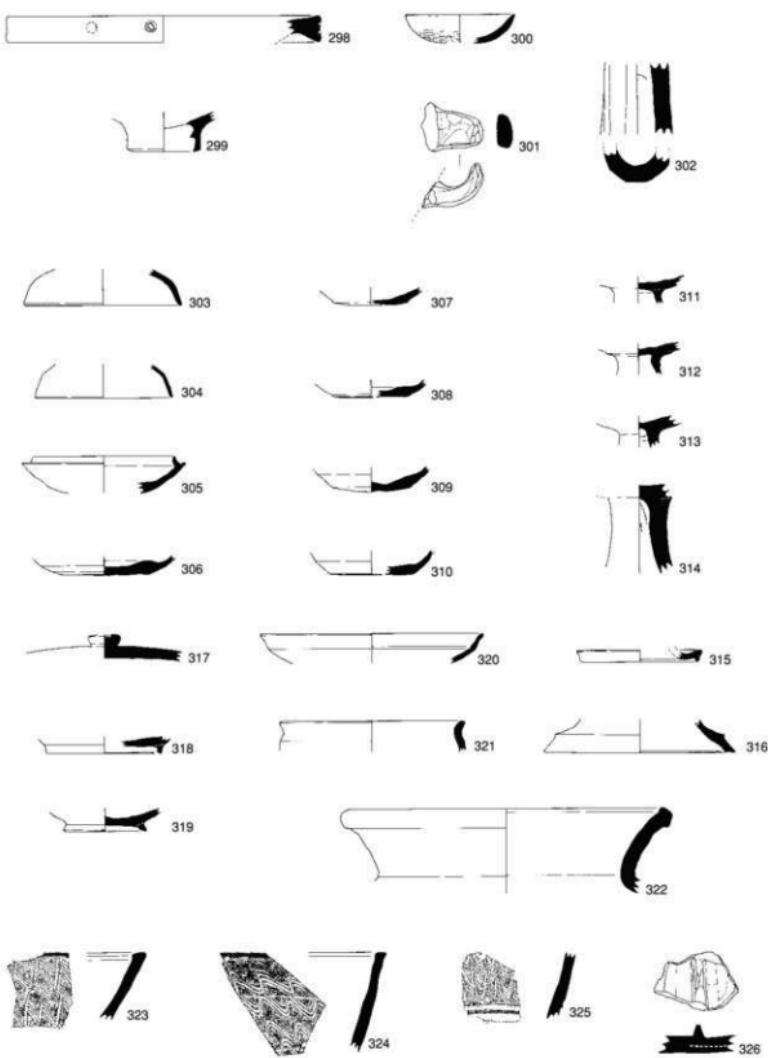
瓦集積 鶴尾 (275~284) A類・B類



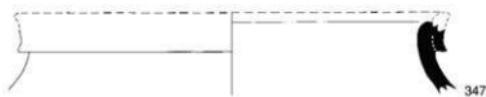
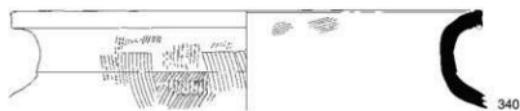
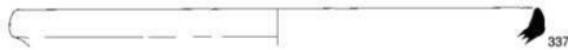
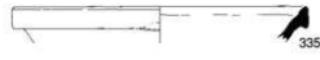
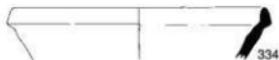
瓦集積 面戸瓦・塙ほか (285~290) E・G類



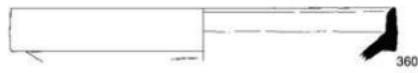
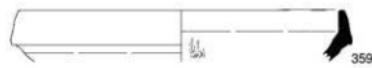
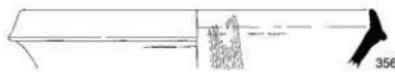
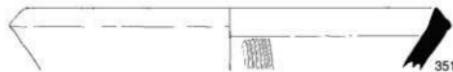
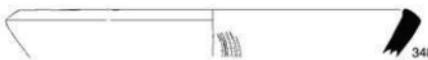
0 20cm



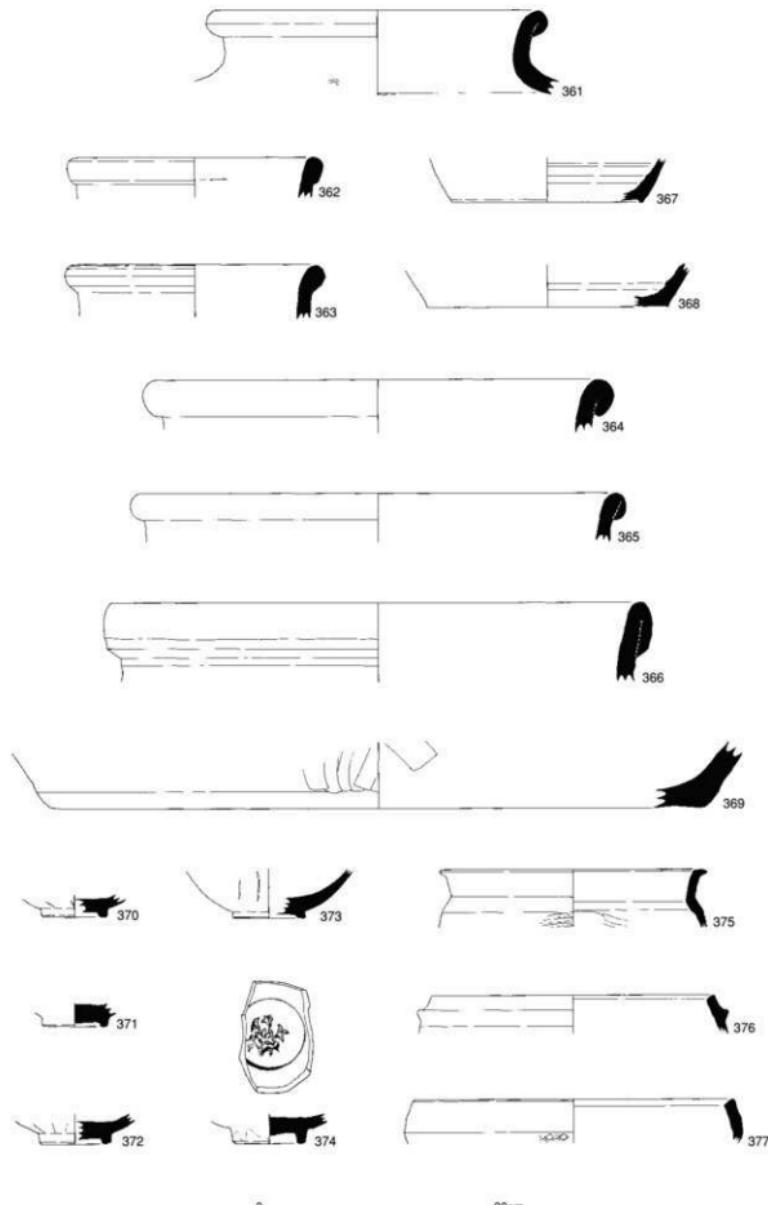
瓦集積 土器類① (298~326)



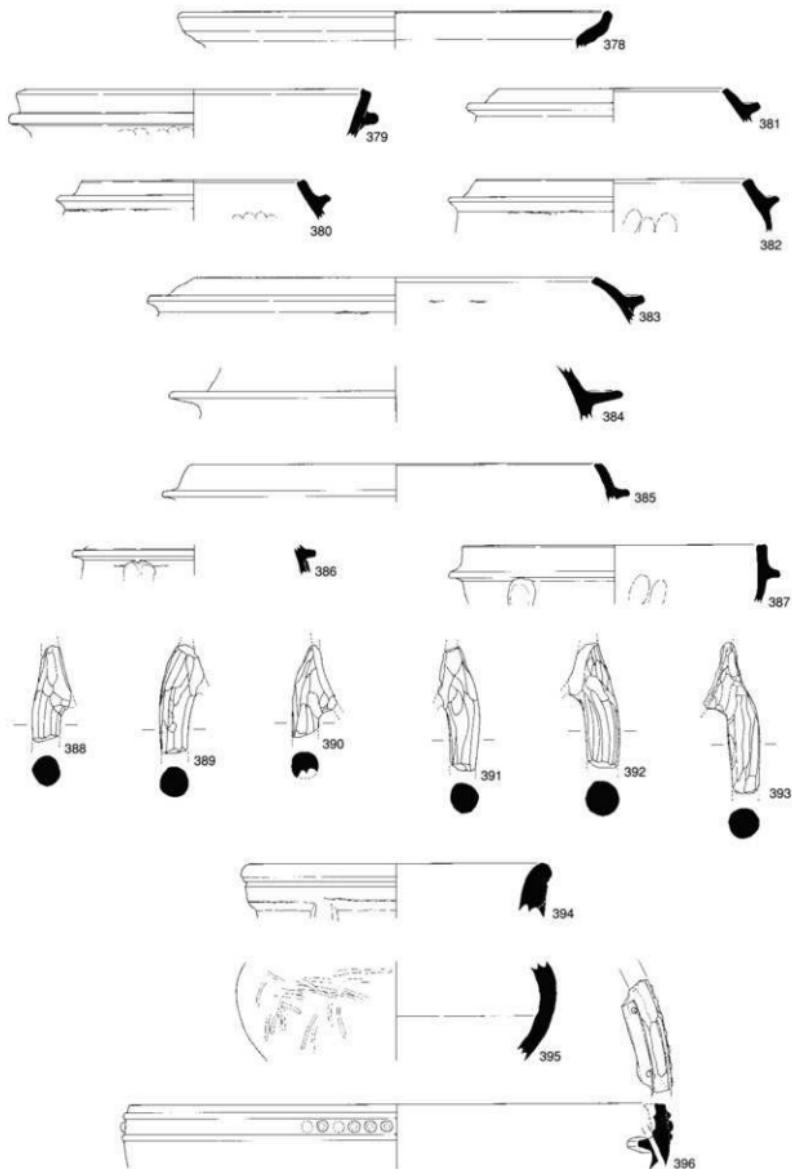
瓦集積 土器類② (327~347)



瓦集積 土器類③ (348~360)

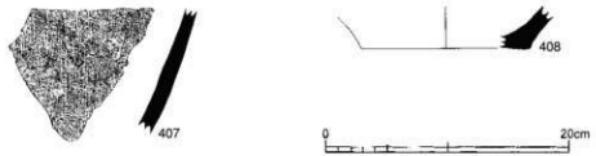
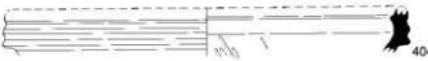
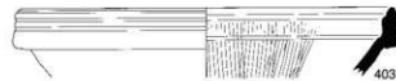


瓦集積 土器類④ (361~377)



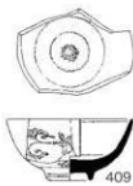
瓦集積 土器類⑤ (378~396)

0 20cm



0 20cm

瓦集積 土器類⑥ (397~408)



409



411



413



414



410



412



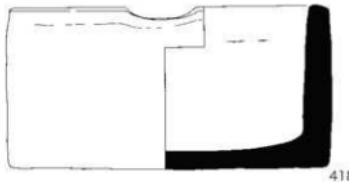
415



416



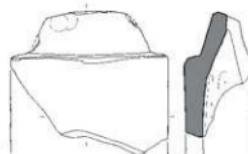
417



418



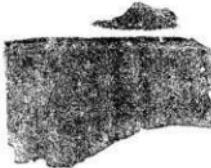
419



420



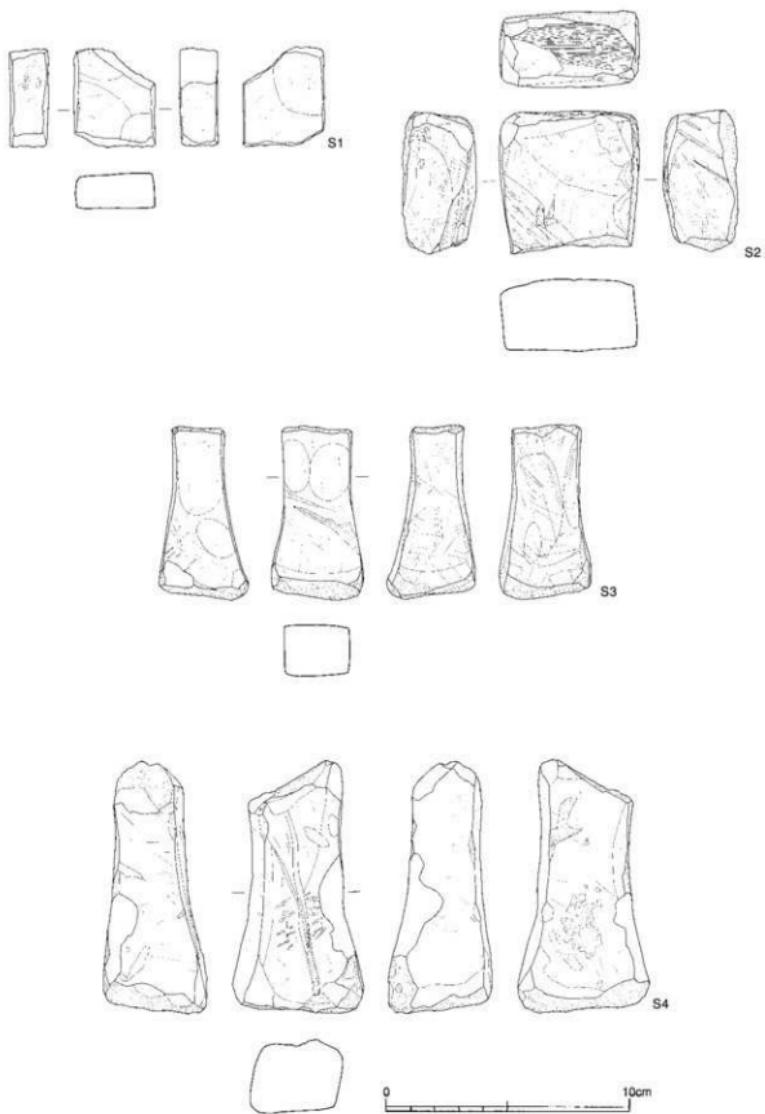
421



422



423



瓦集積 石器 (S1~S4)

写

真

図

版



1 今宿遺跡 遠景 (南西から)



2 今宿遺跡 近景 (南西から)



3 今宿遺跡調査地 全景（南西から）



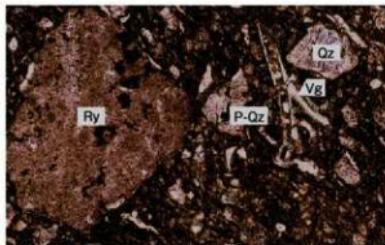
4 瓦堆積 断面（西から）



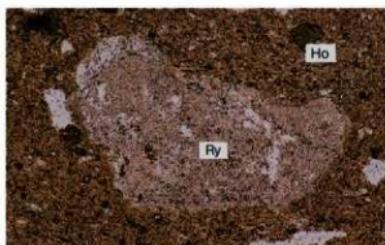
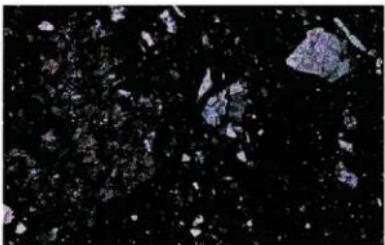
軒瓦・軒平瓦付着赤色顔料



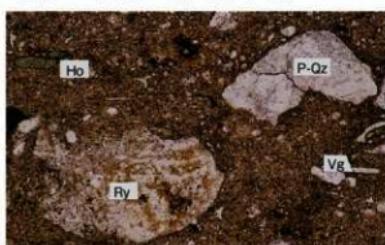
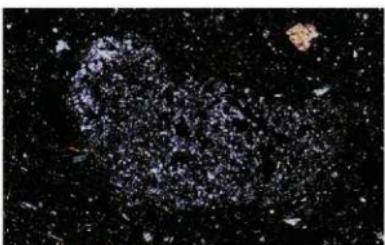
鶴尾



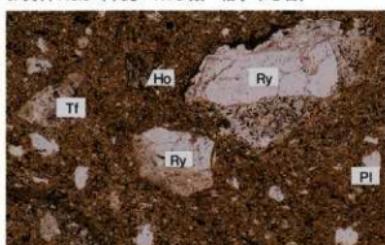
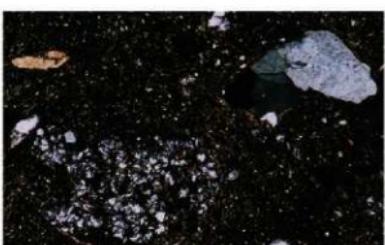
1. 資料 No.1 (平瓦 J1 類 平行条線)



2. 資料 No.2 (平瓦 K9 類 格子叩き目)



3. 資料 No.3 (平瓦 K16 類 格子叩き目)



4. 資料 No.4 (平瓦 K15 類 格子叩き目)

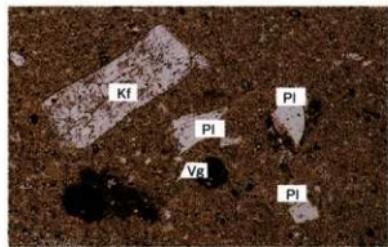


Qz : 石英 Pl : 斜長石 Ho : 角閃石 Ry : 流紋岩 Tf : 濕灰岩 P-Qz : 多結晶石英

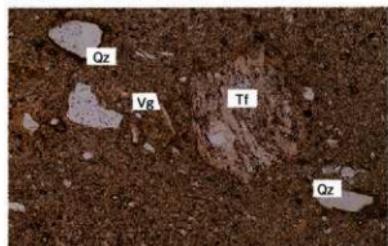
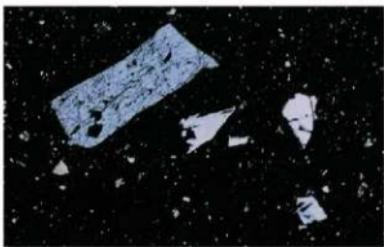
Vg : 火山ガラス

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

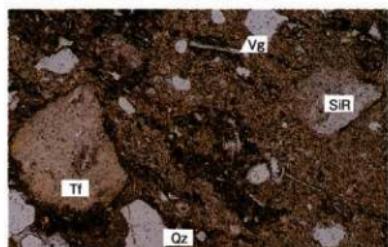
0.5 mm



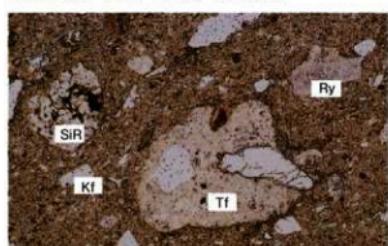
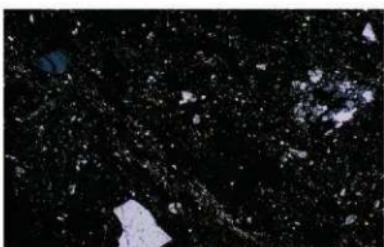
5. 資料 No.5 (平瓦 K19 類 格子叩き目)



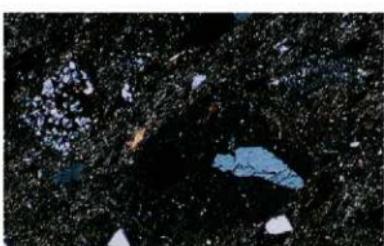
6. 資料 No.6 (平瓦 N5 類 繩叩き目)



7. 資料 No.7 (平瓦 N2 類 繩叩き目)

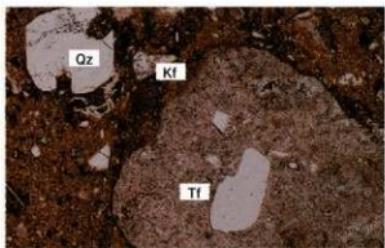


8. 資料 No.8 (平瓦 K18 類 格子叩き目)

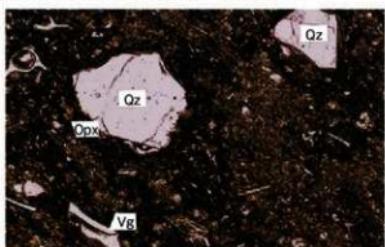
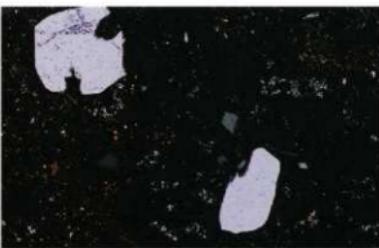


Qz: 石英 Pl: 斜長石 Kf: カリ長石 Ry: 流紋岩 Tf: 凝灰岩 SIR: 珪化岩
Vg: 火山ガラス
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

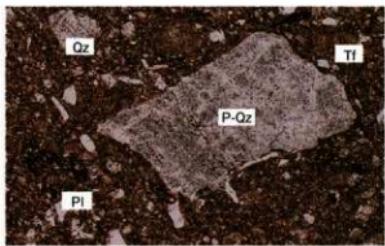
0.5 mm



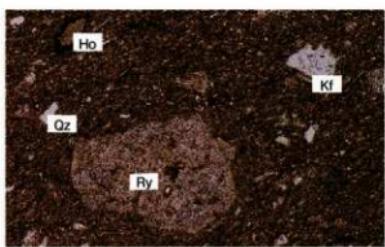
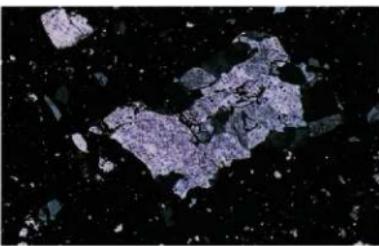
9. 資料 No.9 (平瓦 K21 類 格子叩き目)



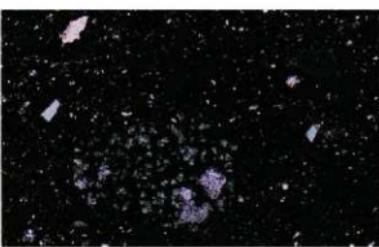
10. 資料 No.10 (平瓦 L2 類 格子叩き目)



11. 資料 No.11 (平瓦 K2 類 格子叩き目)



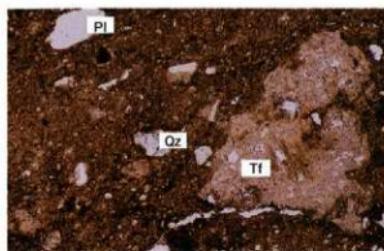
12. 資料 No.12 (平瓦 K16 類 格子叩き目)



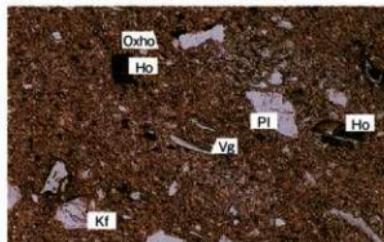
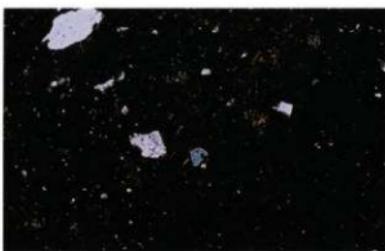
Qz: 石英 PI: 斜長石 Kf: カリ長石 Opx: 斜方輝石 Ho: 角閃石 Ry: 流紋岩
Tf: 凝灰岩 P-Qz: 多結晶石英 Vg: 火山ガラス
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5 mm

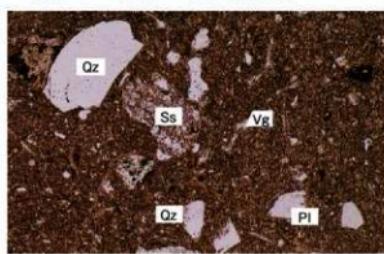
写真図版 8
分析



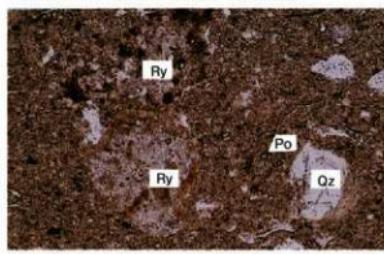
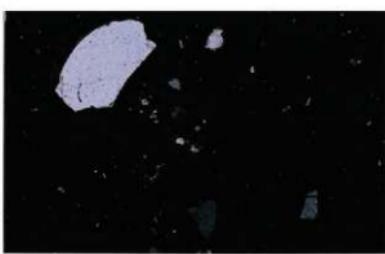
13. 資料 No.13 (平瓦 K13 類 格子叩き目)



14. 資料 No.14 (平瓦 N4 類 繩叩き目)



15. 資料 No.15 (平瓦 W3 類 無文叩き)

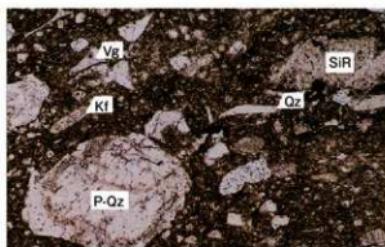


16. 資料 No.16 (平瓦 W3 類 無文叩き)

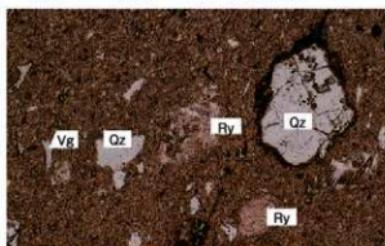


Qz : 石英 PI : 斜長石 Kf : カリ長石 Ho : 角閃石 Oxo : 酸化角閃石
Ry : 流紋岩 Tf : 凝灰岩 Ss : 砂岩 Vg : 火山ガラス Po : 植物珪酸体
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

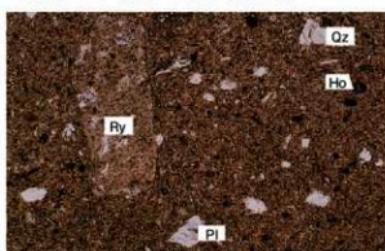
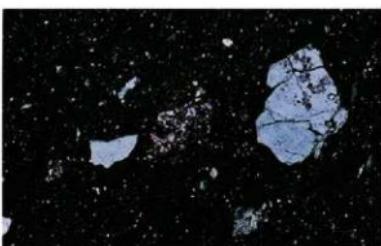
0.5 mm



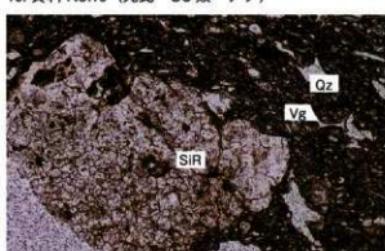
17. 資料 No.17 (平瓦 W3 類 無文叩き)



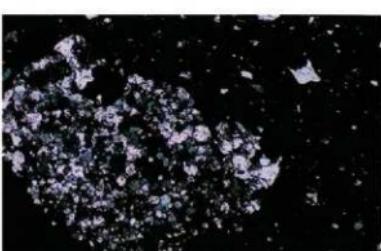
18. 資料 No.18 (丸瓦 S3 類 繩叩き目)



19. 資料 No.19 (丸瓦 S6 類 ナデ)



20. 資料 No.20 (丸瓦 S1 類)



Qz : 石英 Pl : 斜長石 Kf : カリ長石 Ho : 角閃石 Ry : 流紋岩 SiR : 硅化岩

P-Qz : 多結晶石英 Vg : 火山ガラス

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

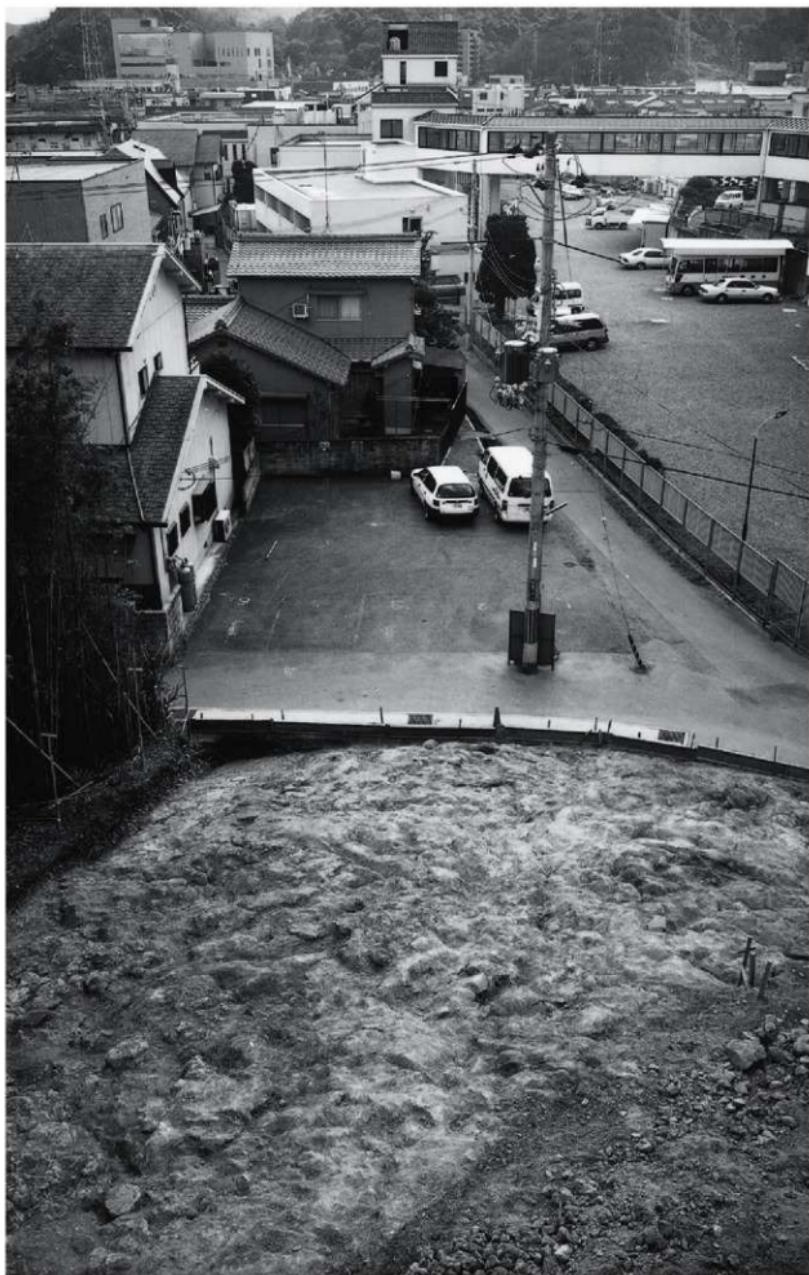
0.5 mm



5 調査前 全景（南から）



6 調査地 全景（南から）



7 調査地 全景（北東から）



8 瓦堆積 断面（西から）



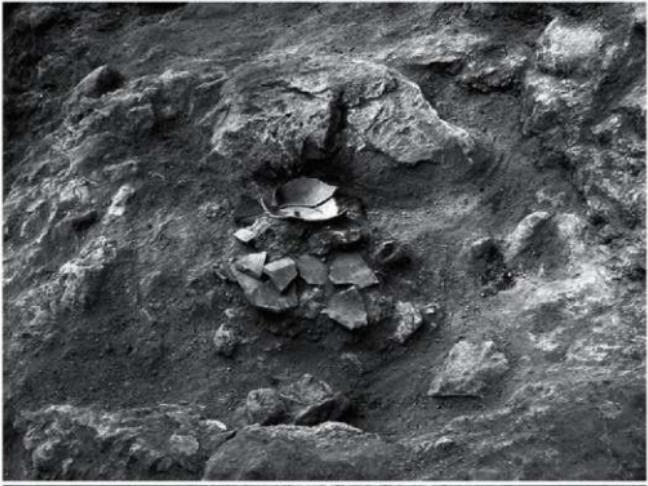
9 瓦堆積状況（北西から）



10 瓦堆積状況（北西から）



11 調査地 全景（北から）



12 土坑SK01（東から）



13 土坑SK01（北から）



14 作業状況



15 作業状況



16 作業状況



17 作業状況



18 作業状況



19 作業状況



20 作業状況



21 作業状況



22 トレンチ2完掘状況（北から）



23 トレンチ5完掘状況（南から）



24 トレンチ4完掘状況（南から）



25 トレンチ7完掘状況（南東から）



26 トレンチ6南端完掘状況（北西から）



27 トレンチ8完掘状況（東から）



28 トレンチ10完掘状況（西から）



29 トレンチ8西側壁の瓦堆積状況（東から）



軒丸瓦① M1・M2類



34



15

軒丸瓦② M5類



1



3



2



5



4



7



8

軒丸瓦③ M1・M2類



6



9



16



12



10



11



17



13



14



15



18

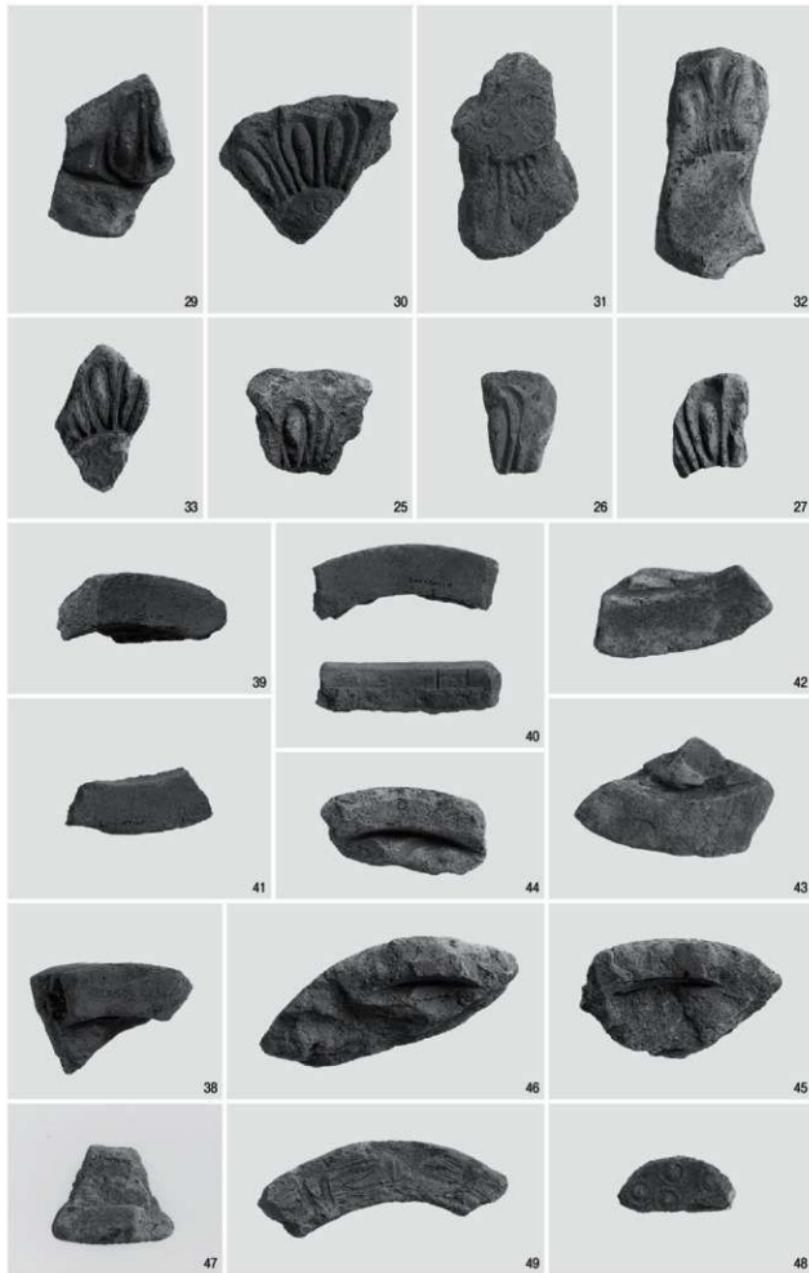


21

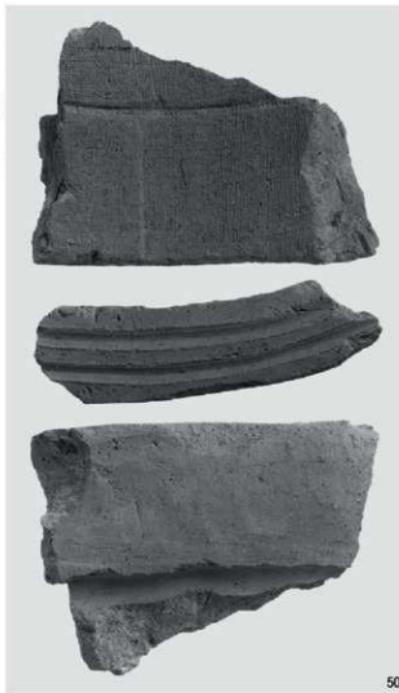
軒丸瓦④ M2・M3・M4・M5・M6・M8類



軒丸瓦⑤ M4・M5・M7類



軒丸瓦⑥ M5・M9・M10・M11類



50



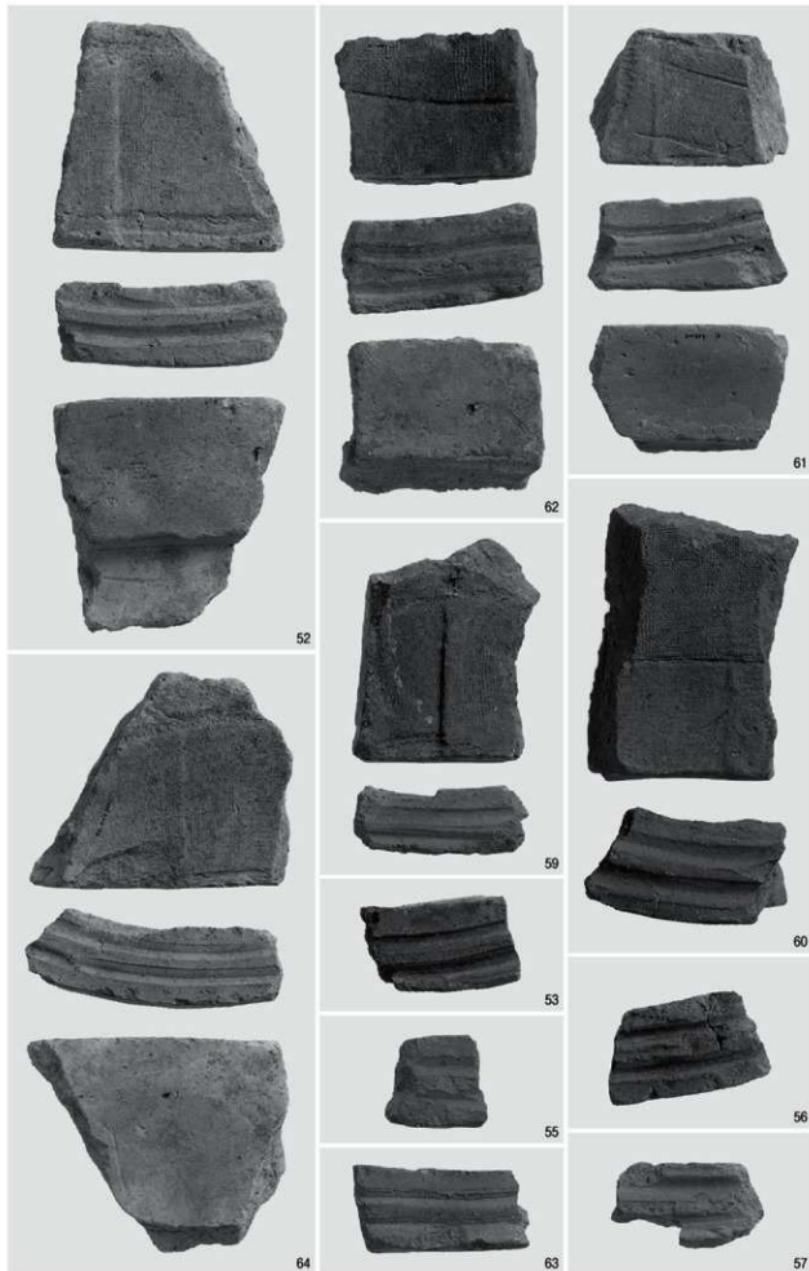
54



51



58



軒平瓦② H1・H3・H4・H5類



65



66



67



68



69



70



74



71



75



72



73



77



79

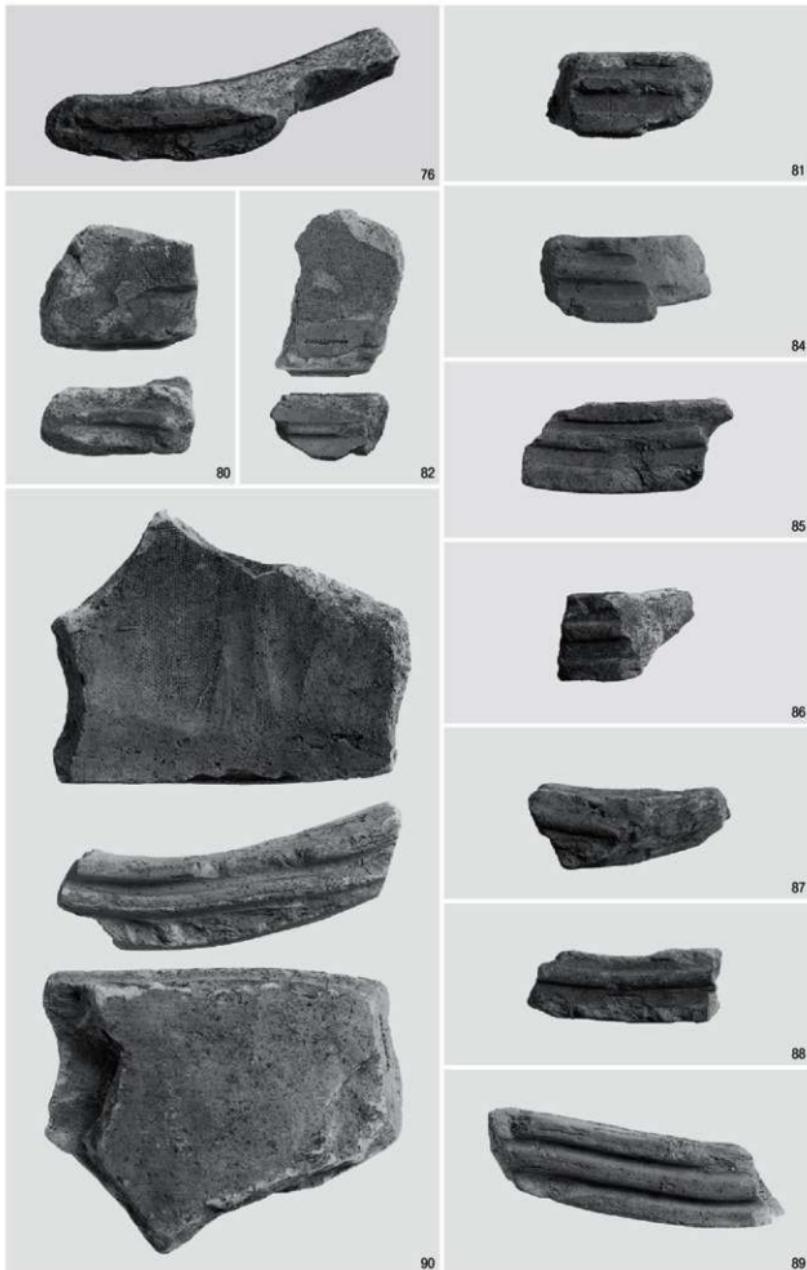


78

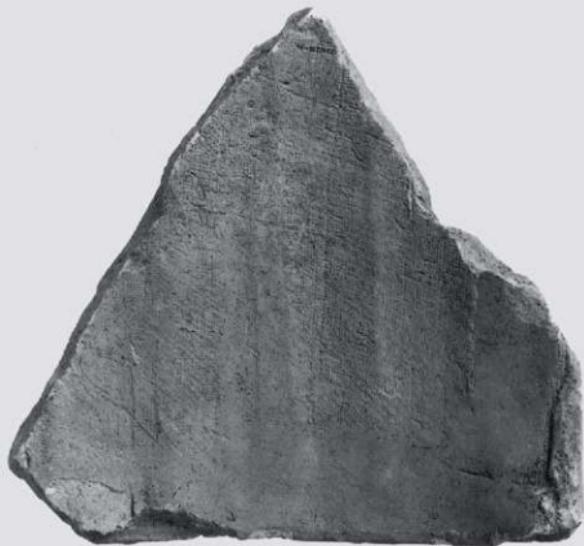


83

軒平瓦③ H4・H5・H6・H7・H8・H9類



軒平瓦④ H8・H9・H10・H11・H12類



93



91



95



92



96

軒平瓦⑤ H12・H14類



94

100



101



103

104

102

104

105

軒平瓦⑥ H12・H13・H14・H15・H16・H17・H18・H19類



109



110



107



108



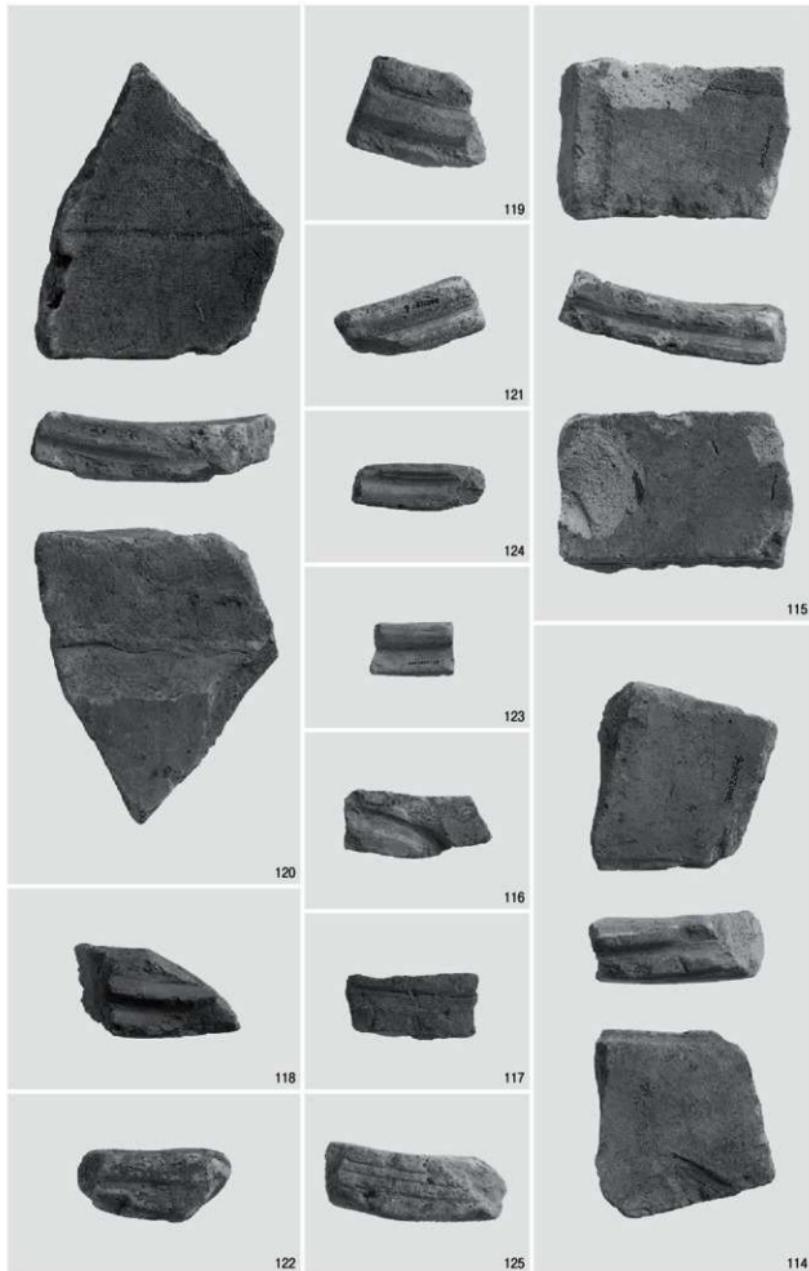
111



112



113



軒平瓦⑧ H25・H26・H27・H28・H29・H30・H31・H32類



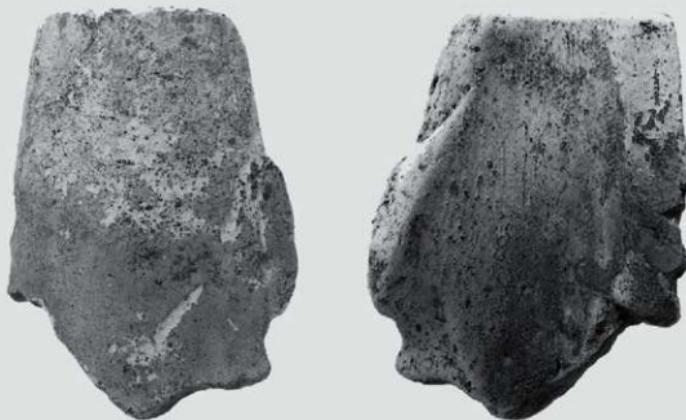
128



129



131



130



132



133

丸瓦② G2類



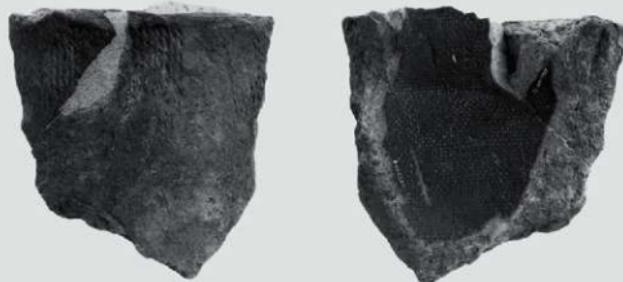
134



135



136



137

丸瓦③ T1・T2類



140



137



141



145



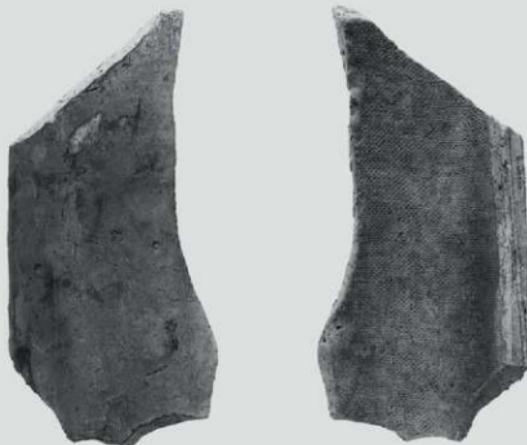
142



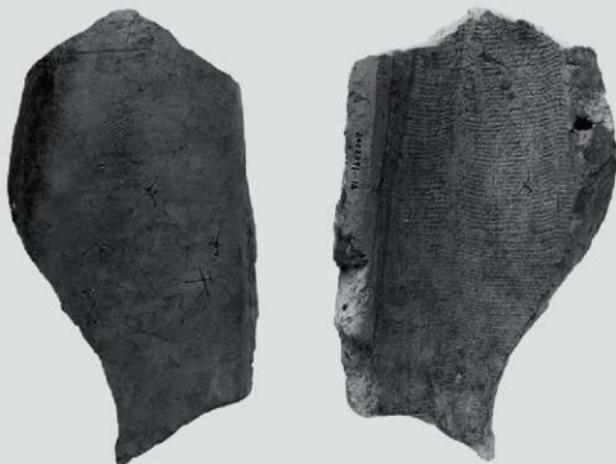
143



144



146



149



148

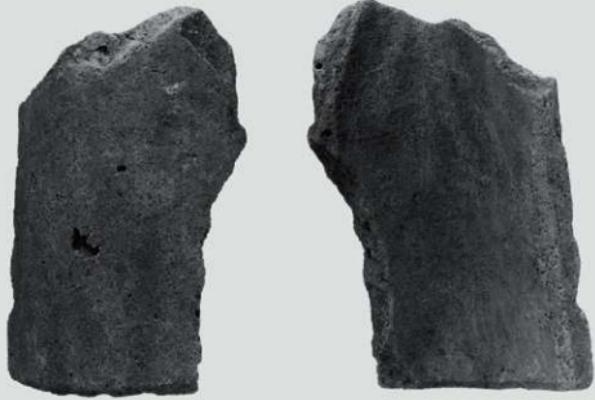


147



158

丸瓦⑥ S3・S4・S5類



150



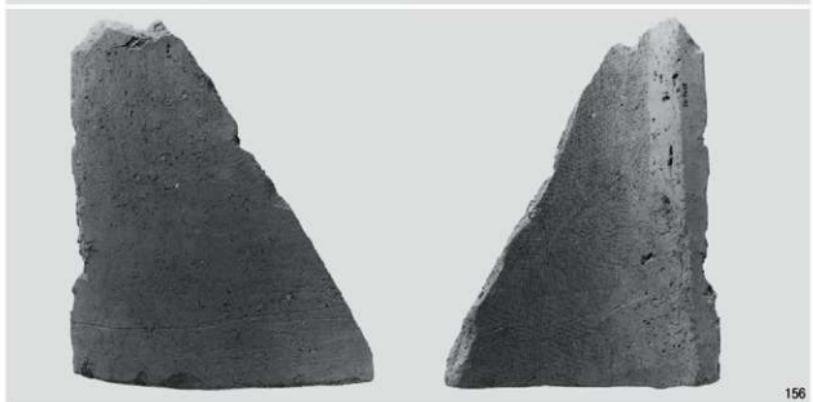
152



153



155



156



159

丸瓦⑥ S6類



160



161



162

平瓦① J1類



163



164



165



166

平瓦② J1・J2・J3類



167



168



169



170



171



174



172



173

平瓦④ K1・K2類



175



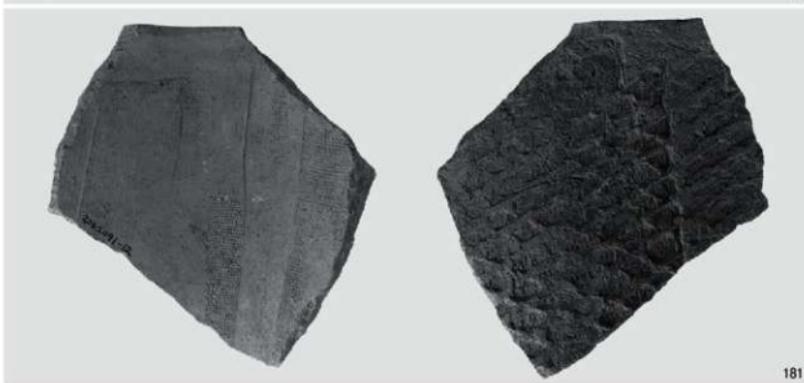
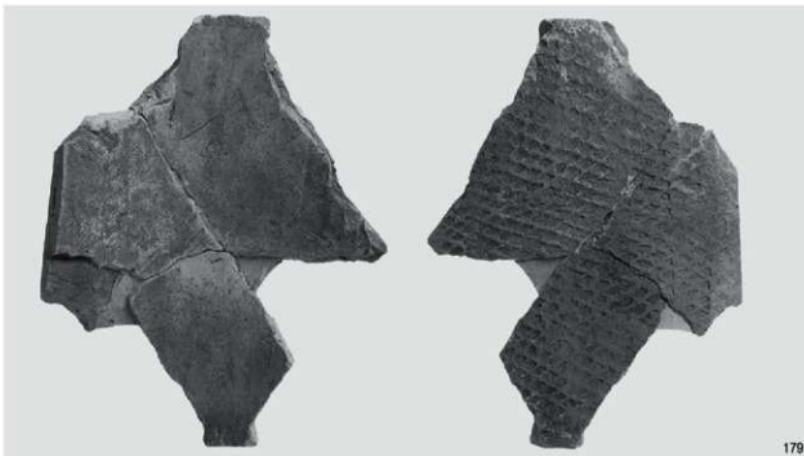
176

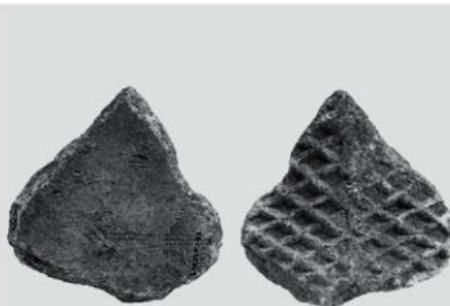


177



178





182



183



184



185

平瓦⑦ K6・K7・K8・K9類



186



187



188



189



190

平瓦⑧ K9・K10・K11類



191



192



193



194



195



196

平瓦⑩ K13類



197

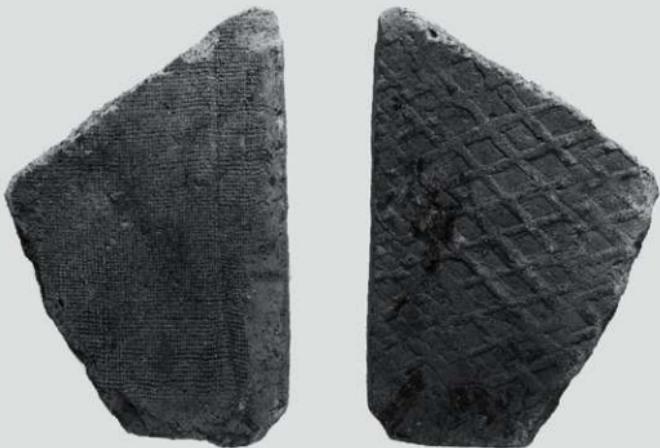


198



199

平瓦① K14類



200

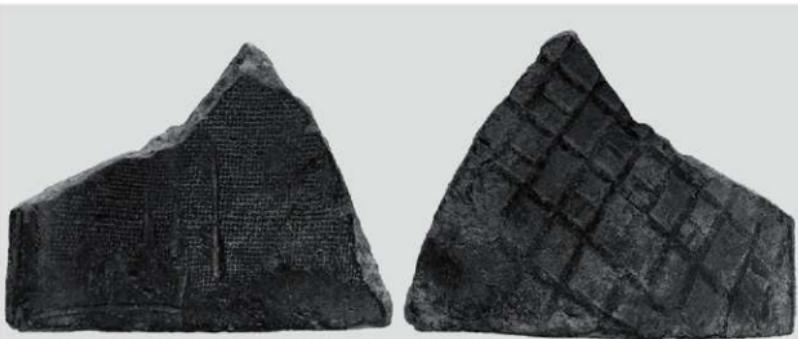


201



202

平瓦⑫ K14・K15類



203



204

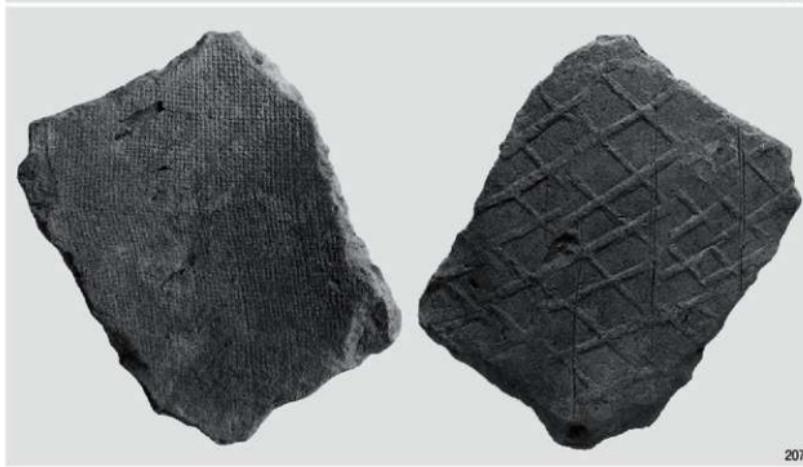


205

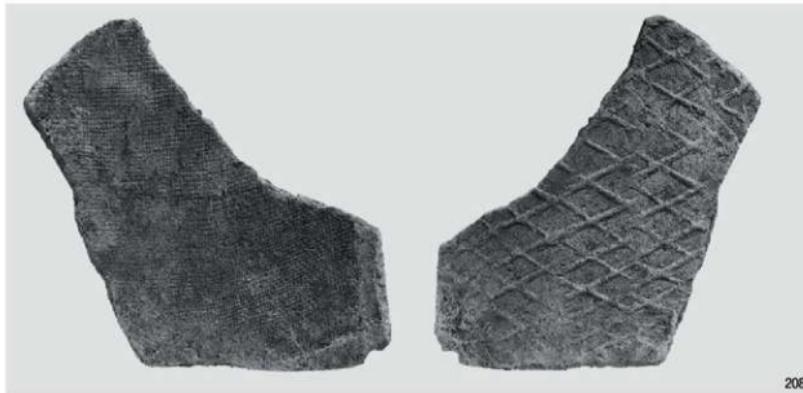
平瓦⑬ K15・K16類



206

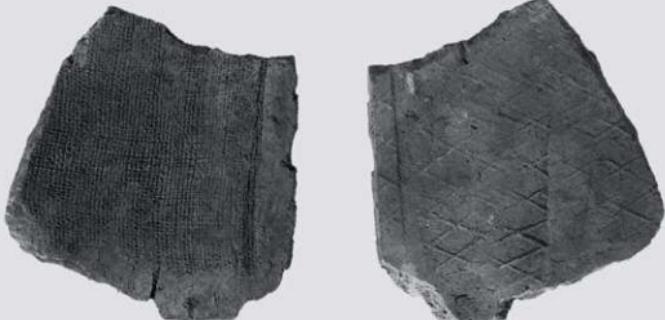


207



208

平瓦⑭ K16類



209



210



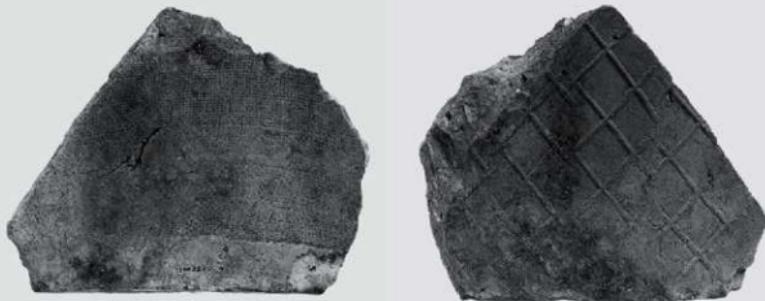
211



212



213



214

平瓦⑯ K17類



215



216



217

平瓦⑰ K18類



218

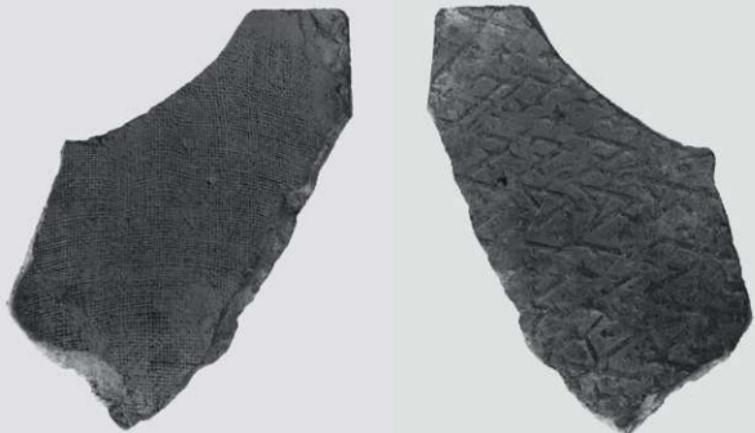


219



221

平瓦⑩ K18・K19類



220



222



223



224



225



226

平瓦② K21類



227



228



230

平瓦② K22・K23・K24類



229



231

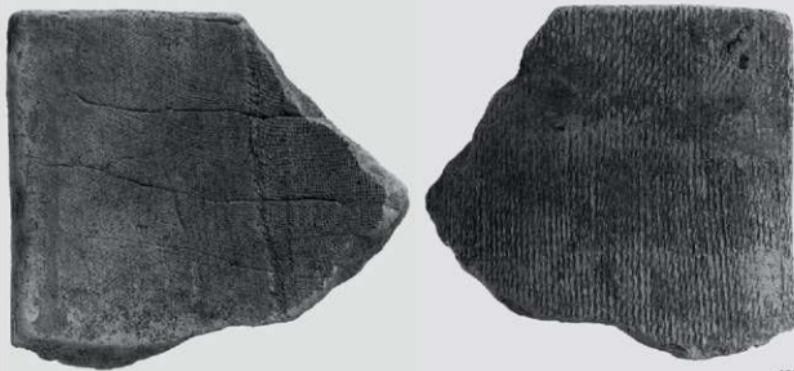


232

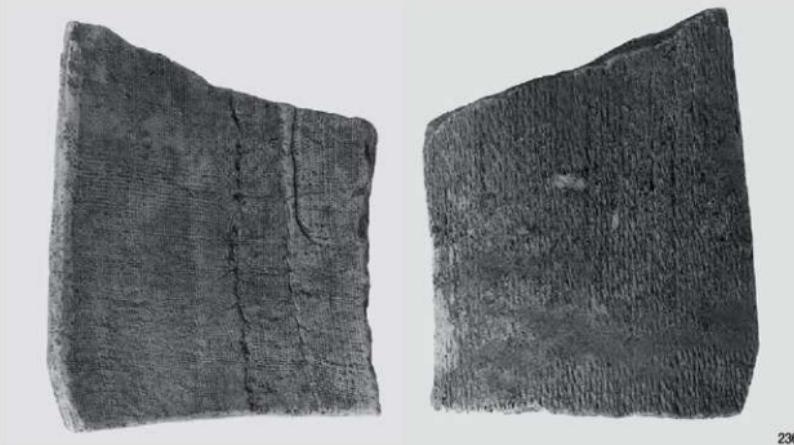


233

平瓦② K24・K25類



235



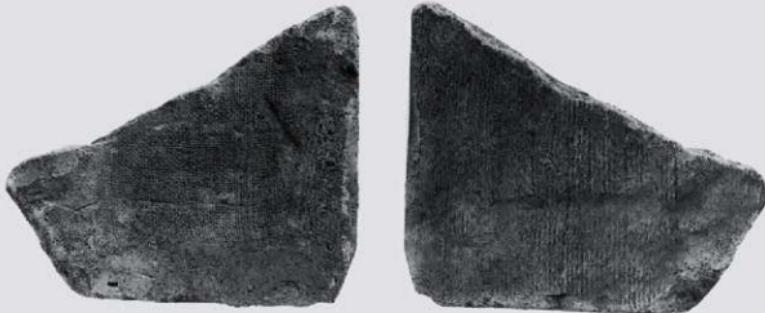
236



237



238



239



240

平瓦24 N1類



241



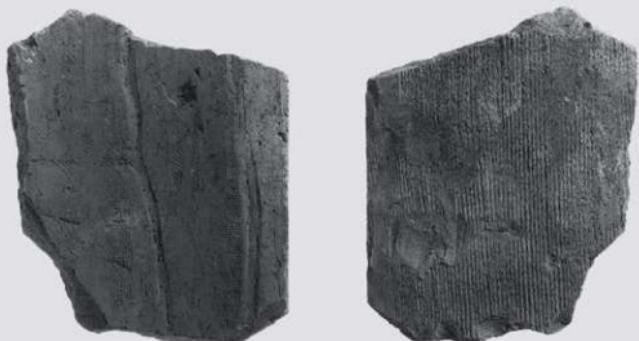
242



243



244

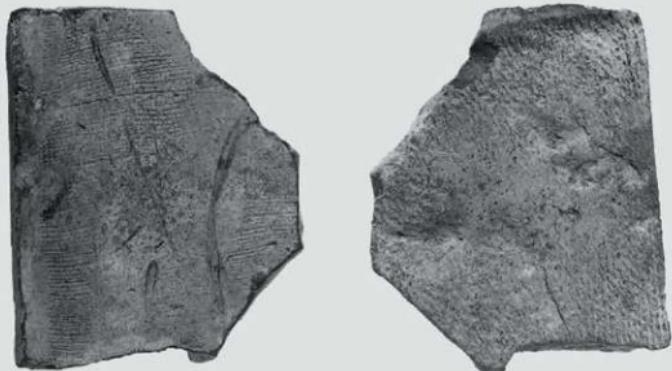


245



246

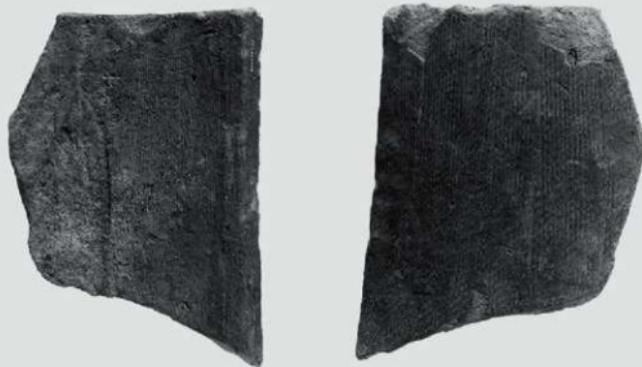
平瓦◎ N2・N3類



247

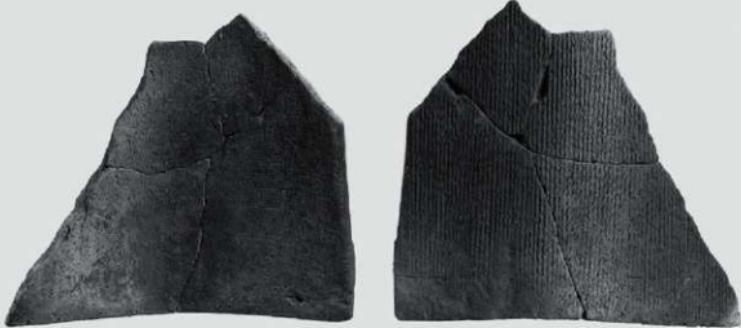


248



249

平瓦② N3類



250



251



252

平瓦② N3類



253

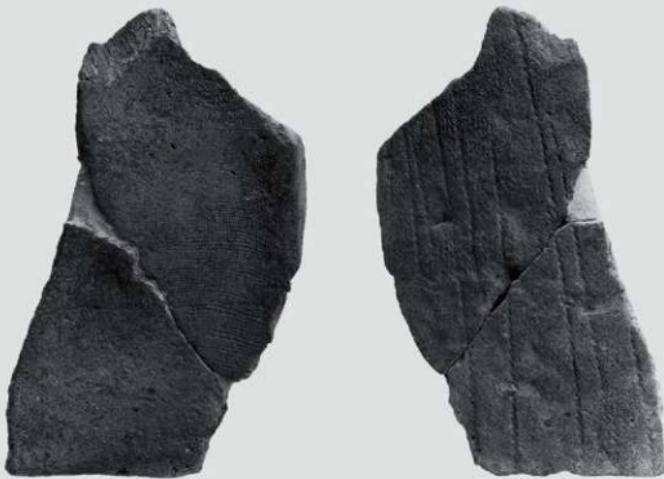


254

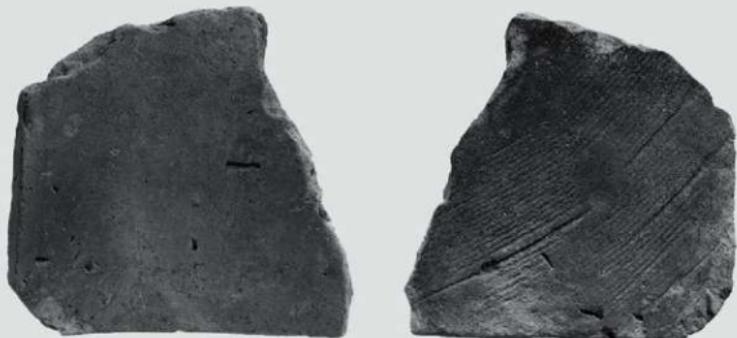


255

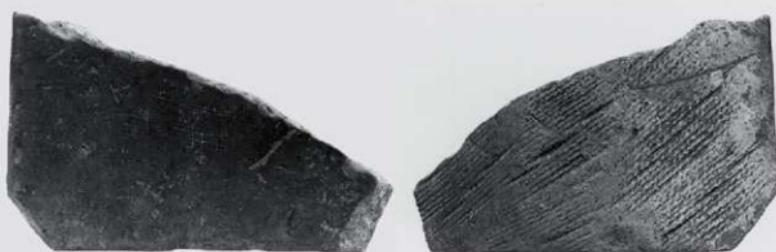
平瓦◎ N4類



256



257



258

平瓦⑧ N4・N5類



259



260



261



262



263



264

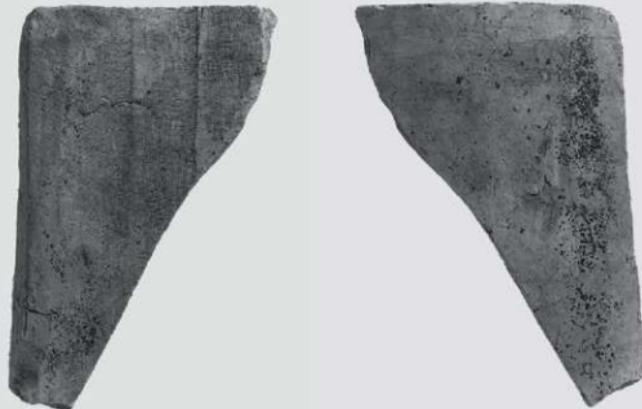
平瓦② N6・N7・W1類



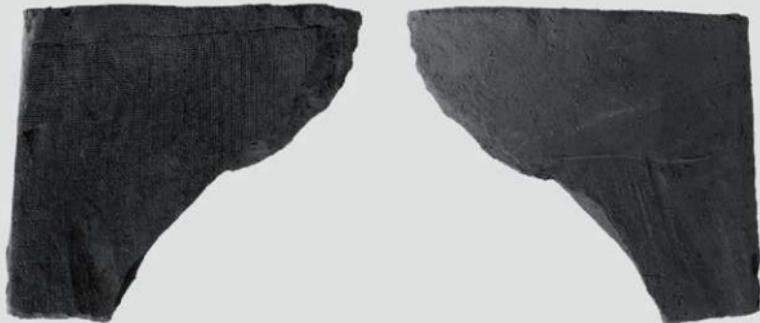
265



266



267



268

平瓦③ W2・W3類



269



270



273

平瓦④ W1・W3類



271



272



273

平瓦⑤ W1類



275



278



276



277

鶴尾① A類



279



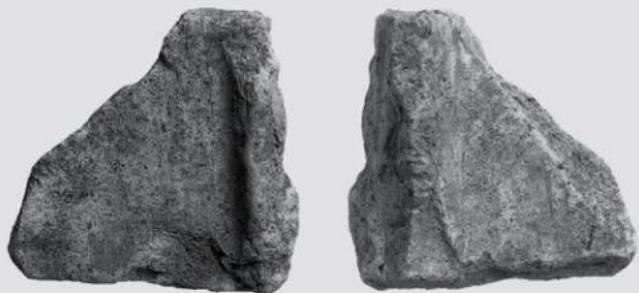
280



281



282



283

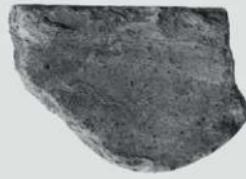


284



289

鶴尾③ B類他



285



288



286



287



291



294



292



293



296



295



297

近世瓦



298



299



375



376



377



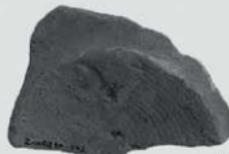
300



302



301



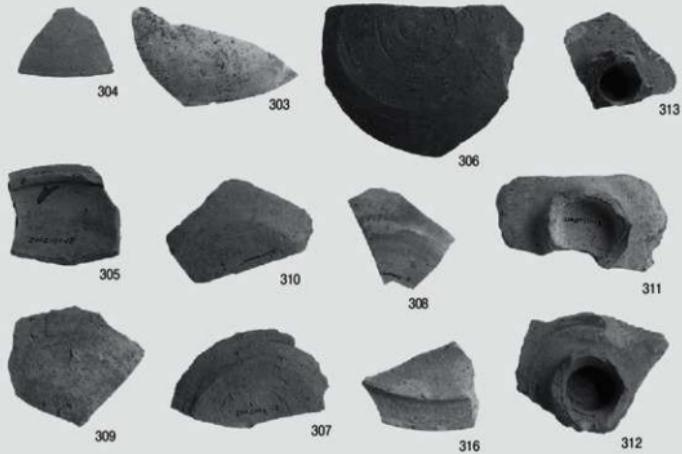
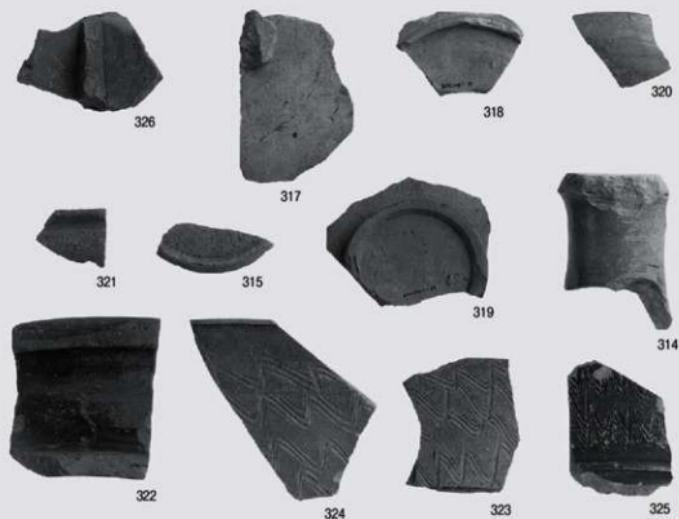
327

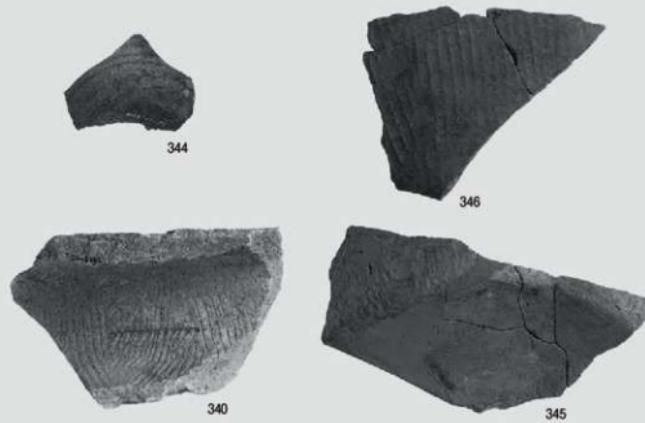


328

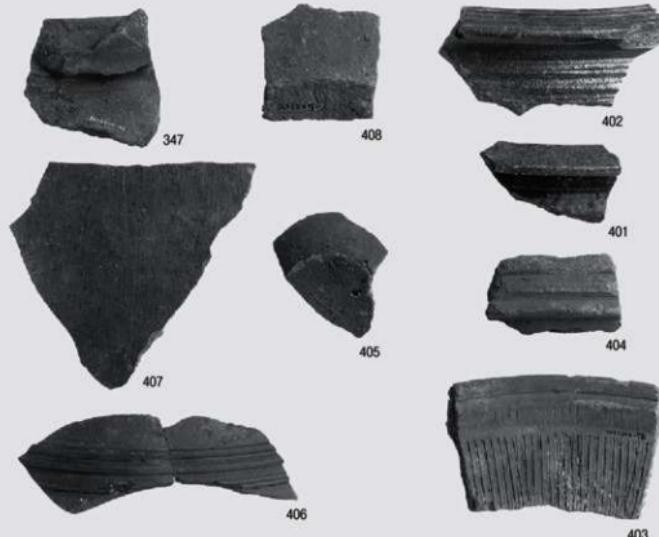
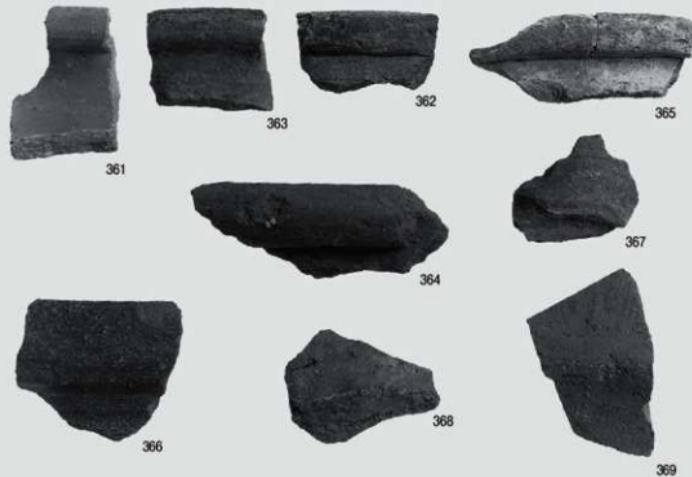


329











396



394



395



383



384



385



382



380



381



387



386



379



378



388



390



389



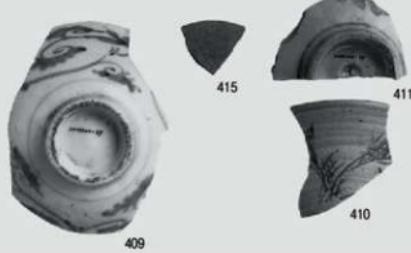
393



392



391





339



338



337



336



335



334



332



330



331



341



343



342



333



417



418



419



420



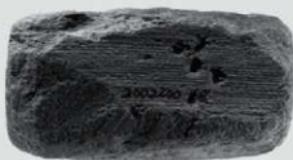
421



422



423



S2



S1



S3



S4

石器

報告書抄録

ふりがな	いまじゅくいせき							
書名	今宿遺跡Ⅰ							
副書名	緊急街路整備事業山吹線に伴う発掘調査報告Ⅰ							
巻次								
シリーズ名	兵庫縣文化財調査報告							
シリーズ冊	第333冊							
編著者名	篠宮 正・一辻利一・パリノ・サーヴェイ株式会社							
編集機関	兵庫県立考古博物館							
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大字500番地				TEL 079-437-5589			
発行機関	兵庫県教育委員会							
所在地	〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号				TEL 078-341-7711			
発行年月日	2008(平成20)年3月18日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
今宿遺跡	兵庫県姫路市西今宿5丁目	28225	020161	34度 50分 44秒	134度 39分 44秒	確認調査2002091 2002年5月17日 ～6月5日 本発掘調査2002200 2003年1月31日 ～3月11日 本発掘調査2003142 2003年12月17日	178m ² 238m ² 2.2m ²	緊急街路整備 事業山吹線
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
今宿遺跡	散布地	古代	瓦集積		複弁八葉蓮華文軒丸瓦 重弧文軒平瓦 蓮華文帝頭瓦 播磨国府系瓦 埴 須恵器・土師器 弥生土器・陶器・磁器 砥石	瓦・陶器		
		江戸時代	土坑					

※緯度・経度は平成14年4月1日施行の測量法改正による世界測地系にもとづく値である。

兵庫県文化財調査報告 第333冊

今宿遺跡 I

緊急街路整備事業山吹線に伴う発掘調査報告書 1

2008(平成20)年3月18日 発行

編 集 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中500番地
TEL 079-437-5589

発 行 兵庫県教育委員会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印 刷 ウニスガ印刷株式会社

〒677-0053 兵庫県西脇市和布町39
